

岩手県埋文センター文化財調査報告書第76集

平船Ⅲ遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

岩手県埋文センター

日本道路公団

岩手県埋文センター文化財調査報告書第76集

平船Ⅲ遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

序

本県には数多くの遺跡が存在しており、昭和 57 年度末における埋蔵文化財包蔵地は、5924 箇所が遺跡台帳に登録されております。

これらの文化遺産を保護、保存し次の世代に引継いでいくとともに、文化財を活用することによって私たち自身もこの文化財に学び新たな文化創造への糧とすることが大切であると思います。

当センターでは、昭和 52 年発足以来県教育委員会の指導のもとに埋蔵文化財保護の立場に立って発掘調査にとり組んでまいりました。

本報告書は、東北縦貫自動車道八戸線建設に関連し昭和 57 年度に発掘調査を実施した一戸町平船Ⅲ遺跡の成果について収録したものであります。

本遺跡は調査対象面積 730 m²と限定されておりますが、調査の結果、縄文時代早期にかかわる土器、石器が多量に出土しており、これらの資料は土器分類、石器組成等を考察する貴重な資料といえましょう。

この報告書が研究者のみならず広く一般のかたがたにも活用され埋蔵文化財についての理解が一段と深められるよう願ってやみません。

最後にこれまでの発掘調査や報告書作成にご援助、ご指導いただいた日本道路公団建設局八戸工事事務所、一戸町教育委員会をはじめ関係各位に心から感謝すると共に今後のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

昭和 59 年 3 月

財団法人 岩手県埋蔵文化財センター
理事長 金子彰吉

財団法人 岩手県埋蔵文化財センター組織

役 員	理事長	金子彰吉	(県教育長)
	副理事長	柴内眞	(県教育次長)
	常務理事	熊谷正男	(県立埋蔵文化財センター所長)
	理事	吉田良和	(県農政部長)
	〃	高橋健之	(県林業水産部次長)
	〃	穂積昭慈	(県土木部次長)
	〃	板橋源	(県立博物館長)
	〃	草間俊一	(県立盛岡短期大学長)
	〃	小形信夫	(元常務理事)
	監事	佐藤公志	(県教委総務課長)
〃	小原吉雄	(県教委財務課長)	

職 員	所長	熊谷正男			
	副所長	鈴木信吉			
	(総務課)			専門調査員	栃沢満郎
	総務課長	菊池勉		〃	田村壮一
	庶務係長	阿部詔夫		〃	岩淵久行
	主事	佐藤久四郎		〃	光井文英
	〃	戸草幸男		〃	玉川長喜
	〃	立花多加志		〃	石川利幸
	技能員	佐藤春男		〃	工藤重紀
	〃			〃	中川与右門
	〔調査員〕			〃	高橋義介
	調査課長	嶋千秋		〃	高橋清宗
	主任専門調査員	近藤生孝		〃	高木井
	専門調査員	国朝野利		〔資料課〕	酒井
	〃	菊池木恵		資料課長(兼)	鈴木信吉
	〃	鈴木洋一		主任専門調査員	木野井隆英
	〃	渡原一寿夫		専門調査員	平鈴木隆
	〃	田鎖夫		〃	三浦
	〃	佐々木嘉直		〃	三浦謙一

例 言

- 1 本報告書は、東北縦貫自動車道八戸線建設に伴って緊急発掘した、岩手県二戸郡一戸町楢山字平船 10 に所在する「平船^{ひらふね}遺跡」の調査結果を収録したものである。
- 2 発掘調査委託者は日本道路公団仙台建設局である。
- 3 発掘調査期間は昭和 57 年 5 月 17 日から 7 月 15 日までである。
- 4 発掘調査面積は 730 m²である。
- 5 発掘調査担当は(財)岩手県埋蔵文化財センター、専門調査員・渡辺洋一・栢沢満郎である。
- 6 本書に用いた地形図は、国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図「一戸」、日本道路公団作成の「東北縦貫自動車道八戸線一戸インターチェンジ詳細設計平面図」である。
- 7 遺構図面は次により掲載している。
 - ① 縮尺は 40 分の 1 である。
 - ② 調査区域の原点を 0 として座標を設定し、各遺構にはメートル単位で座標値を標示した。
 - ③ 方位表示は日本道路公団作成図面の座北による。
- 8 遺物図面及び土器拓影の縮尺は、掲載ページに表示している。
- 9 遺構や遺物などの写真は掲載ページに縮尺を示したものとそうでないものとある。
- 10 層相の色調観察は、小山・竹原編・著「新版標準土色帖」日本色研事業(株)によった。
- 11 石器の石材鑑定・産地同定は、佐藤二郎氏(岩手県立大船渡農業高等学校)に依頼した。
- 12 調査にあたっては、松山力氏(青森県立八戸高等学校)、熊谷常正氏・名久井文明氏(岩手県立博物館)高田和徳氏(一戸町教育委員会)の御教示をいただいた。
- 13 本書の執筆は「I 調査に至る経過」の嶋千秋、以外は全て渡辺洋一である。

目 次

序	
(財)岩手県埋蔵文化財センター組織	
例言	
I 調査に至る経過	5
II 調査方法と室内整理の方法	5
III 遺跡の立地と環境	6
IV 検出遺構と遺物	11
1 ビット	11
2 炉址	19
3 陥し穴状遺構	20
4 遺構外出土遺物	22
V まとめ	37
石器計測表	39

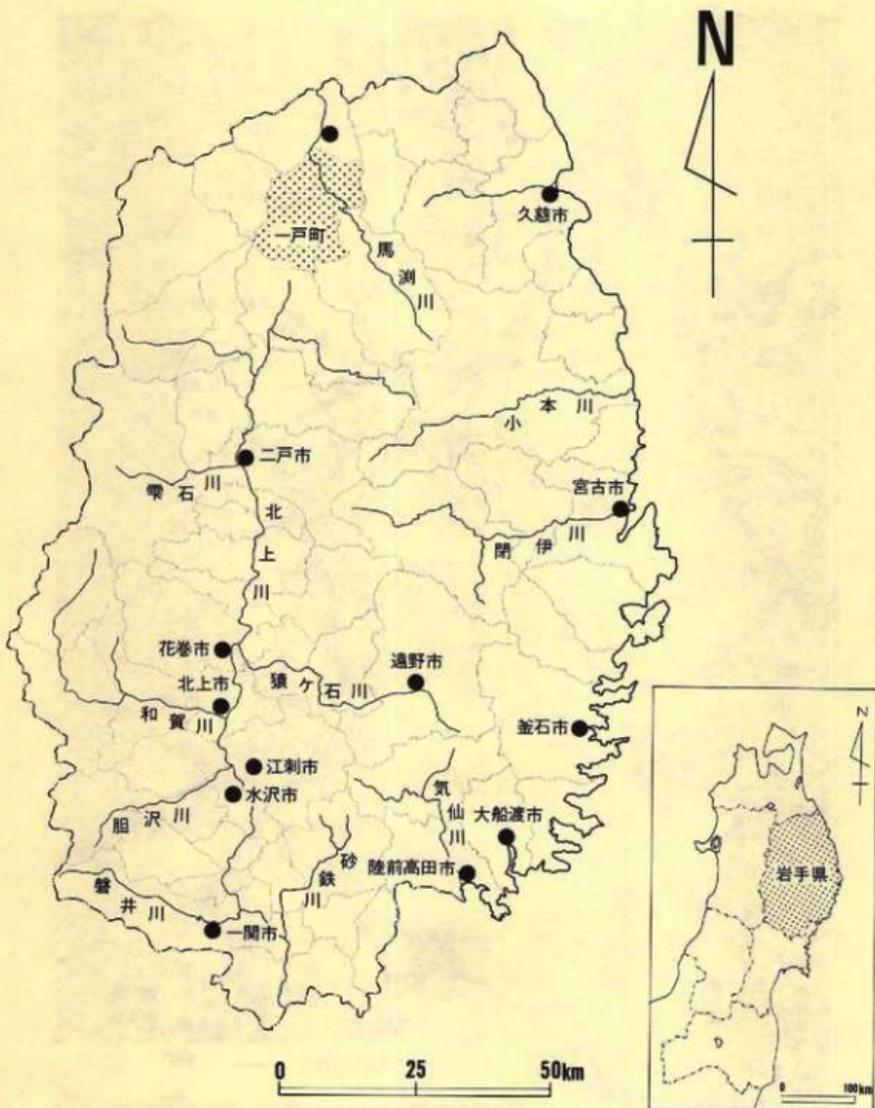
図 版 目 次

第1図 岩手県全図	1	第7図 55、56、53ビット	15
第2図 遺跡位置図	2	第8図 59、51、57・58ビット	
第3図 遺跡周辺地形図	3・4	104陥し穴状遺構	16
第4図 土層断面柱状図	7	第9図 101炉址	
第5図 遺跡周辺地形図	8	102、103陥し穴状遺構	17
第6図 遺構配置図	9・10	第10図 107、106陥し穴状遺構	18

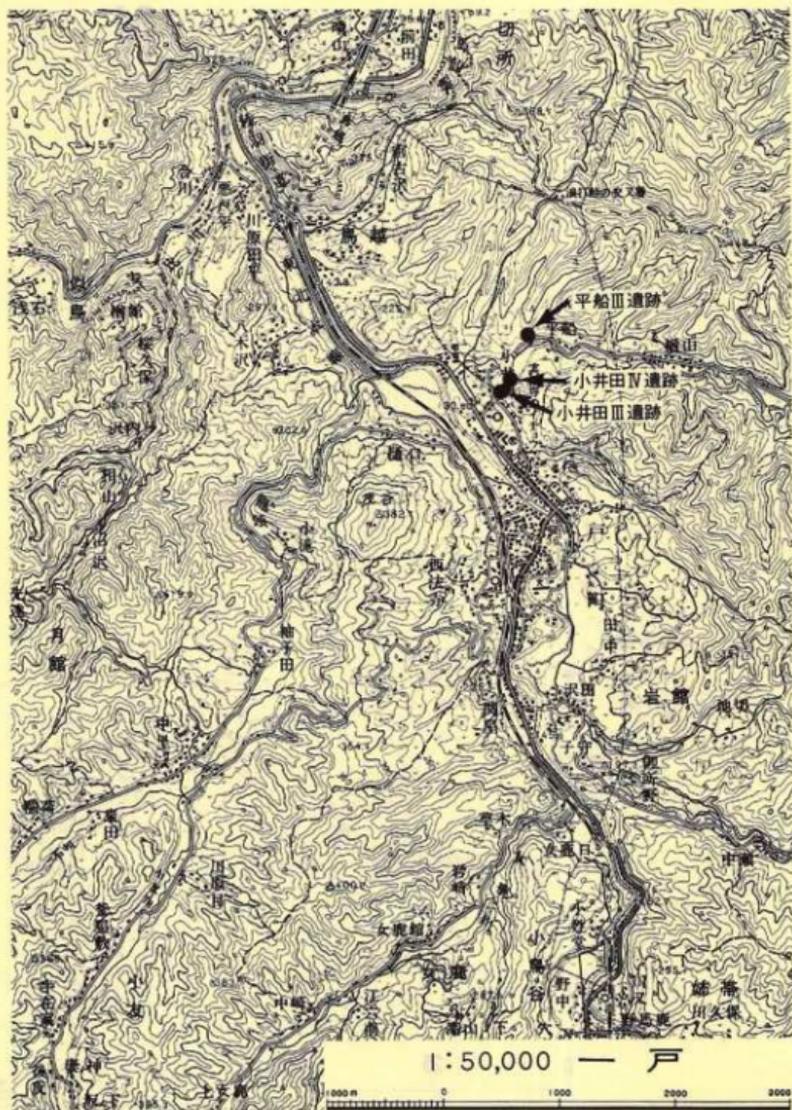
第11図	55ピット出土遺物	53	第39図	遺構外出土石器	81
第12図	55、59ピット出土遺物	54	第40図	遺構外出土石器	82
第13図	59ピット出土遺物	55	第41図	遺構外出土石器	83
第14図	53、56ピット出土遺物	56	第42図	遺構外出土石器	84
第15図	57、58ピット出土遺物	57	第43図	遺構外出土石器	85
第16図	101炉址、103陥し穴状遺構 出土遺物	58	第44図	遺構外出土石器	86
第17図	103、106陥し穴状遺構出土遺物	59	第45図	遺構外出土石器	87
第18図	106陥し穴状遺構出土遺物	60	第46図	遺構外出土石器	88
第19図	106、107陥し穴状遺構出土遺物	61	第47図	遺構外出土石器	89
第20図	遺構外出土石器	62	第48図	遺構外出土石器	90
第21図	遺構外出土石器	63	第49図	遺構外出土石器	91
第22図	遺構外出土石器拓影	64	第50図	遺構外出土石器	92
第23図	遺構外出土石器拓影	65	第51図	遺構外出土石器	93
第24図	遺構外出土石器拓影	66	第52図	遺構外出土石器	94
第25図	遺構外出土石器拓影	67	第53図	遺構外出土石器	95
第26図	遺構外出土石器拓影	68	第54図	遺構外出土石器	96
第27図	遺構外出土石器拓影	69	第55図	遺構外出土石器	97
第28図	遺構外出土石器拓影	70	第56図	遺構外出土石器	98
第29図	遺構外出土石器拓影	71	第57図	遺構外出土石器	99
第30図	遺構外出土石器拓影	72	第58図	遺構外出土石器	100
第31図	遺構外出土石器拓影	73	第59図	遺構外出土石器	101
第32図	遺構外出土石器拓影	74	第60図	遺構外出土石器	102
第33図	遺構外出土石器拓影	75	第61図	遺構外出土石器	103
第34図	遺構外出土石器拓影	76	第62図	遺構外出土石器	104
第35図	遺構外出土石器拓影	77	第63図	遺構外出土石器	105
第36図	遺構外出土石器拓影	78	第64図	遺構外出土石器	106
第37図	遺構外出土石器拓影	79	第65図	遺構外出土石器	107
第38図	遺構外出土石器拓影	80	第66図	遺構外出土石器	108
			第67図	遺構外出土石器	109・110

写真図版目次

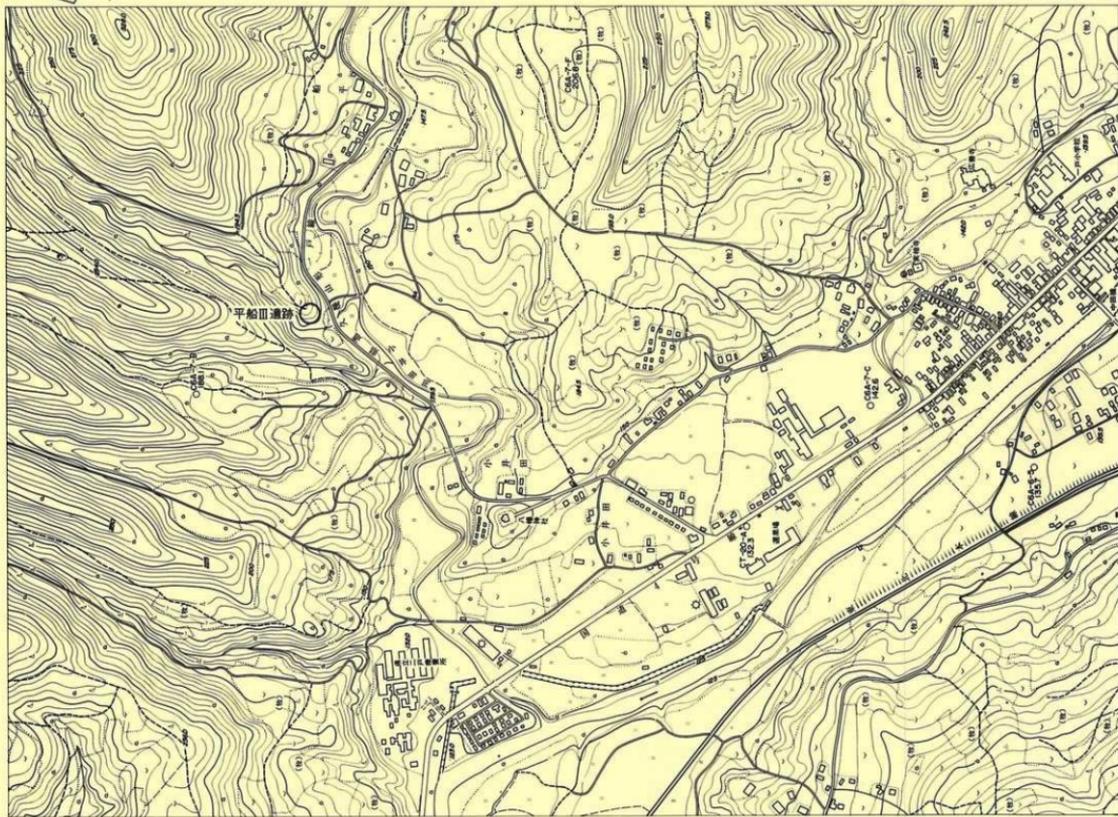
<p>1 遺跡空中写真…………… 113</p> <p>2 遺跡全景…………… 114</p> <p>3 発掘風景…………… 115</p> <p>4 遺物出土状況、土層断面…………… 116</p> <p>5 ビット…………… 117</p> <p>6 ビット…………… 118</p> <p>7 ビット、陥し穴状遺構…………… 119</p> <p>8 炉址…………… 120</p> <p>9 陥し穴状遺構…………… 121</p> <p>10 陥し穴状遺構…………… 122</p> <p>11 55 ビット出土遺物 …… 123</p> <p>12 55・59 ビット出土遺物 …… 124</p> <p>13 59 ビット出土遺物 …… 125</p> <p>14 53・56 ビット出土遺物 …… 126</p> <p>15 57・58 ビット出土遺物 …… 127</p> <p>16 101 炉址・103 陥し穴状遺構出土遺物 …………… 128</p> <p>17 103・106 陥し穴状遺構出土遺物 129</p> <p>18 106 陥し穴状遺構出土遺物…………… 130</p> <p>19 106 陥し穴状遺構出土遺物…………… 131</p> <p>20 遺構外出土土器…………… 132</p> <p>21 遺構外出土土器…………… 133</p> <p>22 遺構外出土土器片…………… 134</p> <p>23 遺構外出土土器片…………… 135</p> <p>24 遺構外出土土器片…………… 136</p>	<p>25 遺構外出土土器片…………… 137</p> <p>26 遺構外出土土器片…………… 138</p> <p>27 遺構外出土土器片…………… 139</p> <p>28 遺構外出土土器片…………… 140</p> <p>29 遺構外出土土器片…………… 141</p> <p>30 遺構外出土土器片…………… 142</p> <p>31 遺構外出土土器片…………… 143</p> <p>32 遺構外出土土器片…………… 144</p> <p>33 遺構外出土土器片…………… 145</p> <p>34 遺構外出土土器片…………… 146</p> <p>35 遺構外出土石器…………… 147</p> <p>36 遺構外出土石器…………… 148</p> <p>37 遺構外出土石器…………… 149</p> <p>38 遺構外出土石器…………… 150</p> <p>39 遺構外出土石器…………… 151</p> <p>40 遺構外出土石器…………… 152</p> <p>41 遺構外出土石器…………… 153</p> <p>42 遺構外出土石器…………… 154</p> <p>43 遺構外出土石器…………… 155</p> <p>44 遺構外出土石器…………… 156</p> <p>45 遺構外出土石器…………… 157</p> <p>46 遺構外出土石器…………… 158</p> <p>47 遺構外出土石器…………… 159</p> <p>48 遺構外出土石器…………… 160</p> <p>49 遺構外出土石器…………… 161</p>
---	--



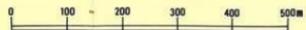
第1図 岩手県全図



第2図 遺跡位置図



第3回 遺跡周辺地形図



I 調査に至る経過

東北縦貫自動車道八戸線は、東北縦貫自動車道青森線と二戸郡安代町で分岐し、一戸町を経由し青森県八戸市に至る68kmの高速道路である。このうち本県に関係する第7次施行命令区間は延長距離27.6kmであり、二戸郡一戸町で国道4号と接続する一戸インターチェンジを起点とし九戸村、軽米町を通過し青森県南郷村へと続いている。

昭和48年10月に第7次施行命令が発表され、その後埋蔵文化財の取扱いについて日本道路公団仙台建設局と県教育委員会事務局文化課によって協議が重ねられた。文化課では昭和50、51年度に実施計画路線沿いに巾400mを対象に埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施しその結果にもとづいて遺跡保存とルート設定について協議がもたれた。

昭和52年9月に路線発表があり、昭和54年9月から用地取得が開始された。文化課では発表された路線中内における遺跡の範囲確認を行い発掘調査対象遺跡の修正と確認をした。

発掘調査は、文化課の指導のもとに、当センターが日本道路公団仙台建設局と委託契約を締結し、昭和55年度からスタートした。本書にかかわる一戸町平船III遺跡の発掘調査は当初昭和56年度の予定であったが、用地取得の遅れもあって、昭和57年度実施となった。

II 調査方法と室内整理の方法

1 調査の方法

調査区域における地区設定の原点は、日本道路公団測量の路線内中心杭(S T A 3 + 90)・X座標値：25462.5245m、Y座標値：39974.0068mである。その原点を基準に南北・東西に座標軸をとり、30m×30mの大区画の設定をおこない、原点から、北にA・南にBのアルファベット、西にI・東にIIのローマ数字を付した。それらの組み合わせから、A I 区・A II 区・B I 区・B II 区と各大区画を呼んでいる。さらに軸線にそって大区画を10等分し、北から南へa～j、西から東へ0～9のアルファベットとアラビア数字をそれぞれに与え、調査の基本単位になる3m×3mのグリッドに分割した。各グリッドは大区画名と組み合わせでA I a 0・A I a 1などのように呼ばれる。

調査開始の際、調査区域内の東側には苗床があり、5月末日まで調査できないことから、東西に調査区を分け、西側から調査した。また土捨場が確保できなかったので、土捨ては反転する方法をとった。そのため小面積の発掘にもかかわらず期日を必要とした。

西側で行なった深掘りの結果から、複数の文化層の存在が予想されたので、特に東側では層

位ごとに検出・精査し、最終検出面は八戸降下火山灰上面とした。

検出した遺構の名称はピットは51からの、炉址は101、陥し穴状遺構は102からの番号を与え、55ピット、106陥し穴状遺構などとした。

遺構の精査は、2分法ないし4分法でおこなうことを原則とした。土層断面の埋土が単層である時には、当埋文センター制定のフィールド・カードに層相や状態・層厚などを記載するだけで実測図を省略したことがある。

出土遺物は、粗掘り中の遺物は大区画で、その他の層の遺物は各グリッドごとに取りあげた。層の境の遺物は、例えば「IV層上」のように記入した。また東側調査区のIV層・V層は、層位を細分し、「IV層-8」「V層-25」のように記入した（層位は、IV層は1～18、V層は19～44までである）。遺構出土遺物は、「56pit」のように記入したが、55・59両ピットは位置・レベルを記録し、「55pit-18」のように登録し記入した。

写真撮影には、6×7cm判（白黒）1台・35mm判（白黒とカラースライド）2台を使用した。

2 整理の方法

遺物は、現地で洗浄・ラベル記入をおこない、当センター引上げ後仕分け・接合復元・実測・トレース・撮影をおこなった。遺構実測図も同様である。なおトレースの一部は外注した。

III 遺跡の立地と環境

本遺跡は、岩手県二戸郡一戸町檜山字平船10地内に所在する。東北本線一戸駅から北東約2.3kmに位置する。

岩手県の西には奥羽山脈が、東には北上山地がそれぞれ南北に連なっており、県の南半ではその二つの山脈の間を北上川が南流し、広い谷底平野を形成している。これに対して、県の北半では馬淵川が二つの山脈の間を北流しているものの、谷底平野の発達は不良である。遺跡の所在する一戸町は、この馬淵川によって形成された谷底平野を中心にひらけている。

遺跡の所在する一戸町の東部には、北上山地の最北端に位置する折爪岳(852m)、小倉岳(652m)、傾城峠(736m)の山々が南北に連なり、起伏に富んだ地形となっている。遺跡は、小倉岳の西山腹に源を発し西流する馬淵川支流の小井田川沿いにある。上・中流で深い侵蝕谷と狭い河岸段丘を形成してきた小井田川は、馬淵川との合流点に近い遺跡付近で、洪積中位段丘をきって、幅約50mの沖積低地を形成している。

遺跡は、北東から南西に樹枝状に開析された段丘崖の末端に載り、標高は165～167mである。斜面上方には標高329mを頂とする山塊があり、東側には遺跡の載る面との比高30mで小井田川が蛇行し、西及び南側は小渓流によって開析されている。遺跡の現状は畑地である。

遺跡に載る段丘を構成する地層は、段丘礫あるいは扇状地性堆積物と思われる礫層と、その上に堆積する十和田火山起源の火山砕屑物によって構成されている。調査区の南西部の深掘りなどにより、本調査における土層の基本層序を次のようにした。

0層：10Y R3/2 黒褐色 弱粘性シルト（耕作土）。遺物の出土量は他の層より少ないが、縄文時代早期から土師、現在の陶器までの遺物が出土した。縄文早期の遺物は流れこみと思われる。層厚約10cm。

I層：10Y R2/2黒褐色 弱粘性シルト。遺物は層全体からまばらに出土する。層厚約15cm。

II層：10Y R5/4 におい黄褐色 粘性のないシルト（中振浮石層）。遺構検出面である。遺物はこの層の中位より上で出土し、下位にはない。縄文時代早期・晩期土器片、土師片が出土した。縄文早期土器片は流れこみと思われる。層厚約20cm。

III層：10Y R2/2 黒褐色 粘性のないシルト。粒径10mm前後の南部浮石を少量含む。II層下位では出土しなかった遺物が再び出土する。層厚約20cm。

IV層：10Y R4/4 褐色 弱粘性シルト（南部浮石再堆積層）。粒径5～30mmの浮石を多量に含む。全面縄文時代早期土器片を出土する。層厚約30cm。

V層：7.5Y R5/8 明褐色 弱粘性シルト（八戸火山灰層）。上位より15cmほどで、IV層から続く縄文早期土器片は出土しなくなる。縄文時代早期の遺構の検出面はこの面で、復元可能土器も出土した。層厚40cm。

VI層：2.5Y 6/3 におい黄色 細かい粒が入るシルト。

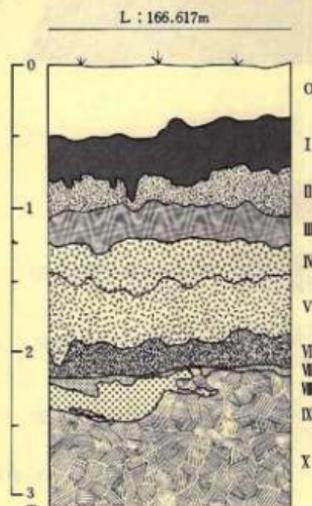
VII層：10Y R5/4 におい黄褐色 粘土。

VIII層：10Y R5/6 黄褐色 VII層より少し粘性の弱い粘土。

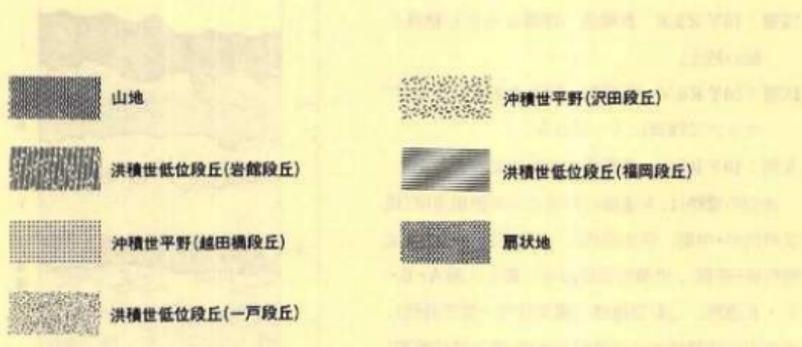
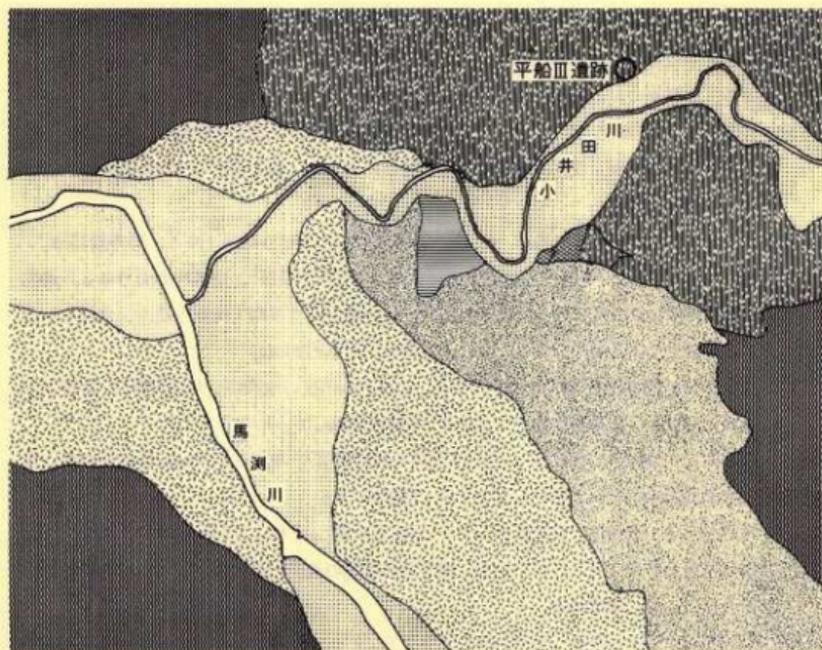
IX層：10Y R6/6 明褐色 粘性のあるシルト。ブロックでVIII層に入っている。

X層：10Y R5/6 黄褐色 粘性のないシルト。

周辺の遺跡は、本遺跡の対岸に小井田III遺跡（縄文時代早・中期、弥生時代）、小井田IV遺跡（縄文時代後・晩期）、洪積世低位段丘に載る北館A・B・C・E遺跡、上野D遺跡（縄文時代～歴史時代）、馬淵川の沖積低地には蔦前台遺跡（縄文時代晩期）などがある。

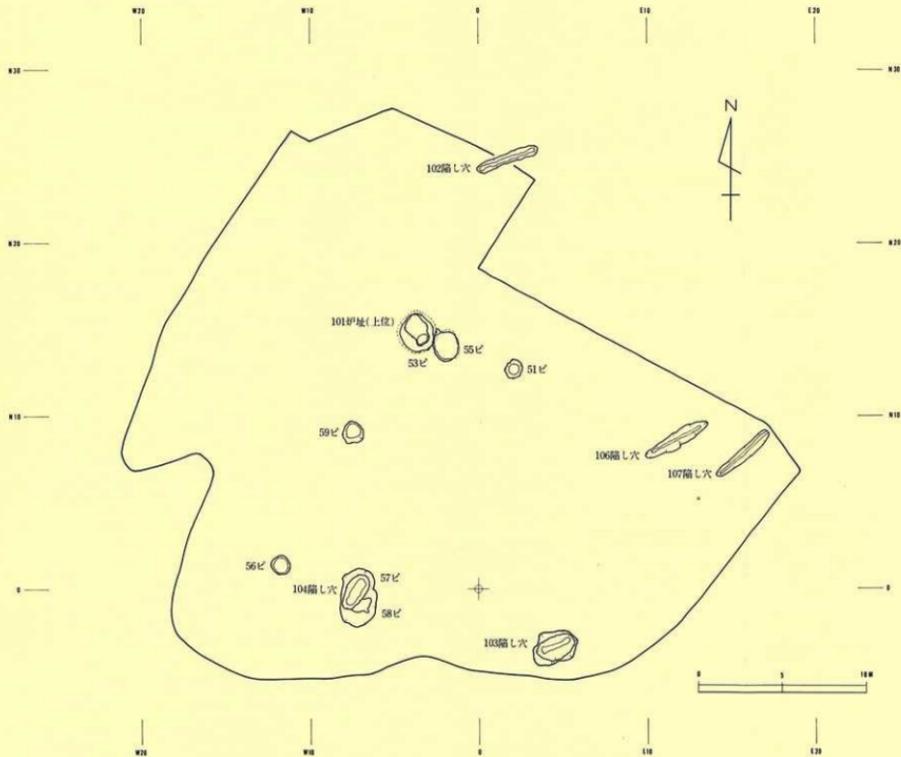


第4図 土層断面柱状図



段丘区分は、松山力(一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅰ 1980)による

第5図 遺跡周辺地形区分図



第6図 遺跡遺構配置図

IV 検出遺構と遺物

本遺跡の調査で検出された遺構は次の通りである。

ピット 5基 炉址 1基 陥し穴状遺構 5基

これらの遺構は、上記の順及び検出面の深い順に記述し、遺構に伴う遺物はそれぞれの遺構ごとに記述する。遺構外から出土した遺物はまとめて後述する。

出土遺物の記述にあつては次のようにした。

- ① 出土遺物には分類番号を付した。これは遺構内出土遺物と遺構外出土遺物が照合できるようにしたものである。
- ② “草による条痕文”とは、器表面に貝殻条痕文のように複数の平行な条痕文ではなく、条痕内部に長軸方向の細い線条痕を有する条痕文をもち、かつそれが平行ではないがまとまりをもって施文されているものを指した。施文具はむしろ取った複数の草の茎と思われる。
- ③ 口縁部の形状は特段の説明がなければ平縁である。口唇部の刻みは、直角 、右抜き 、左抜き 、と呼称する。
- ④ 口縁部、体部に施文された刺突文は、その刺突方法の大半が一方から力に加え、反対側に粘土を押し上げ粘土瘤を形成させるものである。口縁部に対し刺突が縦位に長軸をもつ場合は左から右へ刺突されることが多く、刺突が横位に長軸をもつ場合は上から下へ刺突され、刺突が斜位に長軸をもつ場合は左上から右下に刺突されることが多い。従つて刺突方向の記述にあつては、それぞれ、(右側)、(下側)、(斜め)と簡略化した。この例から外れる刺突はその都度説明を加えた。また押型文については「印刻線推定図」(p22)を参考にされたい。
- ⑤ 出土遺物の記述のうち、土器については、特に説明を加えないかぎり縄文時代早期のものである。

1 ピット

55ピット遺構 (第7図 写真版5)

このピットはV層(八戸火山灰層)上面で検出されたものである。黒色土の広がり中央に南部浮石が直径40cm程の広がりて薄くのつていた。位置は調査対象区の中央北寄りである。規模は開口部径1.7m・頸部径1.6m・底部径1.8m・深さ0.5mである。平面形は円形、断面形は若干ラスコ形である。埋土は上部に褐色～黒褐色の汚れた南部浮石、下部は南部浮石の含む割合が少ない褐色土～暗褐色～黒色土である。人為堆積の状況がみられる。

出土遺物 (第11・12図1~20 写真図版11・12-1~20)

埋土から土器片(1~15)石器(16~20)が出土した。1は押型文である。複合山形文(I-1-A)と思われる。2は縦横に貝殻条痕が施文される(I-8-D)。3・4・6は口縁部に篋状工具による刺突が施文される(I-2-B-③)。刺突方向は3では下側に浅く、4では右側、6では斜めである。5は口唇部斜めに篋状工具による刻みを直角に入れ、その下には篋状工具で爪形に施文している(I-2-B-④)。体部施文は貝殻条痕である。7は刺突(斜め)の下部に太く浅い2本の沈線を施文している(I-2-B-④)。体部施文は草による条痕である。8は横走る2本の鋭い篋書き沈線の間三段の文様帯をもつ。口唇部をもつ上段には一部篋書き沈線を斜位に施文しているが、その大部分は爪形状刺突を斜位に規則的に施文している。中段は2~4mm間隔で平行に篋書き沈線を斜位に施文し、下段の残存部には施文がみられない(I-2-C)。この土器片は4片が接合し、うち3片は遺構外出土である。9は篋状工具による刺突(右側)が施文され、その間に貝殻腹縁圧痕文が横位で、沈線状に繋がって施文されている(I-2-D-③)。この土器片は6片が接合し、うち4片は遺構外出土である。10は篋状工具による刺突(斜め)を施文している(I-10-A)。11は単節斜縄文(L-R)が施文されている。12・13は先端部を欠く尖底土器片である。12は縦位にみがかれ(I-11-C)、13は横に貝殻条痕文が施文されている(I-9-A)。14・15は尖底部片である。14は横位に貝殻条痕文が施文され、15は縦位にみがかれている(I-11-C)。16は尖頭石器(②-A)で遺構外出土ではこのタイプはない。17は剥落痕のある石器で、剥落痕は側縁に集中する(⑩-A)。18・19はピエス・エスキュー(楔形石器)である(⑨-C)。短軸の上下に階段状刻痕がみられる。20は彫器と思われ打点の下半を折断し、刃部を作り出している。

59ピット 遺構(第8図 写真図版5)

このピットはV層(八戸火山灰層)上面で検出されたものである。位置は調査対象区の中央南寄りである。規模は開口部径1.3m・底部径0.8m・深さ0.4mである。平面形は円形、断面形は皿形である。埋土は汚れた八戸火山灰(明褐色)の単層であり、地山と極似していた。土器片がまとまって出土しており、埋め戻しと考えられる。

出土遺物(第12・13図21~27 写真図版12・13-21~27)

埋土から多量の土器片が出土し、口縁部から尖底部まで接合したものが2個体あった(21・22)。21は口唇部に薄い爪形刺突、口縁部には浅い爪形刺突(右側・下側)があり、体部から尖底部にかけては草による条痕文を施文している(I-9-B)。内面の口唇部は横位にナデがなされている。接合した25片のうち4片が遺構外出土であり、他はピット内からまとまって出土している。22は器表面全体を貝殻条痕文が斜位に施文されている(I-2-a)。尖底部は砲弾形で粗いケズリで調整されており、磨滅し光沢がある。内面は貝殻殻頂を使用したと思われる

る細かい貝殻条痕文により調整されている。口唇部近くの一部に横ナデがみられる。口縁部近くに補修孔がある。接合した37片のうち13片が遺構外出土であり、他はピット内からまとまって出土している。23は口縁部に篋状工具による刺突(斜め)、体部は貝殻条痕文を施文している。24は口唇部に貝殻腹縁による刻みが入り、口縁部は無文(I-2-B-①)である。接合した3片のうち、1片は遺構外出土である。25は口唇部に篋状工具による刻み、口縁部に刺突(下側)を施文している(I-2-B-④)。体部には貝殻条痕文を横位、斜位に施文する。26は尖底部片(I-11-C)で器面調整が縦位になされている。27は尖底部片である。草による条痕が施文され、さらに下半部はみがかれている(I-11-B)。

53ピット 遺構(第7図 写真図版5)

このピットはIV層(南部浮石層)上面で検出されたものである。鈍い黄褐色～黒褐色の広がり中央に明褐色の汚れた八戸火山灰が広がる。位置は調査対象区の中央北寄りで下部検出の55ピットに接する。規模は開口部径2.0m・頸部径1.9m・底部径2.3m・深さ0.6mである。平面形は円形、断面形はフラスコ形である。埋土は自然堆積と思われる汚れた中掬浮石の上にレンズ状に異地性の汚れた八戸火山灰が載る。この遺構の上部には101炉址がある。

出土遺物(第14図28～32 写真図版14-28～32)

埋土から土器片(28～31)石器(32)が出土した。28は口唇部斜めに篋状工具による刺突(右側)、口縁部には器表面に対し斜め下方から棒状工具による刺突を施文している(I-2-B-④)。29は口唇部斜めに篋状工具による刻み、口縁部には篋状工具による刺突(斜め)を施文している(I-2-B-④)。30は篋刺突(下側)の間に貝殻腹縁圧痕文を横位に施行している(I-10-D)。31は貝殻条痕文を施文した後、篋刺突(下側)を施文する(I-10-A)。32は敲打擦石である(⑬-C-③)。擦面側縁には敲打による連続する剝離がみられる。

56ピット 遺構(第7図 写真図版6)

このピットはIV層(南部浮石層)上面で検出されたものである。位置は調査対象区の南寄りである。規模は開口部径1.1m・底部径1.0m・深さ0.3mである。平面形は円形、断面形は浅皿形である。埋土は汚れた中掬浮石(褐色)の単層である。

出土遺物(第14図33～41 写真図版14-33～41)

埋土から土器片(33～35)、石器(36～41)が出土した。33は口唇部に篋刻み(右抜き)、口縁部には篋刺突(斜め)が施文されている(I-2-B-⑤)。体部には貝殻条痕文を横位に施文している。34は平行な浅い篋書き沈線文が施文されている(I-2-B-④)。35は劣截竹管と思われる工具を押圧し、その間に貝殻縦位羽状腹縁圧痕を施文している。劣截竹管は竹管外皮を右側にし、器面にほぼ直角に立て、左にわずかずらして押圧する(I-10-D)。この施文方法はこの1点のみである。なお本図版は右下に傾き過ぎており、2つの竹管押圧が口縁部と

平行になるように訂正する。36は折断調整石器 (①-D-②) である。打点の下半を折断している。片側縁に剝落痕がある。37は剝落痕ある石器 (⑩-A) である。微細剝離がある。38は不定形石器である (⑦-A-③)。片側縁に剝落痕がある。39は端部に微細な剝落痕が集中する彫器と思われる。40は二次剝離や剝落痕のない剝片である。41は擦切磨製石斧 (横斧) である。研磨面が刃面 (以下斧身の部分名称は佐原真1977年による) を含め、全面に見られる。左側面には擦切り痕がわずかに残る。線状の使用痕が後主面の刃縁に斧の主軸に平行していたため、横斧とした。なお刃面のある前主面には使用痕がみられない。後主面の刃縁の小剝離痕にも線状の使用痕がみられ、かつその剝離痕は磨滅している。

51ピット 遺構 (第8図 写真図版6)

このピットはIV層 (南部浮石層) 上面で検出されたものである。位置は調査対象区の中央北寄りである。規模は開口部径1.0m・底部径0.7m・深さ0.4mである。平面形は円形、断面形は皿形である。埋土は少量の南部浮石を含む暗褐色～黒褐色土である。出土遺物は少量の土器細片で施文の詳細はわからない。

57ピット 遺構 (第8図 写真図版7)

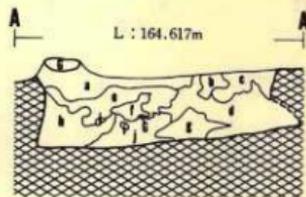
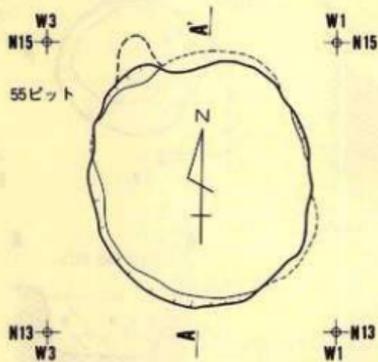
このピットはII層 (中振浮石層) 上面で検出した。このピットは南側で58ピットと、下部で104陥し穴状遺構とそれぞれ重複している。重複遺構との新旧関係では、104陥し穴状遺構より新しく、58ピットより古い。位置は調査対象区の南端部である。規模は、58ピットとの重複部分が定かでないが、開口部径1.7mと思われる。底部は104陥し穴状遺構が若干自然埋没した上に黒褐色土 (汚れたパミスを含む) で貼り床状に貼っており、その底部径は0.9m、検出面からの深さは1.0mである。平面形は58ピットとの重複部分が定かでないが、ほぼ円形、断面形はバケツ形である。埋土は、下位層に汚れた中振浮石層、上位層に十和田a降下火山灰と思われる粉状パミスを載せる。いずれも自然堆積したと思われる。

出土遺物 (第15図42～44 写真図版15-42～44)

埋土から土器片 (42) 石器 (43・44) が出土した。42は土器片である。43は側面観が交互剝離によるジグザグな刃部をもつ不定形石器である (⑦-B-②)。44は折断調整石器である (⑧-B-②)。

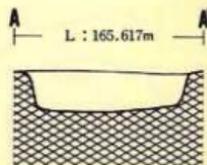
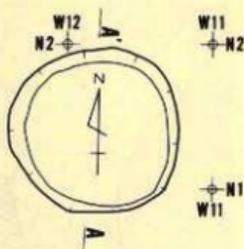
58ピット 遺構 (第8図 写真図版7)

このピットはII層 (中振浮石層) 上面で検出した。このピットは北側で57ピットと重複する。重複遺構との新旧関係では57ピットより新しい。位置は調査対象区の南端部である。規模は、57ピットとの重複部分が定かでないが開口部径2.2m・底部径1.9mと思われる。深さは0.7mである。平面形は57ピットとの重複部分が定かでないが、ほぼ円形、断面形は皿形である。埋土は下位層に汚れた中振浮石層、中位層に十和田a降下火山灰と思われる粉状パミス、上位層に

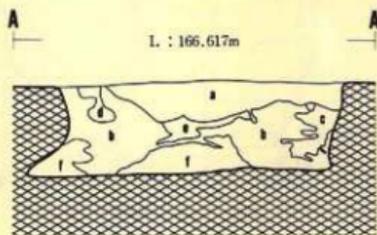
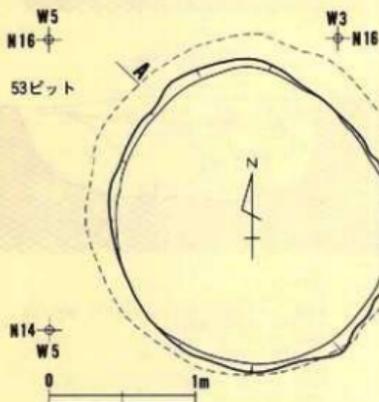


- 55ピット
- a 褐色 10YR 5/ 汚れた南部浮石
 - b 黒褐色 10YR 5/ 汚れた南部浮石
 - c 褐色 10YR 5/ 汚れた南部浮石
 - d 暗褐色 10YR 5/ 含むパミス
 - e 暗褐色 10YR 5/ 含むパミス
 - f 褐色 10YR 5/ 含むパミス
 - g 褐色 10YR 5/ 含むパミス
 - h 黄褐色 10YR 5/ 含むパミス
 - i 暗褐色 10YR 5/ 含むパミス
 - j 暗褐色 10YR 5/ 含むパミス

56ピット

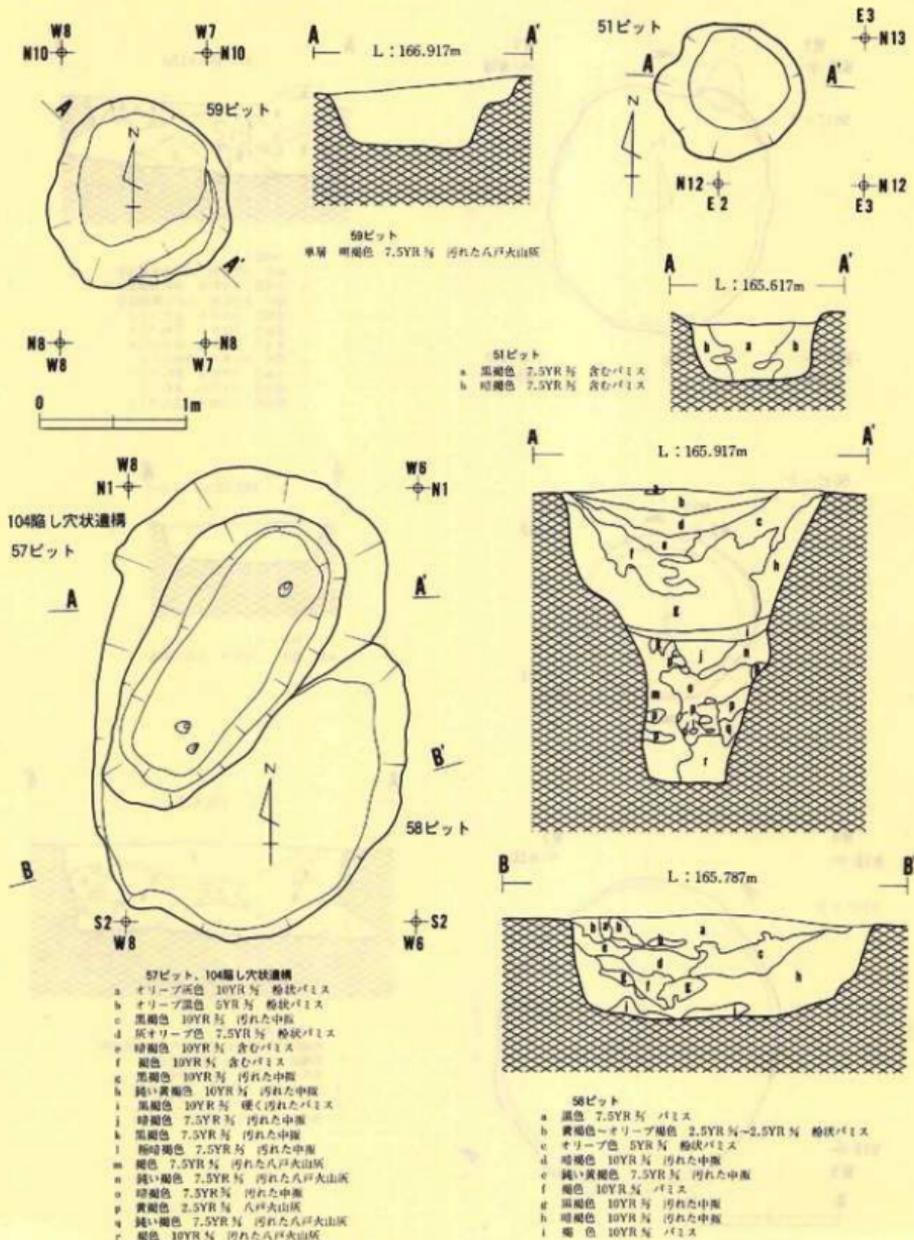


- 56ピット
- ※※ 褐色 7.5YR 5/ 汚れた中底



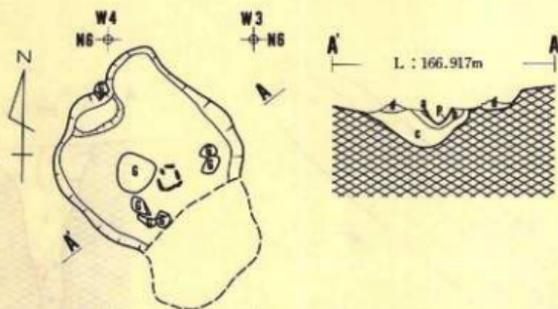
- 53フラスコピット
- a 明褐色 7.5YR 5/ 汚れた八坪火山灰
 - b 黒褐色 7.5YR 5/ 汚れた中底
 - c 灰色 7.5YR 5/ 汚れた中底
 - d 鈍い黄褐色 7.5YR 5/ 汚れた中底
 - e 褐色 10YR 5/ 汚れた中底
 - f 褐色 7.5YR 5/ 汚れた八坪火山灰

第7図 55、56、53ピット



第8図 59、51、57・58ピット、104階し穴状遺構

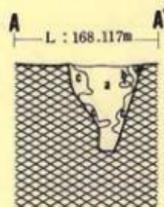
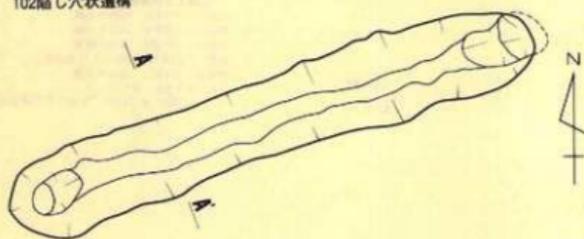
101炉址



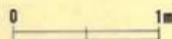
- 101炉址
- a 黒褐色 10YR 汚れたパリス
 - b 褐色 10YR 汚れたパリス
 - c 暗褐色 10YR 汚れた海砂浮石
 - d 褐色 10YR 汚れた海砂浮石
 - e 黒褐色 10YR 汚れたパリス

EW0
N26

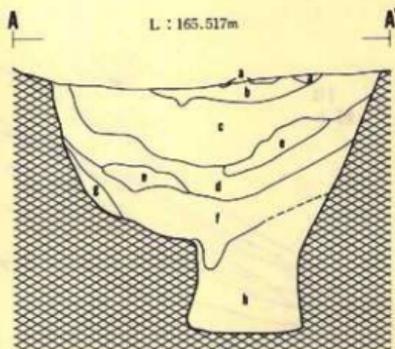
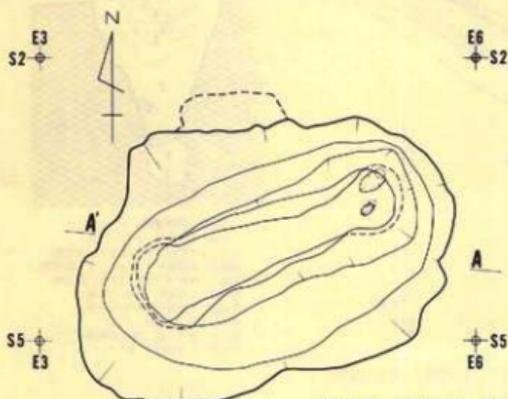
102陥し穴状遺構



- 102陥し穴状遺構
- a 黒褐色 YR 汚れた中層
 - b 暗褐色 10YR 汚れた中層
 - c 鈍い黄褐色 10YR 汚れたパリス



103陥し穴状遺構

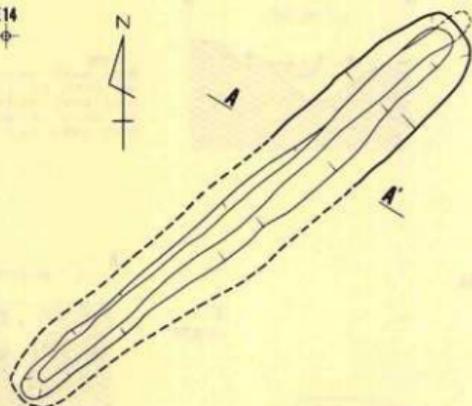


- 103陥し穴状遺構
- a 黒褐色 10YR 汚れたパリス
 - b 灰オリーブ 5YR 粉状パリス
 - c 暗褐色 7.5YR 汚れた中層
 - d 褐色 10YR 汚れた中層
 - e 黄褐色 10YR 汚れたパリス
 - f 黒褐色 10YR 汚れたパリス
 - g 褐色 10YR 汚れたパリス
 - h 褐色 7.5YR 汚れた灰砂大石

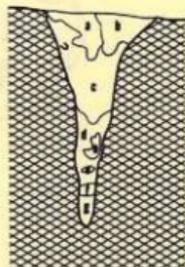
第9図 101炉址、102、103陥し穴状遺構

107陥し穴状遺構

E14
N10

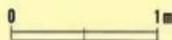


L : 166.617m



106陥し穴状遺構

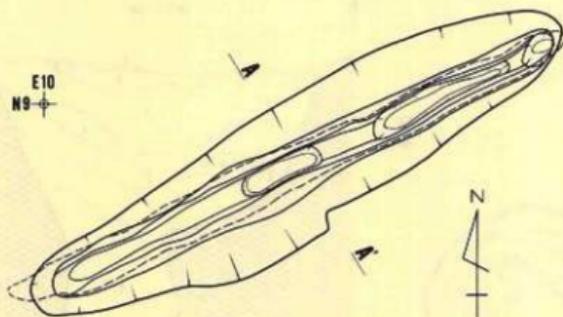
N6
E14



N6
E18

- 107陥し穴状遺構
- a 黒褐色 10YR5/7 汚れた中層
 - b 黒褐色 10YR5/7 汚れた中層
 - c 暗褐色 10YR5/7 汚れた中層
 - d 褐色 7.5YR5/7 汚れた八戸火山灰
 - e 暗褐色 10YR5/7 汚れた中層
 - f 黒色 10YR1/1 含むバミス
 - g オリーブ褐色 2.5YR5/7 汚れた八戸火山灰

E10
N9



L : 180.800m



N7
E10

N7
E13

- 106陥し穴状遺構
- a 黒褐色 10YR5/7 含むバミス
 - b 黒色 10YR1/1 含むバミス、炭化物
 - c 黒褐色 10YR5/7 含むバミス、炭化物
 - d 黒色 10YR1/1 含むバミス、炭化物
 - e 暗褐色 10YR5/7 汚れた中層
 - f 黒褐色 10YR5/7 汚れた中層
 - g 褐色 7.5YR5/7 含むバミス
 - h 黒褐色 10YR5/7 汚れた中層
 - i 明褐色 7.5YR5/7 含むバミス

第10図 107、106陥し穴状遺構

汚れた中振浮石と思われる黒色土層を載せる。いずれも自然堆積したと思われる。

出土遺物（第15図45～52 写真図版15-45～52）

埋土から土器片（45～49）石器（50～52）が出土した。45は単節斜縄文（L-R）が施文された鉢の底部片である。46は貝殻腹縁圧痕文を斜位に施文した後、篋刺突（右側）を施文している（I-10-D）。47は所謂「瘤付土器」である。無文の器面に、口唇部直下に瘤を貼り付け、口縁部に縦に半截竹管によるコンパス文を施文する。その後、沈線で区画し、その区画された間に劣截竹管による刺突（右側）を施文する（III）。器種は定かでないが、鉢形か深鉢形であろうと思われる。時期としては縄文後期末葉に相当する。48は口唇部に突起をもち、口縁部に平行沈線、体部に単節斜縄文（L-R）をしている鉢片である。大洞C²に相当する。49は結節縄文（単節斜縄文）を施文している。器種・時期はわからない。50は長軸方向に対し両側縁が交互剝離によるジグザグな刃部をもつ不定形石器である（⑦-B-②）。刃部の一部には剝落痕がある。また長軸端部に微小剝離をいれ、錐部を作りだしており（③-D-③）、石錐との複合石器である。51は折断調整器（⑧-E）と思われ、二次剝離した一部に微細剝落痕がある。52は交互剝離によるジグザグな刃部をもつ不定形石器である（⑦-B-②）。縁辺部に剝落痕がある。

2 炉址

101炉址 遺構（第9図 写真図版8）

この炉址はIV層（南部浮石層）上面で検出した。後で検出した53ピットはこの炉址の直下にあるが重複しておらず、両者の新旧関係では炉址の方が新しい。位置は調査対象区の中央北寄りである。炉と思われる部分に直立に埋設された鉢形土器がある。単節斜縄文（R-L）を地文とし、口縁部分に沈線を施文する。口唇部分を欠くため、時期を決定し難い。この埋設土器の周囲を、まとまりを欠くが熱をうけた2個を含む複数の礫が囲む。土器埋設石囲炉の形態をとるが、明確とはいえない。焼土は確認できなかった。検出面の上層がII・III層を欠き、直接耕作土であることから、削平されたものと思われる。この炉付近は、径1.2mにわたり、不整形に浅く落ちこんでいる。この落ちこみの東南部下半は耕作により削平されている（点線部分）。

出土遺物（第16図53～54 写真図版16-53～54）

53は既述した鉢形土器である。54は剝落痕ある石器である（⑩-B）。

3 陥し穴状遺構

102陥し穴状遺構 遺構 (第9図 写真図版9)

この陥し穴状遺構の検出面は木根により攪乱されている。検出したのはIV層(南部浮石層)中位であるが、埋土や周辺土層、深さからII層(中塚浮石層)が実際の検出面であろう。位置は調査対象区の北端である。残存する規模は開口部径 $3.8\text{m} \times 0.5\text{m}$ ・底部径 $3.7\text{m} \times 0.2\text{m}$ ・深さ 0.6m である。残存部からの平面形は長楕円形、横断面形は漏斗形である。長軸の方向はN-19°-Wである。埋土は汚れた中塚浮石(暗褐色～黒褐色)が底部まで入り、壁際には地山の崩落土(鈍い黄褐色)がある。遺物は出土していない。

103陥し穴状遺構 遺構 (第9図 写真図版9)

この陥し穴状遺構はII層(中塚浮石層)上面で検出した。位置は調査対象区の南端部である。規模は開口部径 $2.8\text{m} \times 1.8\text{m}$ ・底部径 $2.0\text{m} \times 0.3\text{m}$ ・深さ 1.8m である。平面形は楕円形、横断面形は箱葉研堀状である。長軸の方向はN-24°-Wである。埋土は下位層に黄色バミスを若干含むシルト質の層(黄褐色～黒褐色)、中位層に汚れた中塚浮石層、上位層に十和田a降下火山灰と思われる粉状バミスを載せる。いずれも自然堆積したものと思われる。

出土遺物 (第16・17図55～73 写真図版16・17-55～73)

埋土から土器(55～67)石器(68～73)が出土した。55・56は口縁部に竪刺突(右側)を施文している(I-2-B-③)。57は口唇部に貝殻腹縁痕文を刺突、口縁部は貝殻条痕を深く施文し、さらに竪刺突(斜め)を施文している(I-2-D-③)。58は口唇部に竪刻み(直角)を入れ、口縁部は57と同様に施文している。59～61は貝殻条痕文の上に竪刺突(61は右側だけ、59と60は右側と下側)を施文し、その間を縦位、あるいは縦位と斜位の貝殻腹縁痕文で充填している(I-10-D)。62はR-L-Rの複節斜縄文(II)。63は口唇部に竪刻みが入る。頸部から胴部にかけてはR-Lの単節斜縄文を地文とし、その上に平行沈線を施文する。また瘤状突起が貼りつけられている(III)。64・65は土師器の葉片である(V)。67は土師器の婁底部である。68は折断調整石器(⑧-E)である。粗い剝離で調整し、打点下半部を折断している。打点付近の側縁に剝落痕がみられる。69は折断調整石器(⑧-A-②)である。70は剝落痕ある石器(⑩-A)である。微細な剝落痕のみである。71は折断調整石器(⑧-B-①)である。72は剝片である。二次剝離や剝落痕はない。73は磨石である。

104陥し穴状遺構 遺構 (第8図 写真図版7)

この陥し穴状遺構は57・58ピット精査中、検出した。104陥し穴状遺構が若干自然埋没した後、その上部を貼り床し、57ピットの底部としている。したがってこの陥し穴状遺構の上半分は既述した57ピットとなる。位置は調査対象区の南端部である。規模は、開口部径は推定で $2.3\text{m} \times 1.1\text{m}$ と思われる。底部径 $1.9\text{m} \times 0.6\text{m}$ 。深さは推定で 2.0m と思われる。推定される平面形は

楕円形、横断面形は箱葉研堀状である。長軸の方向はN-56°-Eである。埋土は貼り床の下の下位層に汚れた八戸火山灰層、上位層に汚れた中振浮石層を載せる。貼り床の上の埋土は57ピットの項で既述した。遺物は出土していない。

106陥し穴状遺構 遺構 (第10図 写真図版10)

この陥し穴状遺構はII層(中振浮石層)上面で検出した。位置は調査対象区の中央東寄りである。後述する107陥し穴状遺構とは位置、方向、検出状況から対になるものと思われる。規模は開口部径4.1m×0.8m・底部径4.2m×0.3m・深さ1.3mである。平面形は長楕円形、横断面形は漏斗形である。長軸の方向はN-25°-Eである。埋土は、底部にある落ちこみ部分や壁際に、地山の崩落土(明褐色～褐色土)がある他は、下位層から中位層は汚れた中振浮石層、上位層はバミス・炭化物を含む黒褐色～黒色土である。

出土遺物 (第17～19図74～100 写真図版17～19-74～100)

埋土から土器(74～94)石器(95～100)が出土した。その多くは埋土の上位層からの出土である。74は波状口縁をもち、頸部には3条の平行沈線をもつ深鉢である。75・76は鉢である。75は波状口縁をもち頸部には沈線を引き、その沈線の一部に2個の粘土粒が貼りつけてある。76は口唇部に刻みをもち、頸部には4条の平行沈線を引く。これらの土器の地文はL-RかR-Lの単節斜縄文である。時期としては縄文晩期中葉後半か後葉前半に併行する。78・79は地文にL-Rの単節斜縄文をもつ鉢か深鉢の底部片である。時期は不明である。80は丸底の小型の環である。81・82は押型文である。81は口唇部に篋刻み(右抜き)、口縁部に複合山形文を(I-1-A-①)、82は変形複合山形文(I-1-A-②)をそれぞれ施文している。84は口唇部斜めに篋刺突(右側)し、右に抜く。一見、刻みに似ている。口縁部には浅く貝殻条痕を施文している(I-2-B-②)。85は口唇部斜めを貝殻腹縁圧痕で刻み(右抜き)、口縁部には深く貝殻条痕を施文している(I-2-B-②)。86は篋刺突(斜め)を施文している(I-10-A)。87～91・93は鉢片である。87は口唇部に刻み(直角に浅く)、頸部には3条の平行沈線を引く。89は口唇部に刻み(右抜き)、頸部には4本の深い平行沈線を引く。91は頸部に2本の平行沈線を引く。これら87・89・91の地文はL-Rの単節斜縄文である。90は口唇部に突起と刻み(右抜き)が入る。頸部には二条の沈線とその下の沈線に接して縦に1本の区画沈線が入る。そして二条の沈線の間を右側からと棒状工具による連続刺突施文で埋める。88は口唇部を欠く。頸部に篋刻みし、その後四条の沈線を引く。地文はL-Rの単節斜縄文である。93は波状口縁をもち、頸部には一条の沈線をもつ。これら87～91・93の時期は縄文晩期中葉後半か後葉前半である。92は胴部と左肩部が残存する中実土偶片である。へそと思われる部分から胸にかけて逆三角形の隆帯があり、残存する左乳房はこの隆帯部分に小さく下がる。肩部には横位に沈線が入る。背部には肩部にかけ横位に沈線が入る。腕は下がるようである。時期は縄文晩期中葉後

半か後葉前半である。83・94は土師器片である。95・96は折断調整石器（95は⑧-B-②、96は⑧-B-①）である。97・99は剥片である。98は剥落痕ある石器（⑩-A）である。100は定角式石斧（縦斧）である。

107陥し穴状遺構 遺構（第10図 写真図版10）

この陥し穴状遺構の検出面はII層（中塚浮石層）上面である。位置は調査対象区の中央東寄りである。規模は、開口部径4.0m×0.6m・底部径3.9m×0.2m・深さ1.5mである。平面形は長楕円形、横断面形は漏斗形である。長軸の方向はN-41'-Eである。埋土は、下位層に崩落によると思われる汚れた八戸火山灰、上位層に汚れた中塚浮石層を載せる。

出土遺物（第19図101 写真図版19-101）101は播器である。

4 遺構外の出土遺物

本遺跡の調査によって出土した遺物は、遺構内からのものは少なく、殆んどは遺構外出土のものである。

（1）土器

出土土器は、縄文時代早期、前期、後期、晩期のもと土師器、陶器片若干である。縄文土器の中では早期のものが圧倒的に多く、前・後・晩期のものは若干である。これらを次の第I群から第VI群に分類して述べる。

第I群土器（第22～37図19～359 写真図版22～34-19～359）

本群は縄文時代早期に属する土器群である。量的に多い白浜式併行を中心に、押型文、吹切沢式併行、物見台・住吉町式併行等が若干みられる。以下11区分に細分した。

第1類（第22図19～65 写真図版22・23-19～65）

本類は押型文を一括し、個々の文様の特徴からA～Gの7区分に細分した。記述にあたって



は左図「拓本からの印刻線推定図」を説明の助けとした。なお、施文方法は、山形文の一部(No59)を除いては全て横回転施文である。原体の末端は平垣に切断されている。

A種—複合山形文

量的にはB種(菱形文)と共に本群の大部分を占める。文様からさらに2区分した。

A種—① 複合山形文(第22図19~28 写真図版22—19~28)

印刻の基本は推定図No81(遺構内)とNo25である。No81は互いに逆向きの重複した山形(三段)を並列させた図形が施文されていくものである。このタイプは、これ1点だけの出土である。他はNo25のタイプとなる。破片のみで原体の詳細を復元できないがNo81と異なるのは逆向きの重複した山形の間に、1本のあるいは複数の、山形の構成によらない印刻線が介在するものと思われる。施文体の境があるのはNo24~26・28である。

A種—② 変形複合山形文(第22図29~36 写真図版22—29~36)

複合山形文の変形としたが、独立した分類にしてもよいと思われる。印刻の基本は推定図No31である。まず5本の平行印刻線を斜位に印刻する。その後、この印刻線の相隣り合う空隙を、向きを変えた平行印刻線(No31で18本確認できたので実際はそれ以上)で埋める。この印刻線は5本の印刻と一部交差している部分があるが、基本的には交差しないよう(格子状にならないよう)、印刻したものと思われる。施文帯の境があるのはNo31と29である。下段を施文する際、原体の向きを変えているかは、このタイプの印刻ではわからない。No33~36は印刻線が細いタイプである。

B種—菱形文

量的には前述のA種(複合山形文)と共に本群の大部分を占める。文様から3区分した。

B種—①(第22図37~46 写真図版22—37~46)

印刻線の基本は推定図のNo37・41である。口唇部に近いと思われるNo37・39から原体を復元する。まず口縁部には太めの浅い沈線が横走る(No37では2本、38では3本)。菱形文はその下に施文する。中に縦位の印刻線を入れた三層よりなる菱形を印刻し、その菱形の相隣り合う空隙を、原体頂部では三層のV字形印刻線で埋めている。原体下端部文様は欠失してわからないが、39や41~43から推定すると、三層の逆V字形印刻線で埋めるとと思われる。No44~46は印刻線が細いタイプである。

B種—②(第22図47 写真図版22—47)

このタイプは1点だけである。印刻線の基本は推定図のNo47である。欠失部分が多いため、詳細はわからないが、次のようになるとと思われる。まず印刻線を×字形に印刻する。印刻線が交差している部分は菱形となる。その中に縦位の印刻線を入れた一層の菱形を印刻する。原体の頂部および下端部ではB種—①のようにV字形・逆V字形(一層だけか?)を印刻するもの

と思われる。

B種一③ (第22図48)

このタイプは1点だけである。印刻線の基本は推定図のNo48である。施文が浅く、かつ欠失部分が多いため、詳細はわからないが、次のようになるとと思われる。まず三層か四層の菱形が上下に2個、さらにこの2個の接点部分の左右空際に1個ずつ、計4個の菱形の印刻が観察できる。原体の両端部分の印刻はわからない。もし印刻するとすればB種一①のようにV字形・逆V字形となるとと思われる。右上部に押型文の重複部分がある。詳細はわからない。

C種 V字状文 (第22図49～52 写真図版22・23-49～52)

印刻線の基本は推定図のNo49である。四段の山形を印刻し、1本の印刻線を介した後V字形を印刻する。そのV字形の内部に平行線を充填する(平行線はNo49では9本確認した)。この平行線はV字形と接しない。52は口唇部に刻みをもつ破片である。施文帯の境をもつのは49である。次段の施文は、同じ原体を使用したとすると上下を逆にして施文している。

D種 複合山形+沈線 (第22図53～58 写真図版23-53～58)

印刻線の基本は推定図のNo53である(図には他にNo56・58を載せた)。いずれも原体を施文した後、沈線を引く。53～55は口唇部に篋刻み(右抜き)が入る。56・57は器厚が薄く、押型文施文も薄い。複合山形文様は、53のように鈍角の山形を示さず、恰も篋刻みの平行線状文を感じさせる。58も鈍角の山形を示さない。下段の施文は上段の途中からなされたかもしれない。沈線は斜位にも入る。

E種 縦刻みの山形文 (第22図59・60 写真図版23-59・60)

印刻線の基本は推定図のNo59である。施文帯の境が横位に明確に残っている。印刻線は他の押型文のように直線的、かつ印刻の深さの一定性を示さず、若干曲がったり、深さに均等を欠いている。印刻線については60も同様である。59では前述の通り、境がある。しかし次段の文様構成は施文が薄く、明確でない。かろうじて観察できる印刻線をひろくと推定図の下位のようになる。同じ原体の縦回転施文による印刻線とも観察できる(少なくとも同じ原体での横回転施文はしていない)。

F種 平行線状文 (第22図61 写真図版23-61)

印刻線の基本は推定図のNo61である。横刻みの横回転施文である。

G種 その他の押型文 (第22図62～65 写真図版23-62～65)

62はA種一①(複合山形文)に相当すると思われる。境目がある。63は推定図のNo63である。右下に斜位に2本の印刻線が観察できる。上には浅い2本の沈線が観察できるが、この沈線の施文具は、篋や丸棒、また貝殻ではなく、遺構内出土土器の記述の際使用した、所謂「草による条痕」の施文具の「草の茎」に近い。しかし「草による条痕」と施文が異なるのは、一つの

若干波をうつが平行線状を示すこと、二つに施文のスタートがそろっていることである。これらの諸特徴から施文具は、弾力性があるものを何条か束ねて切りそろえたものと思われる。これに類似する施文は、後述する「太浅沈線文(1群8類)」であり、この8類は押型文に関連するのではないと思われる。64は補修孔があり、右下に押型文を施文している土器である。65は複合山形文と思われる施文をして(境がある)、その後、幅の広い沈線を施文している。

第2類 (第23～31図66～232 写真図版23～29—66～232)

本類は白浜式に併行するものを一括し、さらに施文や施文具の違いから4区分に細分した。

A種 無文や、各種条痕文だけの施文 (第23図66～72 写真図版23—66～72)

66は無文である。67・68は貝殻条痕を斜位に施文する。69は草による条痕を縦、横、斜と脈絡なく施文する。70・71は篋状工具による沈線を横位に施文する。72は、表は篋状工具による沈線を錯綜して施文し、裏は貝殻条痕を斜位に施文する。補修孔がある。

B種 刺突や引き起こしを施文 (第23・24図73～95 写真図版23・24図76～95)

口唇部及び口縁部の施文の違いから5区分に細分した。

B種一① (第23・24図73～95 写真図版23・24—73～95)

口唇部に刻みが入り、口縁部には無文または各種条痕文が施文されるものをあげた。口唇部の刻みは、真上か若干斜めに入るものをあげた。

73～75は真上からの、76・77は若干斜めの篋刻み(直角)である。77の口縁部には3条単位の浅い貝殻条痕文が横走する。78～83は真上からの篋刻み(右抜き)である。口縁部には、78～81は貝殻条痕文、82・83は草による条痕文が横走する。78～80は真上からの篋刻み(左抜き)、87・88は斜めの篋刻み(左抜き)である。口縁部には、85は貝殻条痕文が薄く、87は草による条痕文を、88には貝殻条痕文を表裏に深く、それぞれ施文する。88には補修孔がある。89～92は焼成前に円孔を穿った、同一個体片である。口唇部には真上からの篋刻み(右抜き)が入る。口縁部は、89は平線であるが、90は若干右上がりの波状を示す。口縁部文様には貝殻条痕文を施文する。円孔は貝殻条痕文施文後、穿たれている。粘土層は裏に盛り上がる。円孔は全周を巡ると思われる。間隔は、89からは不均等であると思われる。93は口唇部斜めに篋刻み(右抜き)を入れる。口縁部は無文であるが、一部に貝殻条痕文がある。また、表に4個・裏に1個、径1.2cm・深さ0.2cmの焼成後の剥落部分がある。94は、口唇部には真上からの篋刻み(左抜き)を入れる。口縁部に1個、半截竹管を浅く刺突している。95は、口唇部には真上から斜めに刻みを入れる。その刻みには2本の細い沈線が入る。口縁部は無文である。

B種一② (第24図96～98 写真図版24—96)

96～98は、口唇部斜めに篋刻み(直角)を入れる。口縁部は、96・97は貝殻条痕文を施文する。98は無文である。前述したB種一①の87と93はこの種に近い。

B種一③ (第24・25図99～119 写真図版24—99～116)

口唇部に刻みや刺突がなく、口縁部に施文があるものをあげた。

99～101は篋刺突(右側)を施文する。101は貝殻条痕を施文した後、刺突している。

102～106は篋刺突(斜め)を施文する。102の中位にある刺突(5～6個単位)は跡切れる部分をもつ。体部は縦位になでている。106の右下に斜めに篋書き沈線(2本残存する)を施文している。107は篋刺突(斜め)をV字状に施文する。108は爪刺突が、左部分には右側刺突、右部分には斜め刺突で施文される薄い土器である。109は、篋刺突(右側と斜め)を施文する。110は、まず口唇部下に一段の篋刺突(右側)を巡らし、その下に篋刺突(斜め)を斜位に2段単位で、2.5～3cm間隔で施文する。111～113は、篋刺突を上段では斜め、その下の2段あるいは3段に下側に施文する。111・112の地文は貝殻条痕文である。114・115は篋刺突(右上からの斜めと下側)を施文する。116は、地文に貝殻条痕文を施文し、その上に篋刺突を斜めあるいは下側に施文する。117～119は篋刺突(下側)である。

B種一④ (第25～27図120～159 写真図版25・26—120～159)

口唇部になく、口唇部斜め及び口縁部に施文があるものをあげた。

120は、口唇部斜めに篋刻み(右抜き)、口縁部は草による条痕の上に、右から左への篋刺突を施文する。121は、口唇部斜め及び口縁部に篋刺突(右側)を施文する。122は欠番である。132を除く123～139は、口唇部斜め及び口縁部に篋刺突(右側と斜めの組合せ)を施文する。123・124・130・136・137～139は、器裏の口唇部下に貝殻条痕による調整痕が横走する。132は、径0.6cm・深さ0.2cmの左上から押圧された摺り鉢状の押圧痕がある。140・141は同一個体と思われる口径約7cmの薄手小型土器片である。口唇部斜め及び口縁部に篋刺突(右側)を施文する。左端に、焼成前に穿たれた径0.2cmの円孔がある。粘土層は裏に盛り上がる。この円孔は、もし複数あるとすれば、残存する口縁部(1/3以上ある)には他にないことから、対縁にもう1個あるだけと思われる。142は爪刺突(斜め)を施文する。143～146は、口唇部に篋刺突(右側)、口縁部に篋刺突(下側)を施文する。147は、口唇部に篋刺突(左側)、口縁部にも篋刺突(下側)を施文する。148・149は、口縁部刺突は143～147と同じであるが、口唇部斜めには、148が篋刻み(右抜き)、149が幅が狭く深い篋刻み(右抜き)を施文する。150と151は同一個体である。150は、口唇部斜めに篋刻み(右抜き)を施文する。口縁部には三列の施文帯をもつ。上と下の列には三段の篋刺突(下側)、間に二段の竹管文刺突を施文する。体部になる施文帯の下には貝殻条痕が横走する。151は150の下半部である。152は貫通しない円刺突をもつ破片である。口唇部斜めに篋刺突(右側)、口縁部には二段の篋刺突(下側)を施文する。器表裏には貝殻条痕を施文する。表は若干斜めに方向を変えながら施文する。裏は調整痕として横走している。円刺突は、細い丸棒工具によるとと思われる、径0.2cm・深さ0.6cmのもので、貫通せず、裏面に

は刺突による粘土の盛り上がり瘤がある。153～156は、器裏口唇部斜めに寛刻み（右抜き）が施文されるものである。器表は、貝殻条痕文の上に寛刺突（若干斜めから下側）を施文する。157～159は爪を刺突したものである。157・158は同一個体である。間隔をとって上下に三段一単位の爪刺突（下側）を施文し、上下の間を三段一単位の爪刺突（斜め）で繋ぐ。この上下を繋ぐ爪刺突は間隔をとって全周を巡るようである。159は、残存する部分では三段一単位の爪刺突（斜め）を施文している。

B種一⑤（第27～29図160～191 写真図版26・27-160～191）

施文が、口唇部にあり、口唇部斜めになく、口縁部にはあるものをあげた。

160～172は、口唇部真上から寛刻み（直角）を施文したものをあげた。161・169・172以外の160～172は、口縁部に寛刺突（右側か斜め。ただし165には下側も）を施文する。161は長さ約0.3cmの爪状の薄い刺突を施文する、薄手小型土器片である。169は、口唇部下に二段の爪刺突（下側）を施文、その下には二段の爪刺突（斜め）を施文する。後者の爪刺突（斜め）は、間隔をおいて同じように施文されるようである。172は、径0.4cm・深さ0.2cmの竹管文刺突を三段に巡らす薄手小型土器である。

173～186は、口唇部真上から寛刻み（右抜き）を施文したものをあげた。173～176・186を除く177～185は、口縁部に寛刺突（斜めか下側）を施文する。173は爪刺突（右側）を施文する。174は、三列の施文をする。上段は寛刺突（斜め）、中・下段は爪刺突（斜め）である。中段の爪刺突部分に焼成前の円孔（径0.5cm）が2個ある。175は爪刺突（斜め）を施文する。体部には草による条痕を施文する。176は口径約9.0cmの薄手小型土器である。爪刺突（右側）の施文が6段確認できる。186は、径約3.0cmの棒状工具を器表より約30度の角度で刺突している。その施文に棒状工具による線状痕が観察できる。

187～189は、口唇部真上から寛刻み（左抜き）を施文したものをあげた。口縁部には、187は寛刺突（斜め）を施文する。188は寛刺突（右側）の他に、径0.5cm・深さ0.1cmの浅皿状の凹みを施文してある。189は寛による浅い刺突を斜めに施文する薄手の破片である。

190は、口唇部真上から寛刻みを斜めにいれる。口縁部には二段の寛刺突（右側）と、その下に爪刺突を斜めにそれぞれ施文する。191は、口唇部真上から寛刻みを斜めにいれる。口縁部には爪刺突（斜め）をすまなく施文する。

C種 刻みや刺突の他に沈線を施文（第29図192～200 写真図版27-192～200）

I群（早期土器群）に関するもので沈線を有するものは、このC種の他に1類（押型文）や9類（縄文＋沈線文）がある。194はこの分類でなく第9類である。

192は、2条の寛書き沈線を横走させた後、口唇部に寛刻み（直角）を施文する。193は2条の寛書き沈線を横走させた後、口縁部に寛刺突（左側）を施文する。195は、口唇部真上に寛刻

み(左抜き)を施文、口唇部下には篋刻みを斜位に施文した後、一条の沈線を横走させる。196は、口唇部下に篋刺突(左側)を施文した後、2条の沈線を横走させる。その下に篋刺突(右側)を施文する。197は、口唇部真上から浅い篋刻み(直角)を施文、口縁部には5条の沈線を横走させた後、上の3本の沈線の間には爪刺突(右側)を2段施文する。198は、口唇部ほぼ真上から細い丸棒の腹の部分で刻み状に斜めに施文、口縁部には3条の沈線の間には爪刺突(下側)を施文する。199は、口唇部真上から篋刻み(直角)を施文、口縁部には篋刺突(斜め)を4段施文した下に3条の沈線を横走させる。200は、口唇部真上から篋刻み(右抜き)を施文、口縁部には、貝殻条痕を沈線状に深く横走させ、その上に篋刺突(斜めから下側)を施文する。

D種 貝殻文を施文(第29・31図201~232 写真図版27・29-202~232)

I群(早期土器群)に関するもので貝殻文を有するものは、このD種の他に、5類(吹切沢式に併行)・6類(住吉町式に併行)・7類(物見台式に併行)があるが、D種は白浜式に併行するものをあげた。

D種一①(第29・30図201~214 写真図版27・28-201~214)

口唇部に刻みや刺突がなく、口縁部に施文をもつものをあげた。

201~203は貝殻腹縁文を縦位に施文する。201・202は体部に貝殻条痕を施文する。204は貝殻腹縁文を斜位に施文する。205・206は、口唇部下に斜位に、207は斜位と縦位にそれぞれ貝殻腹縁文を施文する。その下には篋刺突(右側)を施文する。208は、口唇部下に貝殻腹縁文を斜めに施文、その下に沈線が横走する。209は、口唇部下に貝殻腹縁文を縦位に施文し、その上に爪刺突(下側)を施文する。口縁部には、地文の貝殻条痕文の上に2段の爪刺突(下側)を施文する。別個体である210は、口唇部下の施文は209と同じである。口縁部は、まず篋刺突(右側)を3列施文し、その間を斜位の貝殻腹縁文で充填する。211~214は、貝殻腹縁文を横位に連結施文し、沈線の効果を示す。その間には篋刺突や、211のように貝殻腹縁文と篋刺突を組合わせて施文する。地文には貝殻条痕を施文する。

D種一②(第30図215・216 写真図版28-215・216)

口唇部斜めに刻みや刺突があり、口縁部には沈線が貝殻腹縁文だけのものをあげた。

215は、口唇部斜めに貝殻腹縁刺突、口縁部は多数の横走する沈線で充填する。215は口唇部斜めに篋刻み(右抜き)、口縁部には貝殻腹縁文を横位に連結し、それを3段施文する。体部には貝殻条痕文が横走する。

D種一③(第30・31図217~232 写真図版28・29-218~232)

口唇部に刻みや刺突があり、口唇部にも施文があるものをあげた。

217は、口唇部真上に貝殻腹縁文を刺突する薄手の破片である。218~222は、口唇部に篋刻み(218・222は直角、他は右抜き)、口縁部には貝殻腹縁文を施文する。223は、口唇部に篋刻み

(右抜き)、口縁部には貝殻腹縁文を横位に連結し、それを5段施文する。224は、口唇部真上に貝殻腹縁文を刺突する。口縁部には同じく貝殻腹縁文を刺突(斜め)し、その下に爪刺突を施文する。225は、口唇部に貝殻腹縁文を刺突(斜め)し、口縁部には篋書沈線文を横走させる。226~232は、口唇部に貝殻腹縁文を刺突する。口縁部は232を除き、篋刺突を施文する。232は連結し横走する貝殻腹縁文の間に篋刺突(斜め)を施文する。

第3類 (第31図233~237 写真図版29-233~237)

本類は、波状口縁部をもつものをあげた。I群(縄文時代早期)の中で波状口縁をもつものは本類の他に、2類B種一①の90、6類の247、7類の257・258があるだけで少ない。

233・234は同一個体である。233から推定すると、口径が約8cmの薄手小型土器である。口唇部真上から、丸棒の腹の部分で刻みをいれる。口唇部下には、先をけずった丸棒を縦位に一列に押し、その下には横位・斜位に押しする。235・236は同一個体である。沈線の間には、先をけずった丸棒を斜めに刺突している。地文は、235は貝殻背圧痕、236は貝殻腹縁の押し引きと思われる。237は、口唇部真上から爪刺突を施文する。これら3個体の波状口縁は不均整である。

第4類 (第31・32図238~242 写真図版29-238~242)

本類は、絡条体圧痕文をもつものをあげた。

238は、口唇部斜めに絡条体圧痕文を施文し、体部下に爪刺突(下側)を二段施文する。口唇部と体部下の施文部の間を、地文として、貝殻腹縁部分を上にして貝殻背圧痕文を浅く施文する。239・240は同一個体である。口唇部斜めに絡条体圧痕文を施文する。口唇部下及び体部下に5段の爪刺突(下側)を施文する。上下の爪刺突の間に貝殻背圧痕文を238のように施文する。241は、口唇部下に絡条体圧痕文を施文する。口縁部には2条の横走する沈線の間に篋刺突(斜め)を施文する。体部には貝殻腹縁の押し引き文を施文する。242は241に類する体部片である。

第5類 (第32図243~245 写真図版29-243~245)

本類は、貝殻押し引き文と斜行する沈線を施文し、吹切沢式に併行するものをあげた。

243は、口唇部斜めに絡条体圧痕文を施文する(3類の絡条体圧痕文を参考)。口縁部には篋刺突(斜め)を3段施文する。体部は、密な貝殻押し引き文を横位に施文した上に、口縁部には3条の沈線を横走させ、その下には3条の沈線で区画する。245は、密な貝殻押し引き文を斜位に施文した上に、2段の爪刺突(斜め)を上下に施文、その間を3条の沈線でW字状に区画する。244は貝殻押し引き文を横位に施文した破片である。

第6類 (第32図246~256 写真図版29・30-246~256)

本類は、貝殻背圧痕を施文する、住吉町式に併行するものをあげた。315もこの類に属する。

246は、口唇部斜めに貝殻腹縁圧痕文、口縁部に貝殻腹縁部を右側に向けた背圧痕文を施文する。247は、口唇部斜めに先をけずった丸棒を押圧する。口唇部下には前述丸棒の押圧を2段施文する。体部には貝殻腹縁部を上にした背圧痕文を施文する。248は247と同じ貝殻腹縁部を上にして施文した背圧痕文である。249～252は貝殻腹縁部を右にして施文した背圧痕文である。253～256、249～252のような施文の上に貝殻腹縁刺突を施文している。

第7類 (第32図257・258 写真図版30—257・258)

本類は、沈線で幾何学的文様を構成し、これを貝殻腹縁によって縁取りするなど、物見台式に併行するものをあげた。

257・258は、口縁部が大きい波状を示す。258は口唇部を間隔をおいてそぐ。口縁部には両者とも2本の沈線で幾何学的文様を構成し、これを貝殻腹縁によって縁取りする。257は沈線の屈曲部や途中に、竹管刺突を施文する。

第8類 (第33図259～261 写真図版30—259～261)

本類は太く浅く引かれた凹線をもつものをあげた。I群1類(押型文)G種の63は本類に関連することを既述している。

259～261の凹線の特徴は1類G種の63で既述しているように、一つに若干波をうつつが平行線状を示すこと、二つに施文のスタートがそろっていることである。前者につけ加えればその凹底の軌跡には幾条かの擦痕が残ること、後者では259にそのスタート部分が観察でき、それは何条か束ね、その先はそがれていることである。260・261の口唇部は間隔をおいて押圧され、若干波状になっている。

第9類 (第29図194・第33図262～277 写真図版27—194、30・31—262～277)

本類は、縄文を地文とし、その上に幾条かの沈線を引くものをあげた。所謂押型文に伴うとされるものである。269・270は羽状縄文である。

第10類 (第33～35図278～325 写真図版31・32—278～325)

本類は、I群2類に関連する体部片である。施文の違いから6区分に細分した。

A種 各種刺突を施文 (第33図278～289 写真図版31—278～289)

281は筥刺突(斜め)の下に筥刻み(直角)を施文する。282は爪刺突(斜め)の下に三角形の刺突を施文する。283は丸棒による刺突、284は竹管文による刺突を施文する。285～289は爪刺突を連結して施文する。

B種 沈線を施文 (第33図290～294 写真図版31—290～294)

292は、貝殻による押し引き文と条痕文が交錯した地文の上に沈線を引き、その間や上下を爪刺突(下側)で充填する。293は細い棒を刺突する。294は細い棒の腹の押圧を連結し沈線の効果を示す。

C種 沈線を格子状に施文 (第33・34図295・296 写真図版31—295・296)

295は沈線を格子状に施文した上から剷刺突(右側)を施文する。

D種 貝殻文を施文 (第34図297~315 写真図版31・32—297~315)

297~306は貝殻腹縁刺突を施文する。306は腹縁部が1.0cmで放射肋が5つ観察できる。313は貝殻腹縁刺突(左側)の下に竹管を刺突する。314は貝殻腹縁刺突を斜めに施文し、沈線で区画する。315は第6類に属する。

E種 各種条痕文を施文 (第34・35図316~324 写真図版32—316~324)

316~320は貝殻条痕文である。319と320は3条単位の条痕文である。321~324は草による条痕文である。

F種 縄文を施文 (第35図325 写真図版32—325)

325は単節斜縄文を施文する。

第11類 (第35~37図326~359 写真図版32~34—326~359)

本類は尖底部分を有するものをあげた。施文の違いから3区分に細分した。

A種 貝殻文を施文 (第35・36図326~334 写真図版32・33—326~334)

326は貝殻腹縁を刺突する。334は縦位に貝殻条痕文を施文し、その後、やはり縦位にみがかれる。

B種 草による条痕文を施文する (第36図335~340 写真図版33—335~340)

336は竹管刺突を巡らす、薄手小型土器である。

C種 その他 (第36・37図341~359 写真図版33・34—341~359)

341は縦位にみがかれた後、浅い沈線を斜位に施文する。343・344・351~354は縦位にみがかれる。345~350は草による条痕を施文する。355は貝殻背圧痕を横位に施文する。357~359は単節斜縄文を施文する。356はII群に属する。

第II群土器 (第20図1・37・38—360~372 写真図版20—1、34—360~372)

本群は縄文時代前期に属する。1は単節斜縄文を施文する鉢片である。底部は尖底となる。361・362は羽状縄文を施文する。371は反撚の縄文を施文する。

第III群土器

本群の縄文時代後期に属するものは遺構内土器47(第15図47 写真図版15—47)が確認できただけである。

第IV群土器 (第20・21図2~12、38図373~385 写真図版20・21—2~12、34—373~385)

本群は縄文時代晩期に属するものをあげた。2は晩期中葉後半前半に相当する鉢である。4は晩期後葉前半に相当する壺である。他は晩期中葉後半に相当するものと思われる。5の胴部文様は粘土を貼りつけ区別している。

第V群土器 (第21図13~15、38図386 写真図版21—13・14、34—386)

本群は古代に属するものをあげた。13~15は土師器の底部である。386は土師器の口縁部である。

第VI群土器 (第21図16~18、38図387・388 写真図版21—16・17、34—387)

本群は、古代よりは新しいと思われるものをあげた。

(2) 石器

本遺跡で遺構外から出土した石器は、剥片石器が500余点、礫石器が300点弱である。本報告書には、定形的なもの及び二次加工や剝落痕(使用痕)の明確なものを中心として掲載した。石質や産地・出土層位は「石器計測表」に示してある。

剥片石器

① 石鏃 (第39図1~19 写真図版35—1~19)

基部の形状により、凹部(1・2)、平基(3~14)、凸基(15・16)に分けられる。17・18は基部が欠損している。19は粗い二次加工で調整されている。

② 尖頭石器 (第39図20~25 写真図版35—20~25)

完型品は20・21の2点である。22は21の形状を示すと思われる。24は基部が20に若干似ており、20と同じ形状を示すとも考えられる。25は平基で薄く、二次加工が丁寧である。

③ 石錐 (第39・40図26~36 写真図版35—36・26~36)

26は弓錐とした。27はハンドリーマの機能を持つものであろう。28・35は突錐の機能に27の機能を合わせたものと思われる。35は更にジグザグな刃部もある複合石器である。29~33は素材の一端を加工調整して錐部を作り出したものである。30は折断した端部を作り出している。34は打点の下半を折断し、両縁を二次加工して刃部を作り出しており、端部に錐部を作り出している。36は素材の形状を利用し、簡単な剝離を加え錐部を作る。

④ 石匙 (第40図37~45 写真図版36—37~45) 縦型で先端の尖るもの(37~39)、縦型でやや幅広く、先端が直線的なもの(40~42)、小型のもの(43~45)がある。45は簡単な二次加工のみである。41の先端は一部欠損する。

⑤ 篋状石器 (第40図46~48 写真図版36—46~48) 両面が二次加工される。47は特に丁寧である。48は欠損している。

⑥ 搔器 (第40図46 写真図版36—46) 片面のみ丁寧な二次加工で刃部を作り出している。

⑦ 不定形石器 (第40~43図50~86 写真図版36—38) ①~⑥、⑧~⑩以外で二次加工されたものをあげた。二次加工の状況や形状により4区分した。

⑦-1 (第40・41図50~71 写真図版36・37—50~71) 搔器・スクレイパー・削器と呼ば

れるもので、素材の縁辺の形状を大きく変えることはない。50・52は播器である。52の刃部には縦位の線状痕が入り磨滅している。53～57は縁辺全周が二次加工されている。58～60・62・63は先端部両端に、61・64～66はサイドとエンドに、67・68は一辺に、それぞれ二次加工を加え刃部を作り出している。64～68は折断している。69～71は凹部の刃部をもつ。

⑦—II (第42図72～82 写真図版37・38—72～82) 片面加工により鋸歯縁が形成されるもの(II-a)、交互剝離によりジグザグな刃部が形成されるもの(II-b)がある。

⑦—II-a (第42図72～77 写真図版37—72～77) 72は横長剥片に加工を加えている。77は大型剥片に加工を加えている。

⑦—II-b (第42図78～82 写真図版37・38—78～82) 78は交互剝離による刃部に剝落痕が認められる。反対側縁は剝落痕が全周に認められる。また折断されている。

⑦—III (第43図83～85 写真図版38—83～85) ノッチである。素材の形態を大きく変えるような二次加工はされていない。あるいは偶然できたノッチかも知れない。

⑦—IV (第43図86 写真図版38—86) 大型の剥片で粗い二次加工が縁辺にある。剝落痕も認められる。

⑧ 折断調整石器(第43・44図87～108 写真図版38—87～108) この石器については阿子島香(1979年)が仮称し論述している。本遺跡では剥片石器の中に60点余の折断されたものがあり、阿子島の5分類により、项目的に説明する。

⑧—A—① 三角形。片側を折断(87)。剝落痕あり。

⑧—A—② 三角形。両側を折断(88)。二次加工あり。

⑧—B—① 長方形ないし台形。一側辺を折断(89～94)。91・92は剝落痕が両側縁に集中。

⑧—B—② 長方形。両側辺を折断(95)。剝落痕あり。

⑧—C 半月形。側辺を折断(96～98)。96・98は半月形部分に剝落痕集中。97は二次加工あり。

⑧—D—① 切出形。一側辺を折断(99)。切出部分に剝落痕あり。

⑧—D—② 切出形。一側辺と対辺の斜辺を折断(100～101)。101に二次加工部分あり。

⑧—D—③ 切出形。一側辺と底辺を折断(102)。切出部分に剝落痕あり。

⑧—E その他の形態(103～108)。二次加工され、剝落部分もあり。「不定形石器」のIに相当。108は接合した資料で、本来は4破片からなると思われる。二次加工により刃部を作り出している。接合した打点下半の資料は素材の形状を変えていないが、上半の資料は刃部を作り出す際に形状を変え、かつ折断部分に加工している。

⑨ ビエス・エスキュー(楔形石器)(第44・45図109～125 写真図版38・39—109～125) ビエス・エスキューは岡村道雄(1976年)によって注目され、種々の特徴が指摘された。

⑨-I 2個1対の刃部を有し、素材の面を大きく残すもので(109~118)、109~114は縦長剥片、115・116は横長剥片、117・118は複合利用である。115は翼状剥片を素材とし、その形状を変えないまま使用している。

⑨-II 4個2対の刃部を有するものである(119~121)。

⑨-III 2個1対の刃部を有するが、側辺と平行し、刃部2縁辺からの剥離面によって全面がおおわれたものである(122~125)。122には剪断面が観察できる。

⑩ 彫器(第45図126~134 写真図版39-126~134) 縄文時代の彫器の存在を指摘したのは高橋文夫(1982年)である。槌状剥離によるもの(126)、折断によるもの(128・129・132・133)があり、それぞれ刃部作り出しをしている。127・130・134は剥片の先端部を刃部としている。各刃部には剥落痕がある。

⑪ 剥落痕ある石器(第45・46図135~152 写真図版39・40-135~152) 使用痕ある石器のことである。出土点数の大部分を占める。小剥片にも剥落痕が観察できることが多い。大部分は一次剥離の鋭い縁辺をそのまま刃部としている。135~141は1側縁に、142~144は側縁から端部にかけて、145~150は先端にそれぞれ剥落痕を有する。151・152は礫片の鋭い縁辺を使用している。

礫石器

⑫ 石斧(第47図153~158 写真図版40-153~158) 153は小型磨製石斧である。よく研磨され、刃部は丁寧に作りだしている。使用による線状痕、剥落痕はない。片刃として作り出されている。154は弱凸強凸片刃であり、刃部に線状痕が縦位に入る。横斧であろう。158は未製品である。刃部作り出しのための剥離が入っている。155~157は欠損品である。

⑬ 環状石斧(第47図159 写真図版40-159) 自然扁平円礫の中心に両側から穿孔された貫孔を有する。穿孔の終末は回転によると思われる、回転線痕が貫孔に観察できる。周辺の剥離は5分の2ほどで、使用によると思われる。

⑭ 磨石(第48図160~168 写真図版40-160~168) ほぼ全面を磨く、167は敲打部分に有する。

⑮ 凹石(第49~51図169~191 写真図版41-43-169~191)

凹の面から分類すると、1面だけ(170~172)、2面(169・173~182)、3面(183)である。凹の位置は面の中央にあるものが多い。173は凹が深く、凹石としているが、石の稜線部にあり敲打に近い。凹はほぼ円錐状が多く、縦位にあるいは横位に長くなるようなものはない。183のように縦位に長くなっても連結して槌状になるようなことはない。177の端部は敲打石となる。184~191は浅い凹をもつ。位置は他の凹石と同じ面の中央部分である。

⑯ 敲打石(第51・52図192~209 写真図版43-192~209) 敲打部分から観察すると、細長

いものの端部 (192~195)、前者より大きいもの (196・197)、扁平円礫の周辺 (198~200)、長く平らな礫の周辺 (201)、礫の割れた角 (202~204)、亜円礫の一端 (206~209) となる。201と202~204は稜線部分を使用する点は同じであり、後に述べる(18)敲打擦石に近い要素をもっている。192は使用に伴う線状痕がある。192は両面に浅い凹をもつ。

⑰ 礫器 (第52・53図205・211・212 写真図版43-205・211・212) 自然石の一端に加工を施すことで刃部を作り出している。

⑱ 敲打擦石 (特殊磨石) (第53~63図212~300 写真図版43-47-212~300)

この石器は本遺跡出土礫石器の3分の1弱を占める。基本的な形状は三角柱状である。機能が集中するのは長軸稜線部分である。その機能は稜線部分に擦痕と付随して一部の擦痕側縁部分に敲打による剝落痕(使用痕)を残す。呼称するにあたって敲打部分にも意を配し敲打擦石とした。主要機能である擦痕の面数により3区分した。

⑱-A 擦痕が一面のもの (第53~60図212~276 写真図版43-46-212~276) 点数は掲載した89点中65点を占める。

⑱-A-① 欠損なし。複合機能は少ない(214・220を除く212~228・285)。215・221は接合した。分離部分は二次加工されていない。213・214・217は敲打部分があるが明確でない。

⑱-A-② 欠損あるが少ない。複合機能あり (214・229~246・276)。243は接合した。分離部分は擦痕部分で剝落痕をもつ。凹部分をもつ。246以外は敲石部分をもつ。229は敲打に伴う線状痕をもつ。244は擦痕左側面一面に、線状痕が斜走する。246は多数の凹部分と擦痕部分に線状の擦痕が縦走するのが観察できる。

⑱-A-③ 欠損あり。複合機能なし (220・247~270)。256は1稜線に擦痕が2つある。

⑱-A-④ 欠損あり。複合機能あり (272~275)。272~274は敲石。275は凹石の機能をもつ。

⑱-B 擦面が2面のもの (第59~62図271・277~296・300 写真図版46・47)。

⑱-B-① 欠損なし。複合機能少ない (277~286・288)。278・281・283は擦痕が隣り合う。

⑱-B-② 欠損なし。複合機能あり (271・287)。271は敲石部分と片面に交錯する線状痕がある。287は凹部分を持つ。

⑱-B-③ 欠損あり。複合機能なし (289~294)。292は擦痕が隣り合う。

⑱-B-④ 欠損あり。複合機能あり (295・296・300)。295は敲石、296・300は凹石部分をもつ。300は接合した。分離部分は擦痕部分で、剝落痕をもつ。

⑱-C 擦痕が3面のもの (第63図297~299 写真図版47-297~299)。

⑱-C-① 欠損なし。複合機能あり (297)。3面の擦痕が隣り合う。敲石部分もある。

⑱-C-② 欠損あり。複合機能なし (298・299)。299は擦痕が上部まで続く。

⑭ その他の礫石器 (第64図301~306 写真図版47・48—301~306)

301は両縁部分に擦痕をもつ。扁平円礫でこの特徴をもつものは他にない。半円状扁平打製石器に近い。302~305は扁平礫で縁辺に敲打部分をもつ。302は凹凸部分をもつ。306は礫破片で敲石部分をもつ。

⑮ 石錘状石器 (第64図307・308 写真図版48—307・308) 自然礫の長軸両端を打ち欠いている。308は両面に線状痕が斜走する。

⑯ 台石状石器 (第65・66図309~313 写真図版48—309~313) 309はIV層、310~313はV層で出土している。310は割れて出土した。火熱を受けた痕跡がある。312は中央部分が若干くぼみ、ざらざらしている。他ははっきりした痕跡はない。いずれも他地点より搬入されたものと思われる。

接合資料 (第67図 写真図版49)

この接合資料は調査対象地区の中央付近 (A1g 9区) のIV層下で14片が散在して出土した。剥片石核は中央北端でIV層下より出土した。石質は凝灰岩質チャート、産地は北上山地・古生界である。付近には遺構はなかった。⑨剥片が石核と接合した。その形状は図示のとおりである。母岩の形状は、正面図に見られるように下半に自然面があること、正面模式図の⑧a部分が自然面であること、右側面の⑨の位置に自然面があること、等から正面・側面観はほぼ図の通りで、上面観は楕円に近いものと思われる。自然面をそのまま打撃しており、打点が残存しているところは図の矢印のとおりである。間にある白抜きの点は抜けている剥片のための打点である。③・②・①はヒンジが入っており、⑤の左端の白抜きの点で打撃を終えたと思われる。打点の転移は石核の形状からやっていないと思われる。剥片は⑤aに剝離があるだけである。

V ま と め

1 遺跡の載る地形について

本遺跡は十和田火山起源の火山砕屑物によって土層形成された面に載る。付近を流れる小井田川や沢による営為力はこの遺跡の各時期の生活面には影響を与えていない。遺構の埋没あるいは破壊・遺物の移動は人間の力と土層形成のメカニズムから考えられる。土層形成のメカニズムは遺物出土状況に深い関係があるので次に述べる。

本遺跡は、背後に329mの山塊を背負う斜面部にある。このことは土壤匍行 (soil creep) が促進されること、つまり物質移動 (mass movement) しやすい状態にあるといえる。遺物が集中するIV層は、南部浮石の未固結の性状と相まって、このメカニズムにより形成されたものと思われる。遺物の出土状態・接合状態をみると遺物の南端、つまり斜面下位に少ない。これらを考えると遺物の供給源たる遺跡の主体は斜面上位にあると想定される。

また黒褐色土であるIII層は、斜面の安定期に形成されたと思われる、この時期には現地地形に近い状態になったと考えられる。

2 遺構内出土遺物と遺構の時期について

53・56・58ピット、103・106陥し穴状遺構から縄文時代早期の土器片が出土している。53・56ピットはIV層自体が地山であるので出土する可能性は十分にある。58ピットでは流れこみで、103・106陥し穴状遺構ではIV層 (地山) の崩落土に、遺物が含まれている。これらのことから遺構の時期は検出面の時期と同じと思われる。

3 出土遺物について

本遺跡の遺構外出土の遺物の殆んどは投棄・廃棄されたものでなく、物質移動という自然営為力の結果埋没したものと思われる、そのため層位による遺物の新旧関係は確認し難い。

(1) 縄文時代早期土器

出土した早期土器を文様構成からみると、1類押型文、2類白浜式併行、5類吹切沢式併行、6類住吉町式併行、7類物見台式併行、である。押型文土器ではNo50の縦刻み山形文の横回転施文は県内最初の発見である。県外では宮城県下川原A遺跡で1点報告している。白浜式併行には焼成前に穿たれた円孔を持つ土器がある (89・90・91・92・140・141・174)。県内では田老町小堀内I遺跡で報告されている。住吉町式併行とした貝殻背圧文土器の中に腹縁部を上にした背圧直文を施文するものがある (247・248)。太浅沈線文と独立させた土器 (259~261) はいわき市竹之内遺跡のものに近似する。本遺跡出土のものはNo63との関連で押型文と併行す

るものと思われる。

(2) その他の土器

縄文時代前期・後期・晩期の土器と土師器が出土した。

(3) 石器

敲打擦石（特殊石器）の多量出土が特徴的である。敲打による剝落痕としたが、今後擦痕部の観察と共に研究する必要がある。石錐ではNo30・34のような作り出しが見られた。またNo35のようにジグザグな刃部と突錐部の作り出しが見られた。折断調整石器のNo108は接合資料であり、この石器を論ずる上で重要である。剥片9点と剥片石核が接合した資料は石器製作方法を知る上で良い資料となった。

引用・参考文献

- 佐原 真 1977：石斧論—横斧から縦斧へ—『考古論集 慶祝松崎寿和先生六十三歳論文集』別冊
- 阿子島 香 1979：折断調整石器、聖山(考古学資料別冊2、北海道亀田郡七飯町峠下縄文時代遺跡出土資料) 東北大学文学部考古学研究会 149～153
- 岡村 道雄 1976：ピエス・エスキーについて—岩手県大船渡市暮石遺跡出土資料を中心として—、東北考古学の諸問題 東北考古学会、76～96
- 高橋 文夫 1982：縄文時代の形器、紀要II、岩手県埋文センター、55～73
- 八木 光則 1976：『いわゆる「特殊磨石」について』 信濃28—4
- 八木 他 1983：大館遺跡群 大新町遺跡—昭和57年度発掘調査概報— 盛岡市教委
- 桑月 輝 1981：東北地方の押型文土器群、長野県考古学会誌41、11～34
- 白石地域文化研究会 1982：宮城県白石市下川原子A遺跡第1次調査報告 赤い本 創刊号
- 杉山 武 1980：白浜式、小舟渡式土器にかかわる館平遺跡出土の早期貝殻文土器について 奥南—創刊号、奥南考古学会
- 大原 一則 1981：岩手県埋文センター文化財調査報告書第52集 小堀内I遺跡発掘調査報告書、岩手県埋文
- 榎谷常正他 1982：岩手の土器—県内出土資料の集成—岩手県立博物館
- 古田 他 1982：いわき市埋蔵文化財調査報告書 第8冊 竹之内遺跡—縄文時代早期の調査— いわき市教委

石器計測表 1

遺構内出土石器

No	器 種	出土遺構地区	図版番号	写真原簿番号	計 測 値			石 質	産 地
					最大長(mm)	最大幅(mm)	重量(g)		
16	尖頭石器	55pit	12図-16	16	4.81	1.11	0.93	7.20	北上山地、古生界
17	割落痕ある石器	55pit	" 17	17	4.91	2.48	1.90	10.61	奥羽山地、中新統
18	ヒューストリス (彫形石器)	55pit	" 18	18	4.37	2.33	0.90	9.06	奥羽山地、中新統
19	"	55pit	" 19	19	4.10	2.20	0.90	8.13	北上山地、古生界
20	彫器	55pit	" 20	20	7.50	3.15	1.00	30.65	奥羽山地、中新統
32	敲打擦石	53pit	14図-32	32	7.06	7.16	7.71	6.58	奥羽山地、中新統
36	折衝調整石器	56pit	" 36	36	3.70	1.60	0.85	5.31	北上山地、古生界
37	割落痕ある石器	56pit	" 37	37	3.15	2.55	0.63	3.05	北上山地、古生界
38	不定形石器	56pit	" 38	38	3.40	2.15	1.00	5.61	奥羽山地、中新統
39	彫器	56pit	" 39	39	0.55	3.85	0.72	3.86	奥羽山地、中新統
40	削片	56pit	" 40	40	4.58	6.22	1.15	25.22	北上山地、古生界
41	石片	56pit	" 41	41	5.82	3.50	1.00	39.1	北上山地、古生界
43	不定形石器	57pit	15図-43	43	3.10	1.88	0.82	3.05	北上山地、古生界
44	折衝調整石器	57pit	" 44	44	6.70	6.60	1.00	48.8	北上山地、古生界
50	不定形石器	58pit	" 50	50	6.00	2.40	1.10	15.4	奥羽山地、中新統
51	折衝調整石器	58pit	" 51	51	2.25	3.42	0.80	5.70	奥羽山地、中新統
52	不定形石器	58pit	" 52	52	6.95	6.15	2.55	70.0	奥羽山地、中新統
54	割落痕ある石器	101p-址	16図-54	54	2.67	4.15	0.75	6.34	奥羽山地、中新統
68	折衝調整石器	103pit	17図-68	68	3.45	4.30	1.00	15.25	奥羽山地、中新統
69	折衝調整石器	103pit	" 69	69	2.90	2.70	0.94	6.85	奥羽山地、中新統
70	割落痕ある石器	103pit	" 70	70	3.88	2.58	0.85	4.58	奥羽山地、中新統
71	折衝調整石器	103pit	" 71	71	2.60	3.75	0.92	6.43	奥羽山地、中新統
72	削片	103pit	" 72	72	4.80	6.20	0.70	17.52	北上山地、古生界
73	削石	103pit	" 73	73	11.90	7.32	3.85	5.23	北上山地、古生界
95	折衝調整石器	106pit	19図-95	95	2.45	2.55	1.02	6.05	北上山地、古生界
96	折衝調整石器	106pit	" 96	96	2.73	2.49	0.70	4.40	北上山地、古生界
97	削片	106pit	19図-97	97	3.02	3.25	1.30	6.88	奥羽山地、中新統

石器計測表 2

No	器 種	出土遺構地区	図版番号	写真図版番号	計 測 値			石 質	産 地
					最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)		
98	割落痕ある石器	106pit	19図-98	19図-98	2.10	2.30	0.60	2.84	奥羽山地、中新統 北上山地、古生界 北上山地、古生界 奥羽山地、中新統
99	剥片	106pit	〃 99	〃 99	2.10	2.82	0.48	2.34	
100	石片	106pit	〃 100	〃 100	10.45	4.50	2.22	152.00	
101	擦器	107pit	〃 101	〃 101	3.15	3.85	1.30	20.6	

遺構外出土石器

No	器 種	出土遺構地区	図版番号	写真図版番号	計 測 値			石 質	産 地
					最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)		
1	石鏃	A1e9 V層	33図-1	35図-1	2.50	2.70	0.50	2.03	北上山地、古生界 北上山地、古生界 奥羽山地、中新統 北上山地、古生界 奥羽山地、中新統 北上山地、古生界 奥羽山地、中新統 奥羽山地、中新統 奥羽山地、中新統 奥羽山地、中新統 奥羽山地、中新統 奥羽山地、中新統 奥羽山地、中新統 奥羽山地、中新統 奥羽山地、中新統 奥羽山地、中新統 奥羽山地、中新統
2	〃	A1e9 V層	〃 2	〃 2	2.60	1.65	0.50	1.54	
3	〃	A1b8 IV層	〃 3	〃 3	2.20	1.50	0.30	0.75	
4	〃	A1lg3 IV層	〃 4	〃 4	2.40	1.40	0.35	0.86	
5	〃	A1b0 IV層	〃 5	〃 5	2.60	1.40	0.47	1.04	
6	〃	A1H4 IV層	〃 6	〃 6	2.81	1.41	0.41	1.06	
7	〃	A1b7 IV層	〃 7	〃 7	1.80	1.40	0.60	0.86	
8	〃	A1H1 IV~V層	〃 8	〃 8	2.20	1.30	0.70	1.91	
9	〃	A1T7 V層	〃 9	〃 9	2.70	2.35	1.05	4.25	
10	〃	A1b7 IV層	〃 10	〃 10	2.0	1.50	0.45	1.32	
11	〃	A1H2 IV層上	〃 11	〃 11	2.90	1.50	0.50	1.84	
12	〃	A1H1 IV層2	〃 12	〃 12	3.73	1.57	0.45	2.21	
13	〃	A1I2 IV層	〃 13	〃 13	2.40	1.75	0.40	1.56	
14	〃	A1b7 IV層	〃 14	〃 14	2.40	1.50	0.50	1.86	
15	〃		〃 15	〃 15	1.93	1.13	0.90	0.65	
16	〃	A1I2 III層上	〃 16	〃 16	2.67	0.97	0.44	0.78	
17	〃	A1B3 IV層3	〃 17	〃 17	2.70	1.75	0.60	2.92	
18	〃	A1IK0 層下	〃 18	〃 18	3.30	2.20	0.76	3.15	

石器計測表 3

No	器 種	出土遺構地区	図版番号	写真図版番号	計 測 値			石 質	産 地
					最大径(cm)	最大幅(cm)	重量(g)		
19	石鏃		19	19	3.10	2.30	0.70	輝綠岩	北上山地、古生界
20	尖頭石鏃	A118 IV層	20	20	3.60	1.40	0.75	粘板岩	北上山地、古生界
21	"	A118 IV層15	21	21	3.50	1.45	0.70	輝綠岩	北上山地、古生界
22	"	B11a2 IV層13	22	22	2.60	1.40	0.60	粘板岩	北上山地、古生界
23	"	A11b3 V層20	23	23	2.80	1.10	0.60	輝綠岩	北上山地、古生界
24	"	A11b0 IV層	24	24	2.90	1.50	0.50	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地、中新統
25	"	A110 附下	25	25	2.30	1.20	0.40	粘板岩	北上山地、古生界
26	石鏃	A116 V層	26	26	3.00	1.69	0.82	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地、中新統
27	"	A118 IV層	39図-27	35図-27	5.80	3.90	1.80	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地、中新統
28	"	A118 IV層	28	28	4.25	3.18	1.15	珪質粘板岩	北上山地、古生界
29	"	B11a0 V層31	29	29	4.20	2.70	1.00	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地、中新統
30	"	A11a1 V層21	30	30	3.30	2.30	1.10	粘板岩	北上山地、古生界
31	"	A11b4 IV層14	31	30図-31	5.65	2.80	1.10	粘板岩	北上山地、古生界
32	"	A117 IV層	32	32	4.30	3.38	0.80	粘板岩	北上山地、古生界
33	"	A119 II層	33	33	4.50	1.40	0.93	凝灰質泥岩	奥羽山地、中新統
34	"	A116 V層	34	34	4.00	4.50	1.40	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地、中新統
35	"	A110 V層	35	35	5.40	2.30	0.90	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
36	"	A1180 層	36	36	4.20	2.60	1.65	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地、中新統
37	石鏃	A114 III層上	37	37	5.17	1.68	0.82	珪質粘板岩	北上山地、古生界
38	"	A111 II層	38	38	5.99	2.07	1.10	珪質粘板岩	北上山地、古生界
39	"	A111 III層上	39	39	5.35	2.95	0.91	珪質泥岩	奥羽山地、中新統
40	"	A116 III層上	40	40	6.7	2.31	0.96	珪質泥岩	奥羽山地、中新統
41	"	A114 III層上	41	41	5.92	3.61	0.70	珪質泥岩	奥羽山地、中新統
42	"	A119 II層	42	42	7.45	3.48	0.80	珪質泥岩	奥羽山地、中新統
43	"	A112 III層上	43	43	3.31	1.91	0.52	珪質粘板岩	北上山地、古生界
44	"	A112 III層上	44	44	3.30	2.60	0.60	珪質粘板岩	北上山地、古生界
45	"	A116 IV層	45	45	3.61	2.89	0.72	珪質泥岩	奥羽山地、中新統
46	鏃状石鏃	A112 IV層9	46	46	6.80	3.70	1.10	硬質極細粒凝灰岩	奥羽山地、中新統
47	"	A113 III層	47	47	4.50	2.85	1.00	珪質泥岩	奥羽山地、中新統
48	"	A113 III層	48	48	4.30	3.20	1.45	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地、中新統

石器計測表 4

No	器 種	出土遺構地区	図說番号	計 測 値		石 質	産 地
				最大幅(cm)	最大厚(cm)		
49	鏃器	A114 IV層14	49	5.00	3.00	21.70	粘板岩
50	不定形石器	A11g2 IV層8	50	3.70	1.90	5.59	硬質泥岩
51	〃	〃	51	4.70	2.80	8.45	流紋岩質細粒凝灰岩
52	〃	A11g0 IV層上	52	4.10	4.30	36.12	チャート質粘板岩
53	不定形石器	A11g2 V層28	41図-53	4.90	2.85	12.65	硬質泥岩
54	〃	A1118 田層上	54	3.50	3.15	9.45	硬質泥岩
55	〃	A1110 IV層	55	5.80	2.30	13.43	珪質泥片
56	〃	A1113 II層	56	2.22	1.20	1.17	硬質泥岩
57	〃	A1114 II層	57	3.30	2.75	5.73	砂質粘板岩
58	〃	A11g7 IV層	58	6.20	4.10	28.53	砂質粘板岩
59	〃	B1a8 V層	59	3.20	2.50	3.00	硬質凝灰質泥岩
60	〃	A11g0 IV層	60	4.35	2.98	8.76	チャート
61	〃	A1118 IV層	61	3.85	3.25	7.24	粘板岩
62	〃	A117 V層	62	4.22	2.70	0.98	流紋岩質細粒凝灰岩
63	〃	A1112 V層 [●]	63	4.50	4.10	10.3	珪質凝結凝灰岩
64	〃	A1114 V層	64	4.80	3.30	16.56	珪質凝灰質泥岩
65	〃	A115 V層上	65	5.0	2.50	1.10	珪質泥片
66	〃	A1112 V層24	66	4.70	2.60	10.26	珪質凝結凝灰岩
67	〃	A1117 IV層	67	5.30	3.62	18.0	珪質凝結凝灰岩
68	〃	A1113 IV層10~15	68	4.60	6.50	24.94	粘板岩
69	〃	A117 III層	69	3.70	3.10	8.04	粘板岩
70	〃	A1115 II層	70	3.95	3.20	1.00	硬質凝灰質泥岩
71	〃	B11 II層	71	5.70	3.70	12.3	流紋岩質細粒凝灰岩
72	〃	A1111 V層27	72	7.50	5.30	1.45	珪質泥岩
73	〃	B1a1 IV層14	73	6.15	3.70	33.50	粘板岩
74	〃	A11g2 V層26	74	5.80	5.75	78.00	粘板岩
75	〃	A1116 V層	75	4.85	2.35	11.83	珪質凝結凝灰岩
76	〃	A1118 II層	76	6.80	3.80	31.28	粘板岩
77	〃	A11g0 II層	77	10.8	6.20	120.00	砂質粘板岩
78	〃	A1112 IV層10~15	78	6.90	3.55	21.79	硬質凝灰質泥岩

石器計測表 5

No	器 種	出 土 遺 構 地 区	図版番号	写真原簿番号	計 測 値		石 質	産 地	
					最大長(mm)	最大厚(mm)			
79	不定形石器	A117 V南	42図-79	37図-79	6.00	4.00	粘板岩	北上山地、古生界	
80	"	AH3 IV南3	" 80	" 80	4.52	2.25	輝綠凝灰岩	北上山地、古生界	
81	"	A115 IV南16	" 81	" 81	3.56	2.85	粘板岩	北上山地、古生界	
82	"	A119 IV南	" 82	38図-82	3.60	2.90	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地、中新統	
83	"	AHb1 V南19	43図-83	" 83	4.15	2.70	輝綠凝灰岩	北上山地、古生界	
84	"	AH10 V南	" 84	" 84	2.15	2.70	硬質泥岩	奥羽山地、中新統	
85	"	AH10 V南	" 85	" 85	3.10	2.25	粘板岩	北上山地、古生界	
86	"	BH1a1 II南	" 86	" 86	7.10	4.90	チヤート	北上山地、古生界	
87	折衝調整石器	AH1g1 II南	" 87	" 87	3.90	4.55	砂質粘板岩	北上山地、古生界	
88	"	BH区0 南	" 88	" 88	2.30	2.40	硬質凝灰質泥岩	北上山地、中新統	
89	"	AH1g2 IV南	" 89	" 89	2.30	2.20	流成岩質凝灰凝灰岩	奥羽山地、中新統	
90	"	AH1g2 IV南	" 90	" 90	7.20	2.15	珪質砂岩	奥羽山地、中新統	
91	"	AH1e1 II南	" 91	" 91	4.45	4.10	砂質粘板岩	北上山地、古生界	
92	"	A1o7 II南	" 92	" 92	3.00	3.45	流成岩質凝灰凝灰岩	奥羽山地、中新統	
93	"	A117 II南	" 93	" 93	3.02	3.80	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地、中新統	
94	"	B1a9 南	" 94	" 94	3.90	1.85	硬質泥岩	奥羽山地、中新統	
95	"	AH14 III南上	" 95	" 95	3.35	1.65	珪質凝灰岩	奥羽山地、中新統	
96	"	AH1b2 V南28	" 96	" 96	2.10	3.80	珪質凝灰岩	奥羽山地、中新統	
97	"	AH12 V南19	" 97	" 97	1.60	4.80	砂質粘板岩	北上山地、古生界	
98	"	AH1g2 IV南18	" 98	" 98	4.60	2.60	輝綠凝灰岩	北上山地、古生界	
99	"	AH12 IV南8	" 99	" 99	3.55	1.90	輝綠凝灰岩	北上山地、古生界	
100	"	AH1b1 V南19	" 100	" 100	2.90	4.80	珪質凝灰岩	奥羽山地、中新統	
101	"	AH1b1 V南	" 101	" 101	6.90	4.75	硬質泥岩	奥羽山地、中新統	
102	"	A1b7 IV南	" 102	" 102	3.02	4.20	1.02	硬質粘板岩	北上山地、古生界
103	"	AH1b3 V南31	44図-103	" 103	2.55	2.40	珪質凝灰岩	奥羽山地、中新統	
104	"	AH13 IV南28	" 104	" 104	6.60	4.30	珪質砂岩	奥羽山地、中新統	
105	"	A119 IV南	" 105	" 105	3.40	3.00	1.30	輝綠凝灰岩	北上山地、古生界
106	"	AH1g2 III南	" 106	" 106	3.80	3.00	硬質泥岩	奥羽山地、中新統	
107	"	AH1g2 III南上	" 107	" 107	1.80	2.85	硬質泥岩	奥羽山地、中新統	
108	"	A113 IV南6	" 108	" 108	6.65	4.10	1.33	硬質泥岩	奥羽山地、中新統

石器計測表 6

No	器 種	出土遺構地区	図版番号	写真図版番号	計 測 値			石 質	産 地
					最大長(㎝)	最大幅(㎝)	最大厚(㎝)		
109	ピエス、エスカー、エ (柳野石塚)	A111 V層25	109	109	2.30	2.65	0.50	3.76	美羽山地、中新統
110		A111 II層	110	110	3.10	2.40	0.65	5.85	美羽山地、中新統
111		A111 III層上	111	111	3.50	2.30	0.85	5.73	北上山地、古生界
112		A115 0 層	112	112	2.58	2.22	0.50	3.25	北上山地、古生界
113		A115 V層38	113	113	2.44	2.04	0.50	2.30	美羽山地、中新統
114			114	114	2.00	2.70	0.50	2.40	北上山地、古生界
115		A115 V層19	115	115	2.35	1.50	1.50	13.55	美羽山地、中新統
116		A1160 III層上	116	116	2.00	3.55	0.60	4.42	美羽山地、中新統
117		A111 IV層17	117	39図-117	5.45	3.20	1.00	17.05	美羽山地、中新統
118		A1e8 IV層	118	118	2.38	3.50	0.75	4.84	美羽山地、中新統
119		A1164 III層	119	119	3.03	3.50	1.00	9.83	北上山地、古生界
120		A1153 IV層13	120	120	3.80	3.25	0.75	13.16	北上山地、古生界
121		A112 II層上	121	121	2.40	2.40	0.55	3.76	美羽山地、中新統
122		A1153 IV層18	122	122	2.40	3.30	1.10	8.54	美羽山地、中新統
123		A1189 IV層	45図-123	123	2.25	2.58	0.80	4.85	美羽山地、中新統
124		A1186 II層	124	124	2.90	3.40	1.45	15.60	北上山地、古生界
125		A1186 IV層	125	125	2.15	3.25	0.90	6.65	北上山地、古生界
126	A1182 IV層	126	126	4.15	5.00	1.50	35.75	美羽山地、中新統	
127	A1114 IV層16	127	127	3.70	3.40	0.85	8.45	北上山地、古生界	
128	A1187 IV層	128	128	5.05	3.00	1.20	13.55	美羽山地、中新統	
129	A1185 V層39	129	129	4.40	2.00	1.00	9.89	美羽山地、中新統	
130	A1187 V層	130	130	2.95	3.15	1.00	7.83	美羽山地、中新統	
131	A1119 IV層	131	131	2.70	2.25	0.49	1.64	美羽山地、中新統	
132	A1188 II層	132	132	4.30	2.48	1.25	11.83	美羽山地、中新統	
133	A1119 III層	133	133	4.25	3.40	1.10	14.85	北上山地、古生界	
134	A1119 V層	134	134	3.55	2.80	0.85	7.74	北上山地、古生界	
135	A1120 層	135	135	4.40	4.85	1.50	20.60	美羽山地、中新統	
136	A1113 IV層10~15	136	136	2.47	3.40	0.60	5.40	美羽山地、中新統	
137	A1111 V層	137	137	3.55	1.75	0.45	1.98	美羽山地、中新統	
138	A1118 II層	138	138	3.60	1.70	0.30	1.49	美羽山地、中新統	

石器計測表 7

No	器 種	出土遺構地区	図版番号	写真図版番号	計 測			重量(g)	石 質	産 地
					最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)			
139	新石器多心石器	A119 V層	45図-139	39図-139	4.60	3.60	1.75	20.81	硬質緑色粗粒凝灰岩	奥羽山地、中新統
140	"	A113 III層	" 140	" 140	5.83	3.75	1.20	21.91	粘板岩	北上山地、古生界
141	"	A11g3 IV層8	46図-141	" 141	8.45	6.80	1.85	106.00	粘板岩	北上山地、古生界
142	"	A118 II層	" 142	" 142	2.40	3.00	0.90	3.75	流紋岩質粗粒凝灰岩	奥羽山地、中新統
143	"	A11b0 IV層	" 143	" 143	3.90	2.23	0.90	6.64	流紋岩質粗粒凝灰岩	奥羽山地、中新統
144	"	A11b1 V層30	" 144	" 144	3.00	3.50	0.70	4.78	珪質綠泥岩凝灰岩	奥羽山地、中新統
145	"	A117 IV層	" 145	" 145	3.78	1.79	0.45	3.15	粘板岩	北上山地、古生界
146	"	A11b4 IV層14	" 146	" 146	3.00	4.35	1.15	11.76	珪質粗粒凝灰岩	奥羽山地、中新統
147	"	A118 IV層	" 147	" 147	3.70	4.90	1.12	15.85	チャート	北上山地、古生界
148	"	A118 IV層	" 148	40図-148	3.15	3.70	0.93	8.55	輝綠凝灰岩	北上山地、古生界
149	"	A11b6 II層	" 149	" 149	3.55	4.65	1.30	14.73	珪質綠泥岩凝灰岩	奥羽山地、中新統
150	"	A111 IV層1	" 150	" 150	5.80	4.80	1.50	32.99	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
151	"	A117 II層	" 151	" 151	7.35	6.05	0.89	45.00	硬砂岩	北上山地、古生界
152	"	A111 V層29	" 152	" 152	5.20	5.80	2.32	69.00	砂質粘板岩	北上山地、古生界
153	石斧	A119 IV層	47図-153	" 153	5.42	3.10	0.70	18.54	珪質緑色粗粒凝灰岩	北上山地、古生界
154	"	A119 IV層	" 154	" 154	5.40	6.30	2.00	78.00	砂質粘板岩	北上山地、古生界
155	"	A119 II層	" 155	" 155	9.40	5.90	3.10	298.00	輝石安山岩	奥羽山地、中新統
156	"	A11区0層	" 156	" 156	6.72	4.35	2.20	85.00	硬砂岩	北上山地、古生界
157	"	A11b0 III層	" 157	" 157	4.75	2.85	1.88	38.47	凝灰質粘板岩	北上山地、古生界
158	"	A11g3 V層	" 158	" 158	8.32	5.00	1.45	100.00	砂質緑色凝灰岩	北上山地、古生界
159	環状石斧	A1112 III層	" 159	" 159	7.80	9.00	1.50	173.00	砂質粘板岩	北上山地、古生界
160	磨石	A111 V層19	48図-160	" 160	8.28	7.99	3.69	388.00	硬砂岩	北上山地、古生界
161	"	A11 V層21	" 161	" 161	9.75	7.50	3.00	342.00	硬砂岩	北上山地、古生界
162	"	B1a1 IV層上	" 162	" 162	10.70	9.20	3.90	552.00	輝石安山岩	奥羽山地、中新統
163	"	A11e0 III層下	" 163	41図-163	10.20	6.35	4.10	415.00	硬砂岩	北上山地、古生界
164	"	A119 III層	" 164	" 164	6.85	6.40	2.65	169.00	硬砂岩	北上山地、古生界
165	"	A117 III層	" 165	" 165	10.44	8.93	4.02	560.00	硬砂岩	北上山地、古生界
166	"	A117 III層	" 166	" 166	6.39	4.83	2.28	72.00	輝石安山岩	奥羽山地、中新統
167	"	A11b3 III層	" 167	" 167	10.75	8.40	5.60	635.00	輝石安山岩	奥羽山地、中新統
168	"	B1a3 II層	" 168	" 168	10.20	8.65	5.82	670.00	角閃安山岩	奥羽山地、中新統

石器計測表 8

No	器種	出土遺構地区	区版番号	写真図版番号	計測値			石質	産地
					最大長(mm)	最大幅(mm)	重量(g)		
169	凹石	A111 V層28	49区-169	4152-169	5.65	4.52	3.40	110.00	美羽山地、中新統
170	"	A114 IV層13	" 170	" 170	7.30	12.92	2.75	380.00	北上山地、古生界
171	"	A112 IV層上	" 171	" 171	9.50	8.90	3.50	362.00	美羽山地、中新統
172	"	A114 IV層上	" 172	" 172	11.60	10.28	5.40	960.00	北上山地、古生界
173	"	A110 II層	" 173	" 173	13.30	6.00	5.60	885.00	北上山地、古生界
174	"	A113 IV層15	" 174	" 174	10.45	4.90	2.85	189.00	美羽山地、中新統
175	"	A119 IV層	" 175	" 175	4.80	4.60	1.70	55.00	北上山地、古生界
176	"	A118 IV層	" 176	" 176	6.61	6.52	3.24	180.00	美羽山地、中新統
177	"	A119 IV層	" 177	42区-177	14.65	4.30	1.75	148.00	北上山地、古生界
178	"	A119 IV層	" 178	415区-178	10.60	9.48	3.30	449.00	美羽山地、中新統
179	"	A114 IV層	50区-179	42区-179	9.10	4.90	2.98	162.00	美羽山地、中新統
180	"	A117 III層	" 180	" 180	8.45	6.26	3.08	163.00	美羽山地、中新統
181	"	A117 III層	" 181	" 181	9.02	6.10	3.50	195.00	美羽山地、中新統
182	"	A110 II層	" 182	" 182	7.97	6.96	4.45	423.00	美羽山地、中新統
183	"	A118 IV層	" 183	" 183	10.41	7.73	4.03	390.00	美羽山地、中新統
184	"	A112 V層35	" 184	" 184	8.12	5.03	3.00	175.00	美羽山地、中新統
185	"	A112 V層33	" 185	" 185	9.95	8.95	4.50	680.00	美羽山地、中新統
186	"	A114 V層28	" 186	" 186	13.35	8.25	4.22	515.00	美羽山地、中新統
187	"	B11a1 V層22	" 187	" 187	12.40	9.10	3.10	410.00	美羽山地、中新統
188	"	A119 IV層	51区-188	" 188	12.10	8.30	3.80	512.00	北上山地、古生界
189	"	A118 II層下	" 189	" 189	9.95	5.80	3.15	198.00	美羽山地、中新統
190	"	A111 II層	" 190	43区-190	8.38	7.55	5.15	472.00	美羽山地、中新統
191	"	A11区 層	" 191	" 191	12.80	7.10	5.20	740.00	北上山地、中新統
192	敲石	A11e0 IV層	" 192	" 192	10.15	4.85	2.30	210.00	北上山地、古生界
193	"	A112 V層27	" 193	" 193	10.80	4.85	2.55	220.00	北上山地、古生界
194	"	A111 IV層	" 194	" 194	9.10	3.80	2.40	154.00	北上山地、古生界
195	"	A117 III層	" 195	" 195	7.08	2.80	1.00	40.00	美羽山地、中新統
196	"	A119 IV層	" 196	" 196	15.45	6.21	4.30	495.00	北上山地、古生界
197	"	A110 II層	" 197	" 197	13.70	7.95	5.45	740.00	北上山地、中生界
198	"	A114 V層38	52区-198	" 198	10.45	7.70	2.70	313.00	北上山地、古生界

石器計測表 9

No	器 種	出土遺構地区	図版番号	写真図版番号	計 測			石 質	産 地
					最大径(cm)	最大幅(cm)	重量(g)		
199	礫石	A11g0 III層下	52図-199	43図-199	9.25	9.20	3.80	輝石安山岩	奥羽山地、中新統
200	"	A11b4 IV層上	" 200	" 200	12.25	10.00	4.15	凝灰角礫質硬砂岩	北上山地、古生界
201	"	A118 IV層	" 201	" 201	15.60	6.50	3.15	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
202	"	A111 V層55	" 202	" 202	11.30	4.25	2.45	硬砂岩	北上山地、古生界
203	"	A113 V層52	" 203	" 203	11.65	6.45	3.00	硬砂岩	北上山地、古生界
204	"	A119 IV層	" 204	" 204	10.90	4.00	4.15	硬砂岩	北上山地、古生界
205	"	A113 V層19	" 205	" 205	7.92	5.68	2.70	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
206	"	A117 II層	" 206	" 206	9.80	8.00	5.80	輝石安山岩	奥羽山地、中新統
207	"	A119 III層	" 207	" 207	9.95	4.85	3.20	輝石安山岩	奥羽山地、中新統
208	"	A112 IV層上	" 208	" 208	8.85	6.12	3.50	硬砂岩	北上山地、古生界
209	"	A11b4 IV層上	" 209	" 209	7.20	5.66	3.27	輝石安山岩	奥羽山地、中新統
210	礫器	A111 V層28	53図-210	" 210	9.20	7.90	3.60	硬砂岩	北上山地、古生界
211	"	A114 III層上	" 211	" 211	11.82	10.98	4.40	硬砂岩	北上山地、古生界
212	線打礫石	A111 V層14	" 212	" 212	12.22	8.10	5.40	輝石安山岩	北上山地、古生界
213	"	A113 V層28	" 213	44図-213	21.20	8.50	4.70	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
214	"	A112 V層27	" 214	" 214	15.30	6.95	5.80	硬砂岩	北上山地、古生界
215	"	A11b5 III層	" 215	" 215	14.42	8.30	6.10	硬砂岩	北上山地、古生界
216	"	A117 IV層	" 216	" 216	11.10	6.00	3.80	硬砂岩	北上山地、古生界
217	"	A118 IV層	" 217	" 217	16.01	4.64	7.19	硬砂岩	北上山地、古生界
218	"	A111 IV層	54図-218	" 218	19.30	7.00	8.30	硬砂岩	北上山地、古生界
219	"	A11b5 IV層5	" 219	" 219	14.02	7.25	4.00	硬砂岩	北上山地、古生界
220	"	A1110 IV層5	" 220	" 220	5.51	8.90	5.58	輝石安山岩	奥羽山地、中新統
221	"	A1111 V層7	" 221	" 221	10.80	6.30	5.60	アールコーラス質硬砂岩	北上山地、古生界
222	"	A117 III層	" 222	" 222	17.60	7.32	8.35	硬砂岩	北上山地、古生界
223	"	A1110 III層下	" 223	" 223	13.20	6.53	4.30	硬砂岩	北上山地、古生界
224	"	A1116 III層	" 224	" 224	13.05	7.39	4.40	花崗閃綠岩	北上山地、古生界
225	"	A11g9 II層	" 225	" 225	13.40	6.90	2.50	硬砂岩	北上山地、古生界
226	"	A11g9 II層	" 226	" 226	12.90	3.85	4.75	硬砂岩	北上山地、古生界
227	"	A11g9 II層	55図-227	" 227	16.70	7.30	8.70	硬砂岩	北上山地、古生界
228	"	A11h7 II層	" 228	" 228	11.40	3.90	8.10	硬砂岩	北上山地、古生界

石器計測表 10

No	器 種	出土遺構地区	図版番号	写真図版番号	計 測 値			石 質	産 地
					最大長(cm)	最大幅(cm)	重量(g)		
229	敲打燧石	A11g2 V層21	55図-229	44図-229	12.60	7.10	3.00	420.00	北上山地、古生界
230	"	A11b1 V層33	" 230	" 230	13.73	5.40	5.14	450.00	北上山地、古生界
231	"	A11b5 IV層18	" 231	" 231	12.80	7.80	5.00	1198.00	北上山地、古生界
232	"	A11f0 IV層	" 232	" 232	19.40	4.70	2.63	215.00	北上山地、古生界
233	"	A11f1 IV層	" 233	" 233	13.25	6.50	8.80	1044.00	北上山地、古生界
234	"	A11g3 IV層15	" 234	" 234	12.90	7.70	2.80	438.00	北上山地、古生界
235	"	A11b1 IV層17	56図-235	45図-235	13.29	4.72	5.82	612.00	北上山地、古生界
236	"	B11a2 IV層	" 236	" 236	13.02	6.05	7.85	728.00	奥羽山地、中新統
237	"	A11e1 III層下	" 237	" 237	15.99	7.70	3.70	590.00	北上山地、古生界
238	"	A11f0 III層下	" 238	" 238	12.35	6.20	7.50	541.00	北上山地、古生界
239	"	A11g0 III層下	" 239	" 239	12.99	4.82	7.13	642.00	奥羽山地、中新統
240	"	A11g1 III層下	" 240	" 240	13.10	9.40	4.89	920.00	北上山地、古生界
241	"	A11f4 IV層14	" 241	" 241	7.00	5.40	6.60	230.00	奥羽山地、中新統
242	"	A11g0 IV層	57図-242	" 242	13.10	7.45	3.75	478.00	北上山地、古生界
243	"	A11g1 IV層	" 243	" 243	15.00	7.22	6.50	875.00	奥羽山地、中新統
244	"	A113 V層38	" 244	" 244	14.20	4.60	5.75	501.00	北上山地、古生界
245	"	A11f4 V層	" 245	" 245	9.90	5.20	3.22	234.00	北上山地、古生界
246	"	A11b2 V層29	" 246	" 246	14.42	6.70	5.55	635.00	奥羽山地、中新統
247	"	A11g1 V層20	" 247	" 247	9.30	7.70	5.00	392.00	北上山地、古生界
248	"	A11g2 V層21	" 248	" 248	6.70	5.10	5.50	310.00	北上山地、古生界
249	"	A11f1 V層	" 249	" 249	4.82	5.60	2.55	70.00	奥羽山地、中新統
250	"	A11f5 V層上	" 250	" 250	8.15	6.25	5.30	430.00	北上山地、古生界
251	"	A11f3 IV層15	" 251	" 251	5.75	6.22	4.50	160.00	奥羽山地、中新統
252	"	A1e9 IV層	" 252	" 252	12.40	5.40	8.78	740.00	北上山地、古生界
253	"	A1g9 IV層	58図-253	" 253	12.40	4.20	3.90	240.00	北上山地、古生界
254	"	A116 IV層	" 254	" 254	10.98	6.35	6.72	780.00	奥羽山地、中新統
255	"	A117 IV層	" 255	" 255	4.00	4.95	3.65	92.00	奥羽山地、中新統
256	"	A11g2 IV層上	" 256	" 256	11.55	6.90	7.10	910.00	北上山地、古生界
257	"	A11g3 IV層13	" 257	" 257	10.80	4.00	2.35	115.00	北上山地、古生界
258	"	A11g3 IV層12	" 258	" 258	12.00	5.79	3.58	309.00	北上山地、古生界

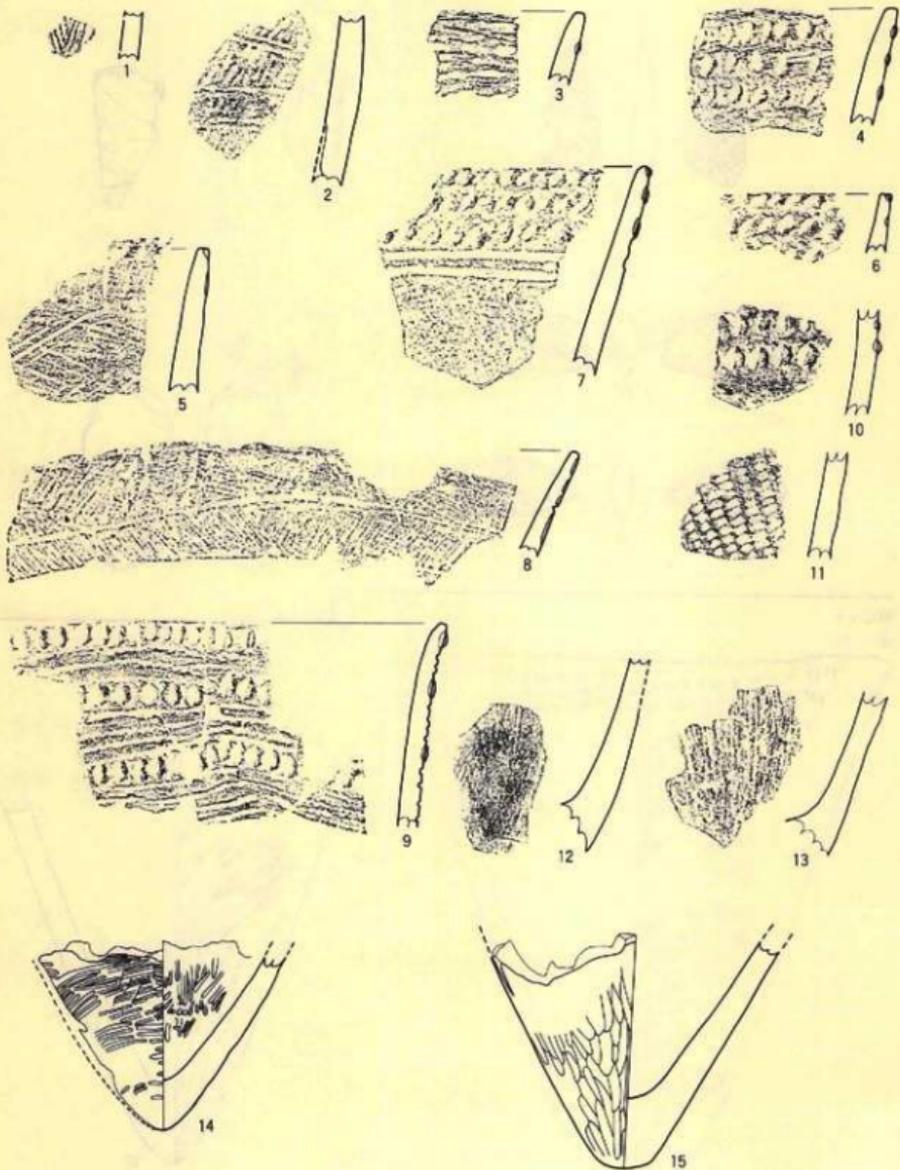
石器計測表 11

No	器 種	出土遺構地区	図取番号	穿孔図版番号	計 測 値		石 質	産 地	
					最大長(cm)	最大厚(cm)			
259	釧打礮石	A114 IV附7	58図-259	46図-259	9.35	4.00	145.00	北上山地、古生界	
260	〃	A115 IV附12	〃 260	〃 260	12.10	2.25	6.70	312.00	北上山地、古生界
261	〃	A111 V附21	〃 261	〃 261	7.90	9.95	5.42	550.00	北上山地、古生界
262	〃	B1a1 IV附上	〃 262	〃 262	12.30	8.65	7.00	1,000.00	北上山地、古生界 ト質粘板岩
263	〃	A117 田層	〃 263	〃 263	5.00	5.90	3.40	130.00	北上山地、古生界
264	〃	A117 田層	59図-264	〃 264	8.95	10.40	6.70	752.00	北上山地、古生界
265	〃	A116 田層	〃 265	〃 265	12.35	6.00	4.30	370.00	北上山地、古生界
266	〃	A1区 田層	〃 266	〃 266	10.30	6.30	4.05	305.00	奥羽山地、古生界
267	〃	A113 田層	〃 267	〃 267	4.35	6.95	6.00	230.00	北上山地、古生界
268	〃	A110 田層上	〃 268	〃 268	8.30	4.75	5.02	393.00	北上山地、古生界
269	〃	A117 田層	〃 269	〃 269	12.40	7.25	5.42	515.00	北上山地、古生界
270	〃	A11区 田層	〃 270	〃 270	10.50	5.80	5.60	532.00	北上山地、古生界
271	〃	A118 田層	〃 271	〃 271	11.70	5.80	3.60	398.00	北上山地、古生界
272	〃	A1168 田層	〃 272	〃 272	14.70	7.35	6.62	790.00	北上山地、古生界
273	〃	A1169 田層下	〃 273	〃 273	7.95	4.75	6.20	185.00	北上山地、古生界
274	〃	B11a3 田層	〃 274	〃 274	11.70	5.30	7.85	604.00	北上山地、古生界
275	〃	A116 田層2	〃 275	〃 275	7.95	6.12	3.95	200.00	奥羽山地、中新統
276	〃	B1 田層	60図-276	〃 276	13.00	9.95	7.35	1125.00	北上山地、古生界
277	〃	A117 田層	〃 277	〃 277	15.27	8.58	4.62	849.00	北上山地、古生界
278	〃	A118 田層	〃 278	〃 278	13.52	5.80	5.75	630.00	奥羽山地、中新統
279	〃	A11a1 田層	〃 279	〃 279	13.65	7.20	7.00	843.00	北上山地、古生界
280	〃	A110 田層5	〃 280	47図-280	10.45	7.60	3.50	290.00	奥羽山地、中新統
281	〃	A11e9 田層	〃 281	〃 281	15.20	7.10	6.30	905.00	北上山地、古生界
282	〃	A119 田層	〃 282	〃 282	13.70	7.40	4.90	580.00	北上山地、古生界
283	〃	A119 田層	61図-283	〃 283	12.88	8.50	5.50	798.00	奥羽山地、中新統
284	〃	A117 田層	〃 284	〃 284	10.45	8.30	3.95	472.00	北上山地、古生界
285	〃	A11a2 V附40	〃 285	〃 285	11.85	5.61	2.13	280.00	北上山地、古生界
286	〃	A117 田層	〃 286	〃 286	13.80	7.50	4.07	580.00	北上山地、古生界
287	〃	A117 田層	〃 287	〃 287	11.44	7.02	5.46	592.00	北上山地、古生界
288	〃	A114 IV附上8	〃 288	〃 288	14.10	5.10	6.62	634.00	北上山地、古生界

石器計測表 12

No	器 種	出土遺構地区	区版番号	写真図版番号	計 測		石 質	産 地	
					最大長(mm)	最大厚(mm)			
289	敲打礫石	A11a3 IV層5	61区-289	47図-289	8.59	9.10	500.00	奥羽山地、中新統	
290	〃	A117 Ⅲ層	62区-290	〃 290	11.42	7.85	552.00	榑石安山岩	
291	〃	A1187 Ⅲ層	〃 291	〃 291	10.80	4.35	310.00	北上山地、古生界	
292	〃	A1189 Ⅲ層	〃 292	〃 292	11.30	7.35	670.00	硬砂岩	
293	〃	A1183 Ⅲ層	〃 293	〃 293	9.23	6.62	517.00	榑石安山岩	
294	〃	B11a3 Ⅱ層	〃 294	〃 294	11.50	5.72	6.65	硬砂岩	
295	〃	A1184 Ⅲ層	〃 295	〃 295	12.20	7.50	750.00	榑石安山岩	
296	〃	A117 Ⅳ層	〃 296	〃 296	11.30	7.08	5.05	榑石安山岩	
297	〃	A113 Ⅳ層上	63区-297	〃 297	17.00	6.70	6.35	了ルコース質硬砂岩	
298	〃	A1165 Ⅲ層下	〃 298	〃 298	7.03	6.70	8.56	榑石安山岩	
299	〃	A1188 Ⅲ層下	〃 299	〃 299	14.20	6.60	5.70	榑石安山岩	
300	〃	A1187 Ⅲ層上	〃 300	〃 300	11.18	6.13	6.71	榑石安山岩	
301	その他の礫石類	A1116 Ⅲ層	64区-301	〃 301	11.75	8.50	2.80	硬砂岩	
302	〃	A1184 Ⅳ層9	〃 302	48図-302	10.70	7.55	2.25	チャート質粘板岩	
303	〃	B1 深層	〃 303	〃 303	15.00	6.50	3.15	硬砂岩	
304	〃	A117 Ⅳ層	〃 304	〃 304	9.60	5.85	2.20	チャート質粘板岩	
305	〃	A1183 Ⅳ層12	〃 305	〃 305	6.12	12.02	12.50	凝灰質硬砂岩	
306	〃	A1189 Ⅳ層	〃 306	〃 306	11.80	8.60	1.15	145.00	北上山地、古生界
307	石鏝	A1183 Ⅳ層18	〃 307	〃 307	10.15	6.70	2.90	硬砂岩	
308	〃	A1111 Ⅳ層38	〃 308	〃 308	8.10	6.20	1.75	261.00	北上山地、古生界
309	台石状石器	A1119 Ⅳ層	65区-309	〃 309	29.55	43.20	11.05	18800.00	榑石安山岩
310	〃	A119 V層	〃 310	〃 310	50.00	34.20	9.90	21500.00	榑石安山岩
311	〃	A1184 V層上	66区-311	〃 311	23.00	23.00	4.85	3730.00	榑石安山岩
312	〃	A112 V層34	〃 312	〃 312	17.60	10.30	6.32	2350.00	奥羽山地、中新統
313	〃	A113 V層28	〃 313	〃 313	20.75	14.00	10.05	4800.00	北上山地、中生界

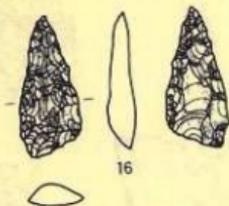
版 圖



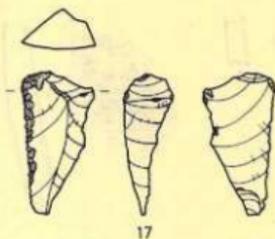
第11圖 55ビット出土遺物

縮尺 1/2

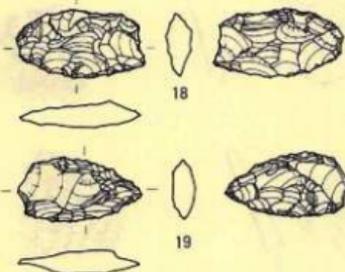
55ピット



16



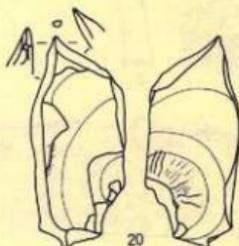
17



18

19

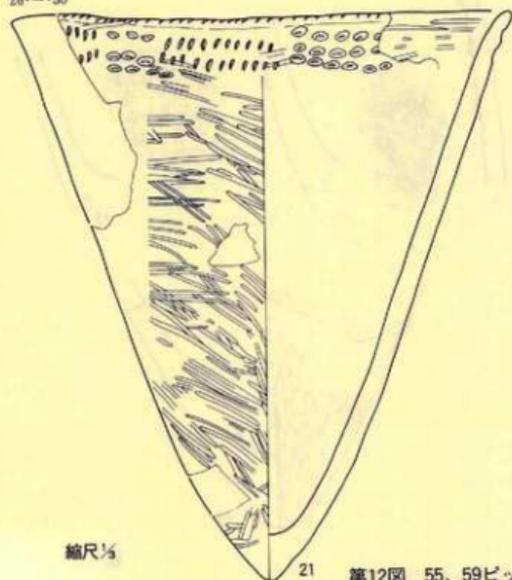
縮尺 $\frac{1}{2}$



20

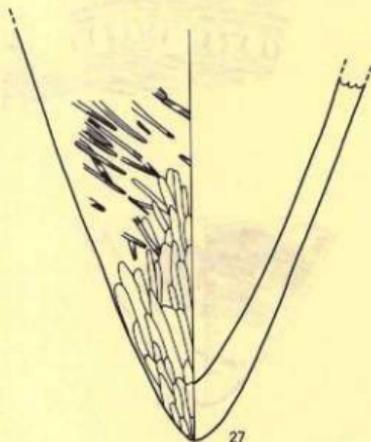
59ピット

26-30



縮尺 $\frac{1}{2}$

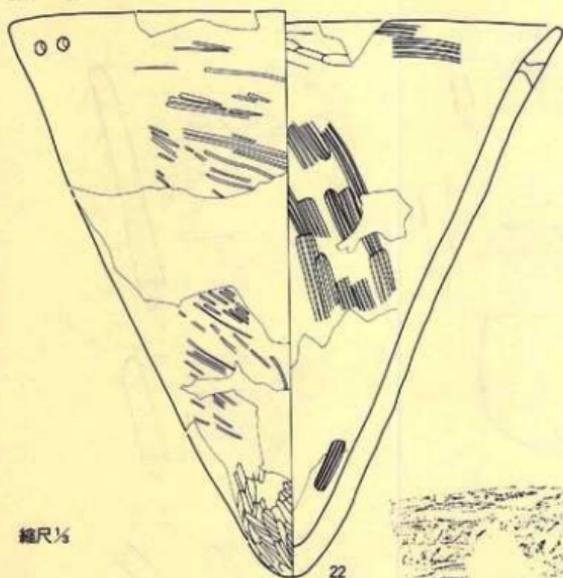
21



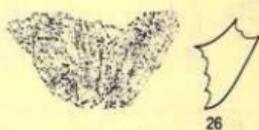
縮尺 $\frac{1}{2}$

27

第12図 55、59ピット出土遺物



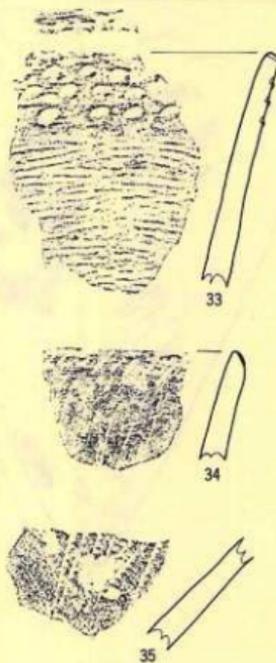
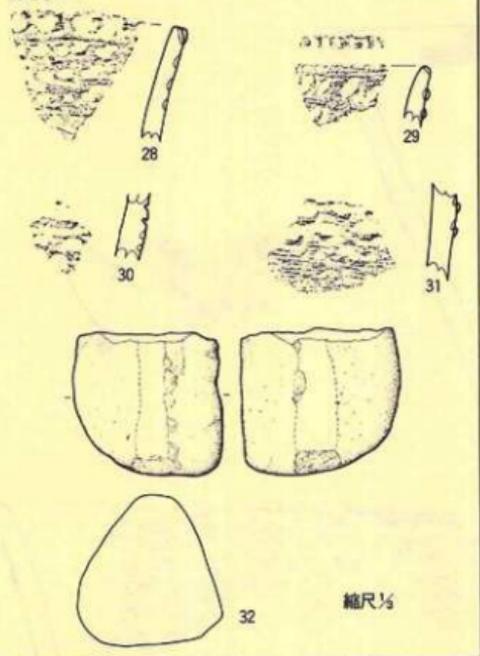
縮尺 $\frac{1}{2}$



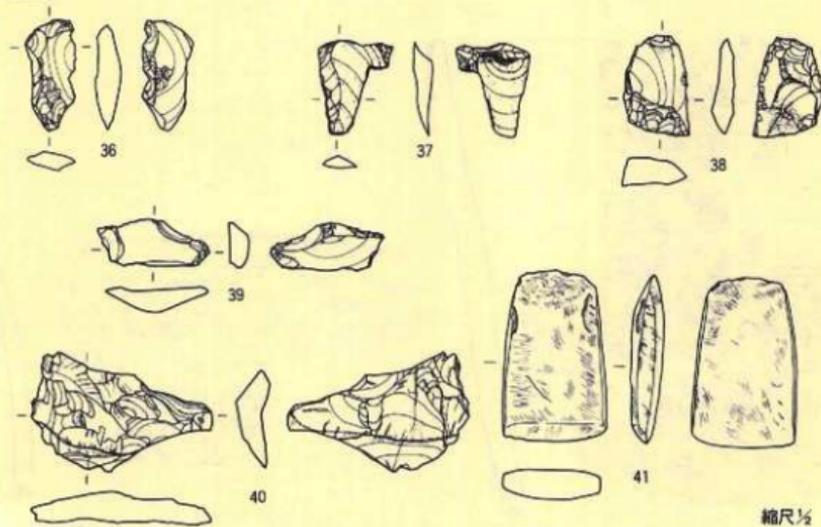
縮尺 $\frac{1}{2}$

第13図 59ピット出土遺物

53ビット

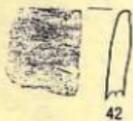


56ビット

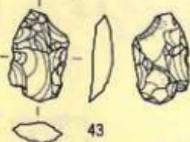


第14図 53、56ビット出土遺物

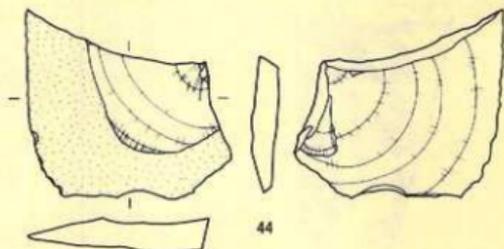
57ビット



42

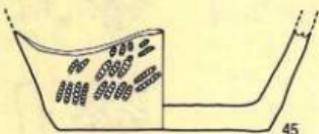


43

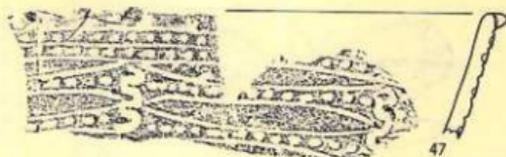


44

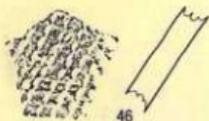
58ビット



45



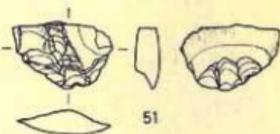
47



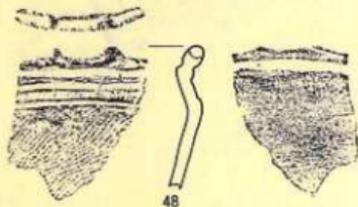
46



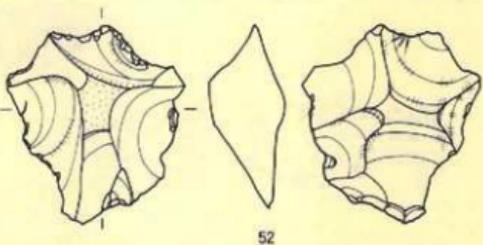
49



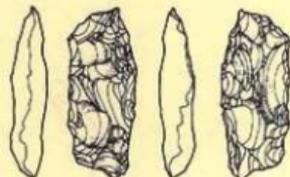
51



48



52



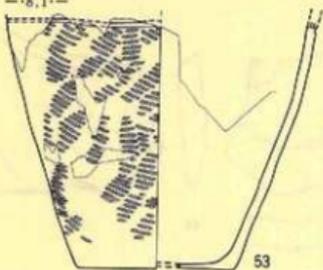
50

縮尺 $\frac{1}{2}$

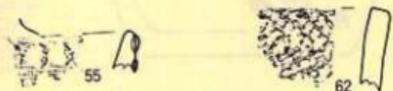
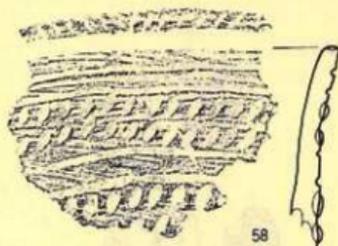
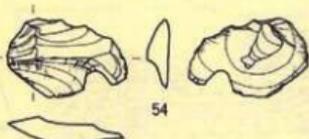
第15図 57、58ビット出土遺物

101炉址

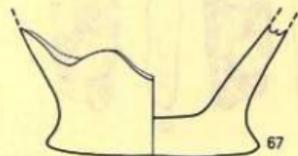
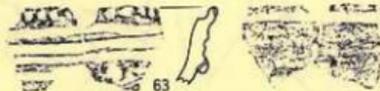
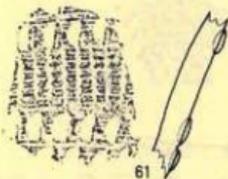
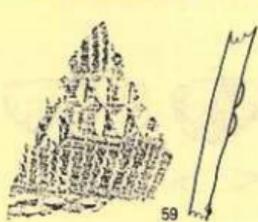
-8.1-



縮尺 $\frac{1}{2}$



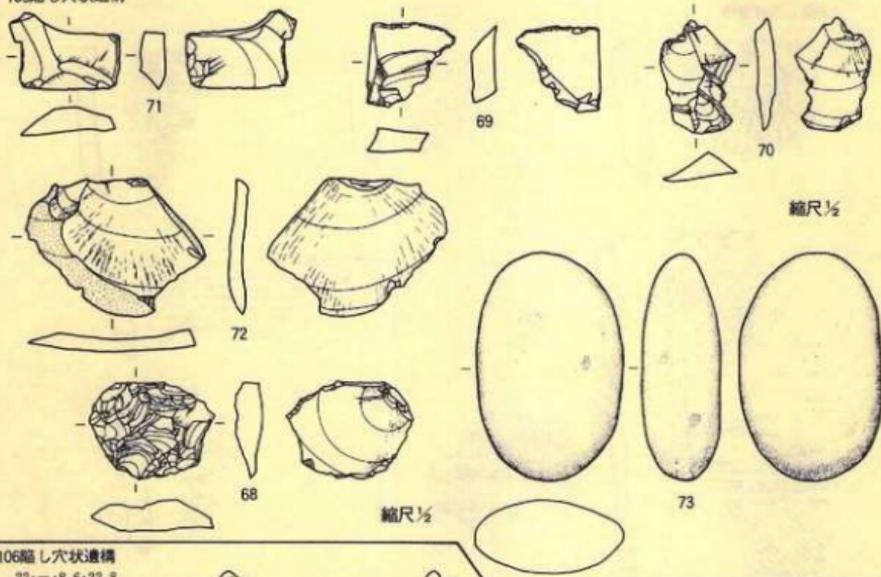
103陥し穴状遺構出土遺物



第16図 101炉址、103陥し穴状遺構出土遺物

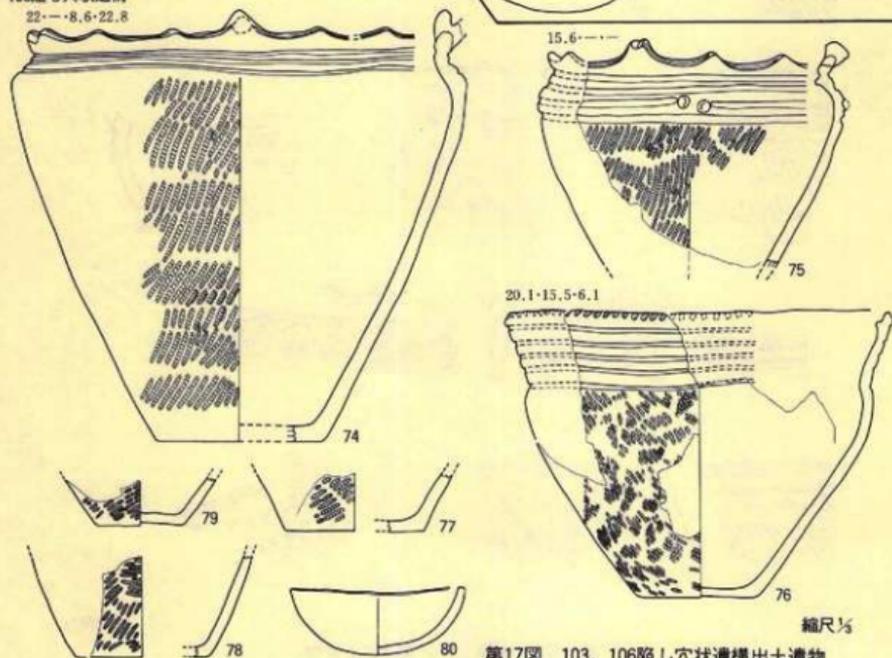
縮尺 $\frac{1}{2}$

103陥し穴状遺構

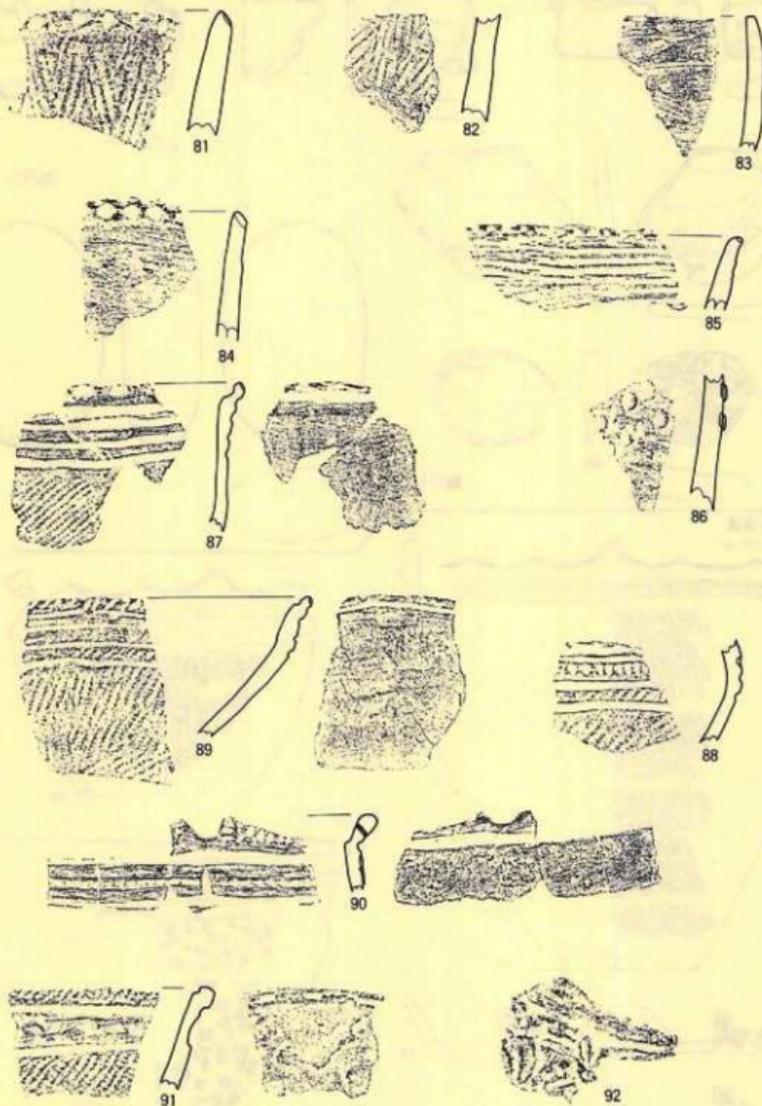


106陥し穴状遺構

22.1・8.6・22.8



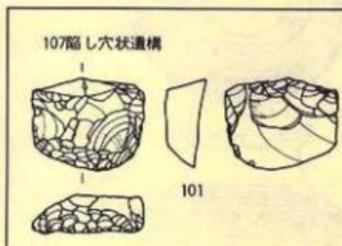
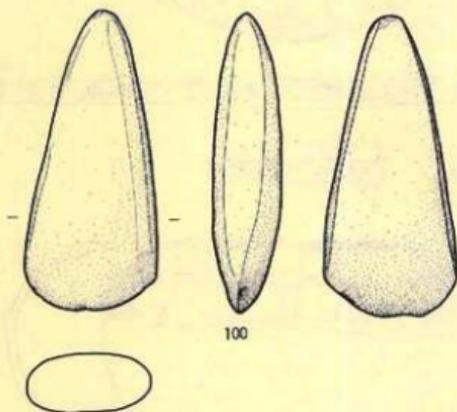
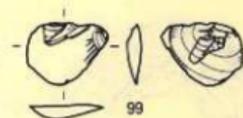
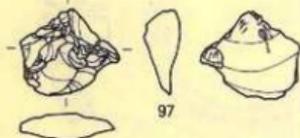
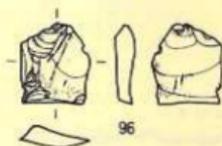
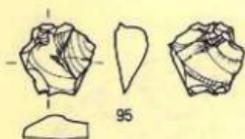
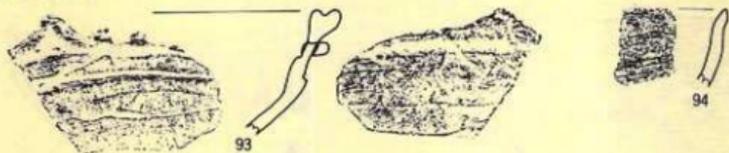
第17図 103、106陥し穴状遺構出土遺物



縮尺 $\frac{1}{2}$

第18図 106陥し穴状遺構出土遺物

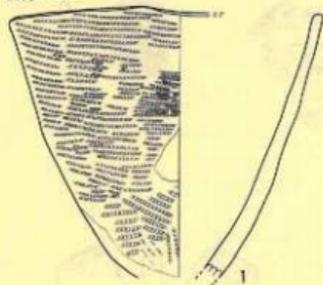
106陥し穴状遺構



縮尺 $\frac{1}{2}$

第19図 106、107陥し穴状遺構出土遺物

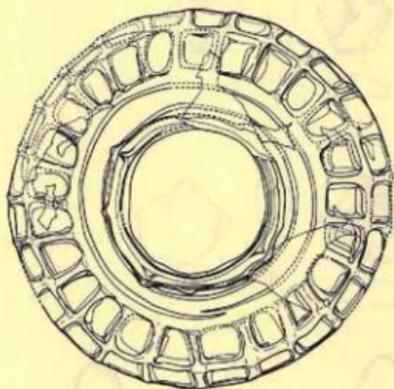
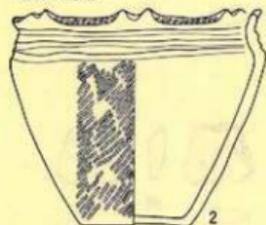
16.2



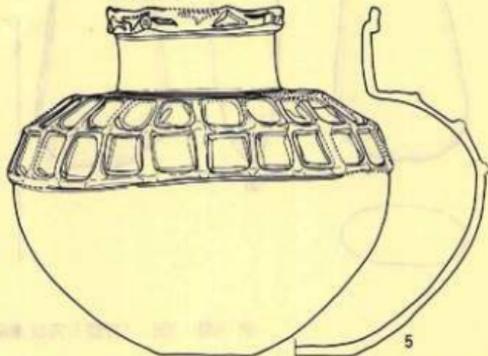
19.8·7.4·8.4



13·5.6·11.2



9.2·4.7·18.1



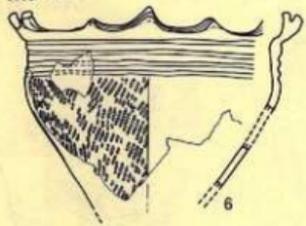
6.9·4.8·11.2



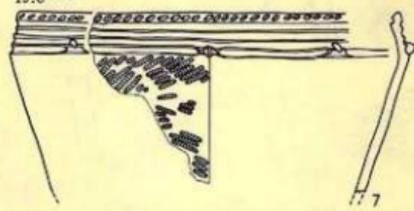
縮尺 $\frac{1}{2}$

第20圖 遺構外出土土器

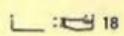
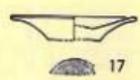
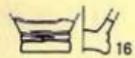
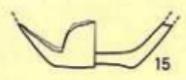
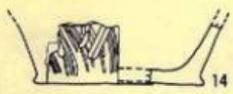
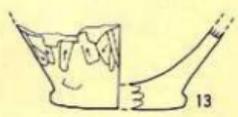
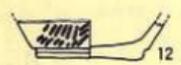
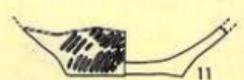
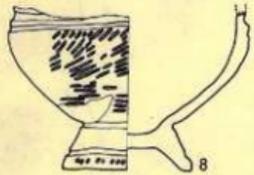
15.3



19.8

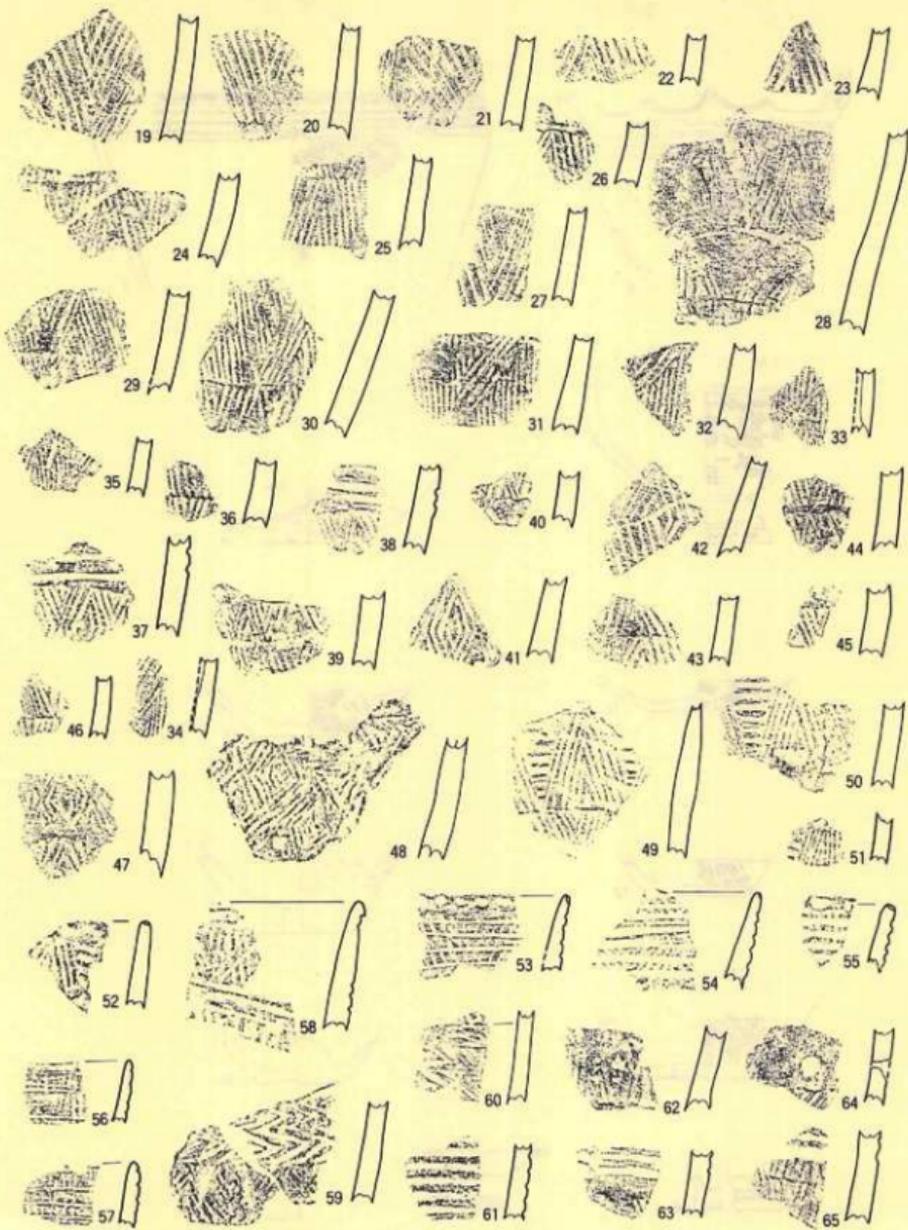


6.6



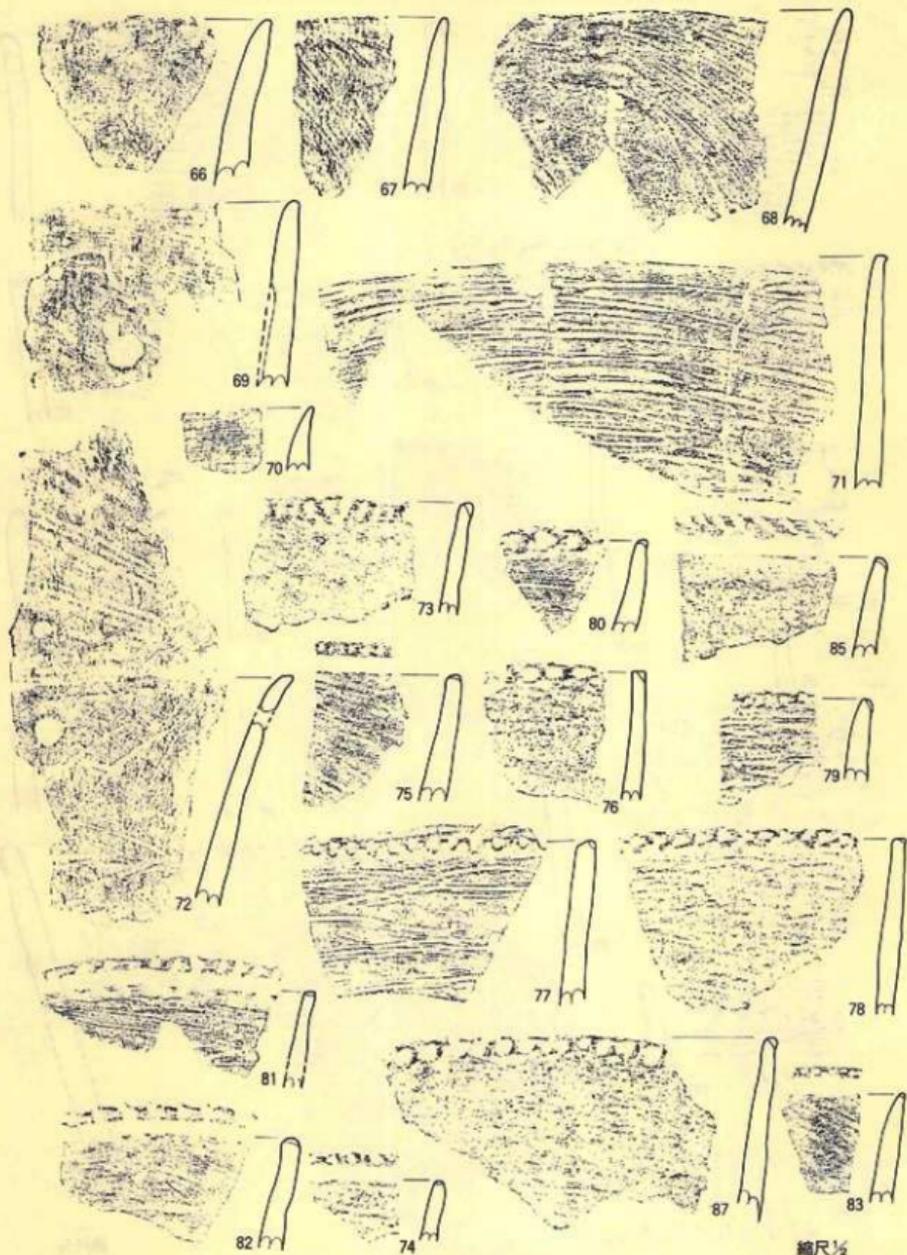
第21圖 遺構外出土土器

縮尺 $\frac{1}{4}$



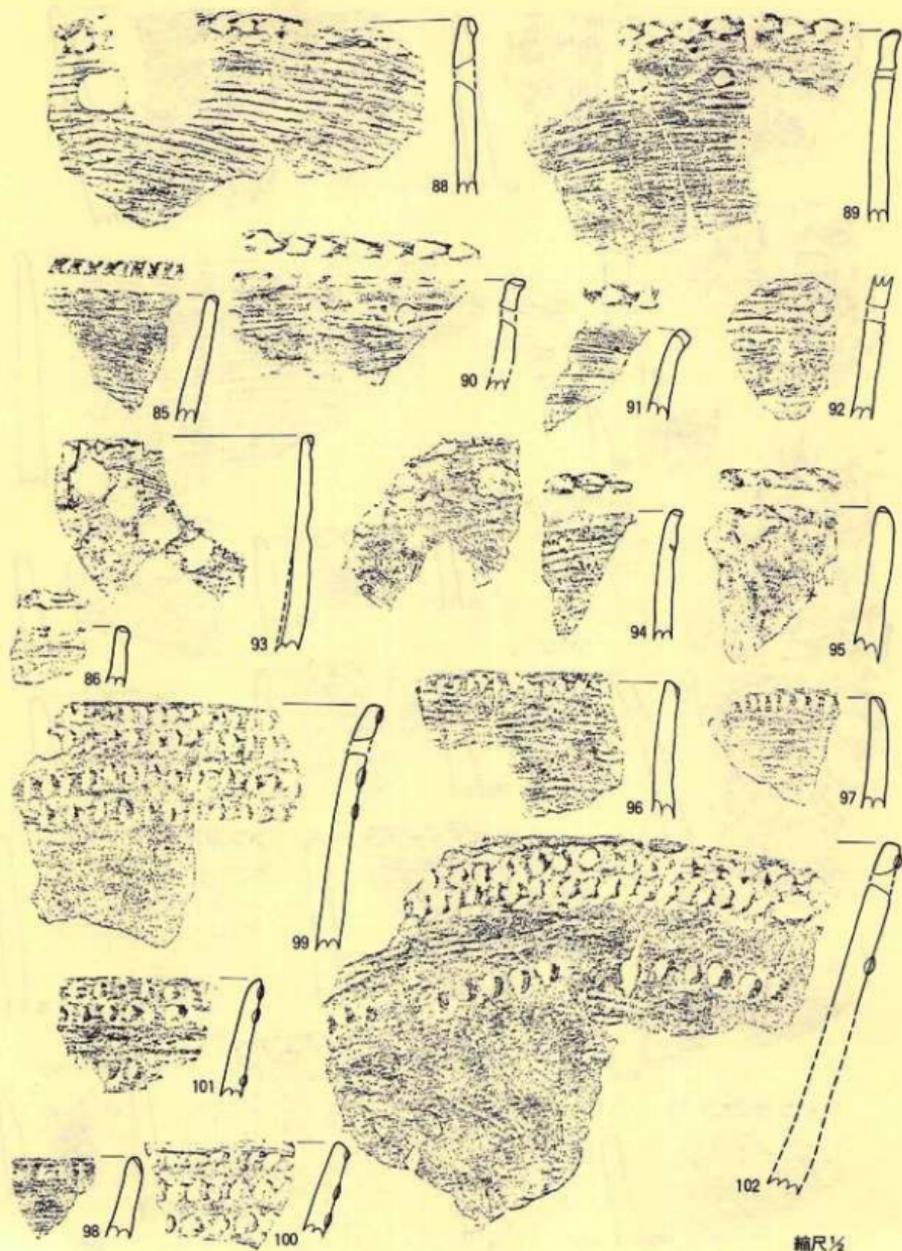
第22圖 遺構外出土器片

縮尺 $\frac{1}{4}$

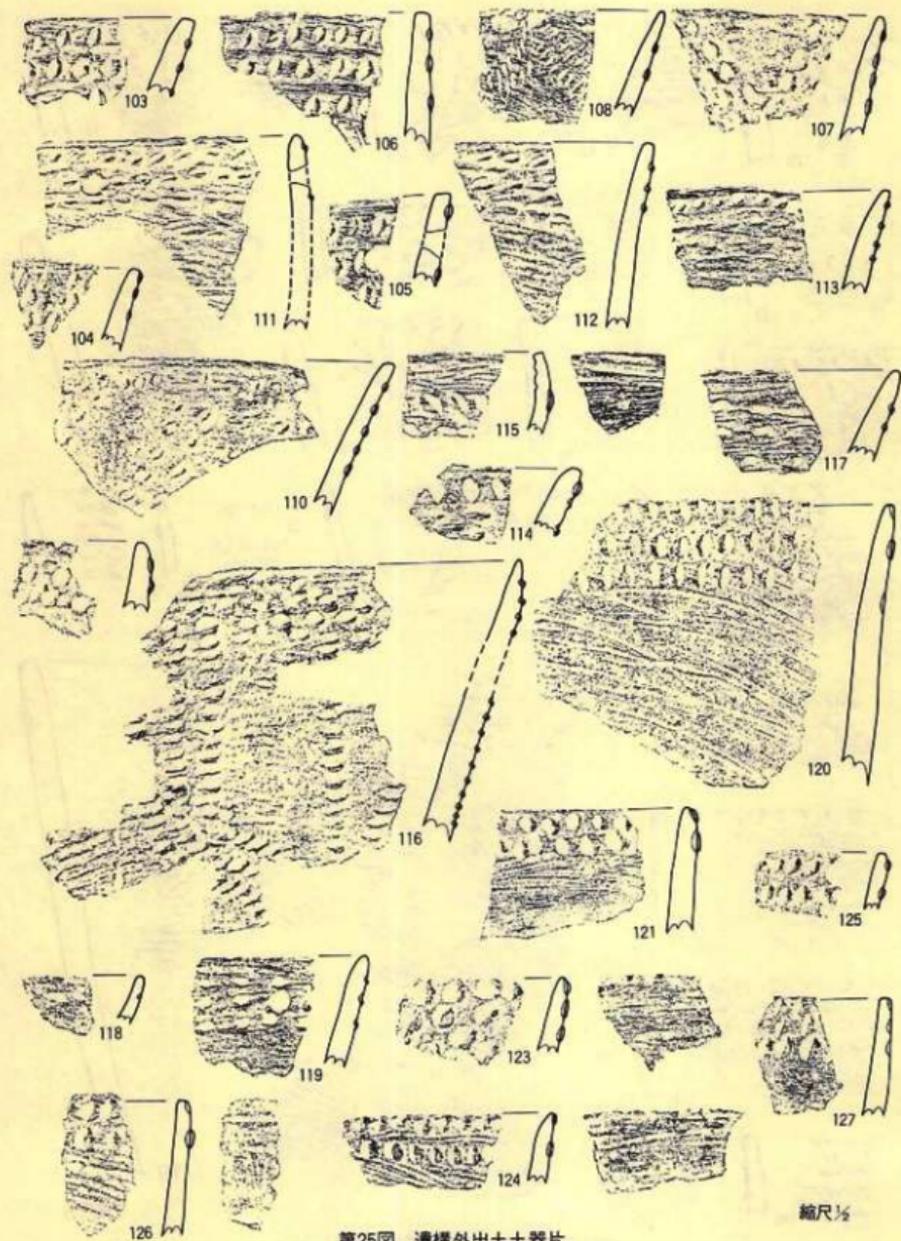


縮尺 $\frac{1}{2}$

第23圖 遺構外出土土器片 (85、86次頁へ)

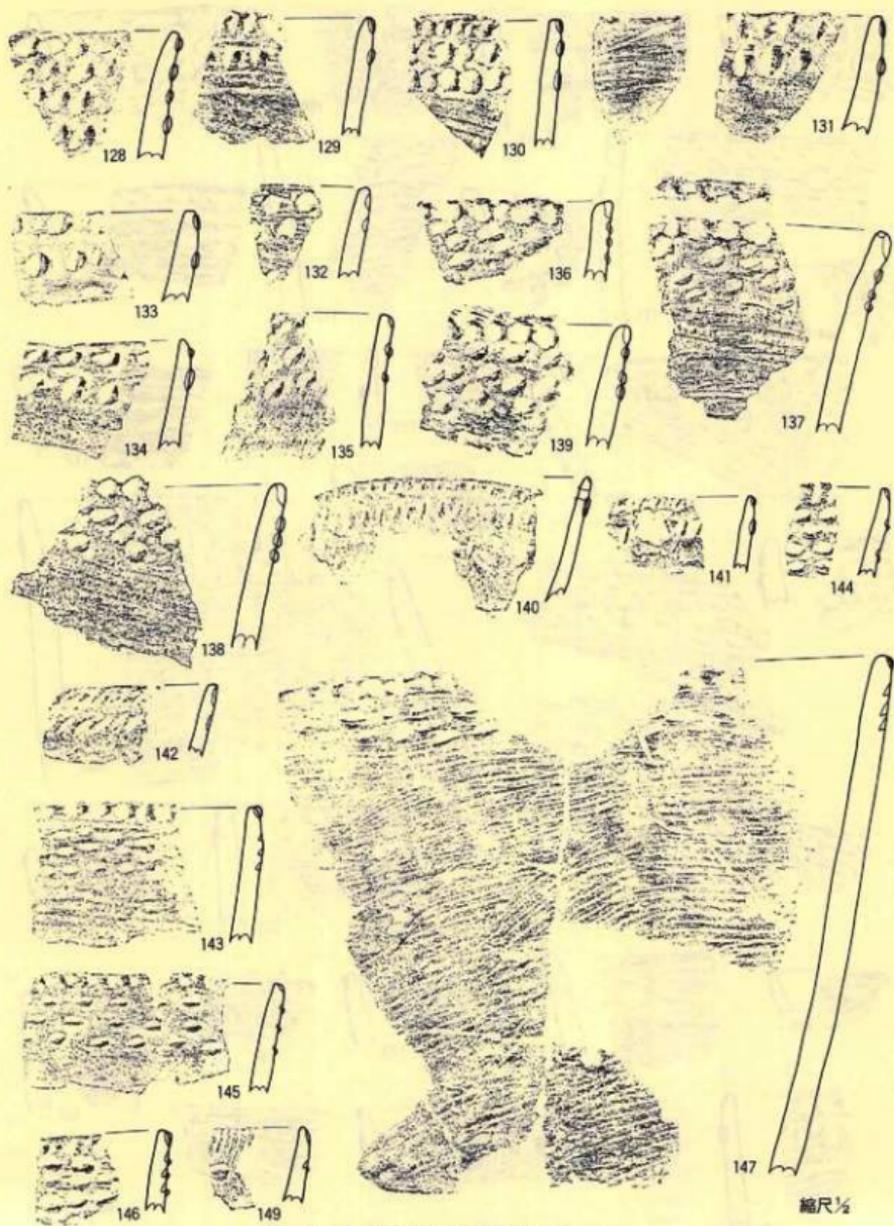


第24圖 遺構外出土器片

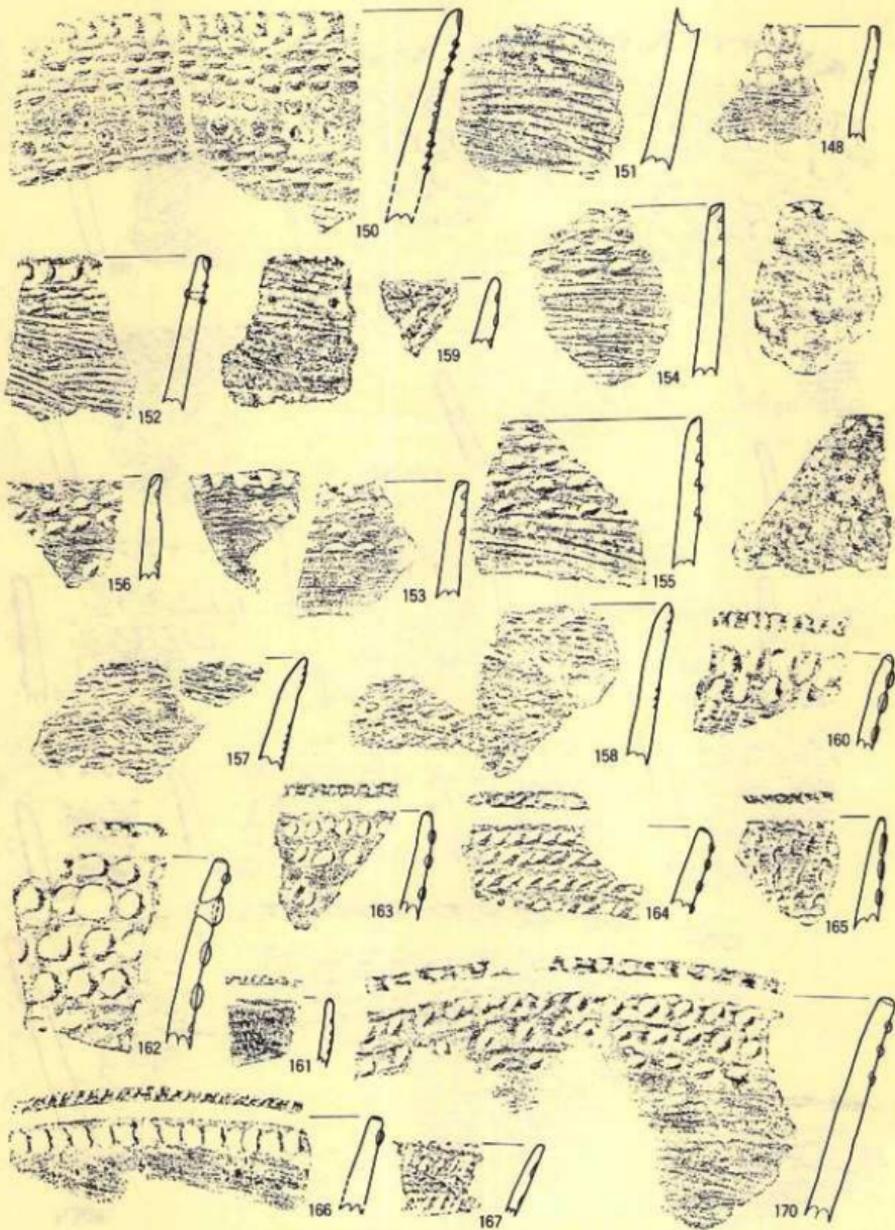


第25图 濠柘外出土土器片

縮尺 $\frac{1}{2}$

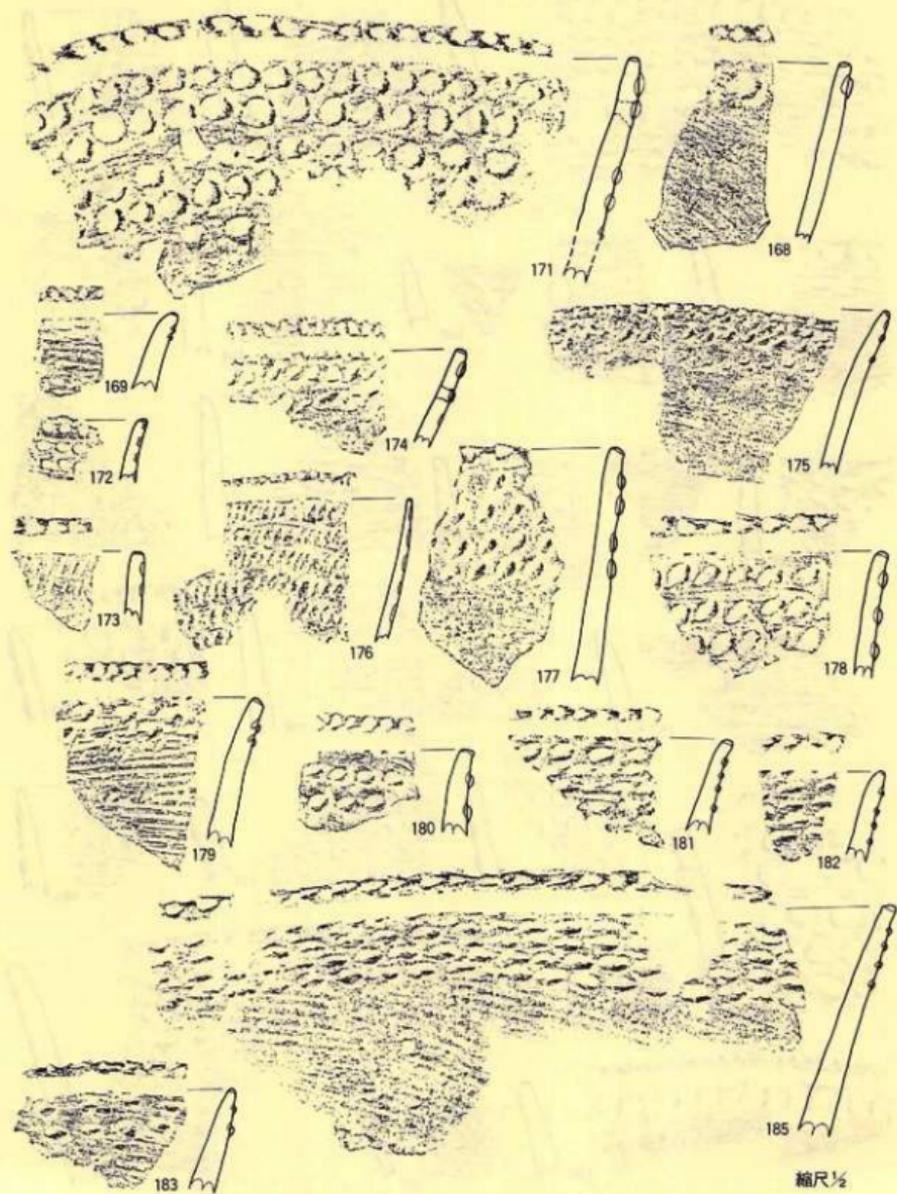


第26圖 遺構外出土土器片 (148次頁へ)

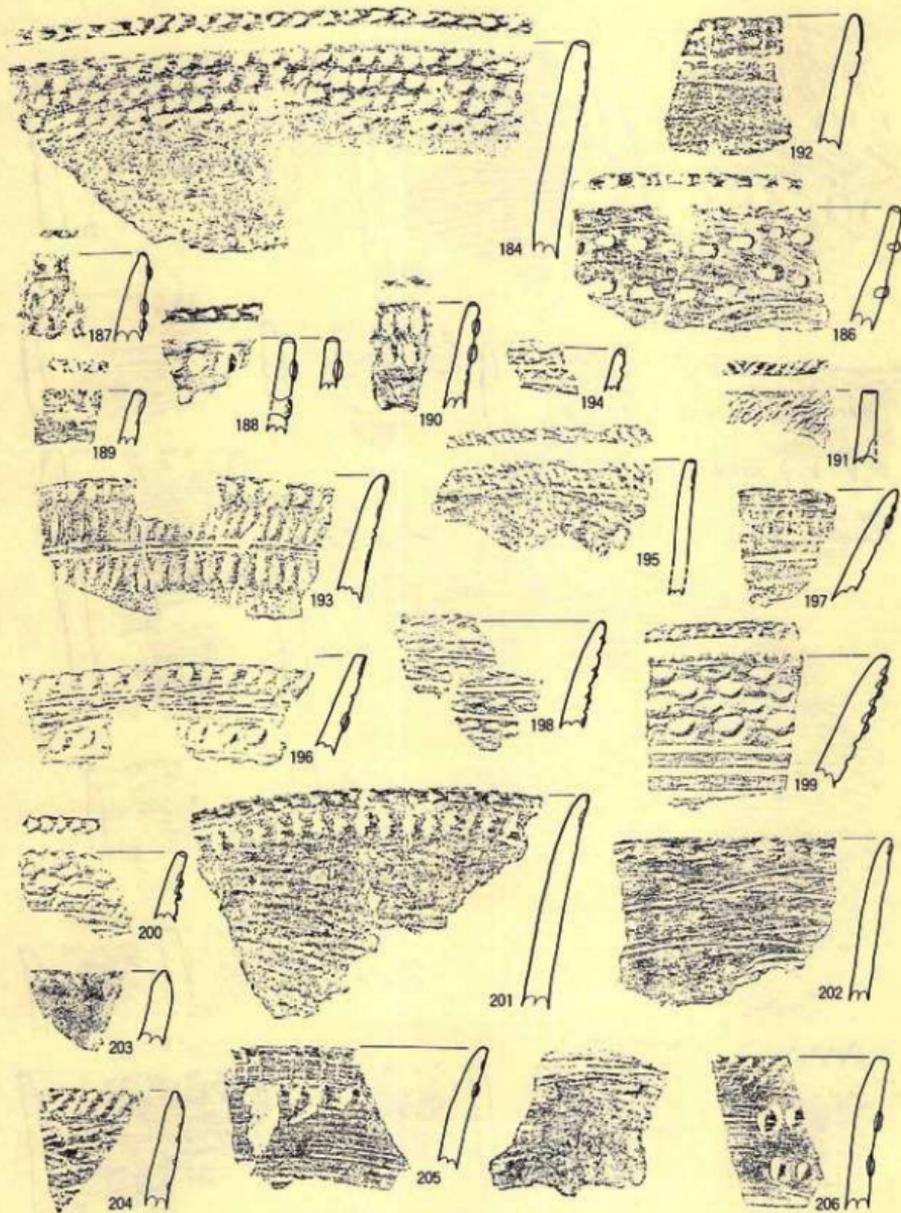


第27圖 遺構外出土土器片 (168・169次頁へ)

縮尺 $\frac{1}{2}$

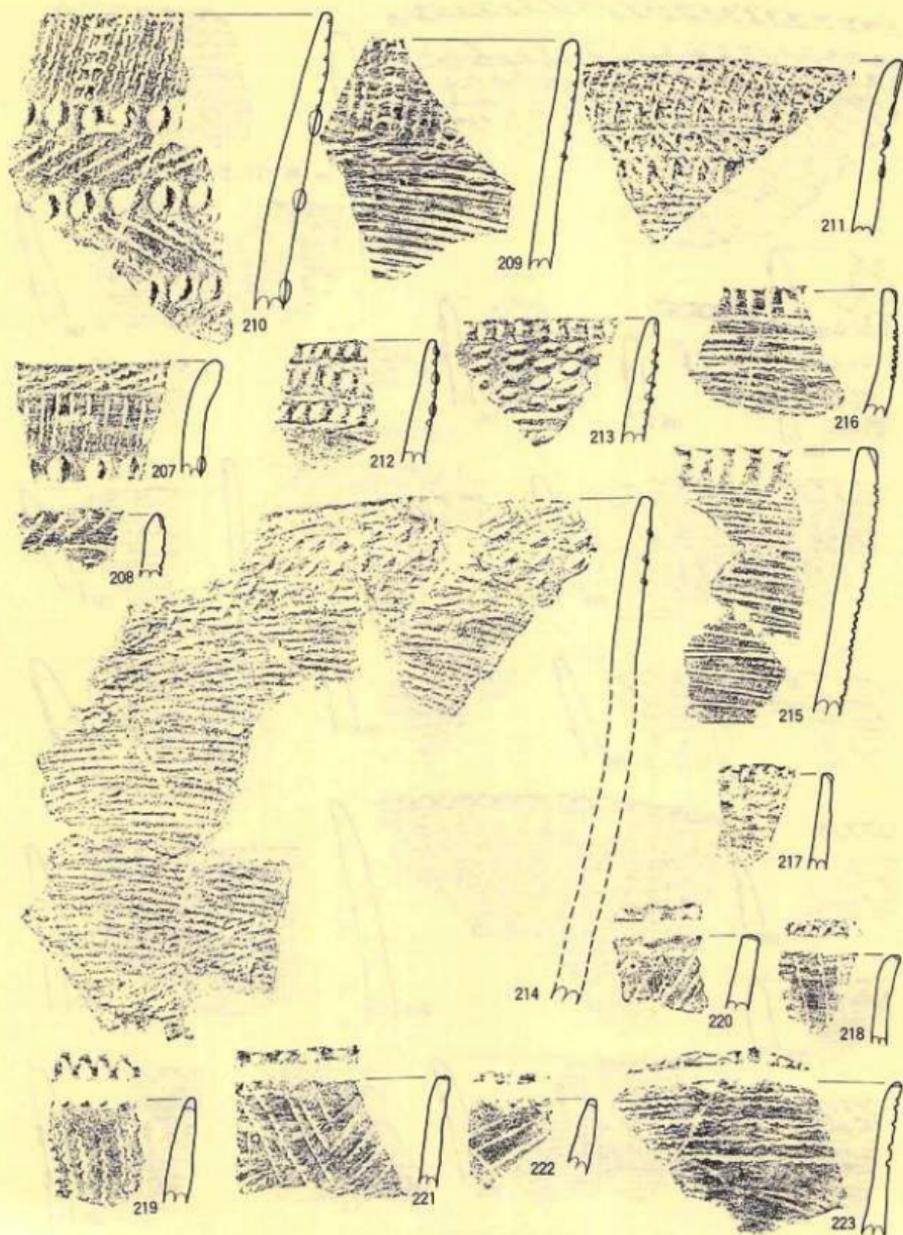


第28圖 遺構外出土土器片(184次頁へ)



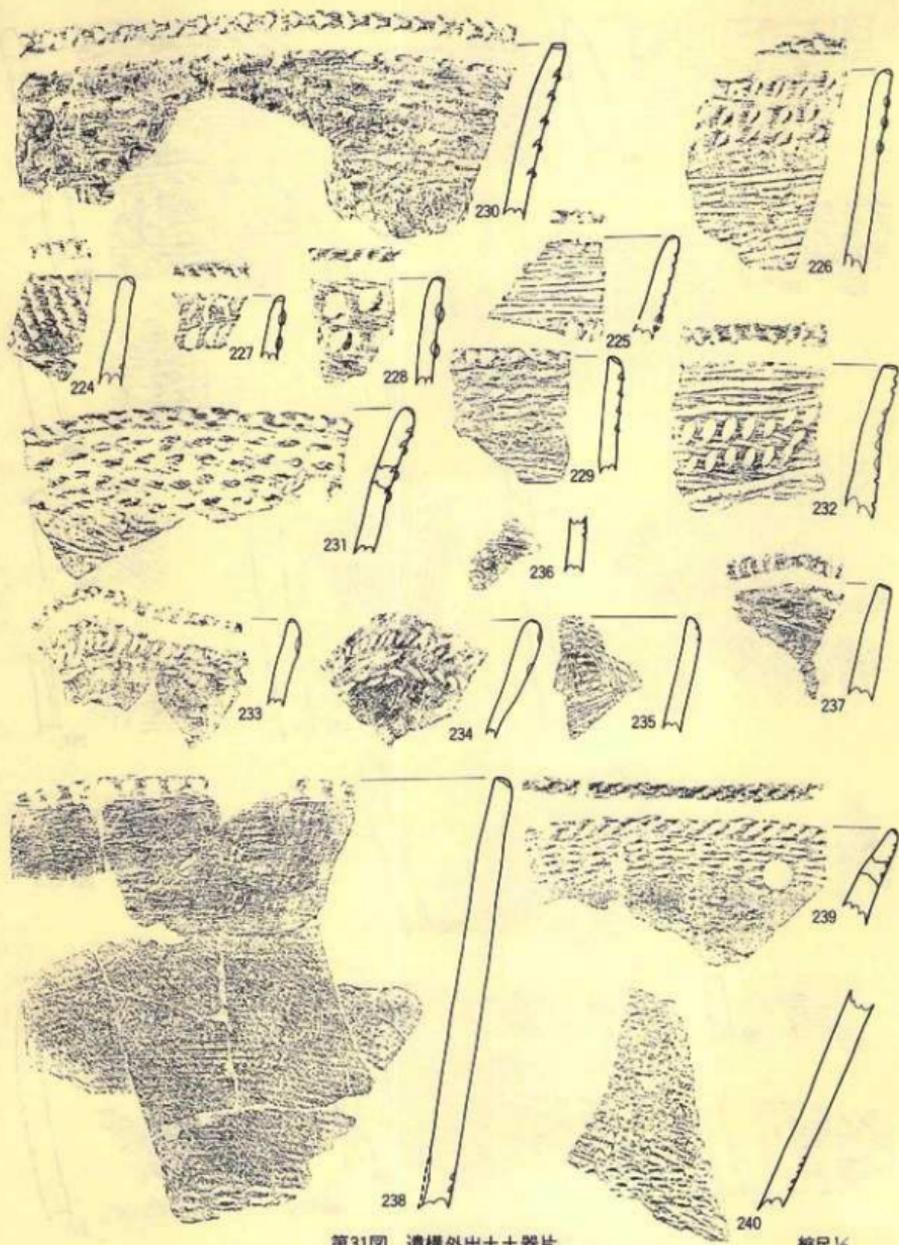
第29圖 遺構外出土土器片

縮尺 $\frac{1}{2}$



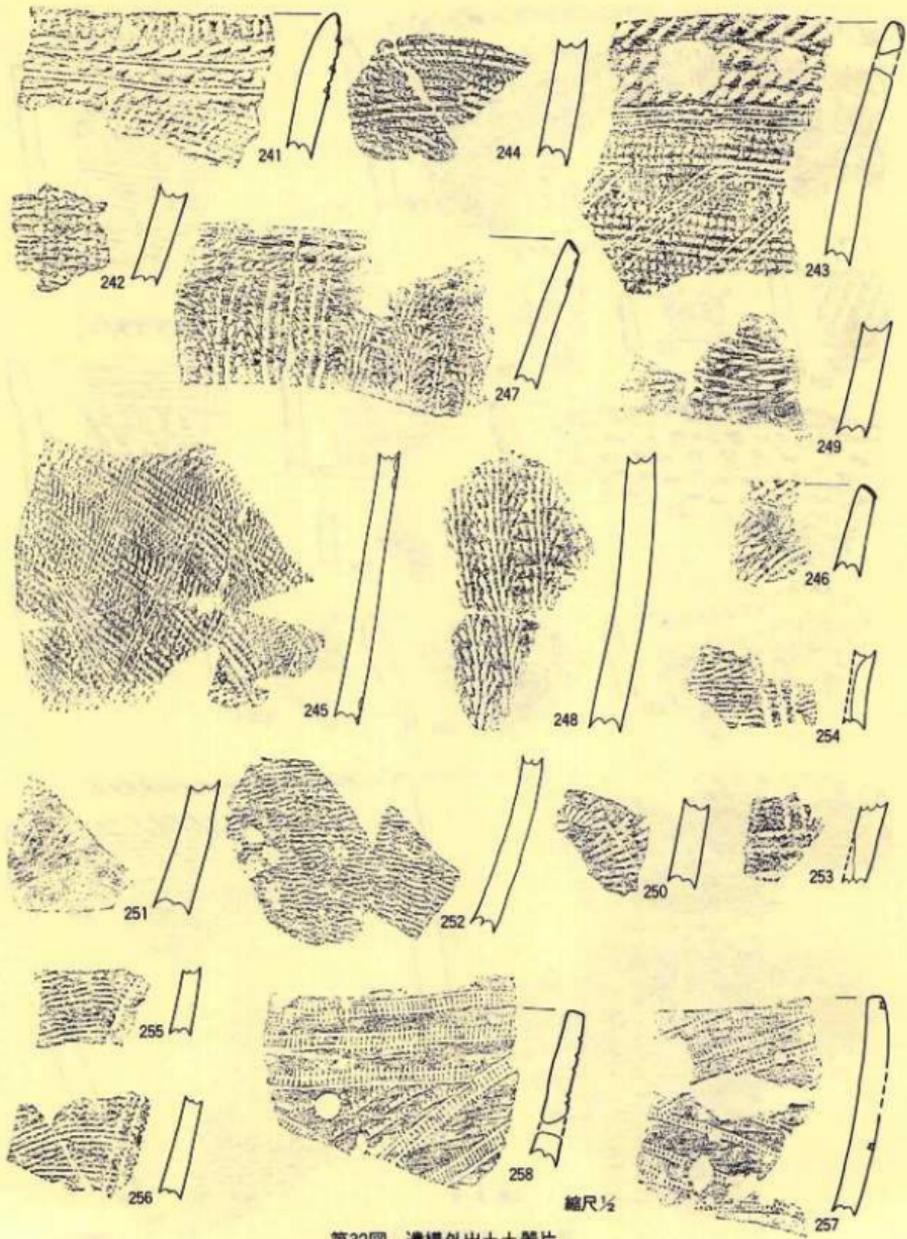
第30圖 遺構外出土器片

縮尺 $\frac{1}{2}$

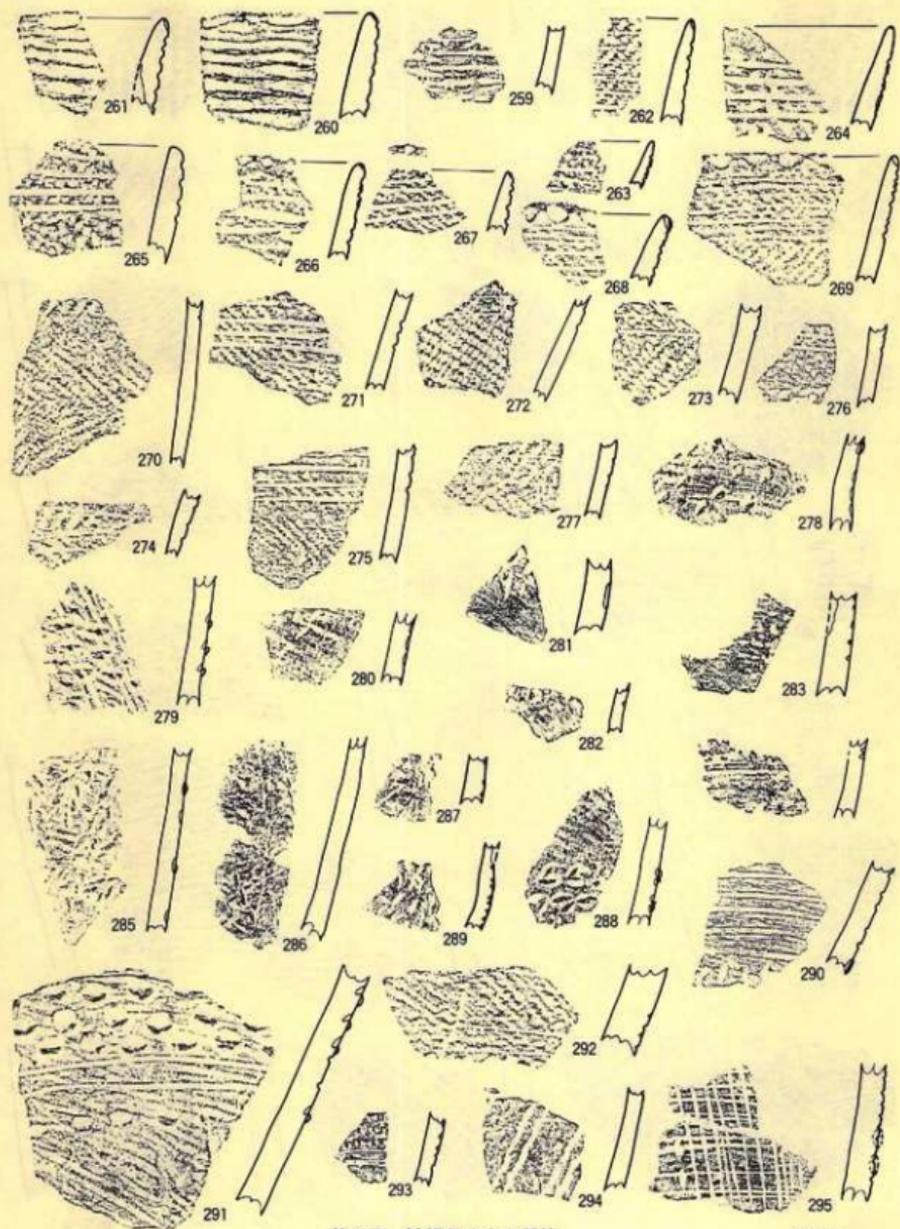


第31圖 遺構外出土土器片

縮尺 1/2

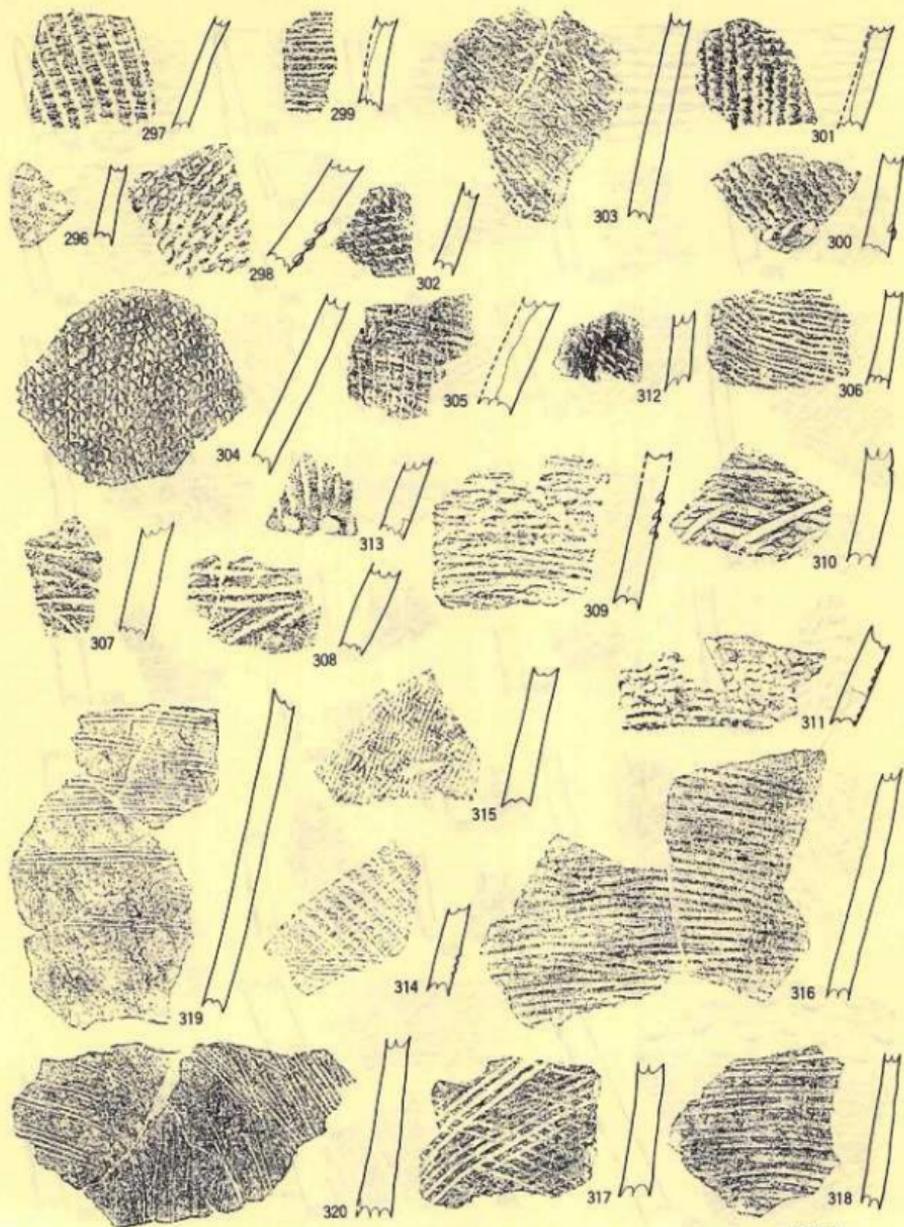


第32圖 遺構外出土土器片



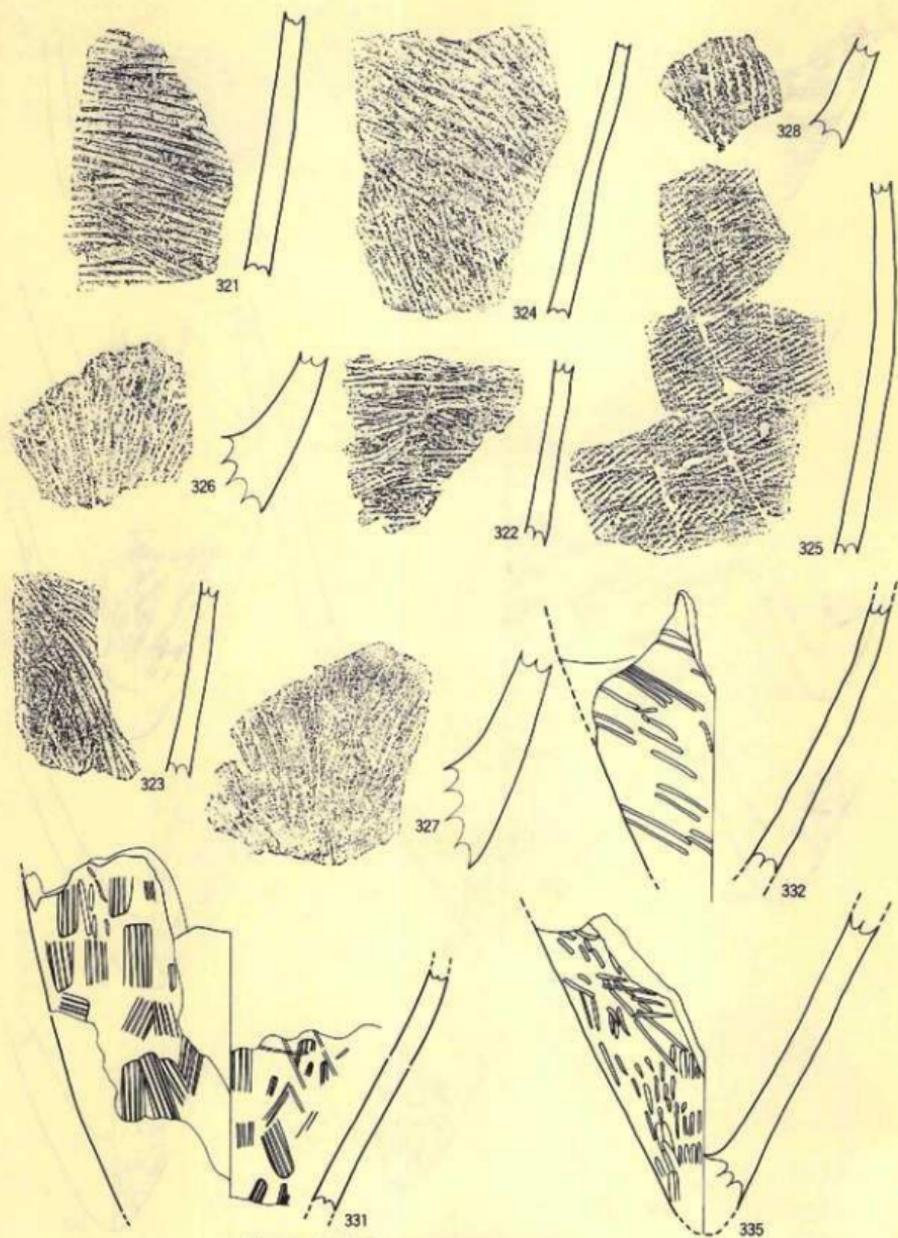
第33圖 遺構外出土土器片

縮尺 $\frac{1}{2}$



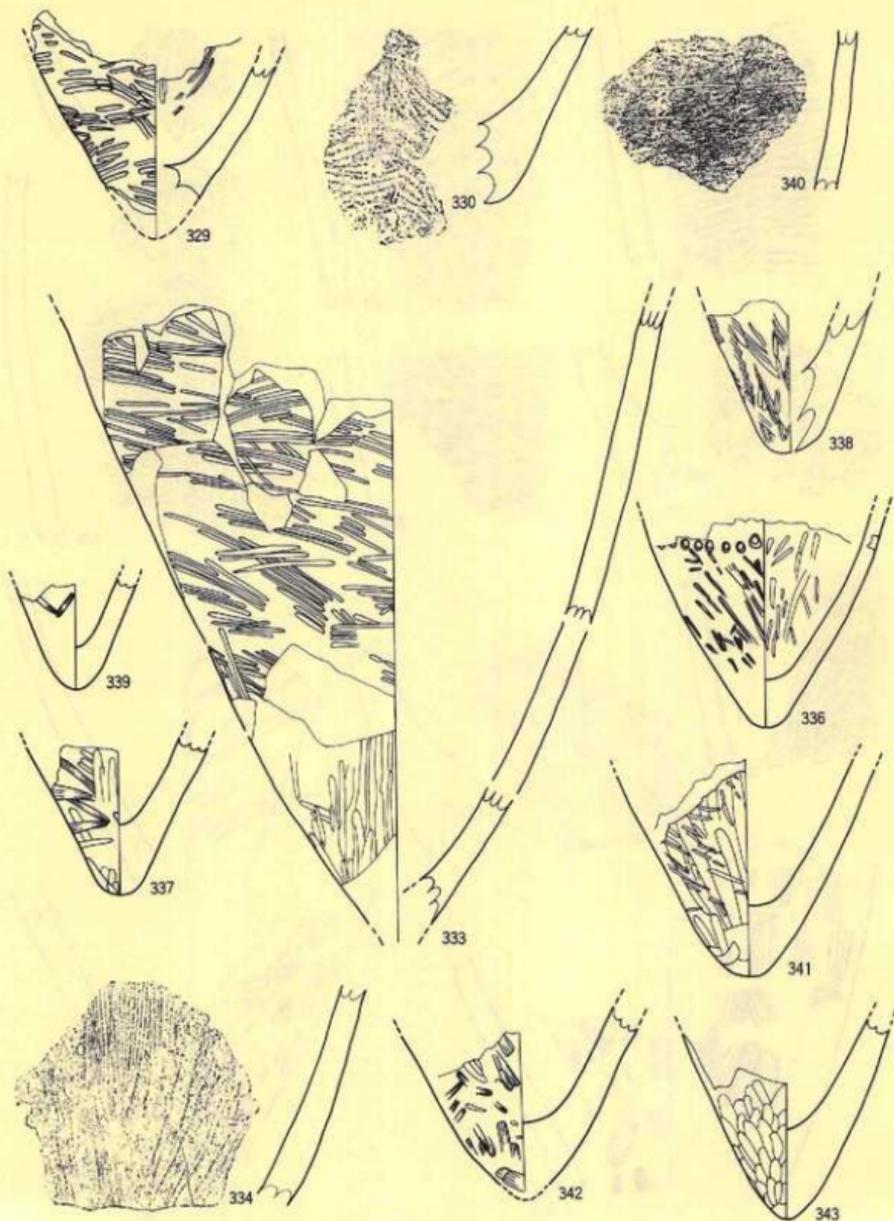
第34圖 遺構外出土土器片

縮尺 $\frac{1}{2}$



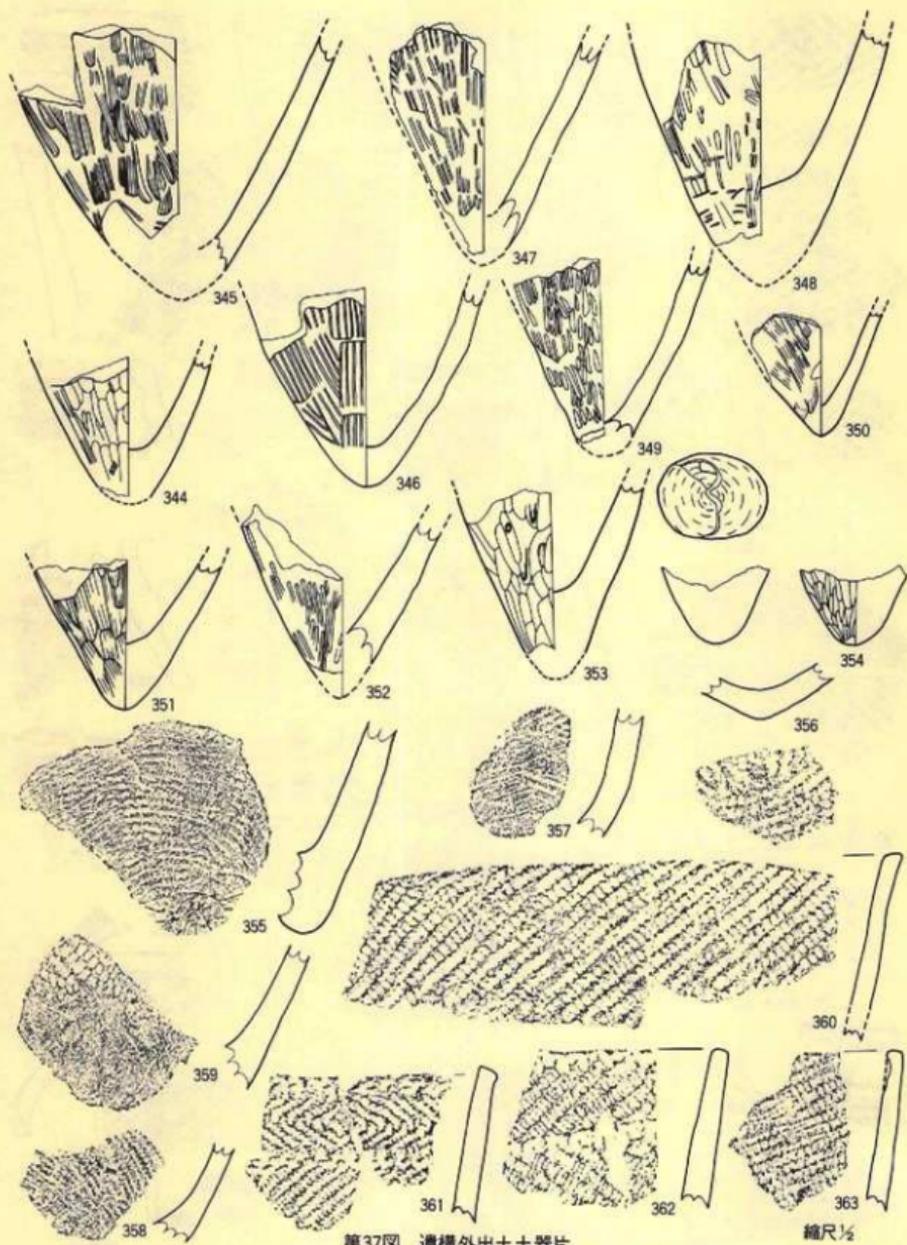
第35図 遺構外出土土器片 (329・330・333・334次頁へ)

縮尺 $\frac{1}{2}$



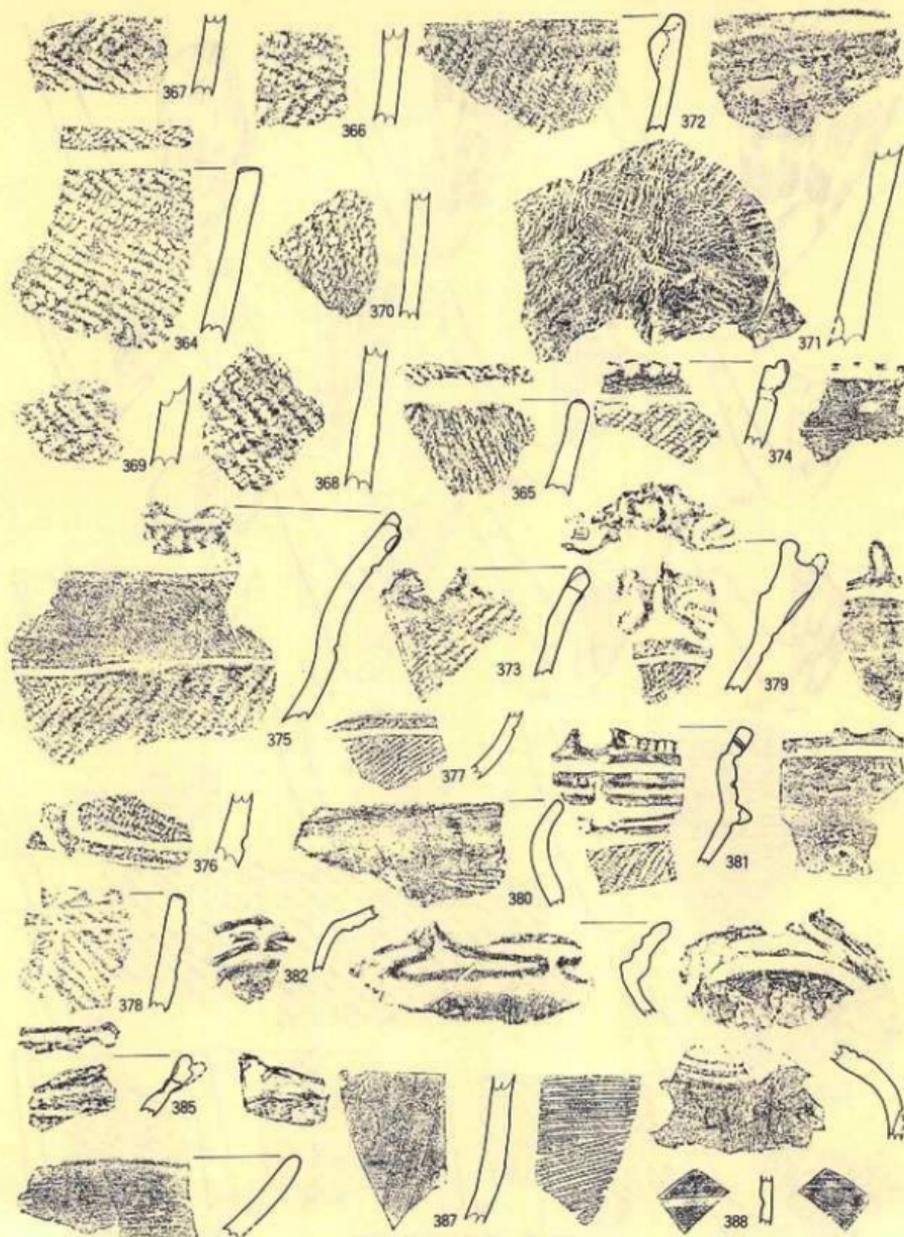
第36图 遺構外出土土器片

縮尺 $\frac{1}{2}$



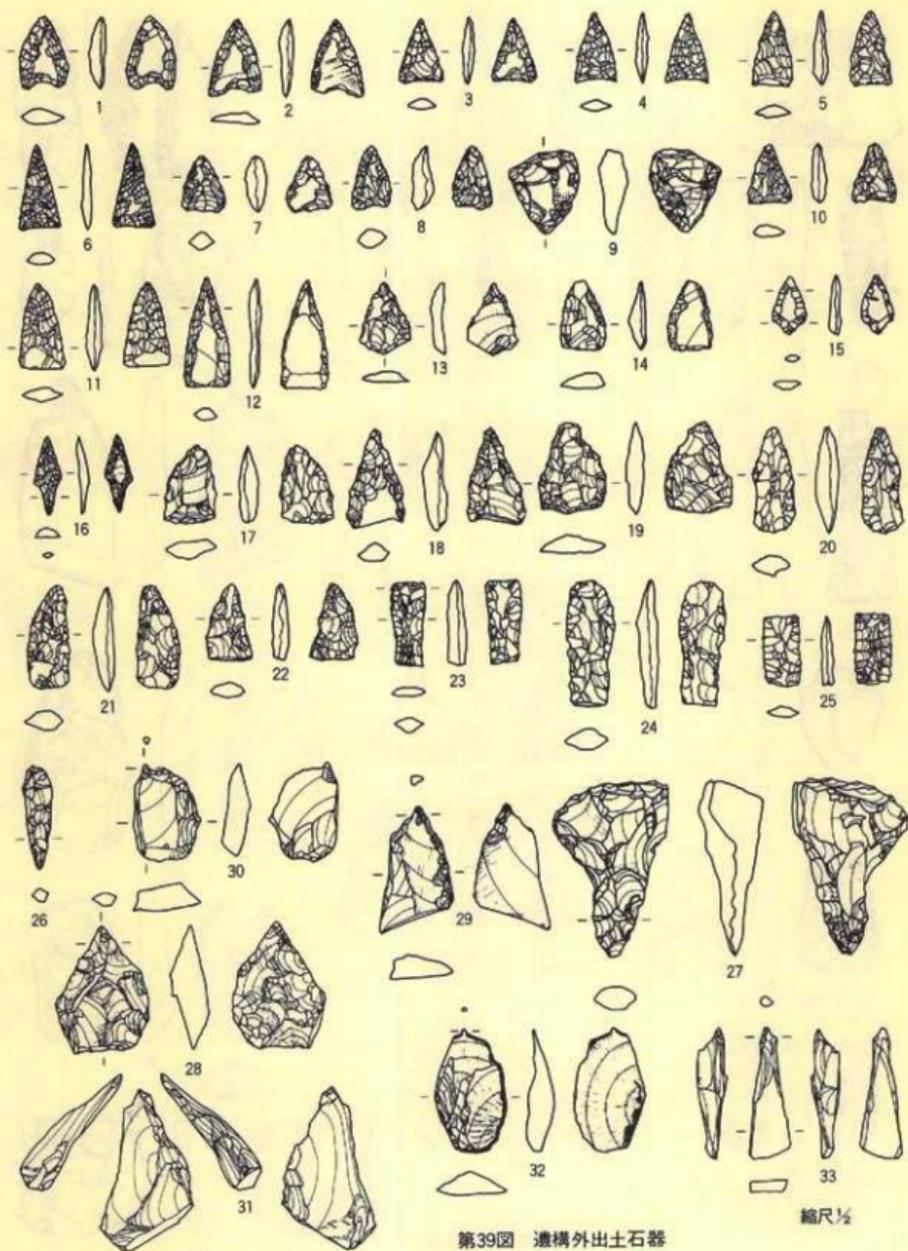
第37图 遺構外出土土器片

縮尺 $\frac{1}{2}$



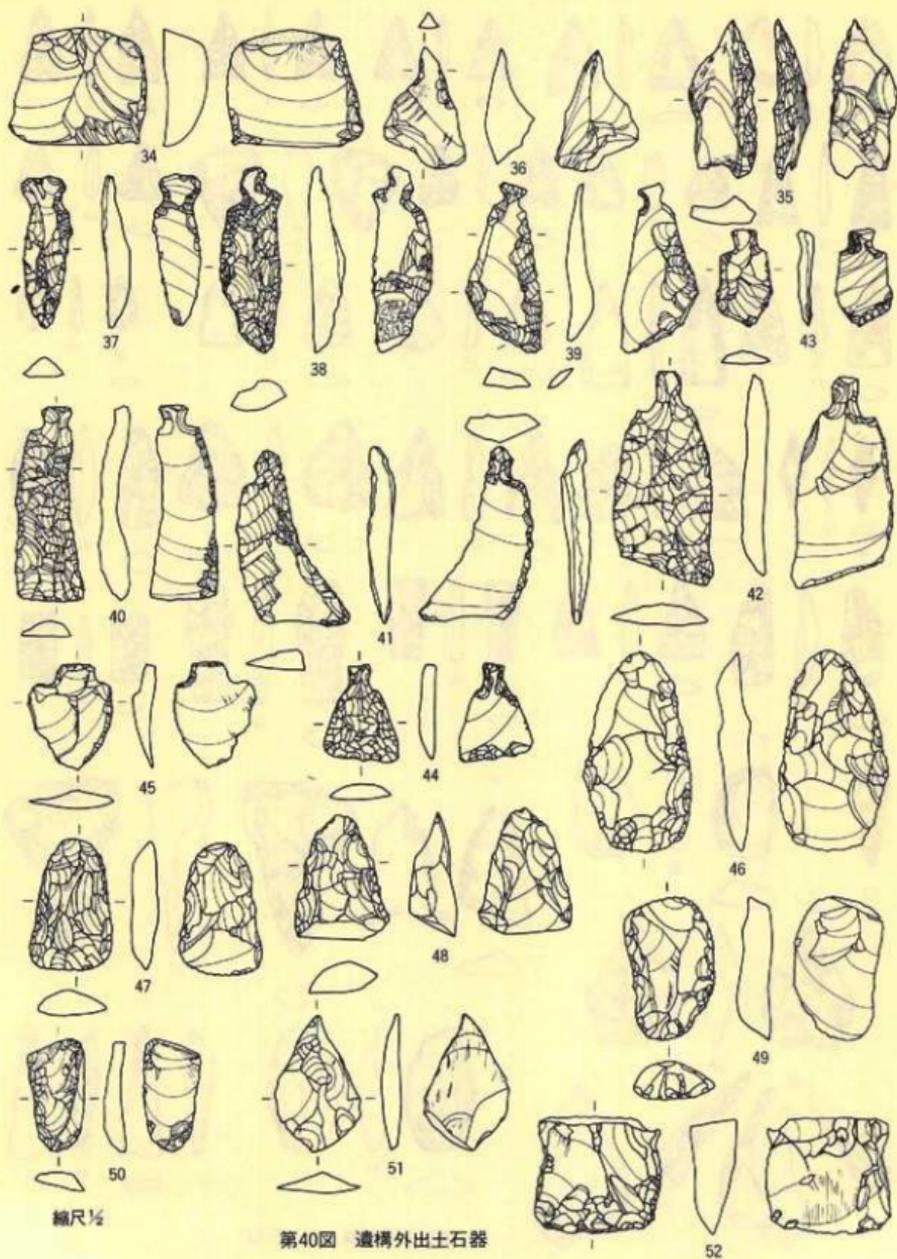
第38圖 遺構外出土器片

縮尺 $\frac{1}{2}$

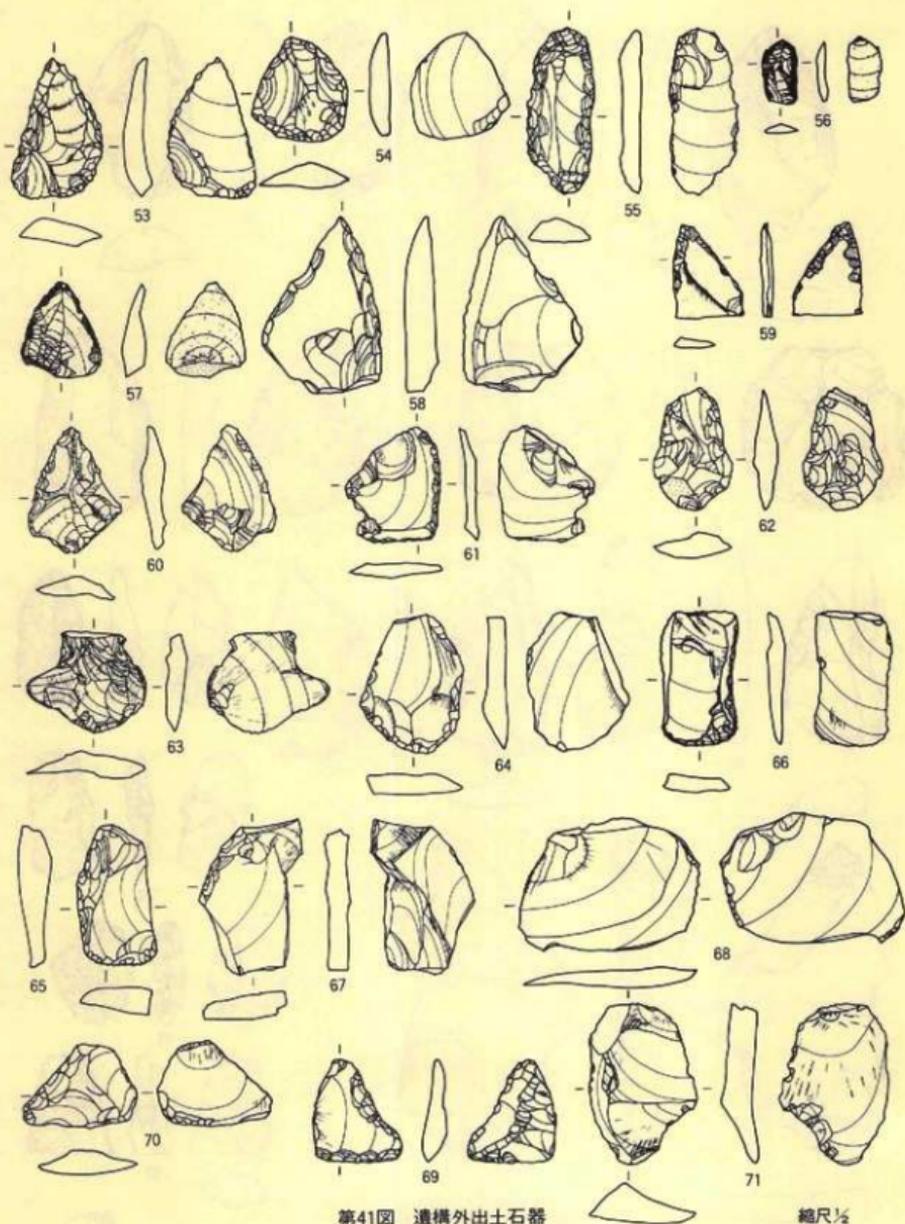


第39图 遺構外出土石器

縮尺 $\frac{1}{2}$

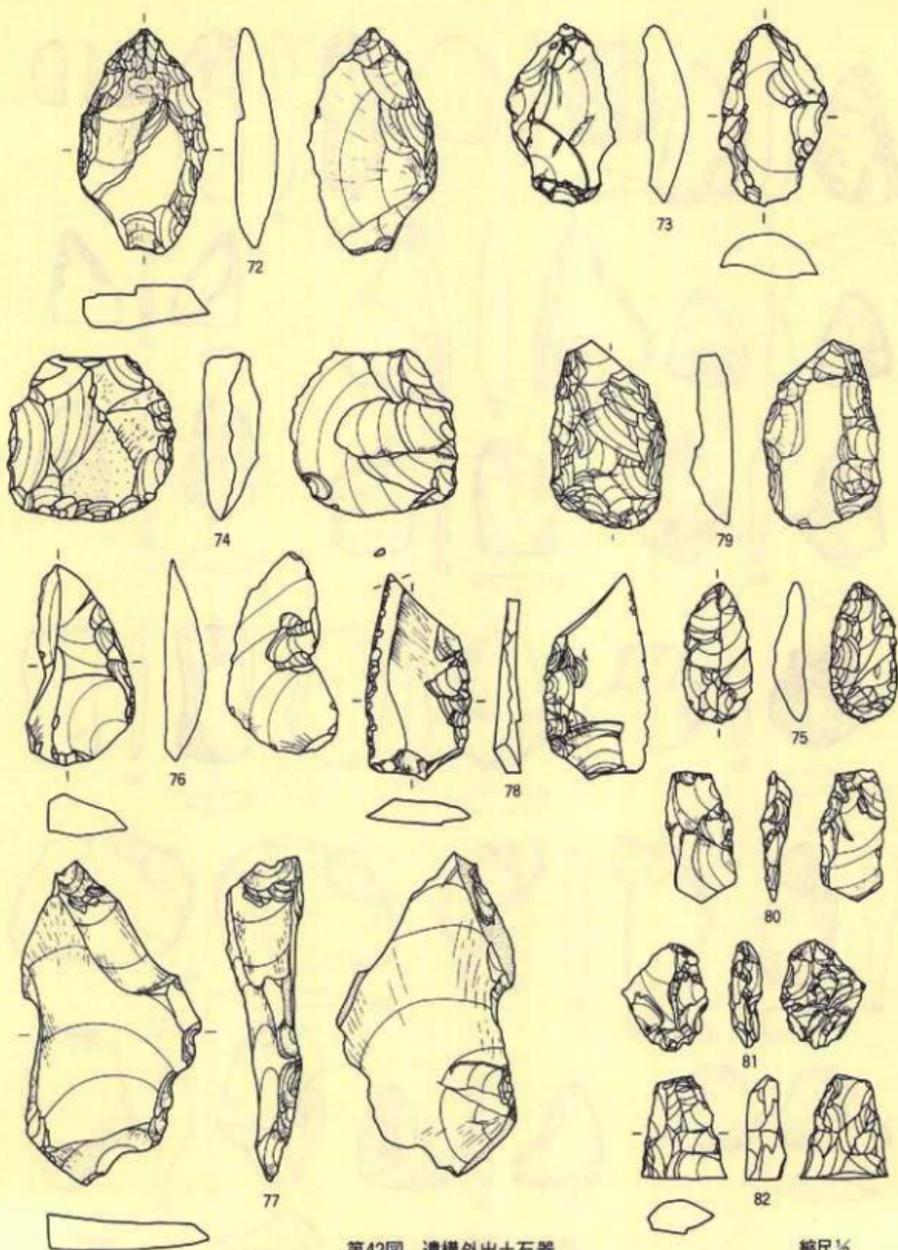


第40圖 遺構外出土石器



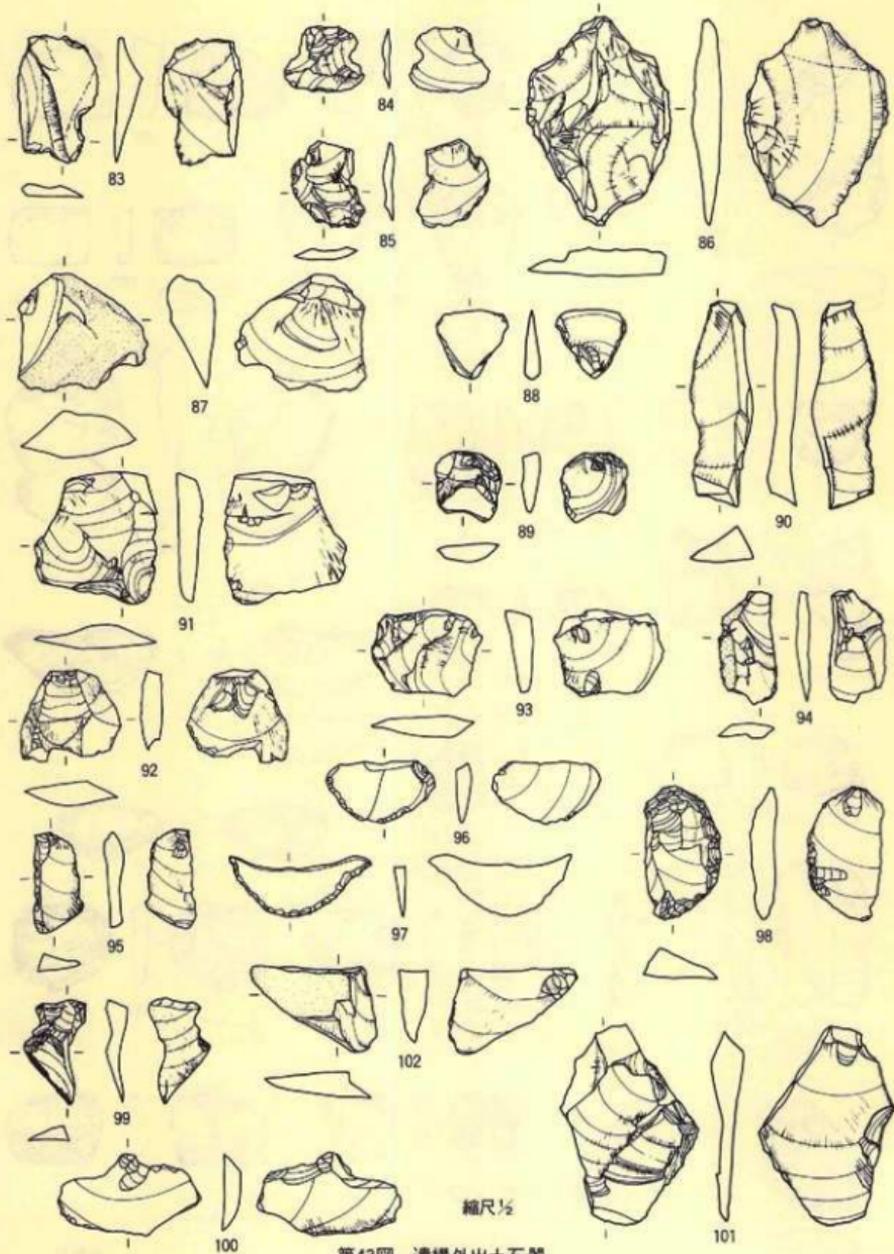
第41圖 遺構外出土石器

總尺 1/2

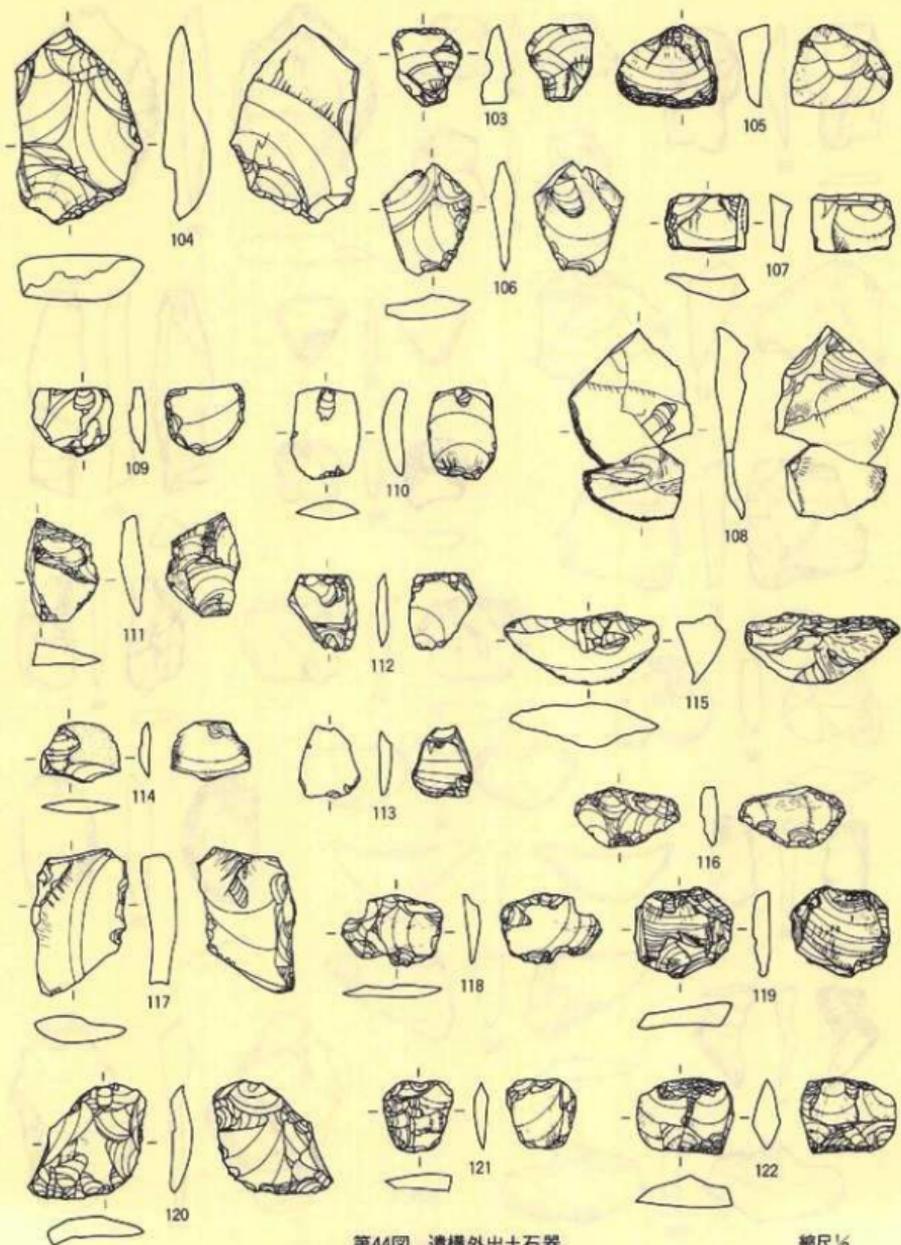


第42圖 遺構外出土石器

縮尺 $\frac{1}{2}$

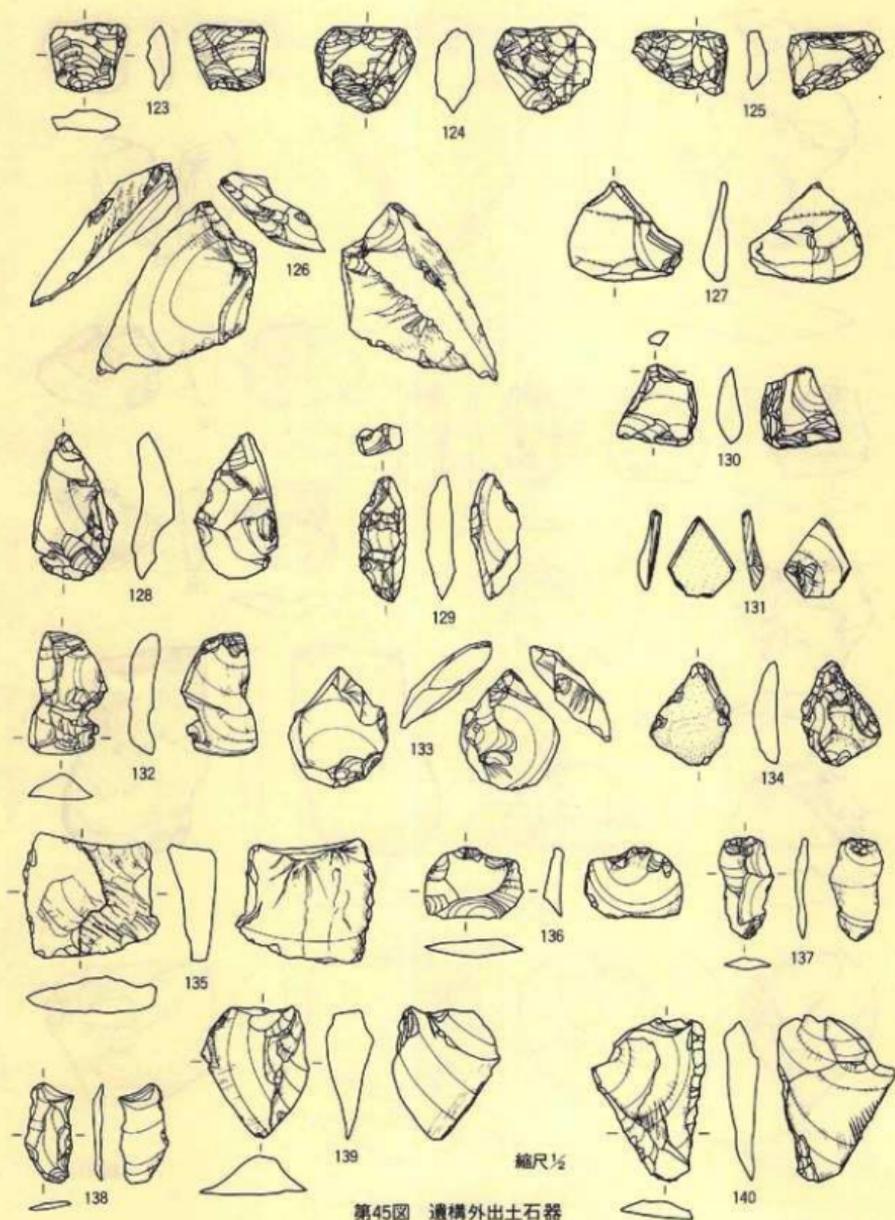


第43圖 遺構外出土石器

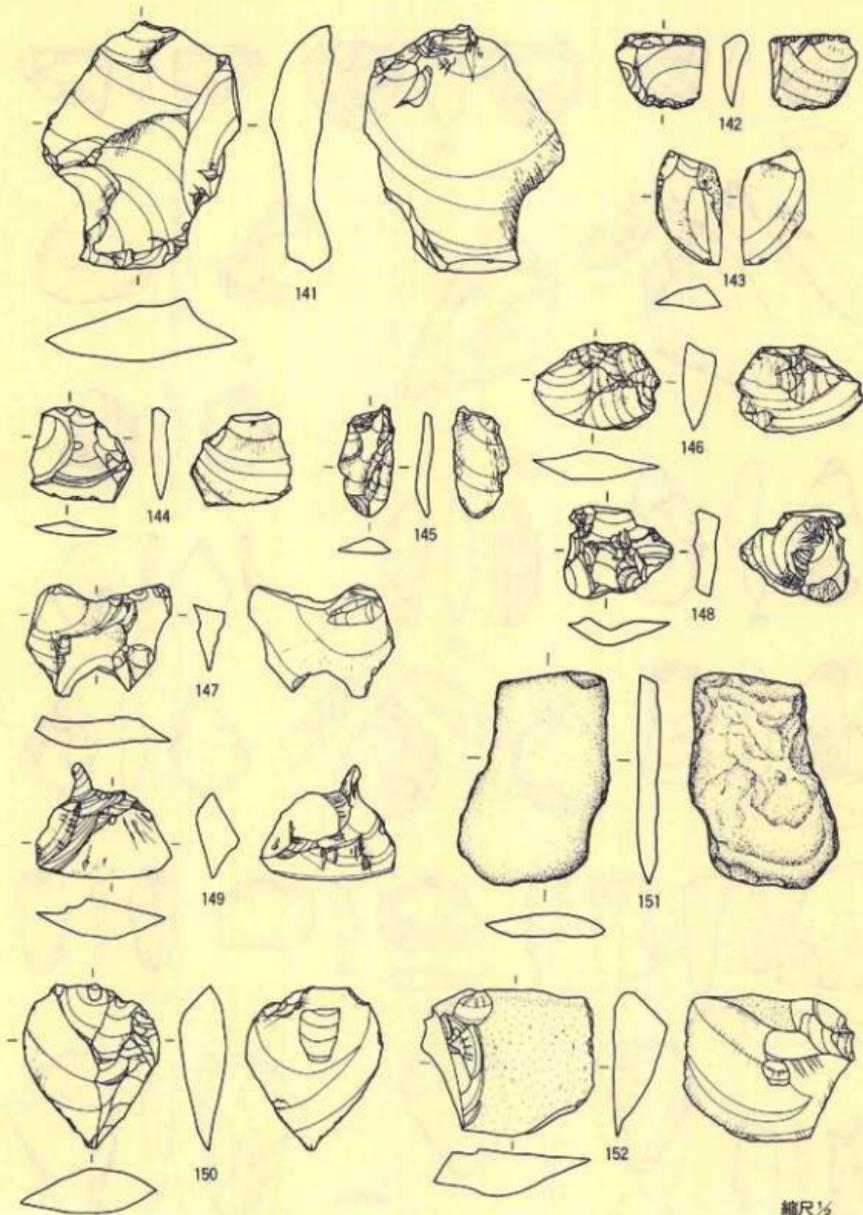


第44圖 遺構外出土石器

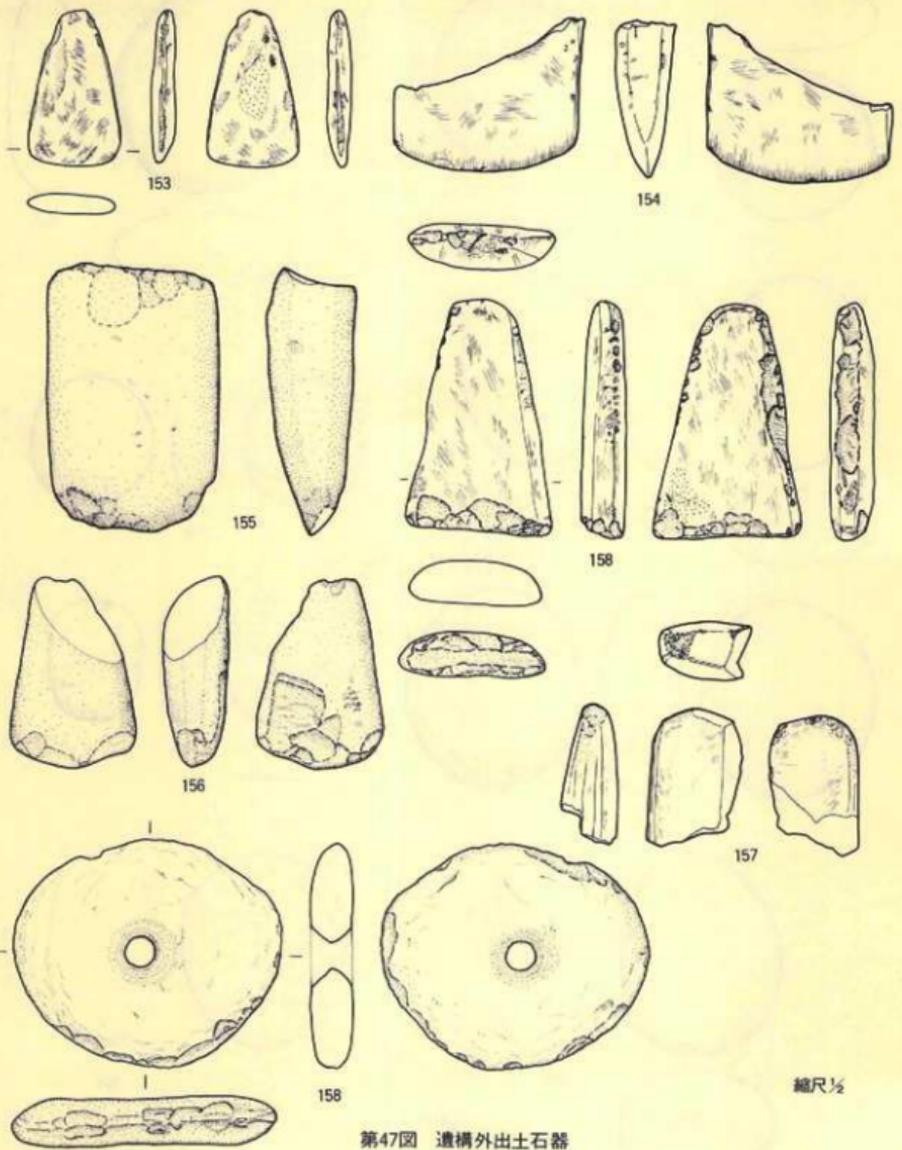
縮尺 $\frac{1}{2}$



第45圖 遺構外出土石器

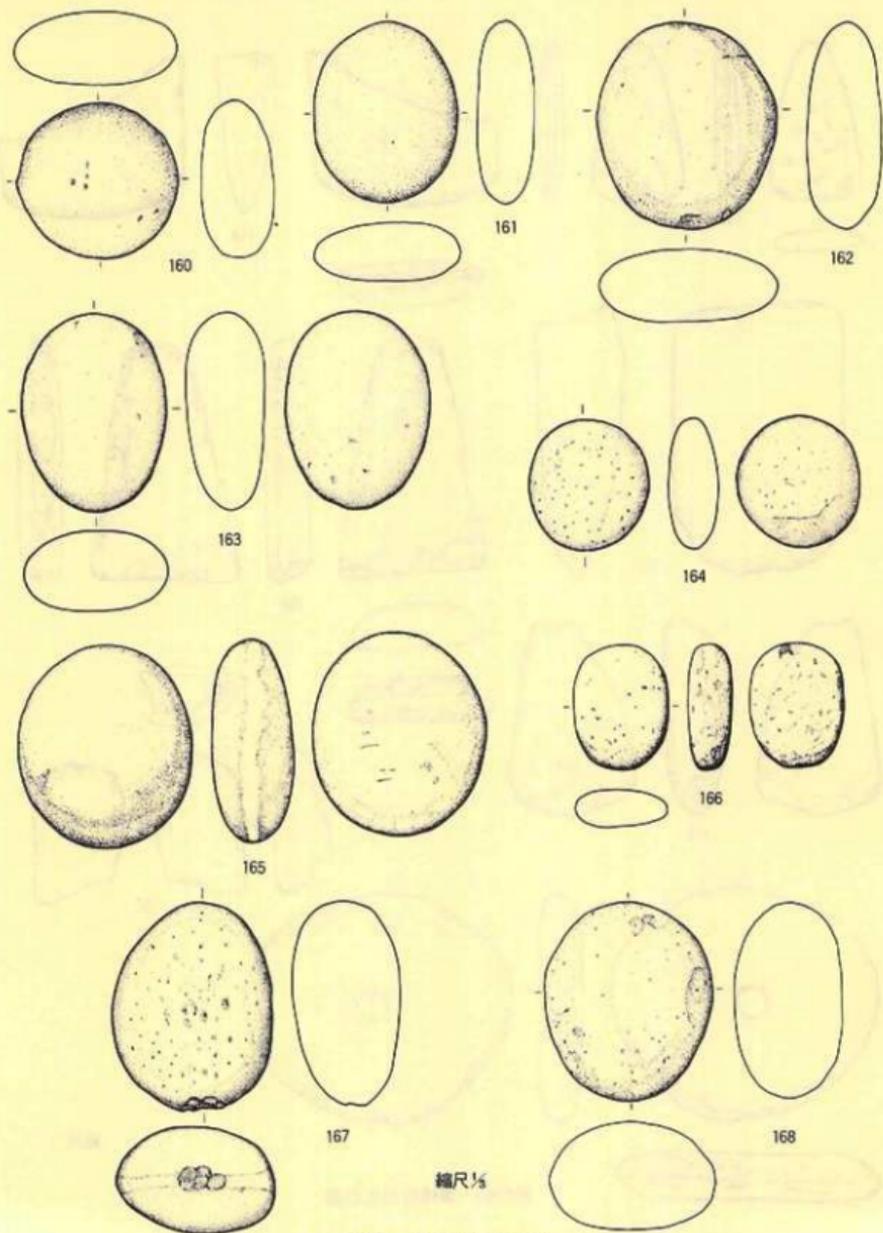


第46圖 遺構外出土石器

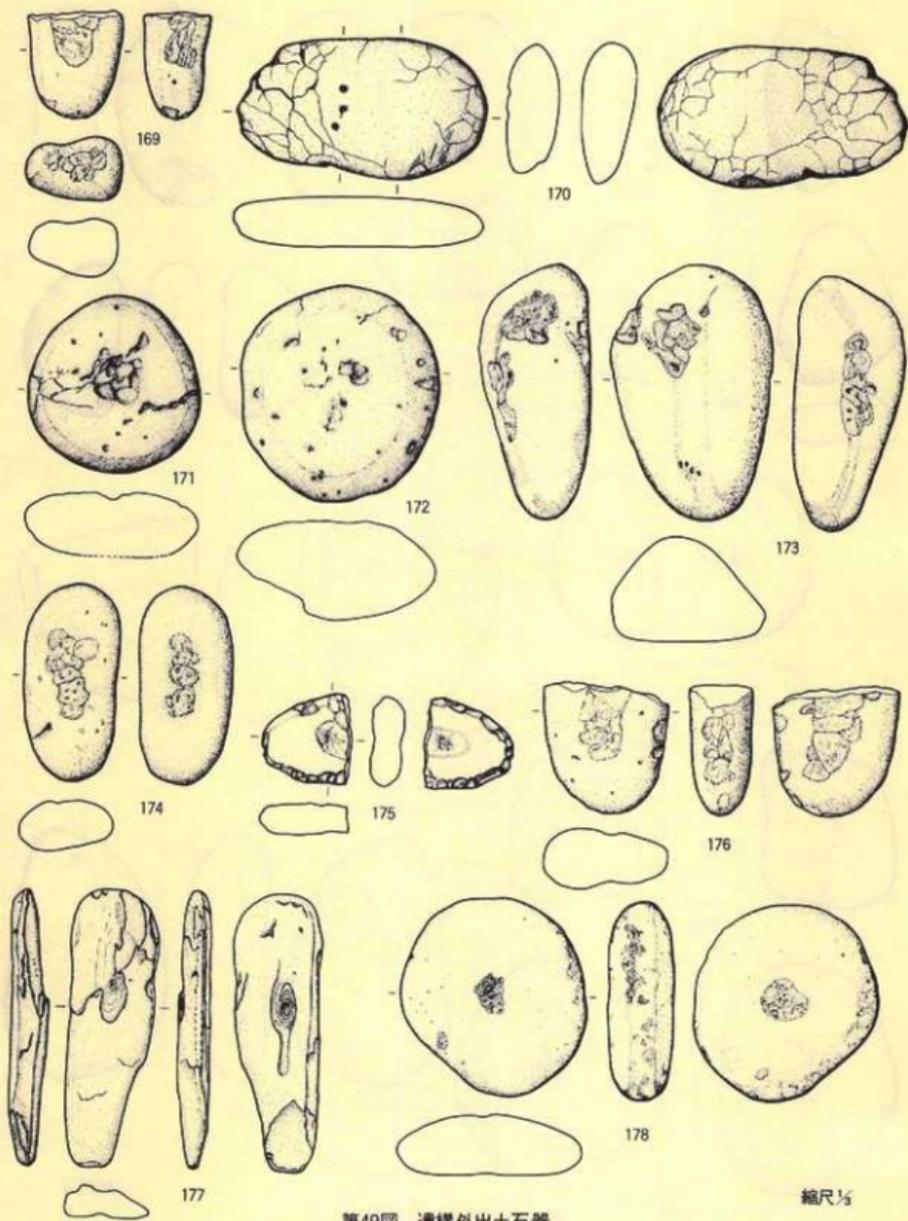


第47圖 遺構外出土石器

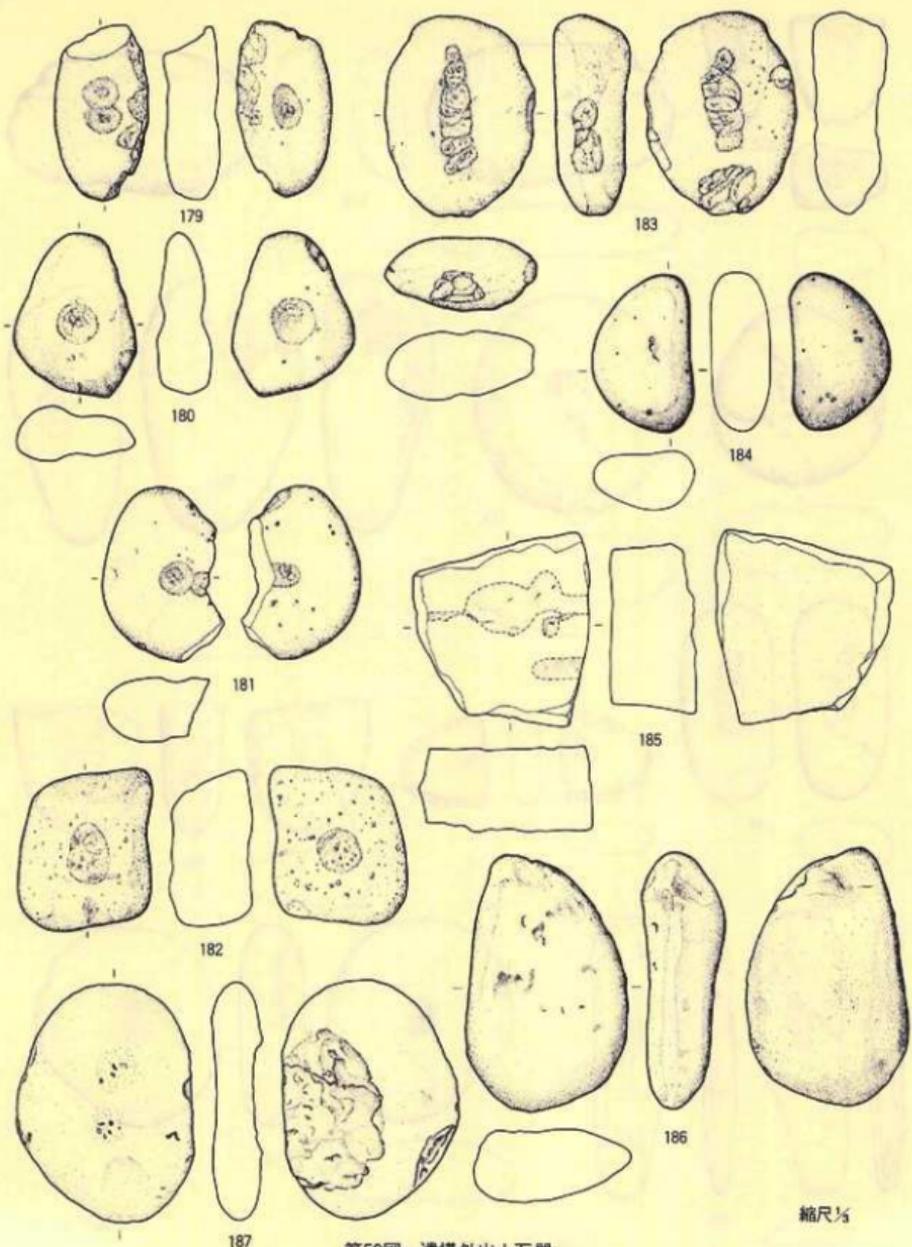
縮尺 $\frac{1}{2}$



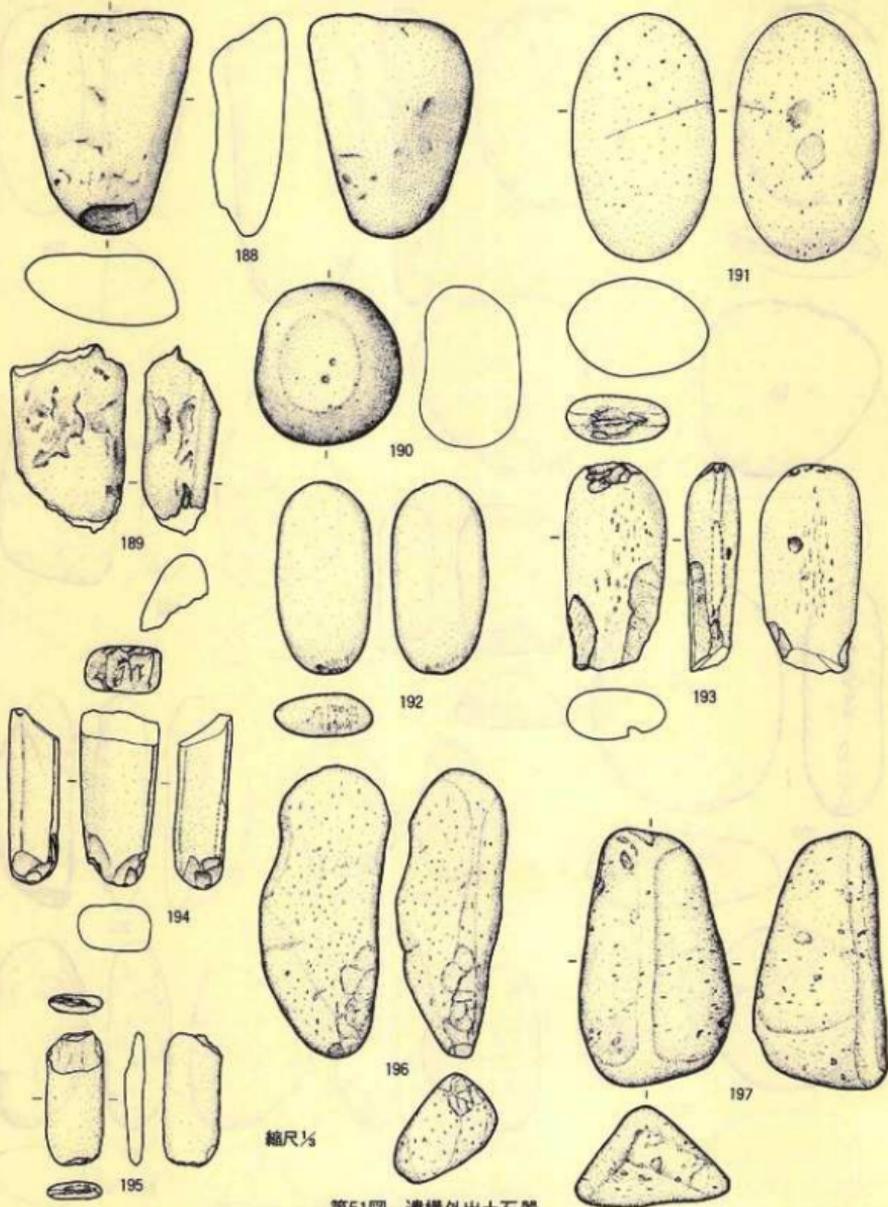
第48圖 遺構外出土石器



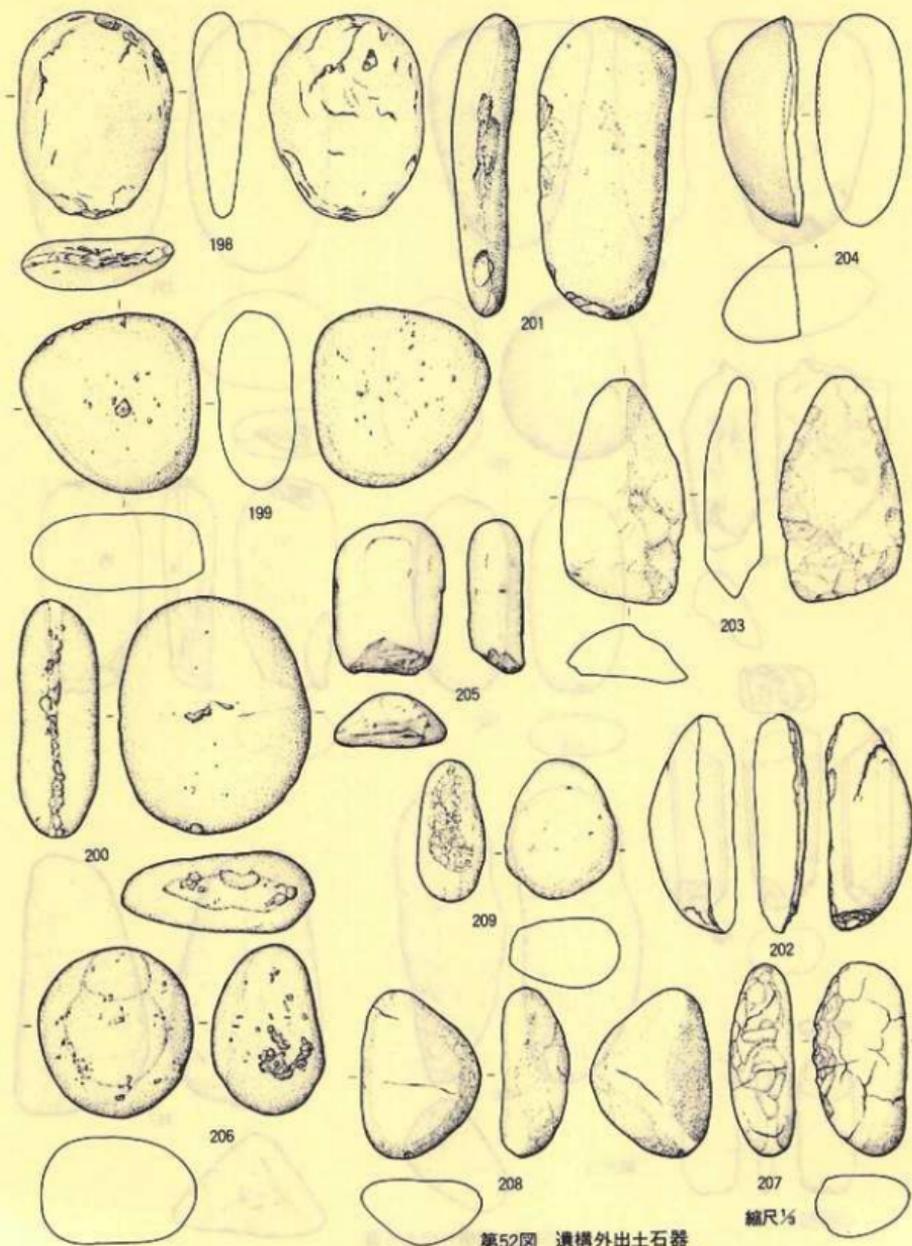
第49圖 遺構外出土石器



第50圖 遺構外出土石器

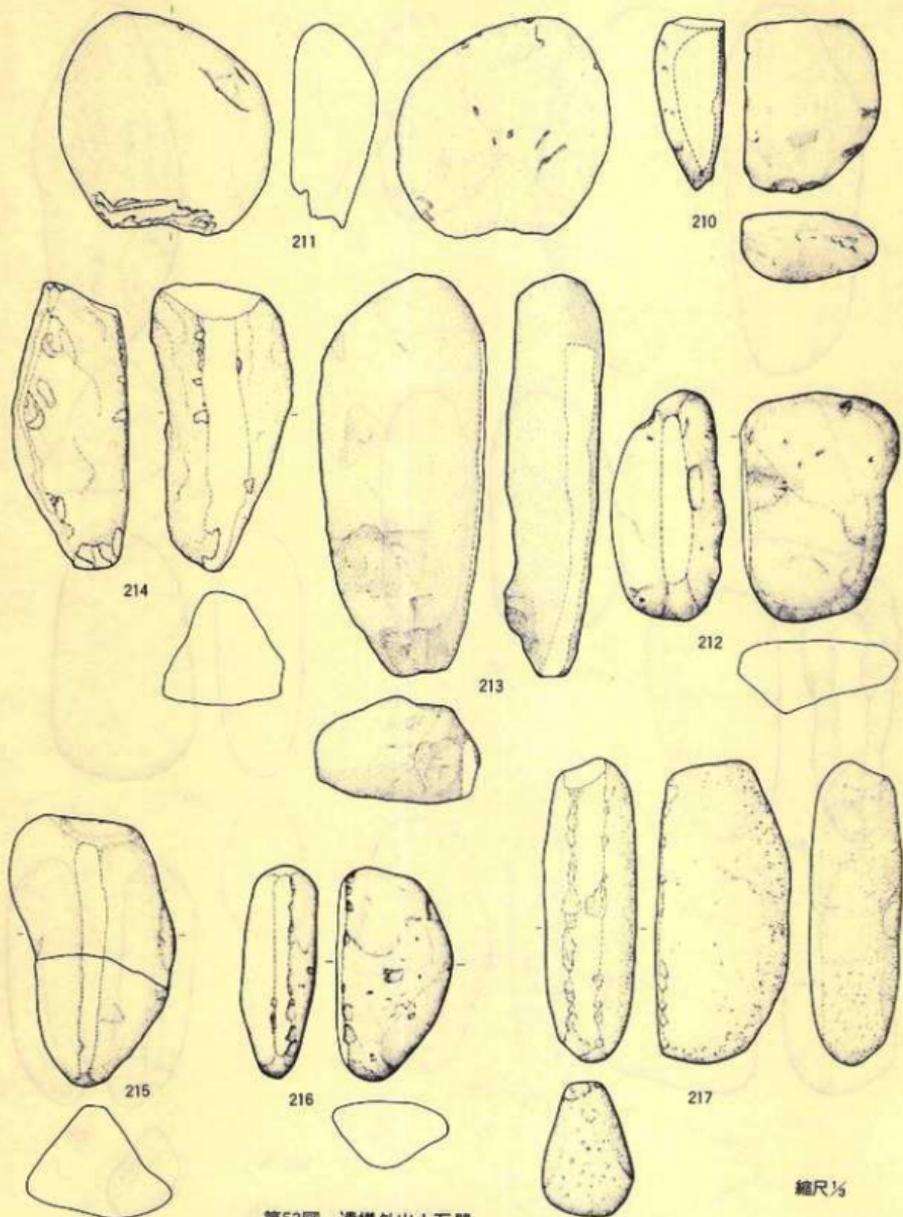


第51圖 遺構外出土石器



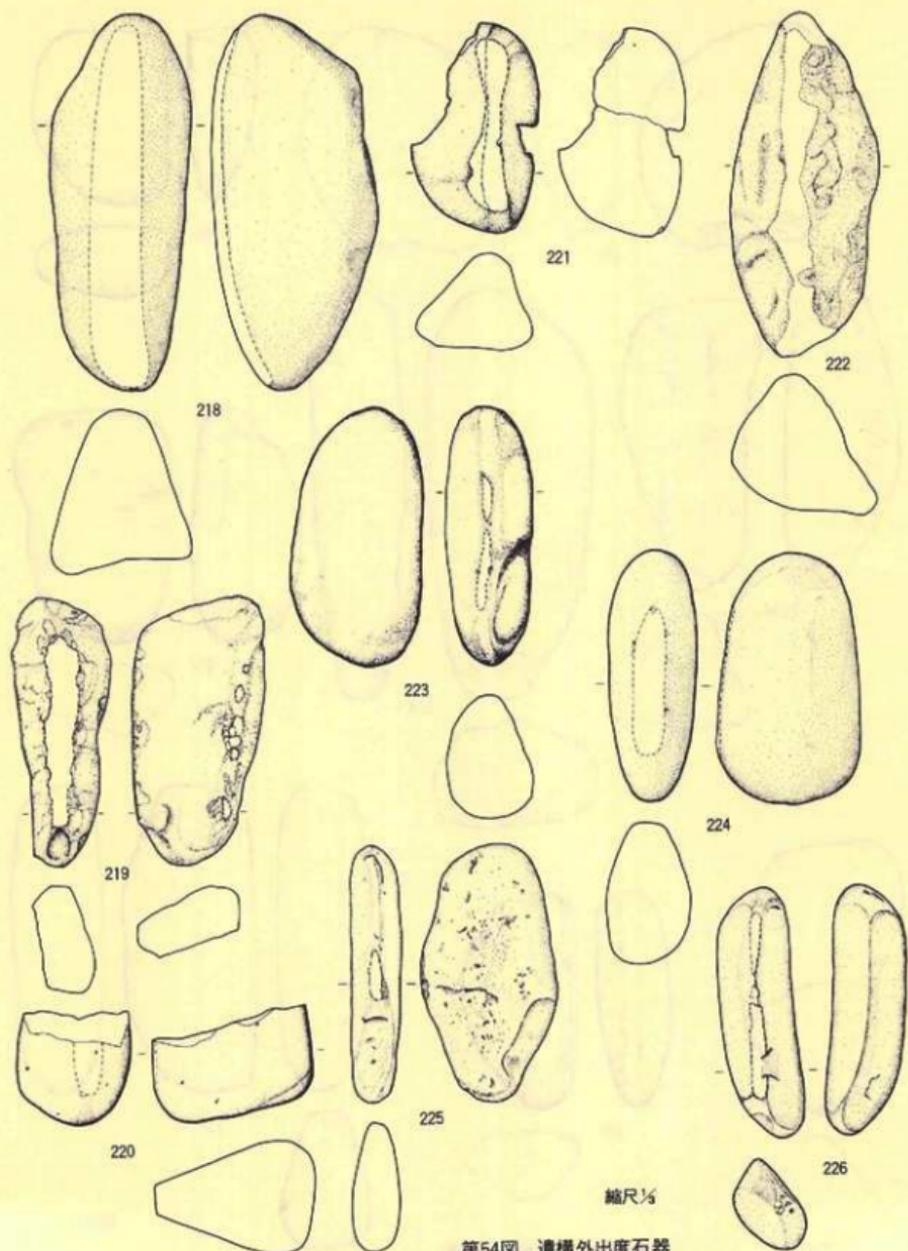
第52圖 遺構外出土石器

縮尺 $\frac{1}{4}$

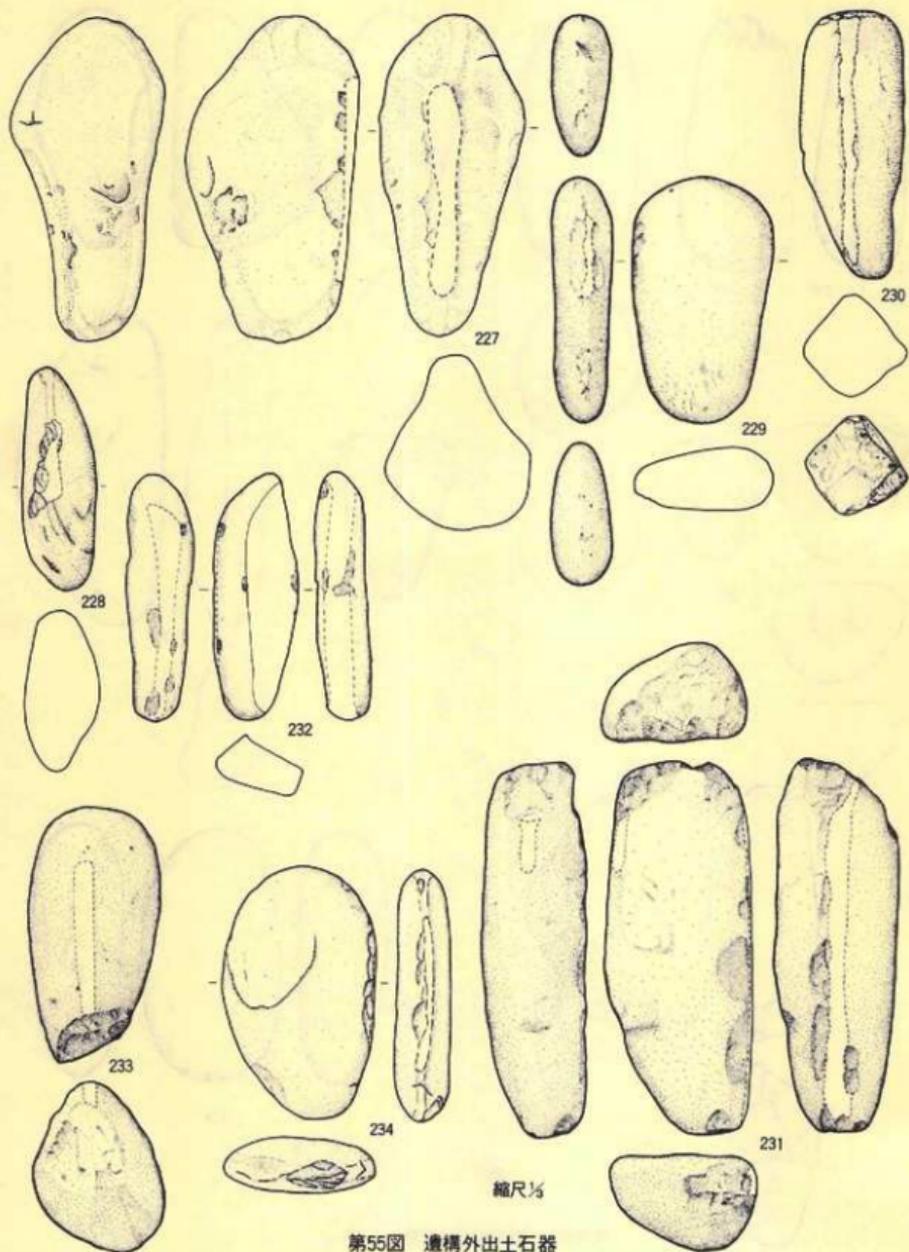


第53圖 遺構外出土石器

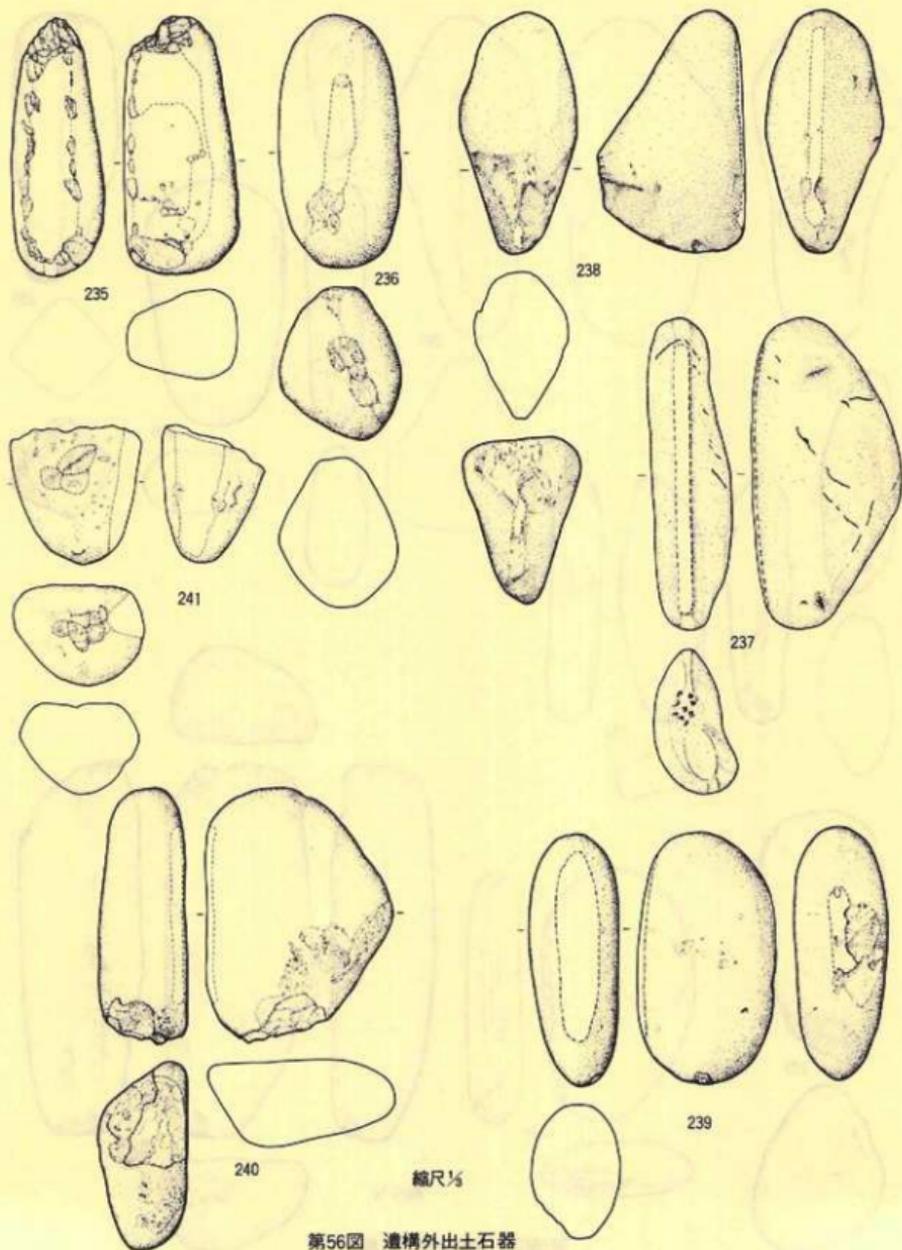
縮尺 $\frac{1}{2}$



第54圖 遺構外出度石器

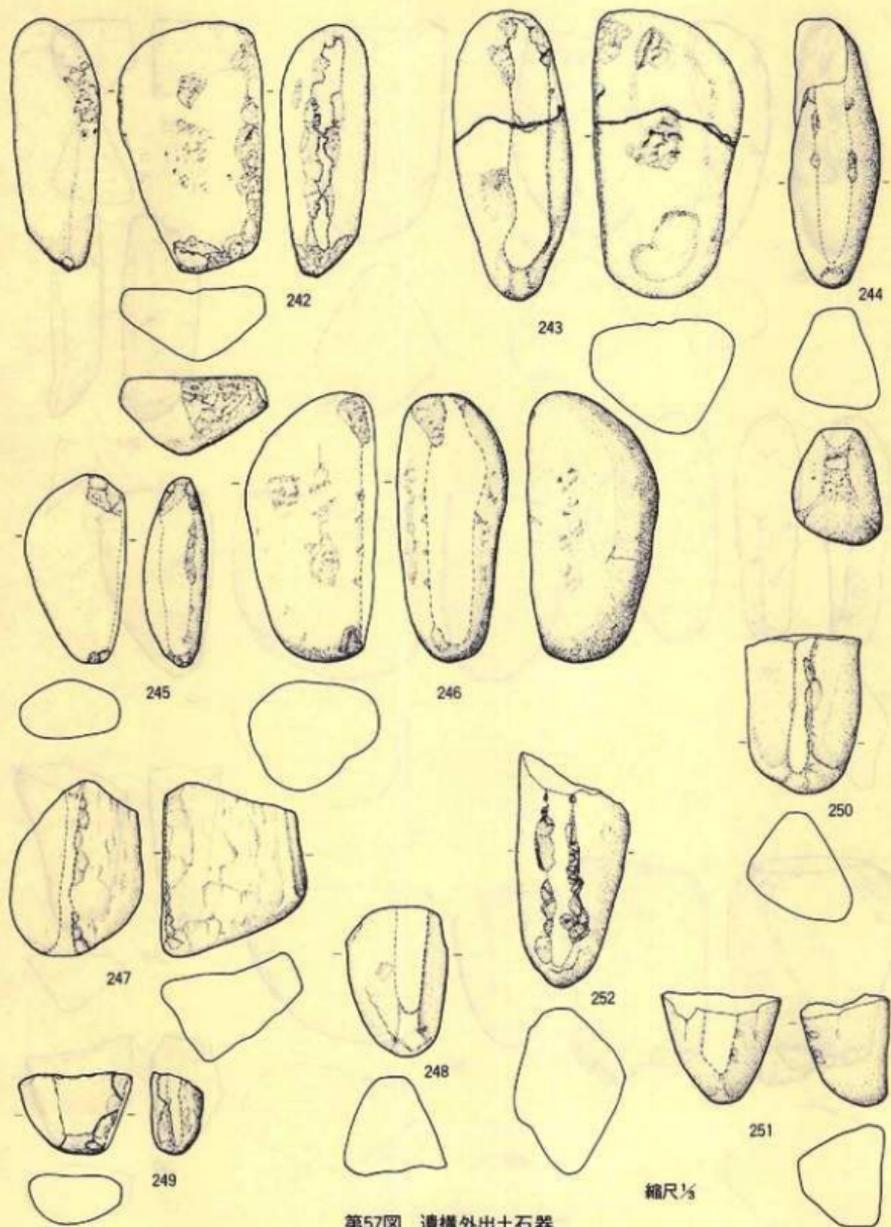


第55圖 遺構外出土石器

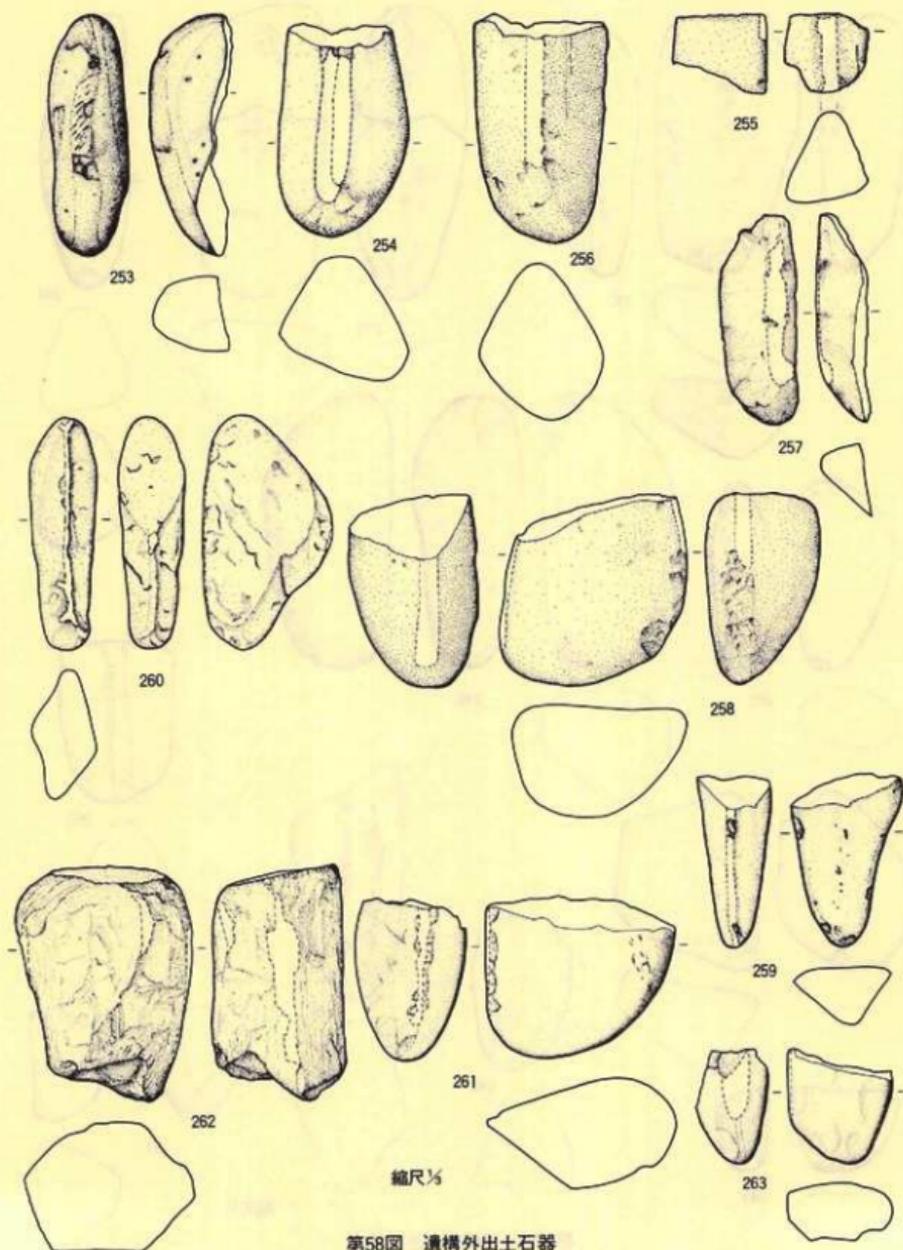


第56圖 遺構外出土石器

縮尺 $\frac{1}{5}$

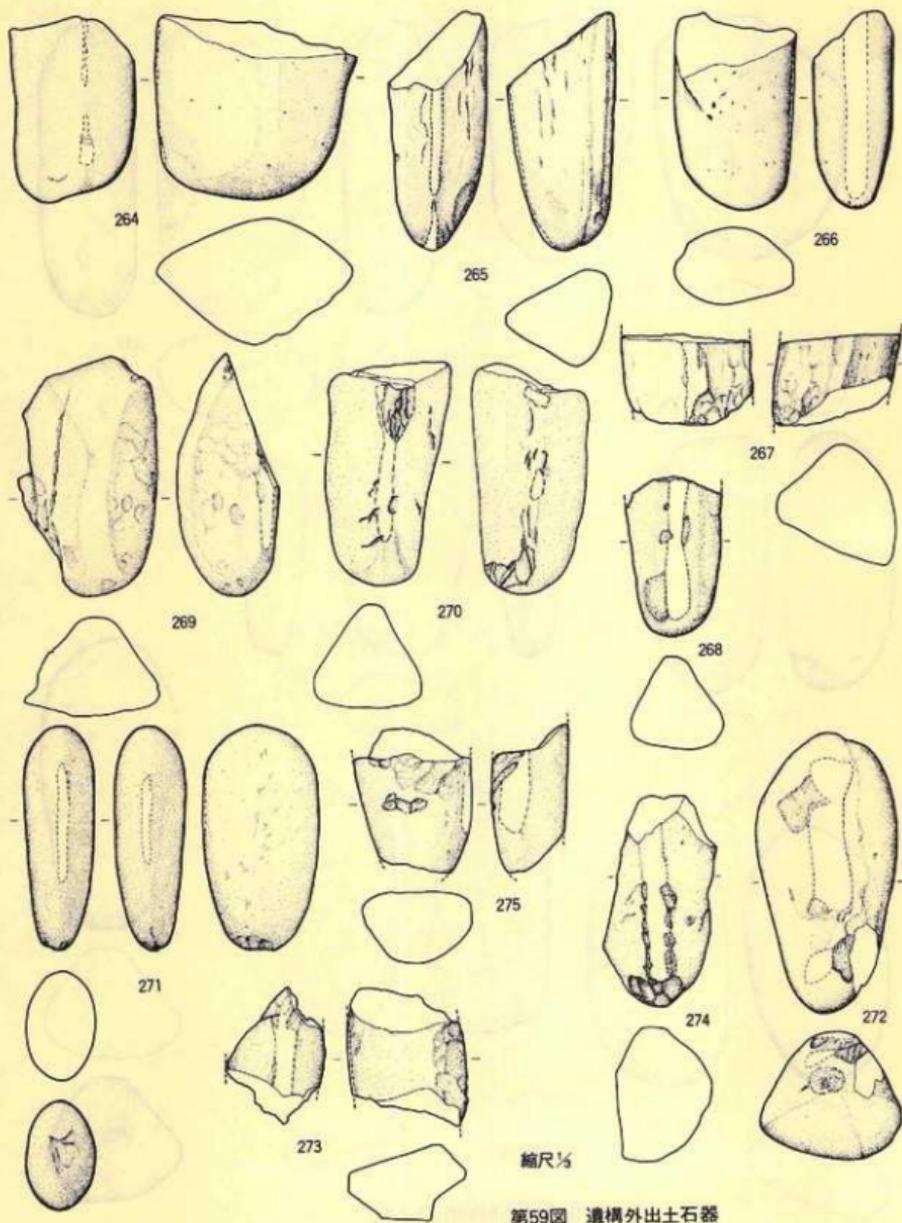


第57圖 遺構外出土石器



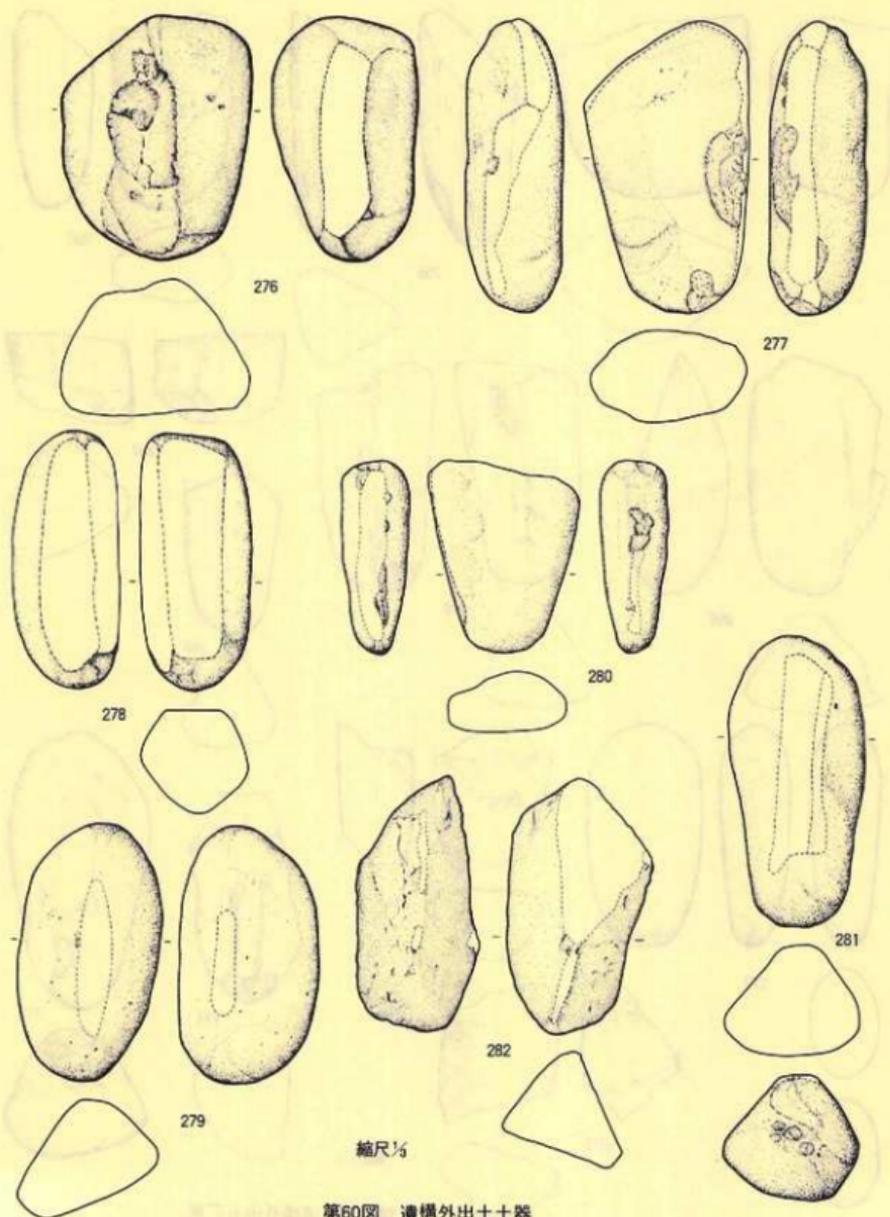
縮尺 $\frac{1}{4}$

第58圖 遺構外出土石器

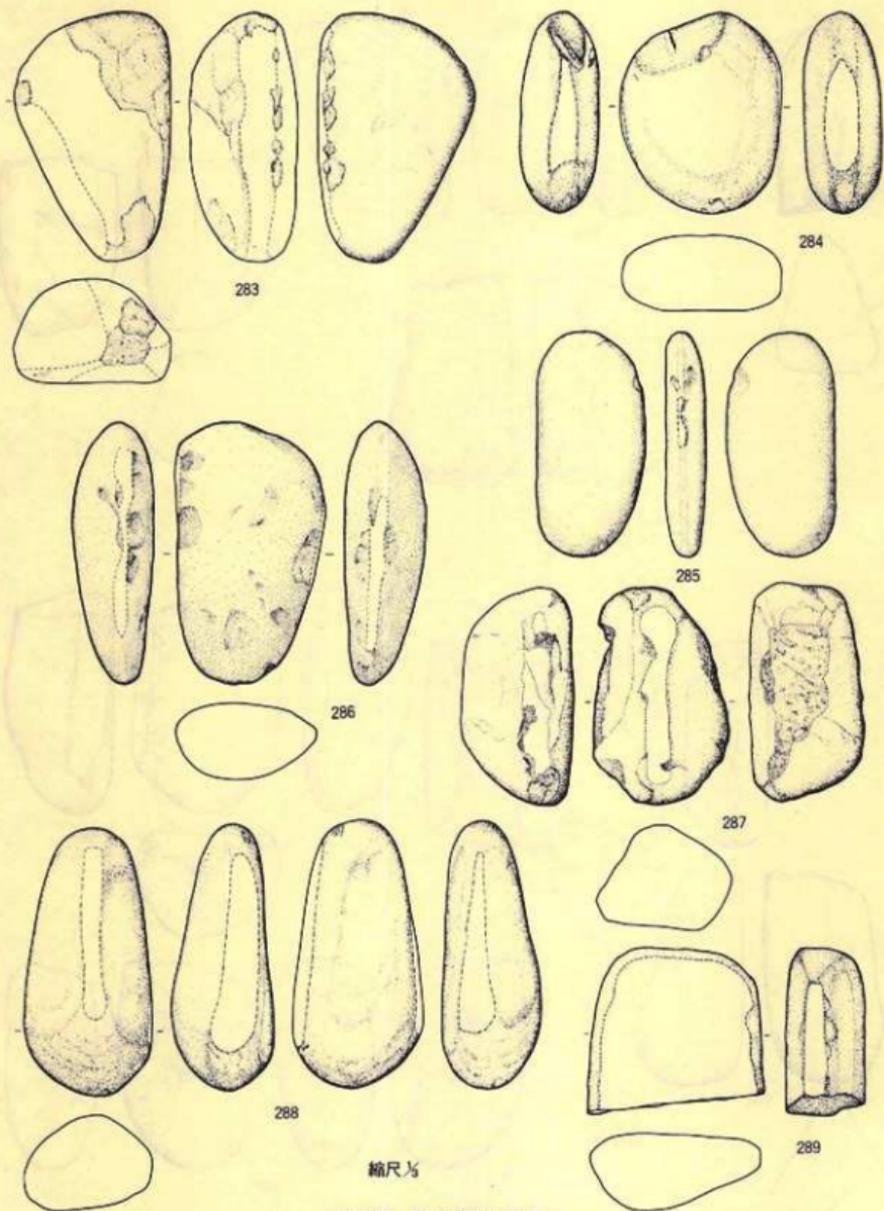


縮尺 $\frac{1}{2}$

第59圖 遺構外出土石器

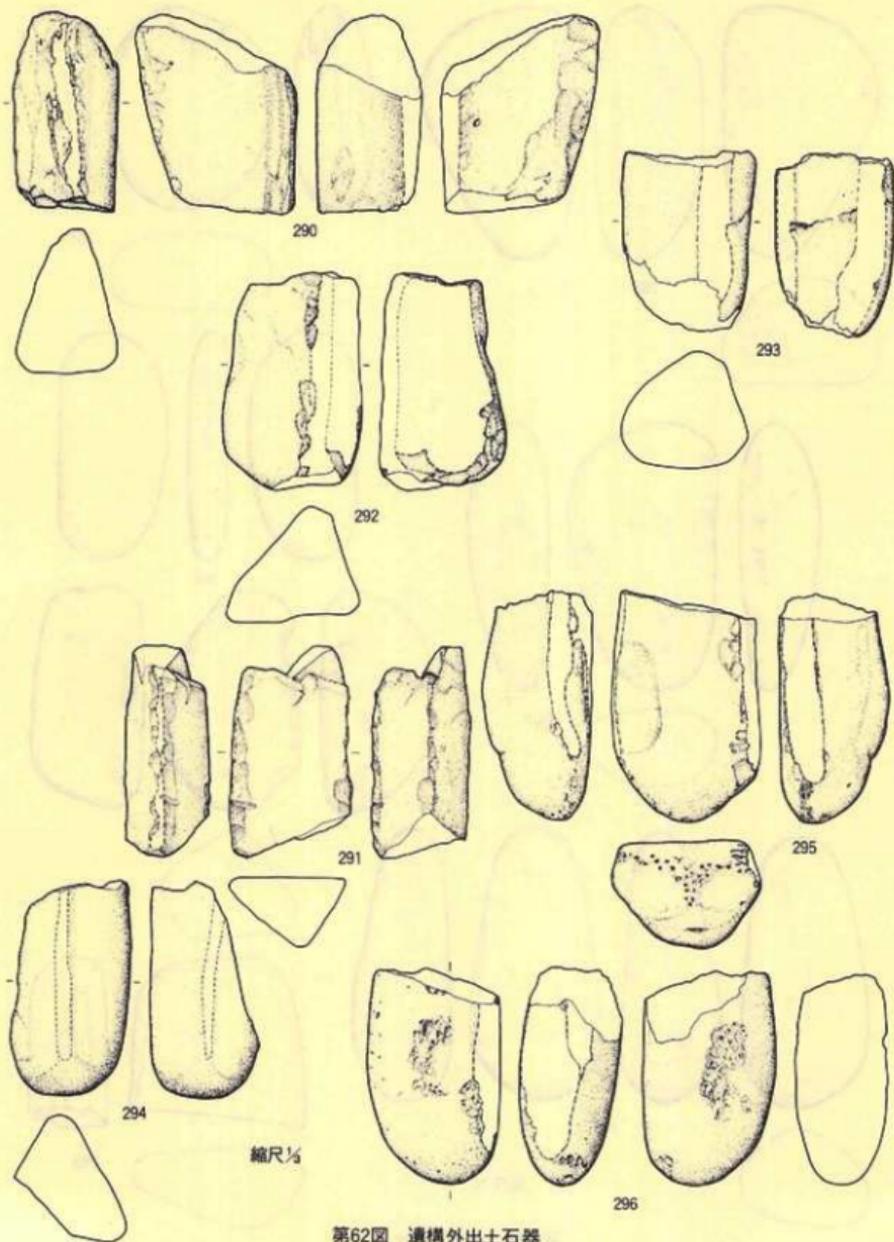


第60圖 遺構外出土土器

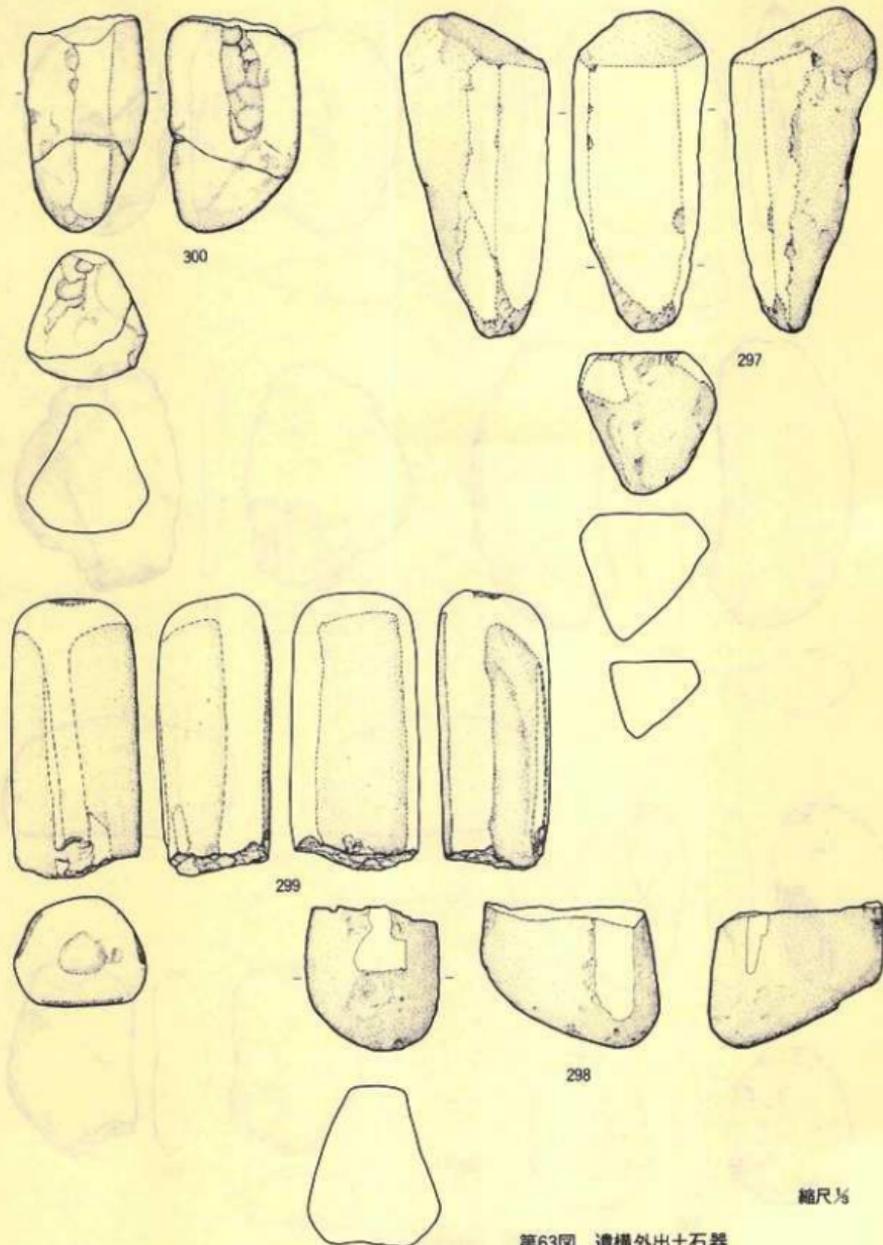


縮尺 1/5

第61圖 遺構外出土石器

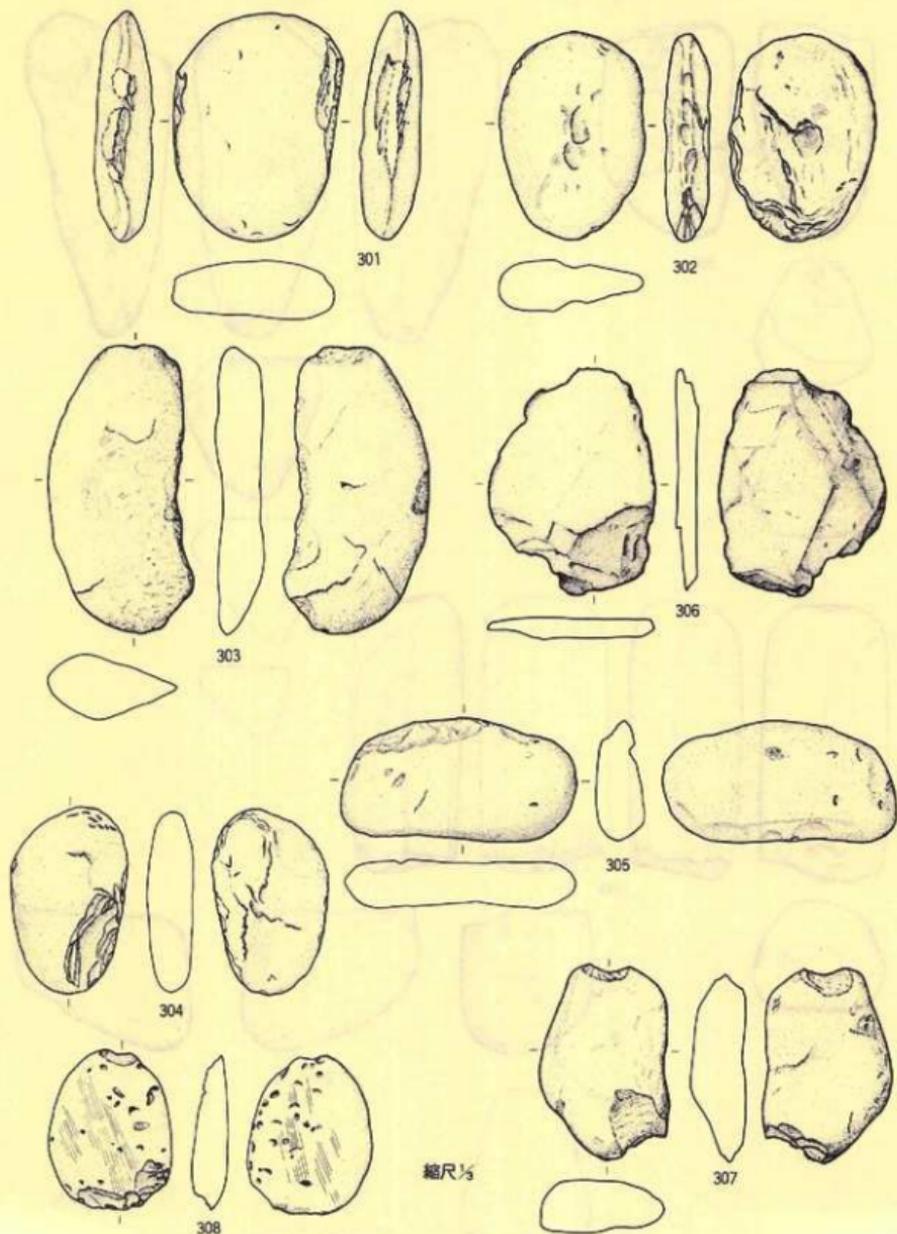


第62圖 遺構外出土石器

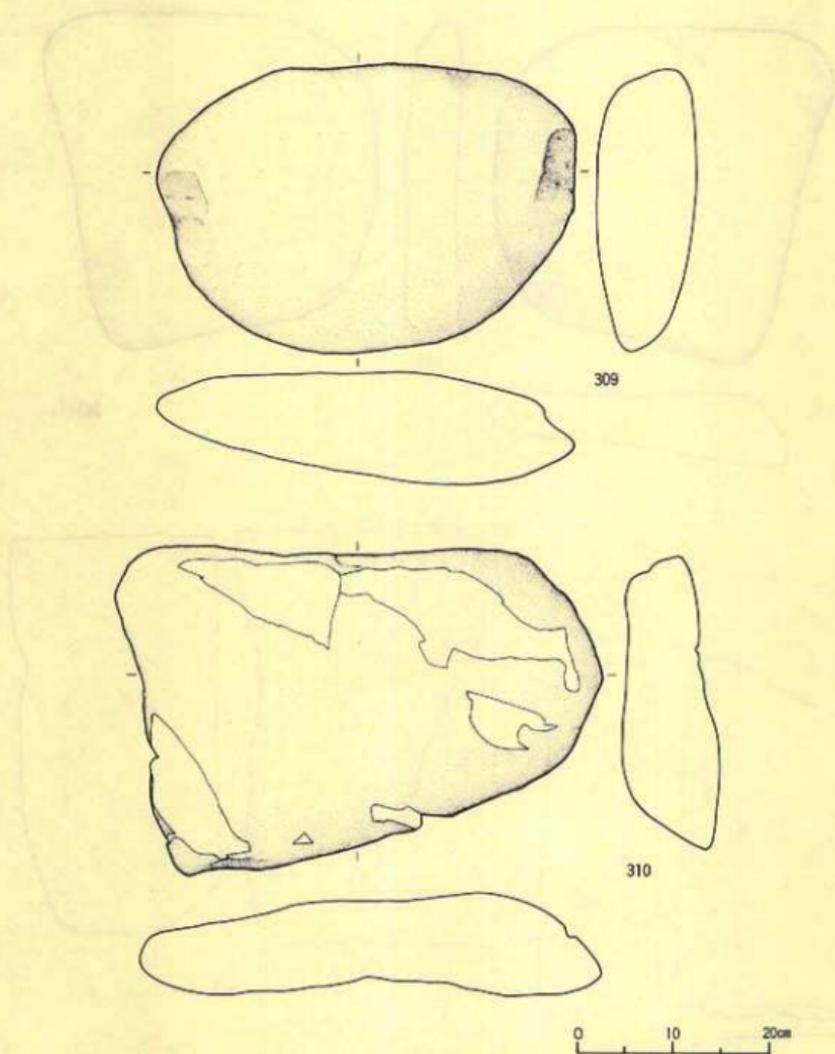


縮尺 1/6

第63圖 遺構外出土石器

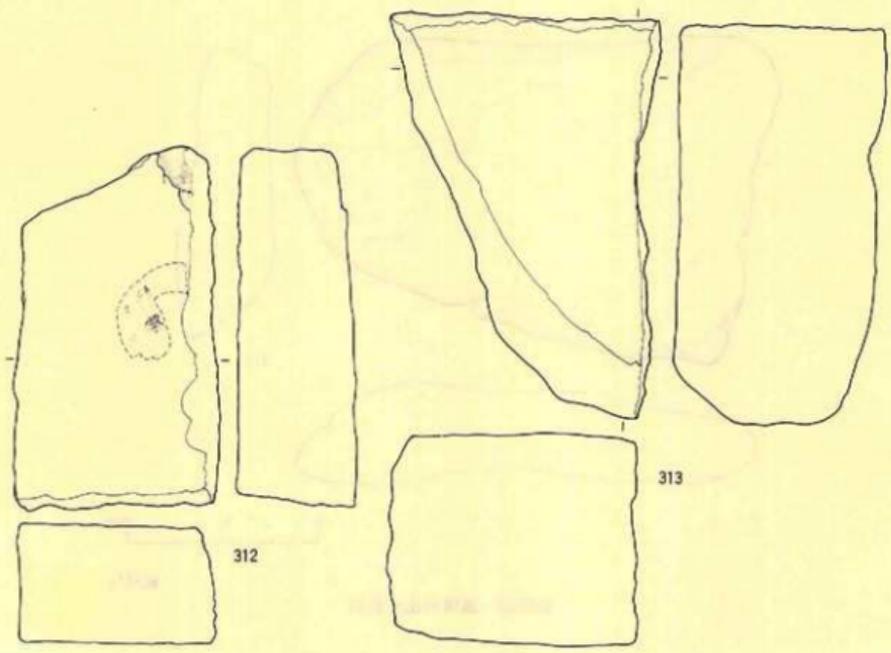
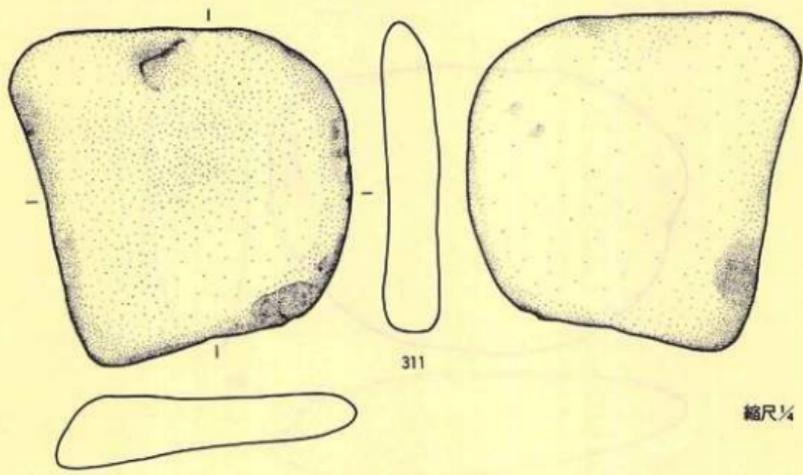


第64圖 濃橋外出土石器

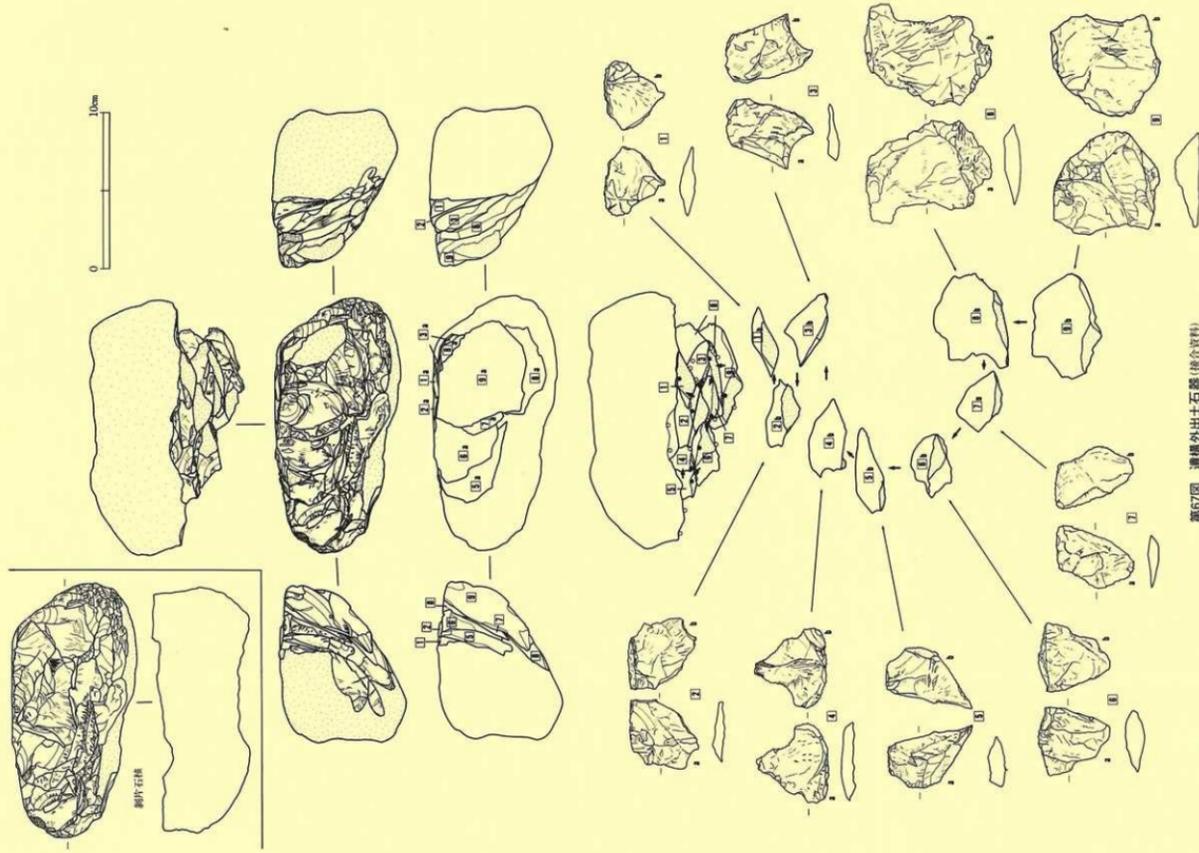


第65圖 遺構外出土石器

縮尺 $\frac{1}{4}$



第66圖 遺構外出土石器



写 真 图 版



写真図版1 通跡空中写真

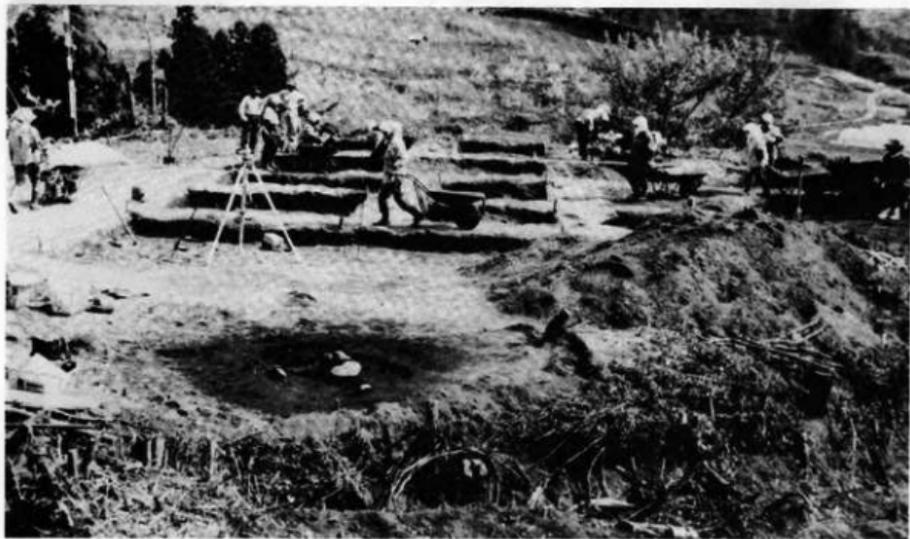


遠景

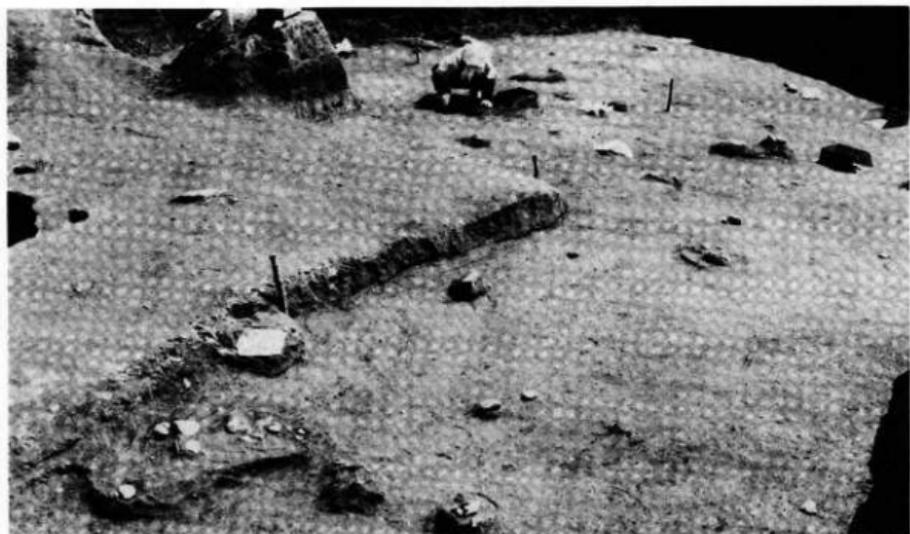


近景

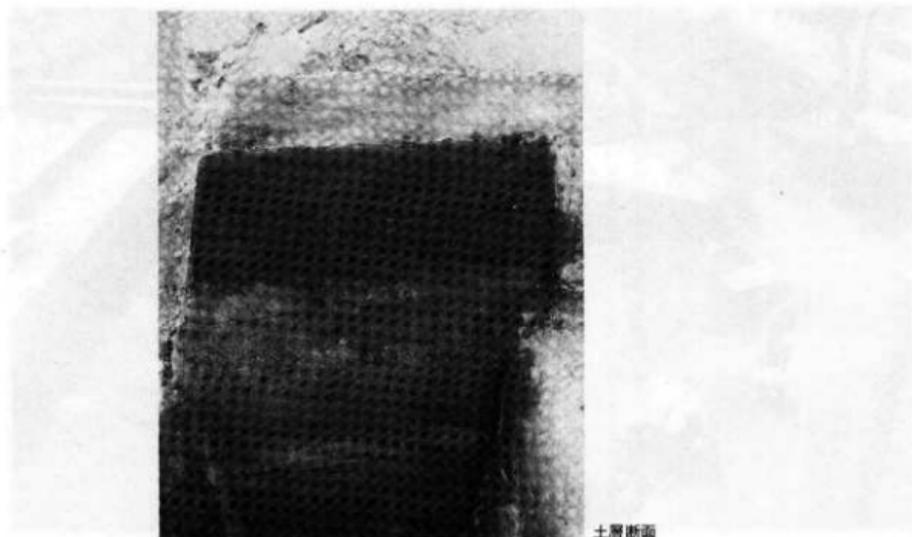
写真図版2 遺跡全景



写真図版3 発掘風景

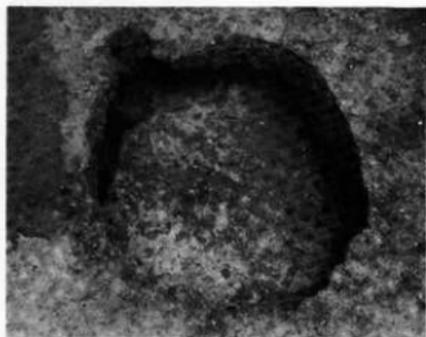


遺物出土状況

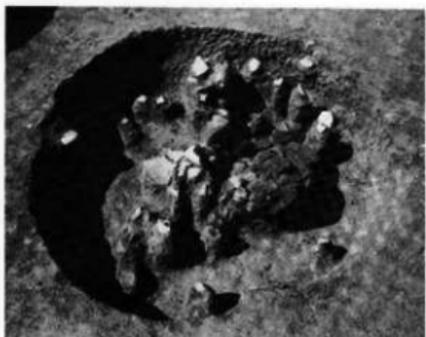


土層断面

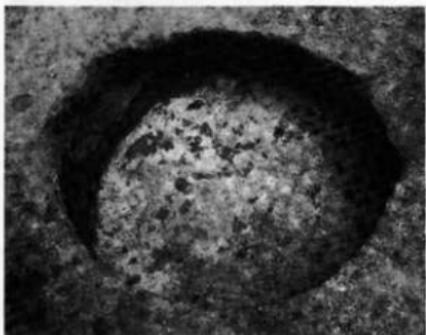
写真図版4 遺物出土状況、土層断面



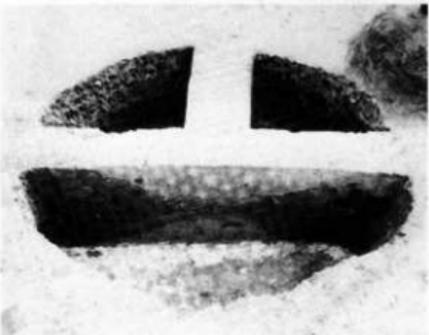
55ビット



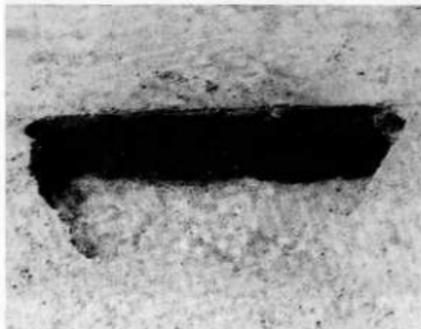
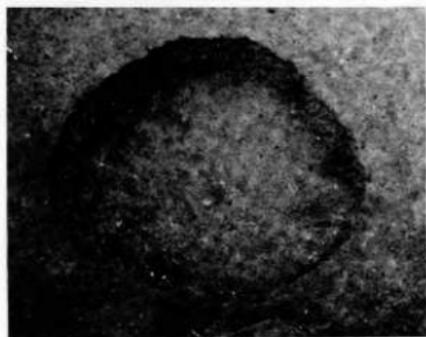
59ビット



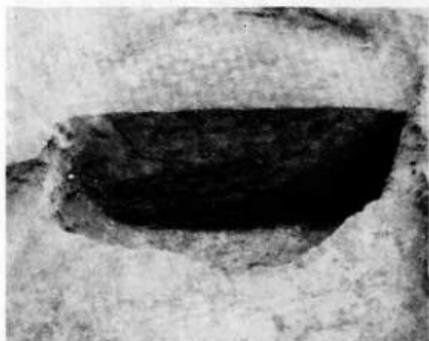
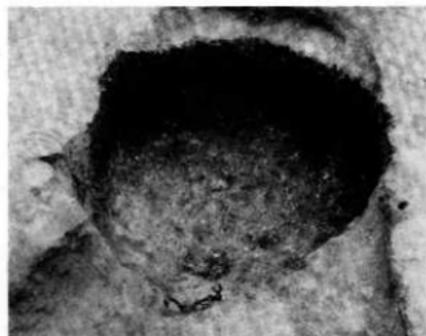
53ビット



写真図版5 ビット



56ビット



51ビット

写真図版6 ビット



57.58ピット 104陥し穴状遺構



埋土断面(上部)

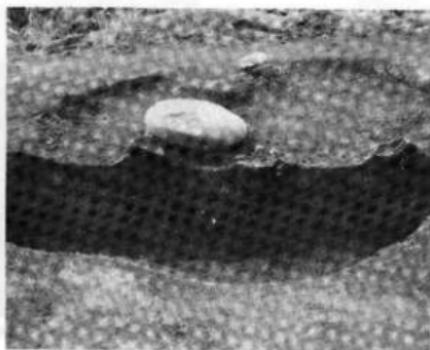


埋土断面(下部)

写真図版7 ピット、陥し穴状遺構



101 炉址平面

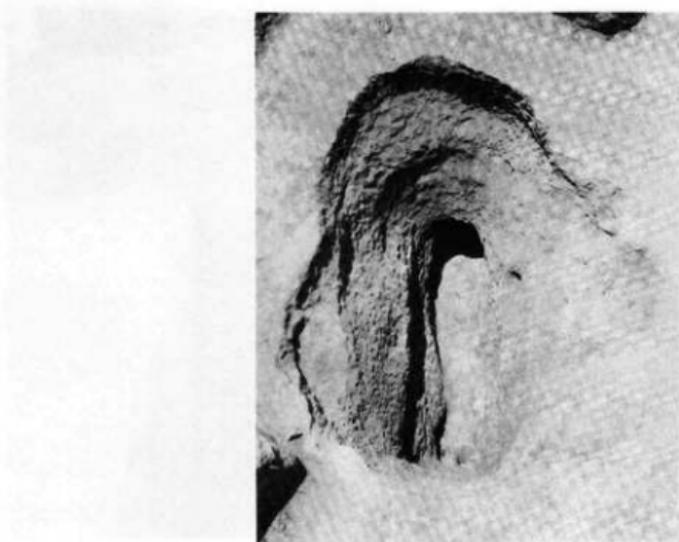


101 炉址断面

写真图版 8 炉址

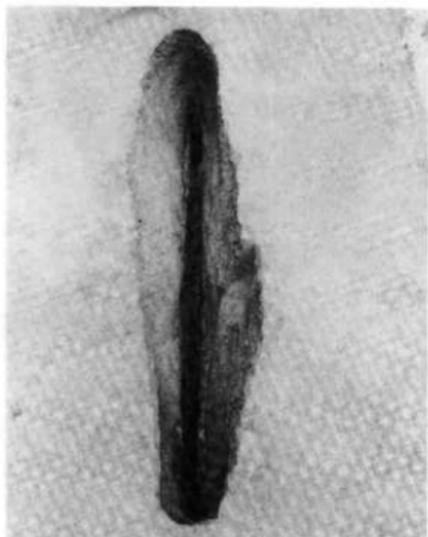


102陥し穴状遺構

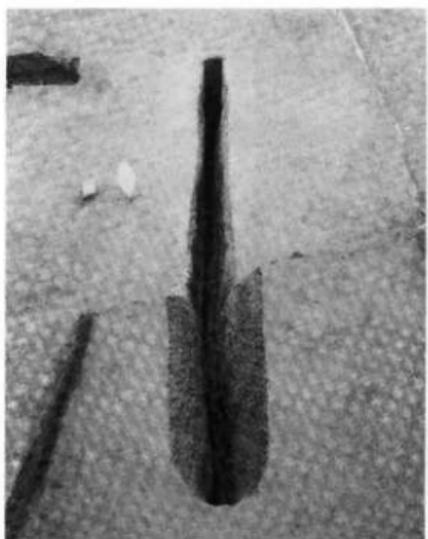


103陥し穴状遺構

写真図版9 陥し穴状遺構

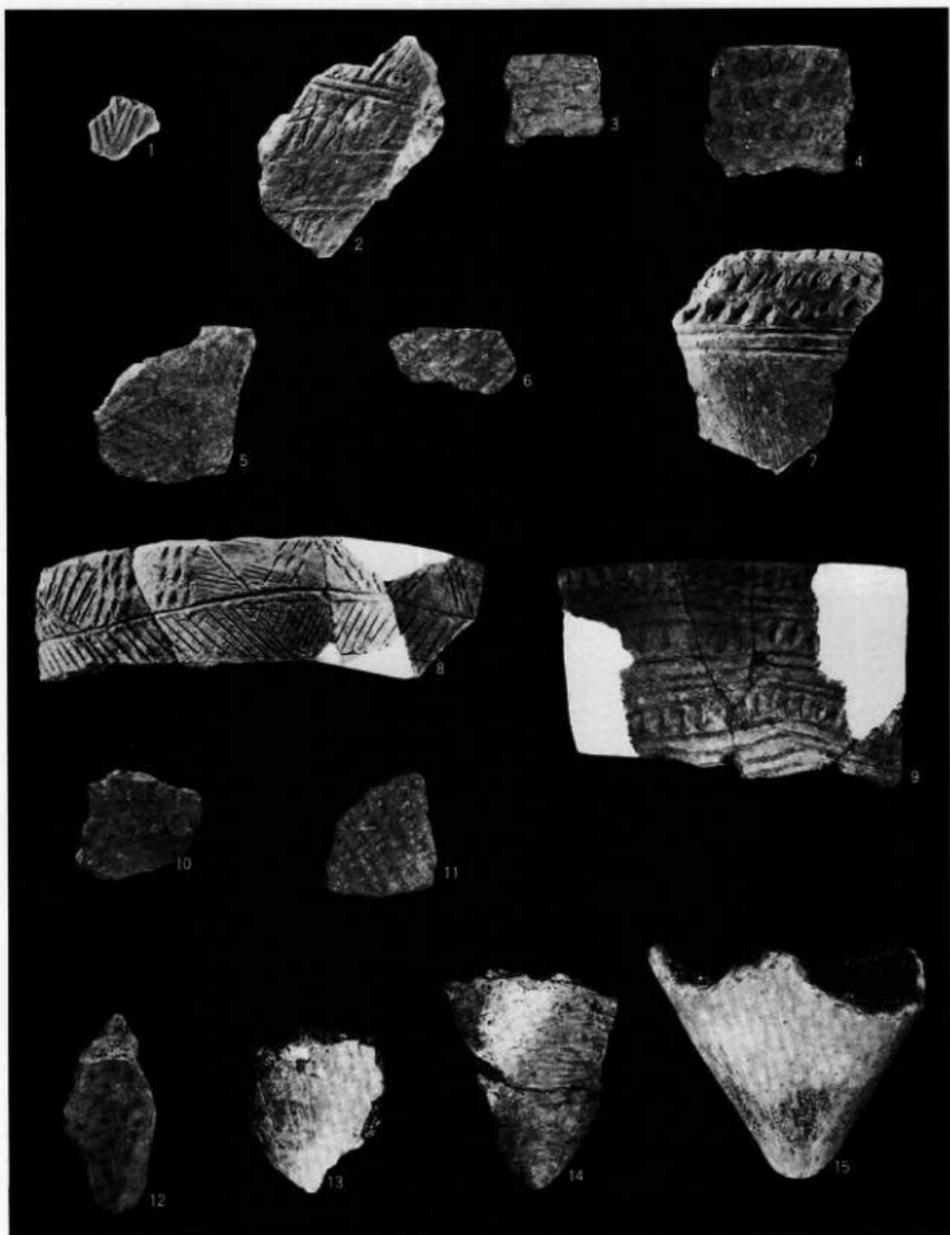


106陥し穴状遺構



107陥し穴状遺構

写真図版10 陥し穴状遺構



写真図版11 55ピット出土遺物

縮尺 1、2約 $\frac{2}{3}$
他約 $\frac{1}{2}$



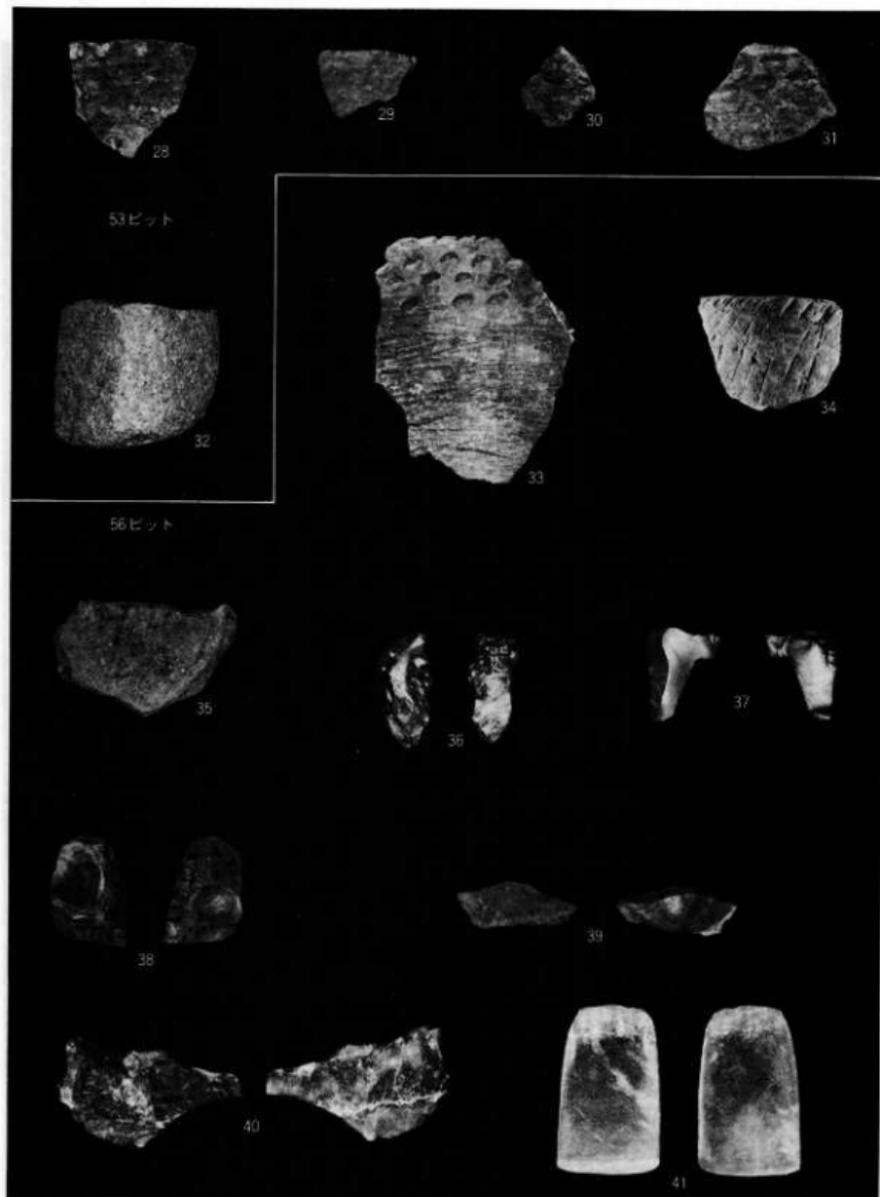
写真図版12 55、59ピット出土遺物

縮尺 21、22約 $\frac{1}{4}$
他約 $\frac{1}{2}$

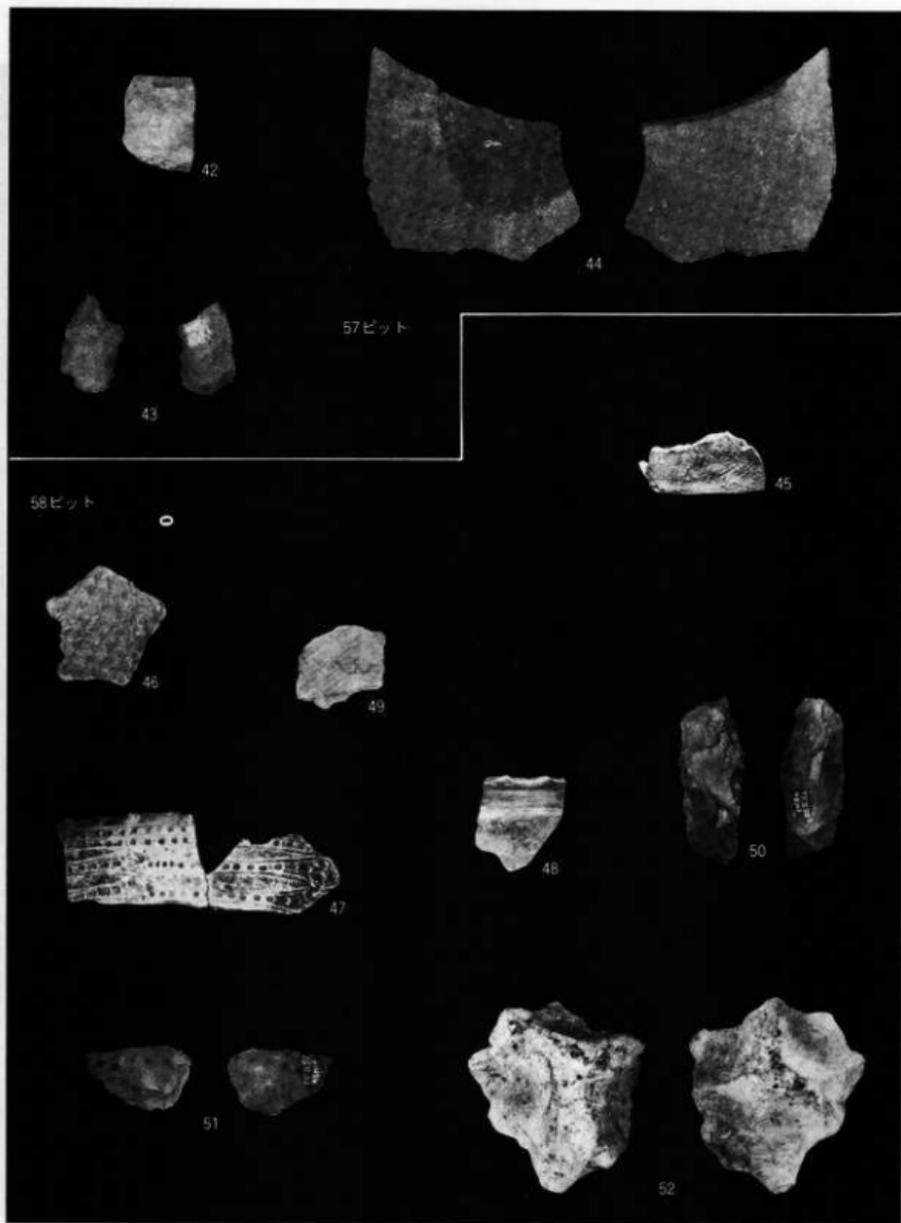


写真図版13 59ピット出土遺物

縮尺 約 $\frac{1}{2}$

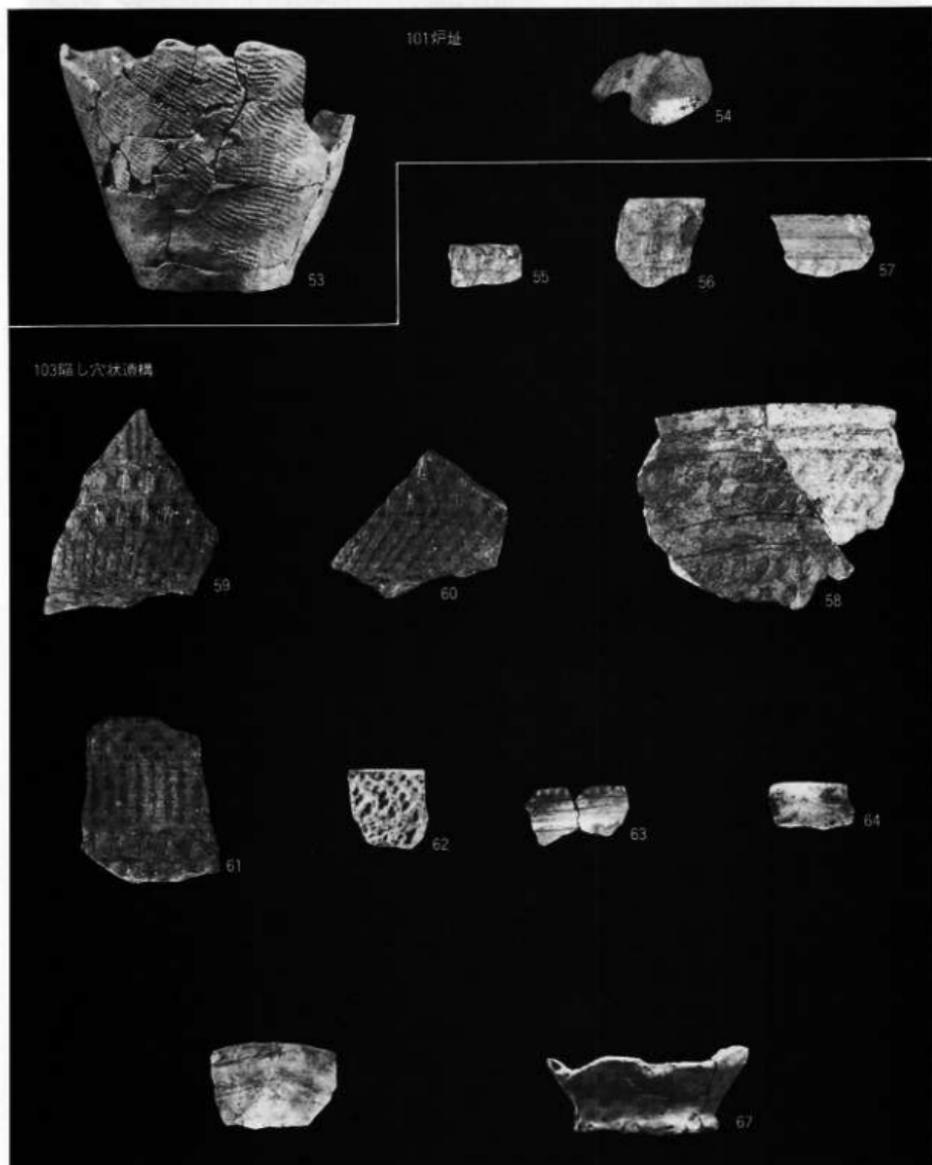


写真図版14 53、56ピット出土遺物

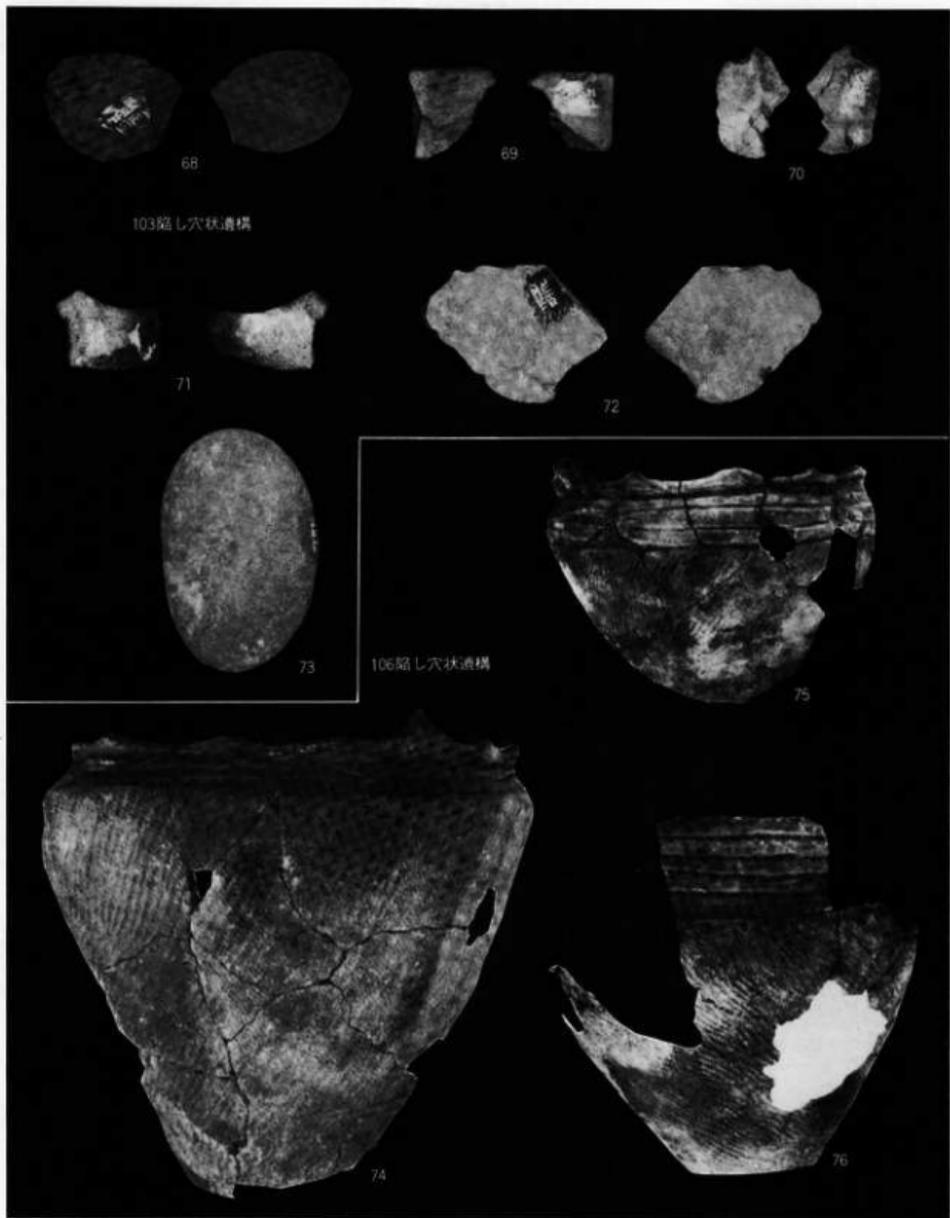


写真図版15 57、58ピット出土遺物

縮尺 45、47~49約1/3
他約2/3

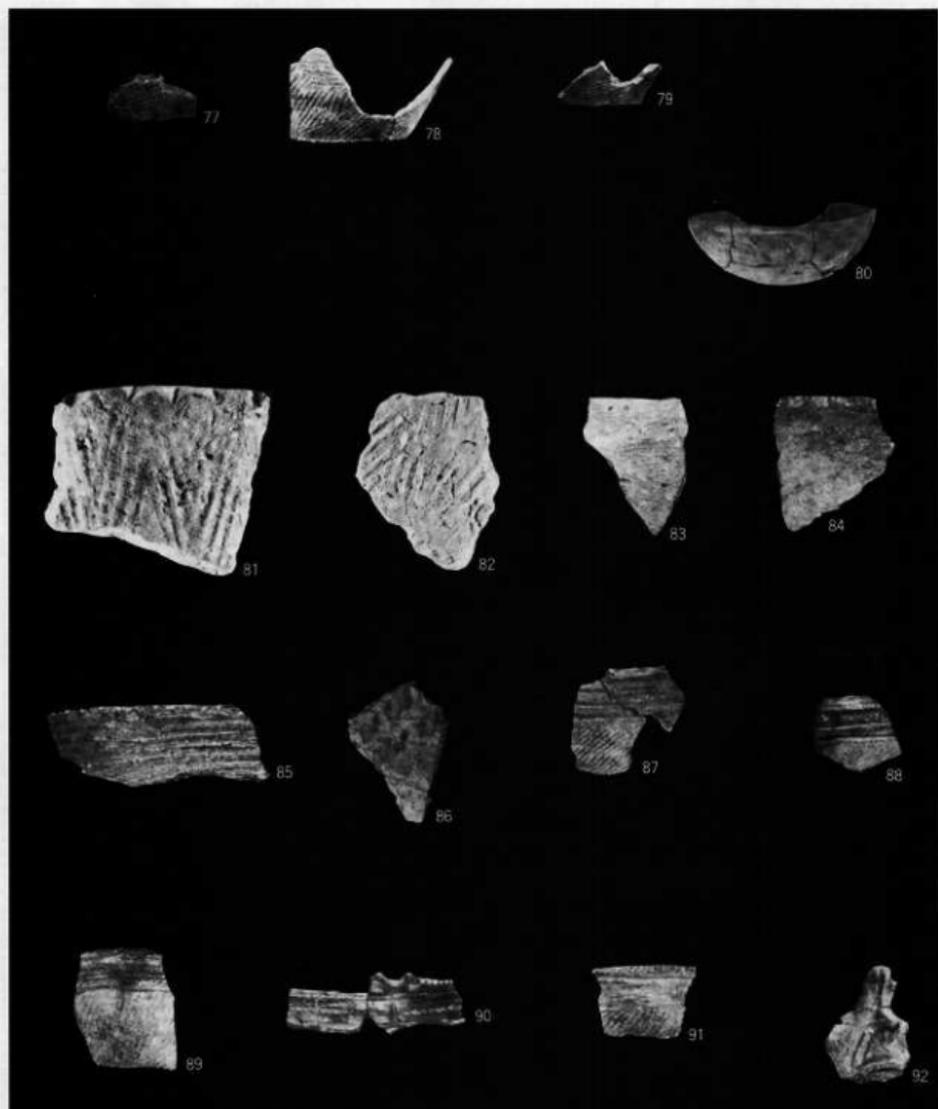


写真図版16 101炉址、103陥し穴状遺構出土遺物 縮尺 53、62~67約 $\frac{1}{5}$
他約 $\frac{1}{2}$



写真図版17 103、106陥し穴状遺構出土遺物

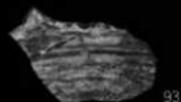
縮尺 73~76約 $\frac{1}{3}$
他約 $\frac{1}{2}$



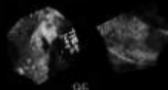
縮尺 77~80、87~92約 $\frac{1}{2}$
縮尺 81、82約 $\frac{2}{3}$ 、83~86約 $\frac{1}{2}$

写真図版18 106陥し穴状遺構出土遺物

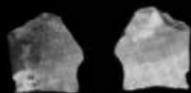
106陥し穴状遺構



93



95



96



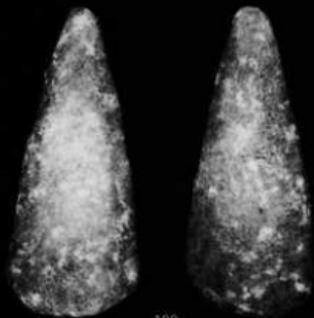
97



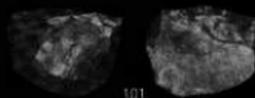
98



99



100

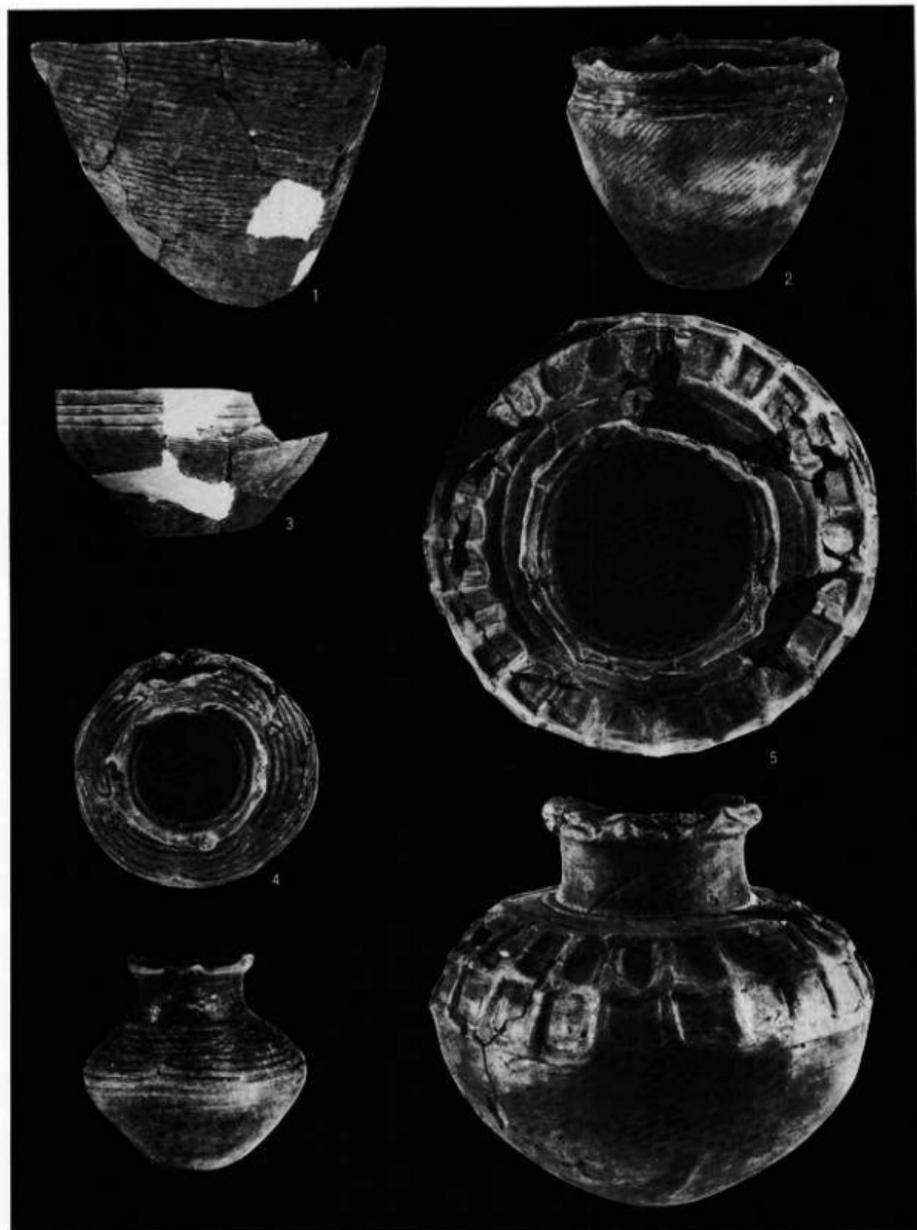


101

写真なし、94

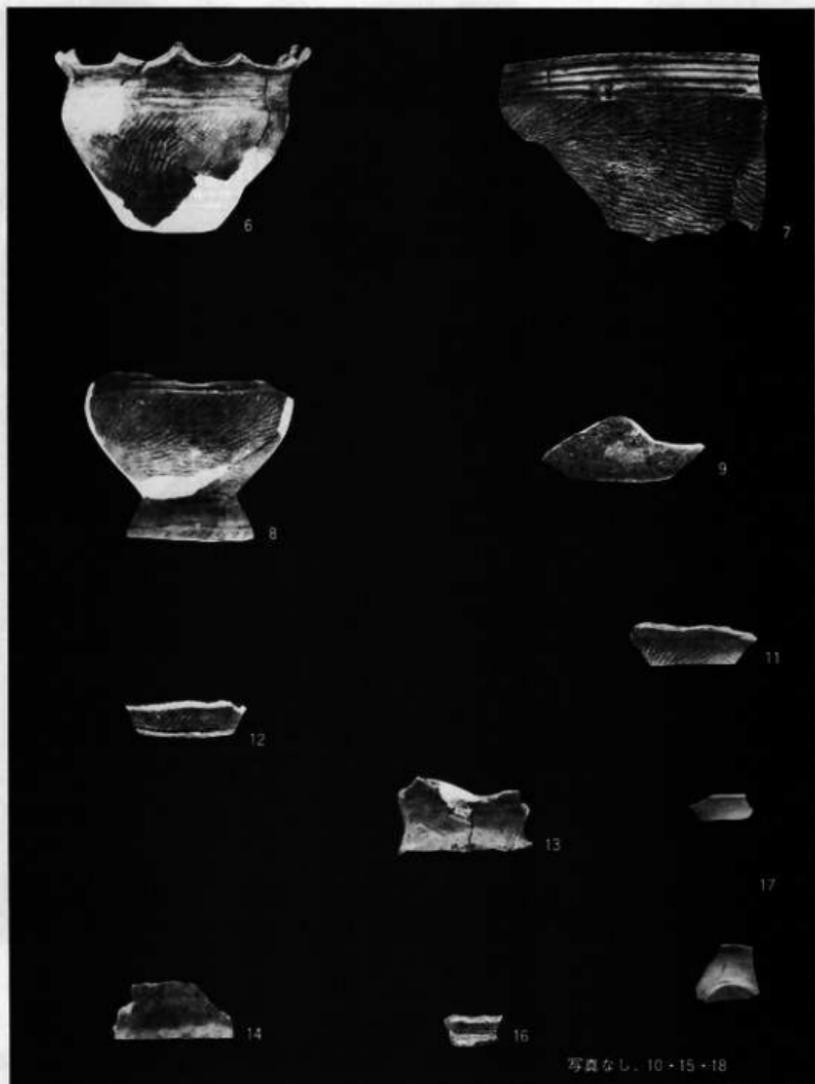
写真図版19 106、107陥し穴状遺構出土遺物

縮尺 93・100約 $\frac{1}{5}$
他約 $\frac{1}{2}$



写真図版20 遺構外出土土器

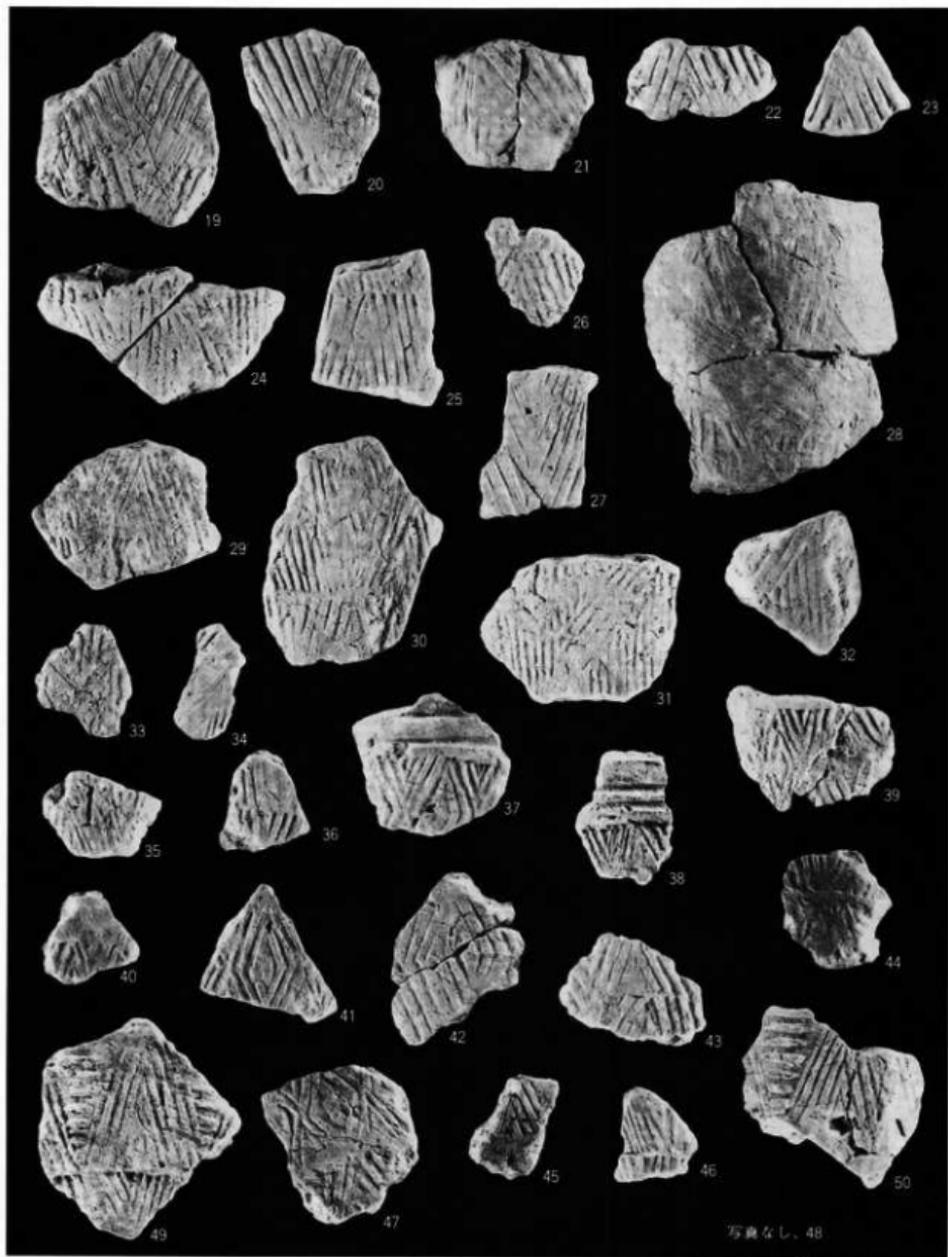
縮尺 約1/3



写真なし、10・15・18

縮尺 約1/3

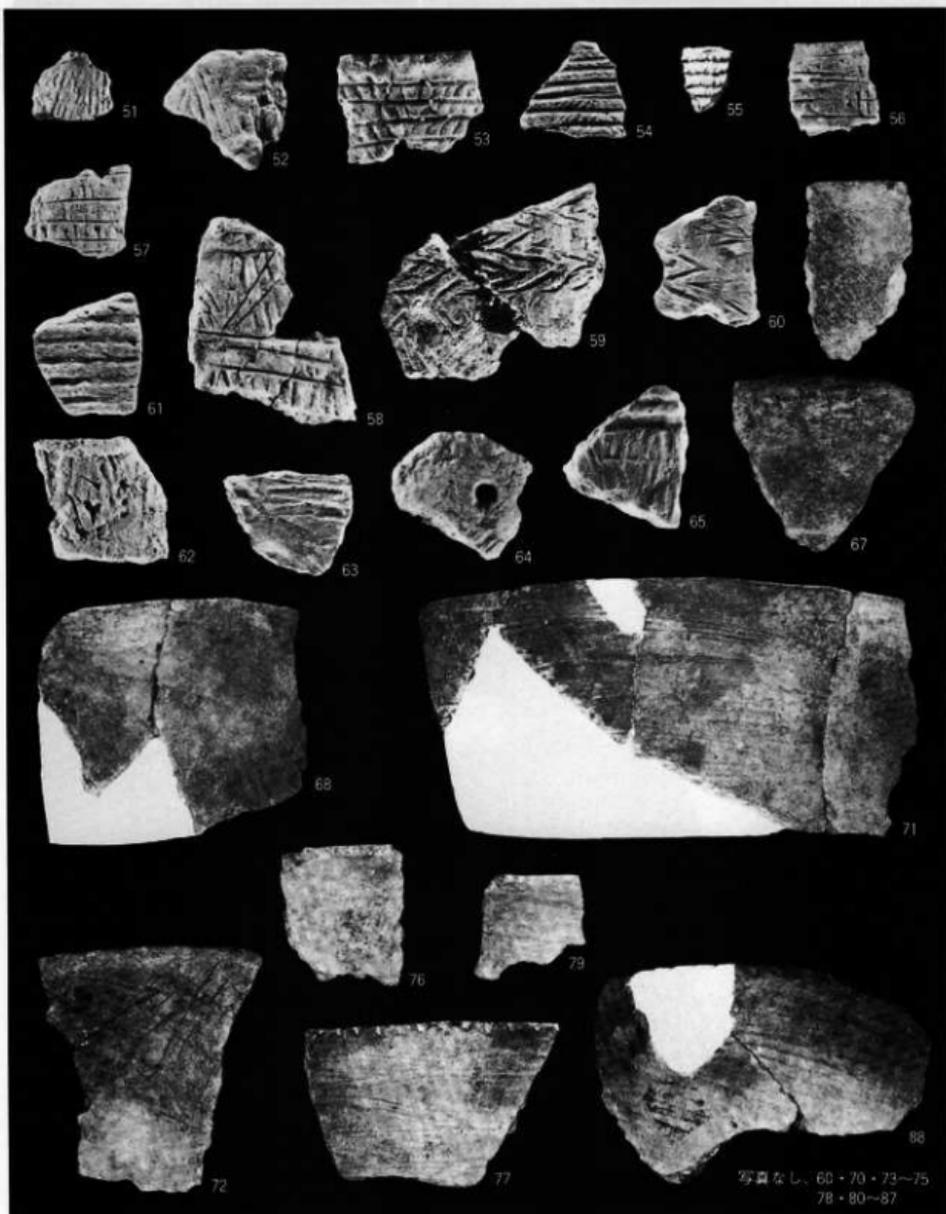
写真図版21 遺構外出土土器



写真なし、48

縮尺 約 $\frac{1}{2}$

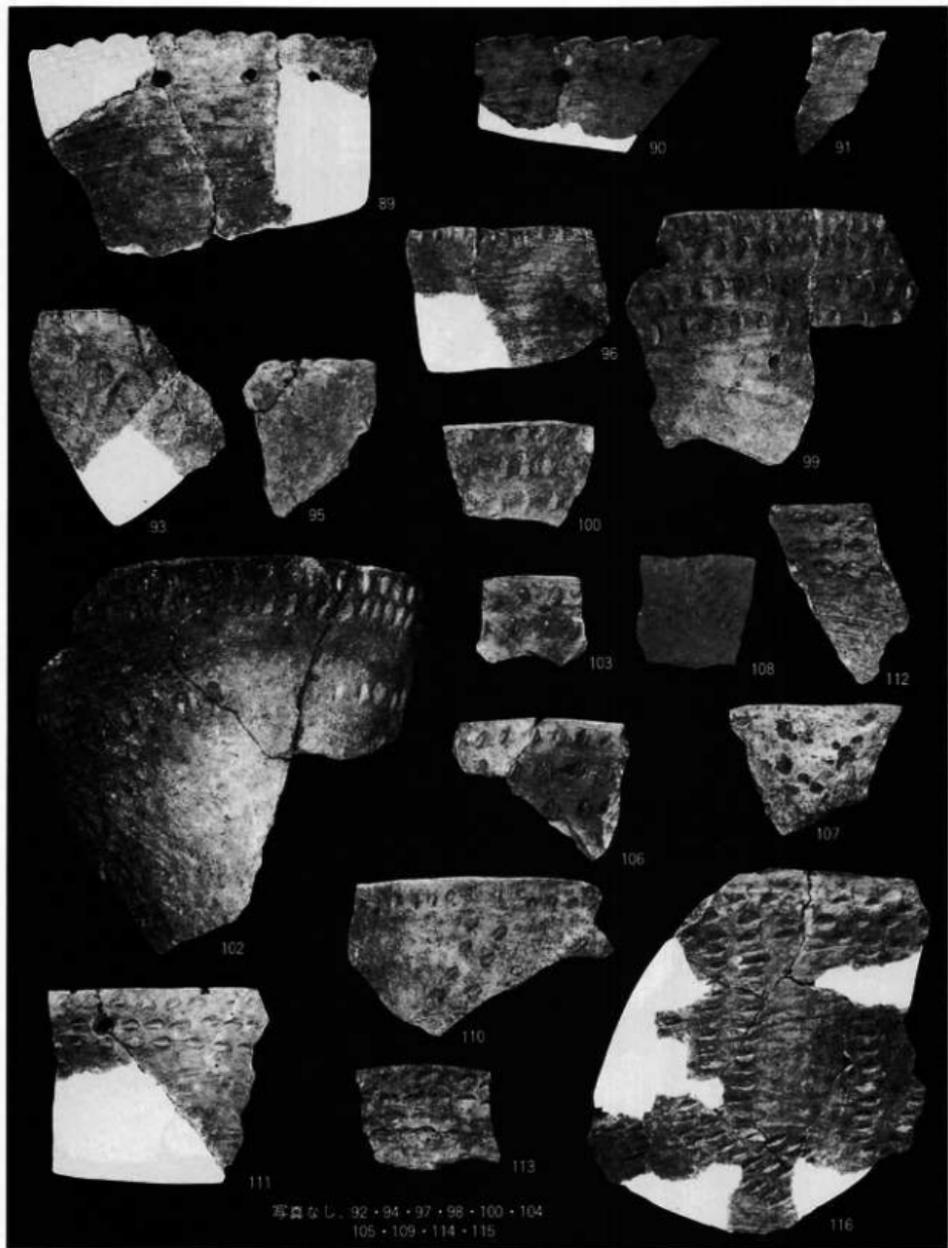
写真図版22 遺構外出土土器片



写真図版23 遺構外出土土器片

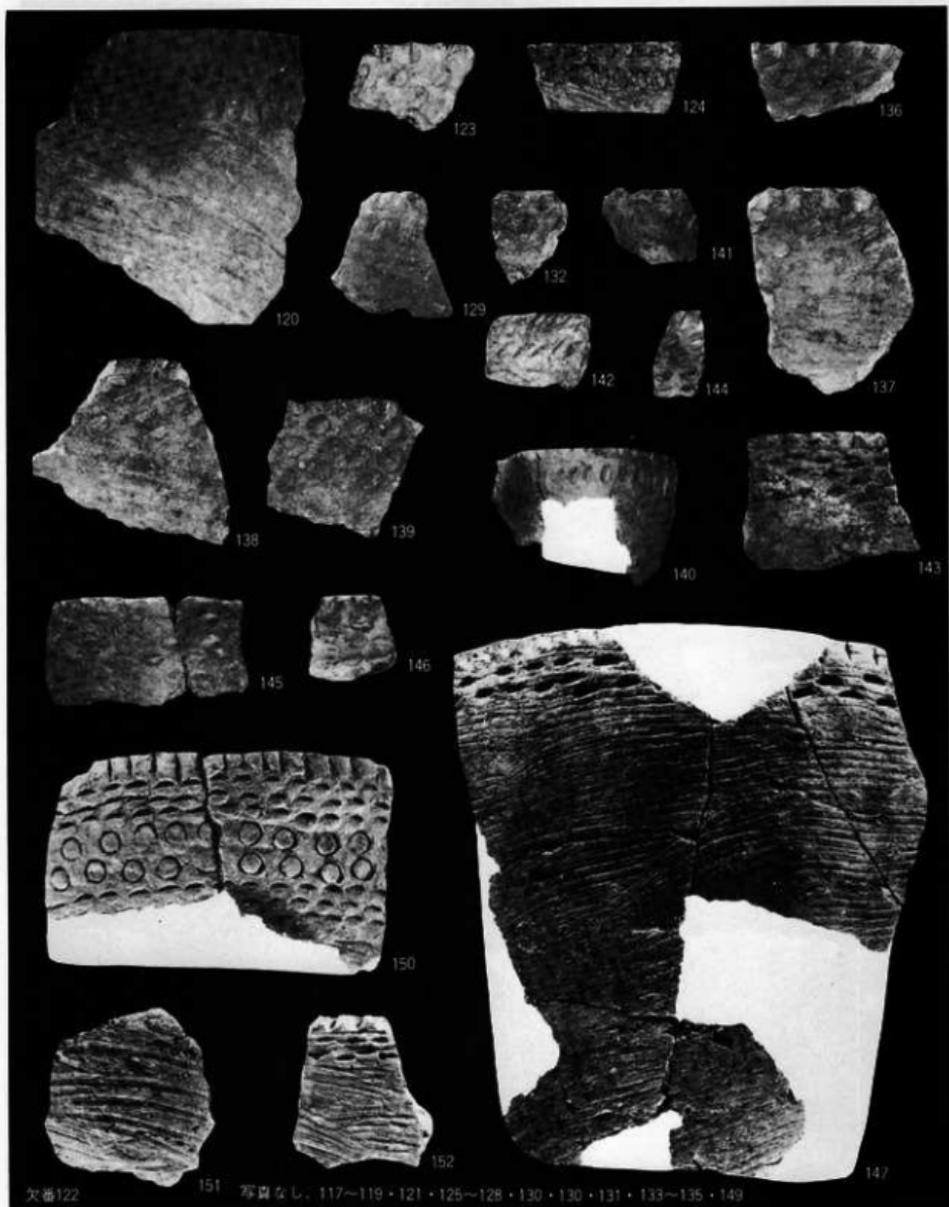
写真なし、60・70・73～75
78・80～87

縮尺 51～65約 $\frac{2}{3}$
66 約 $\frac{1}{2}$



写真図版24 遺構外出土土器片

縮尺 約1/2



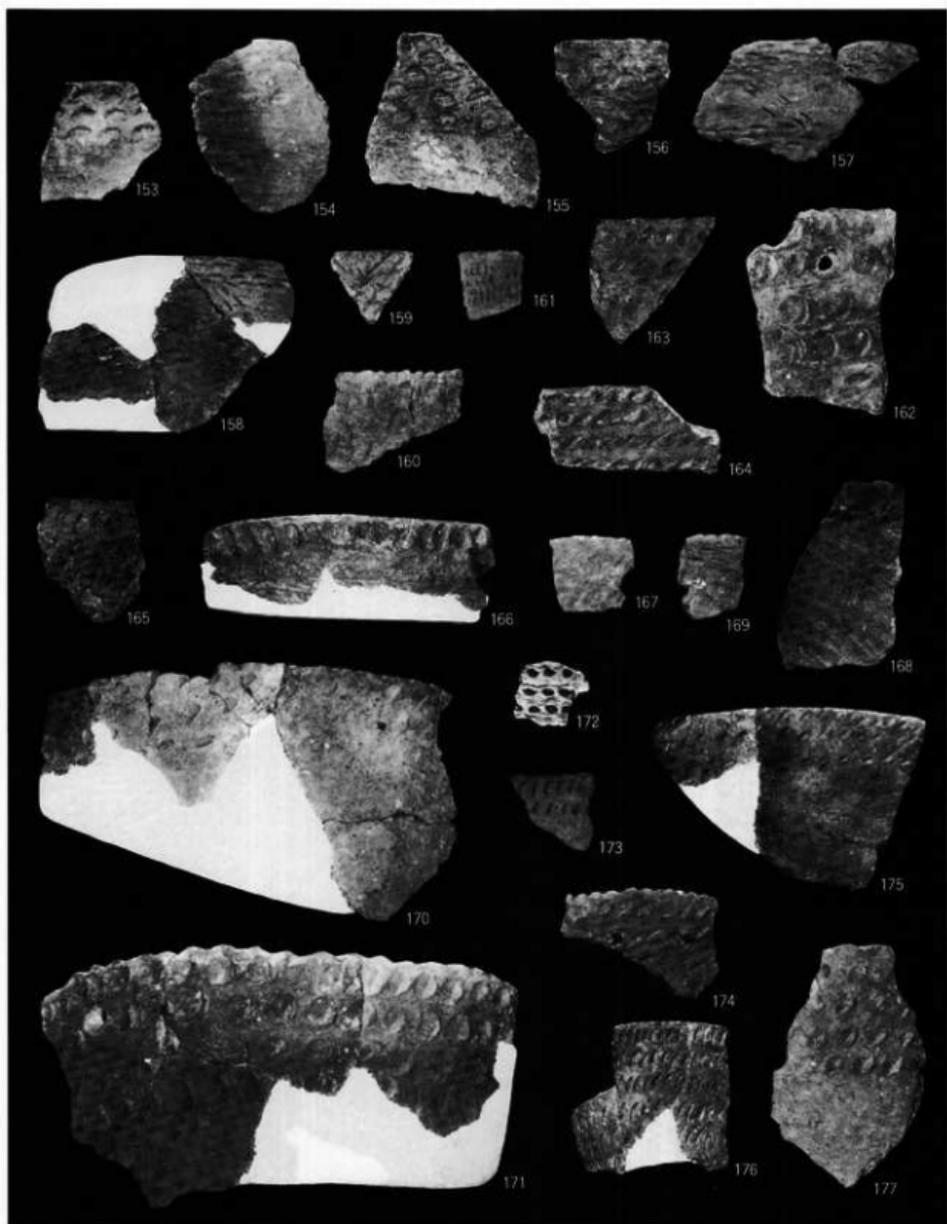
欠番122

151

写真なし、117~119・121・125~128・130・130・131・133~135・149

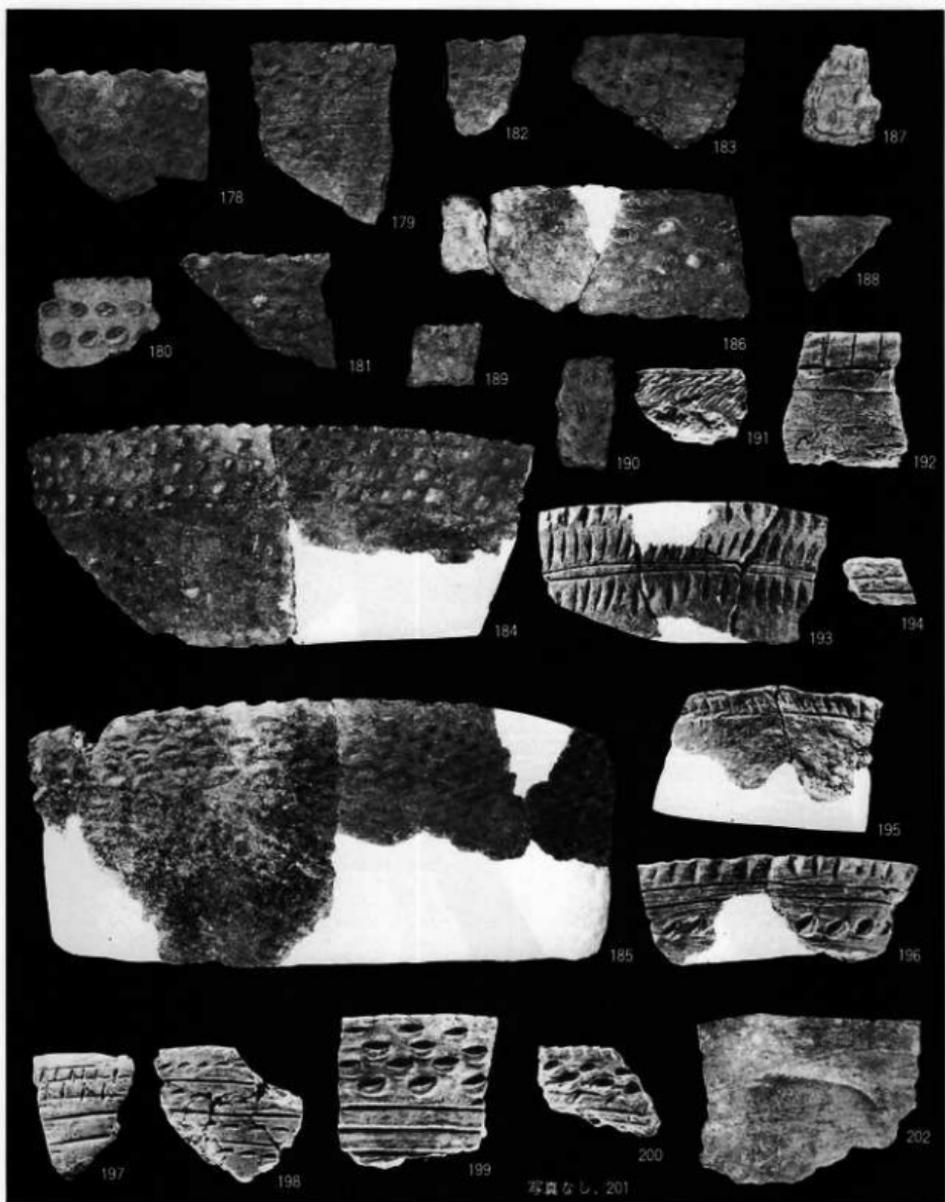
写真図版25 遺構外出土土器片

縮尺 約 $\frac{1}{2}$



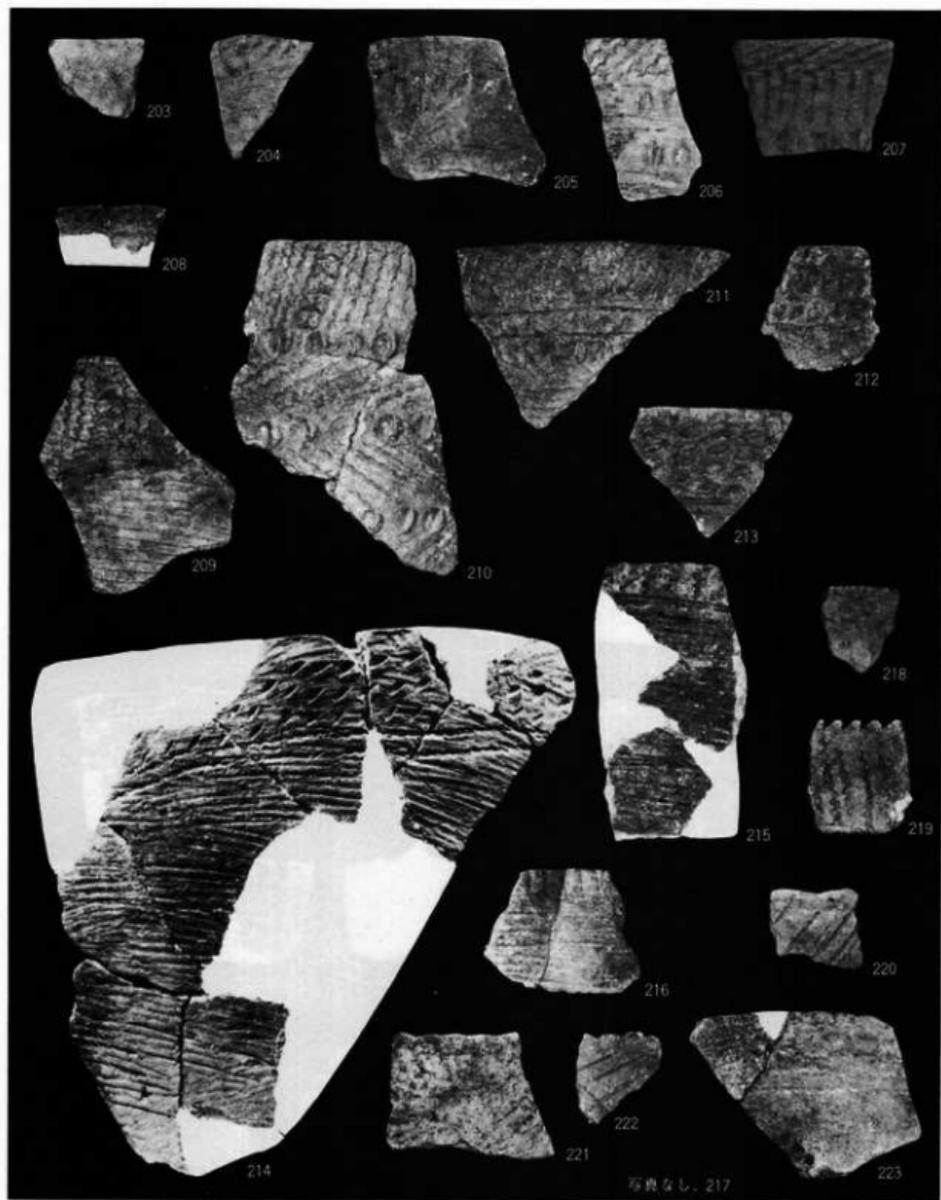
写真図版26 遺構外出土土器片

縮尺 約 $\frac{1}{2}$



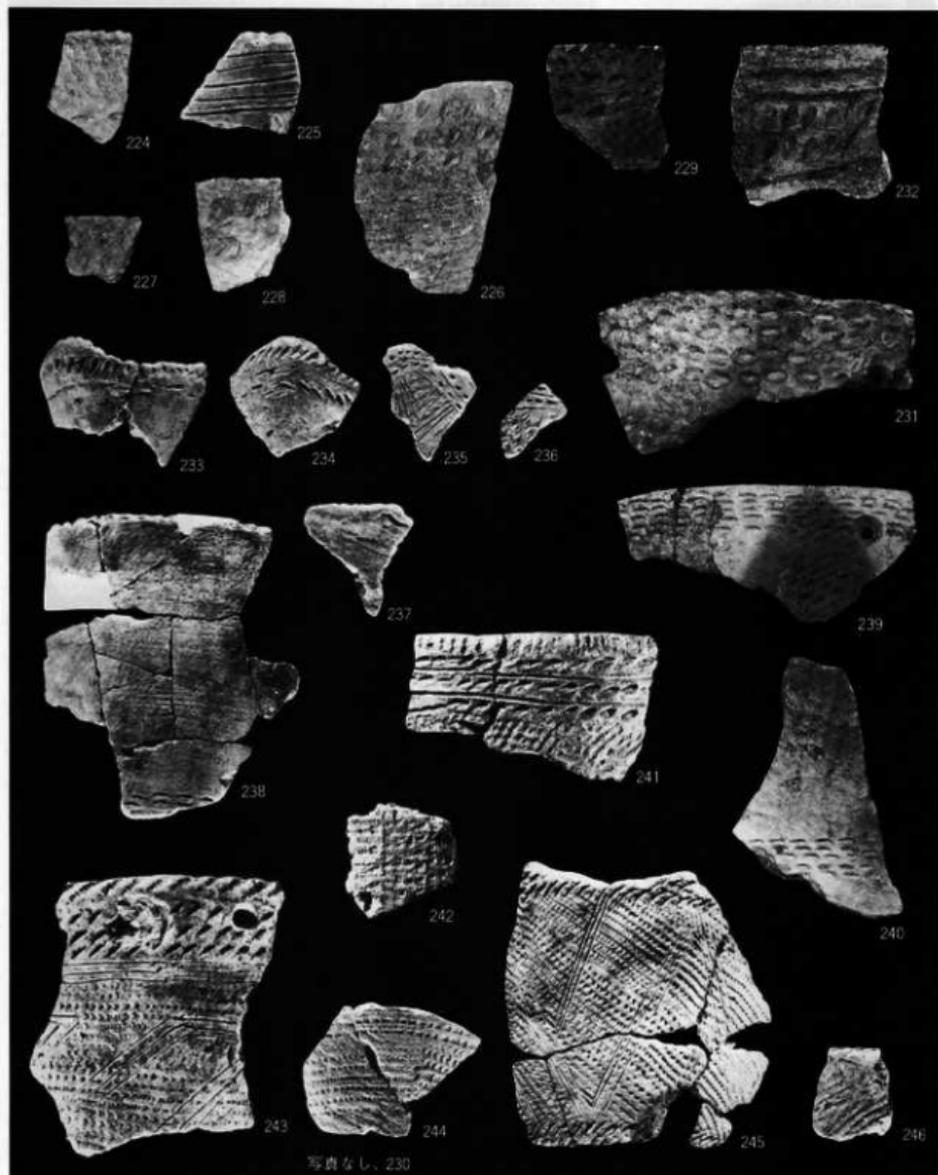
縮尺 約 $\frac{1}{2}$

写真図版27 遺構外出土土器片



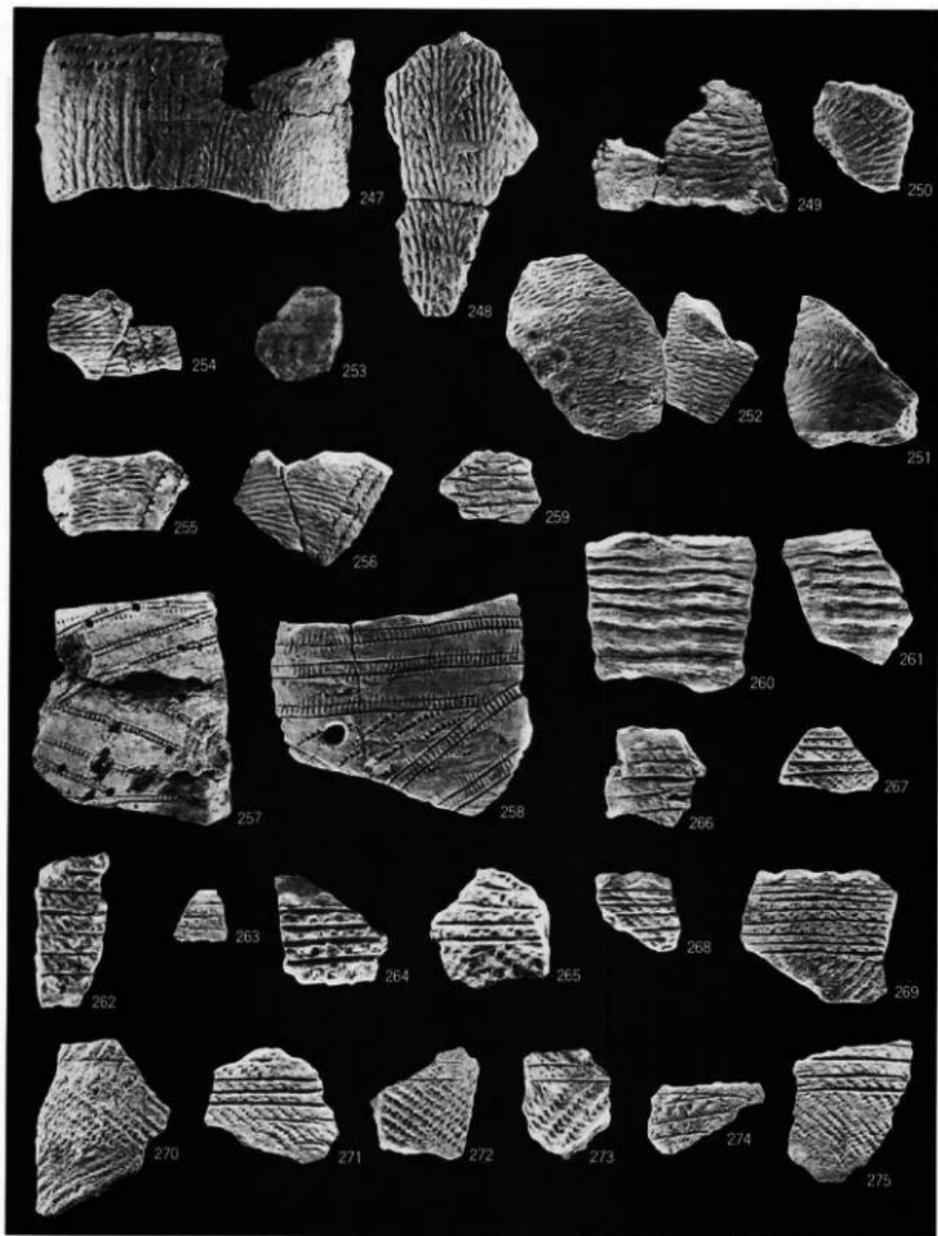
写真図版28 遺構外出土土器片

縮尺 214約 $\frac{1}{5}$
他約 $\frac{1}{2}$



写真図版29 遺構外出土器片

縮尺 230約 $\frac{1}{3}$
他約 $\frac{1}{2}$



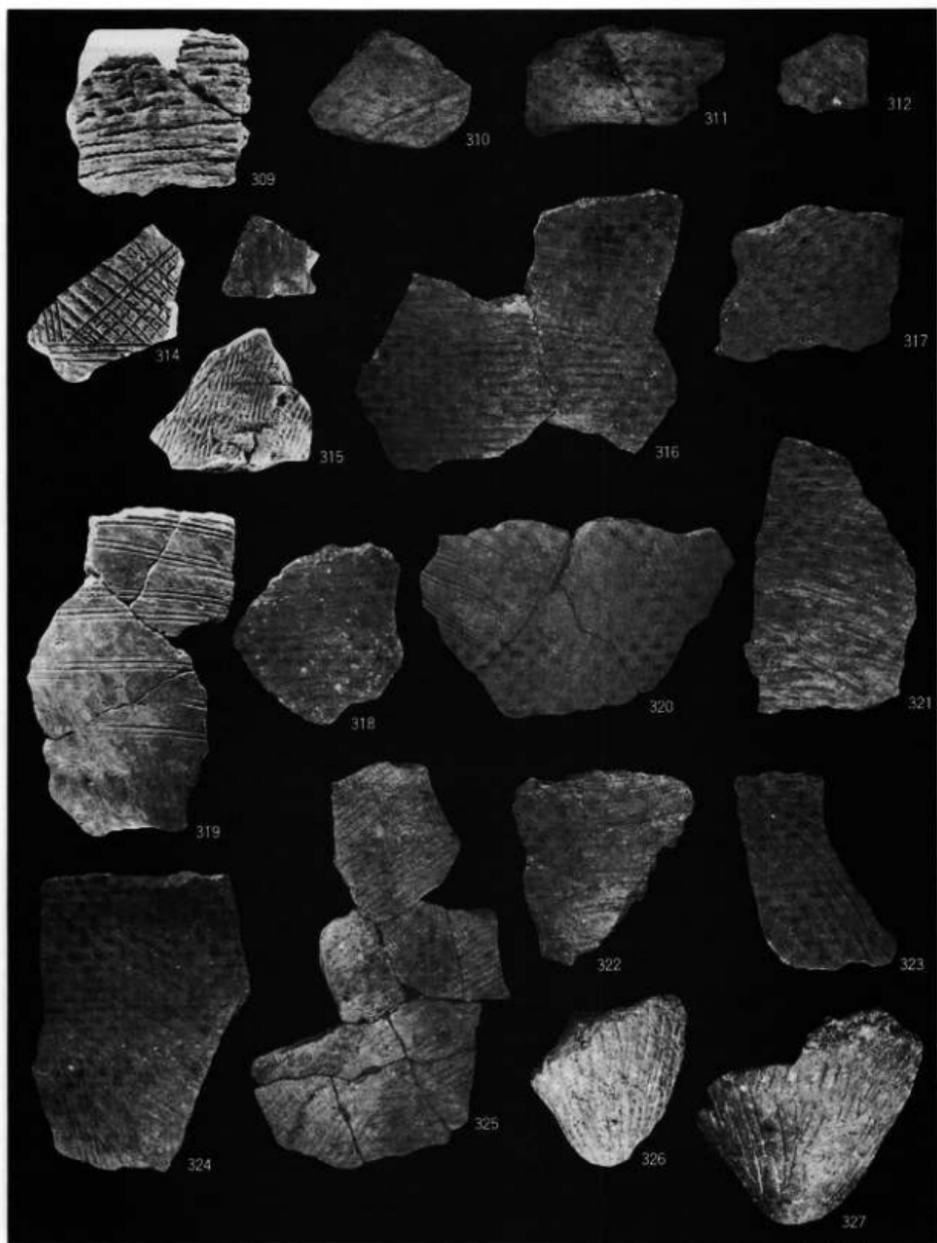
写真図版30 遺構外出土土器片

縮尺 260・261約 $\frac{2}{3}$
他約 $\frac{1}{2}$



写真図版31 遺構外出土器片

縮尺 約 $\frac{1}{2}$



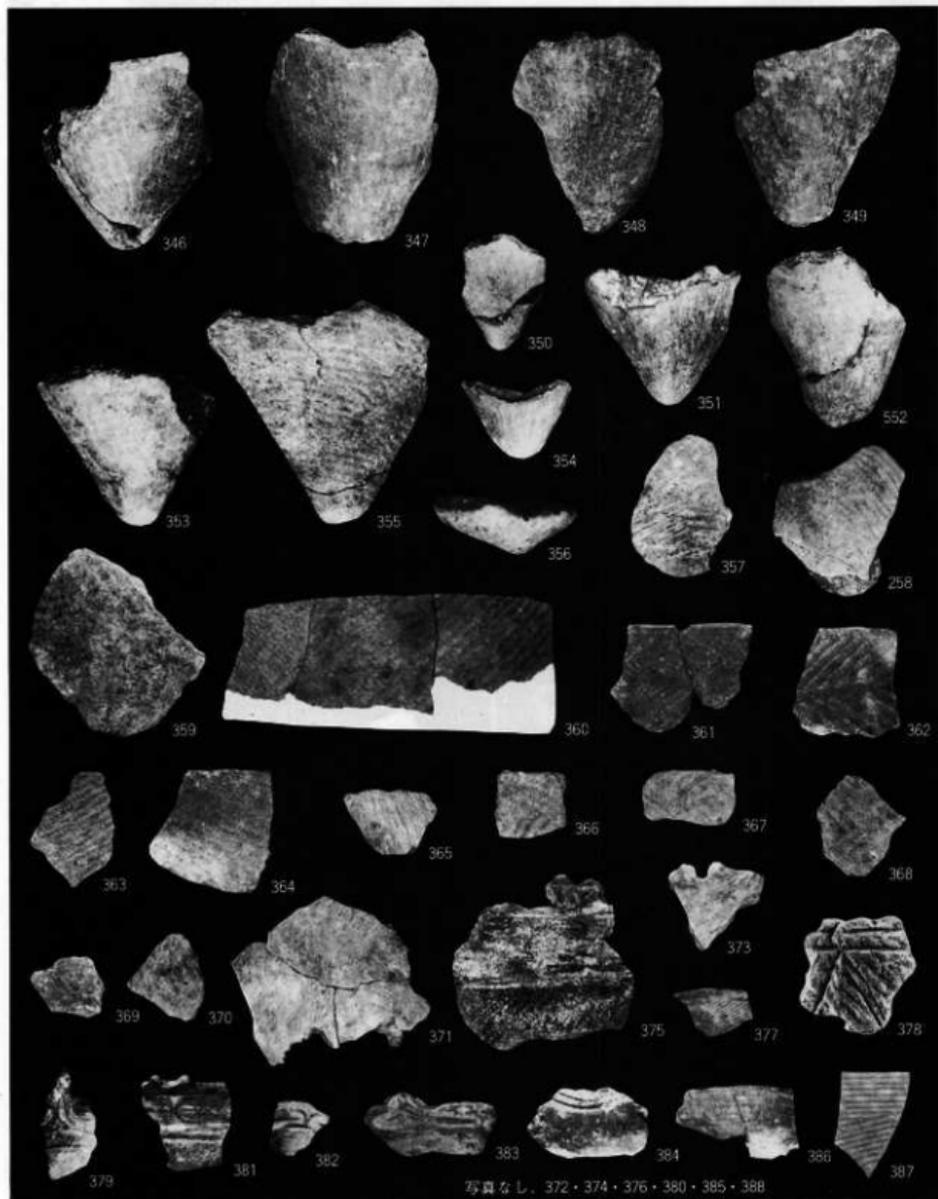
写真図版32 遺構外出土土器片

縮尺 約 $\frac{1}{2}$



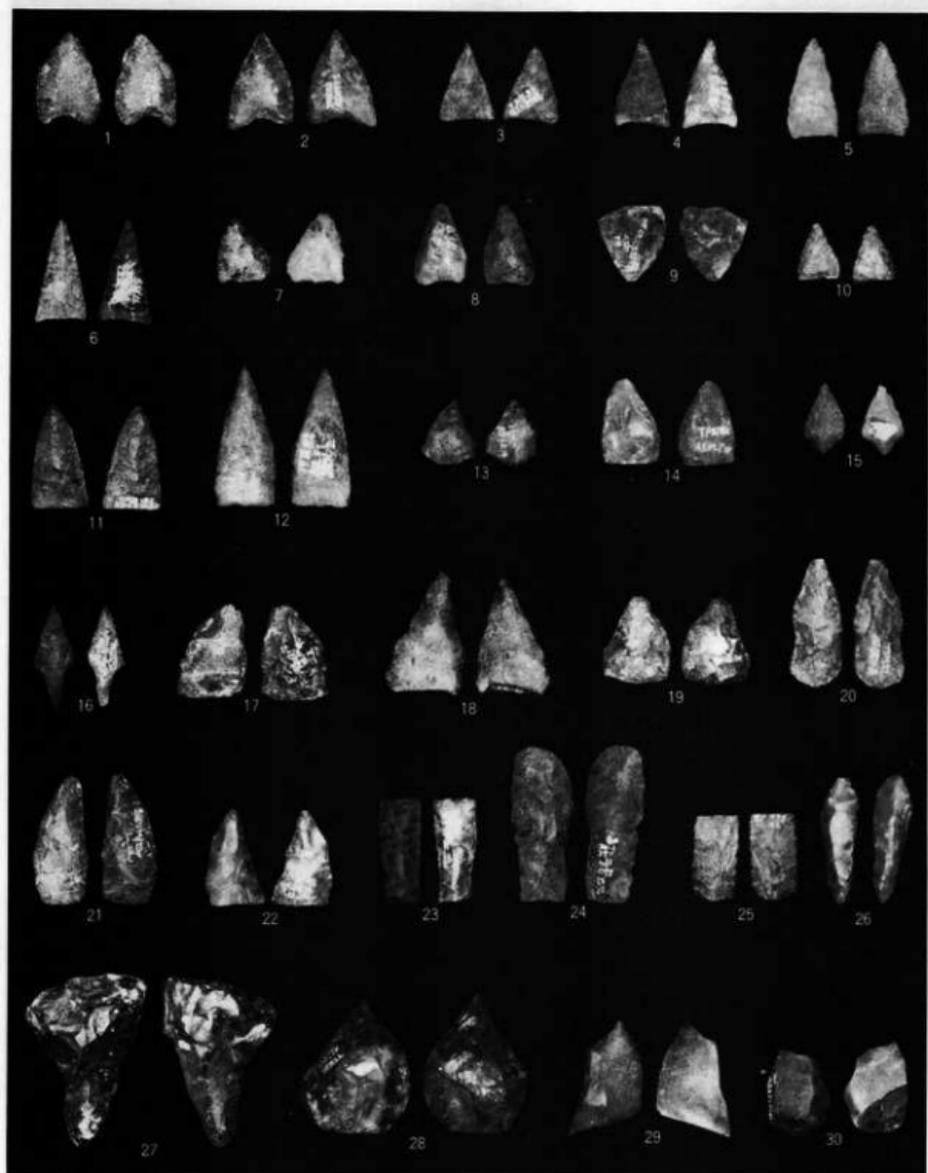
写真図版33 遺構外出土土器片

縮尺 333約 $\frac{1}{5}$
他約 $\frac{1}{3}$

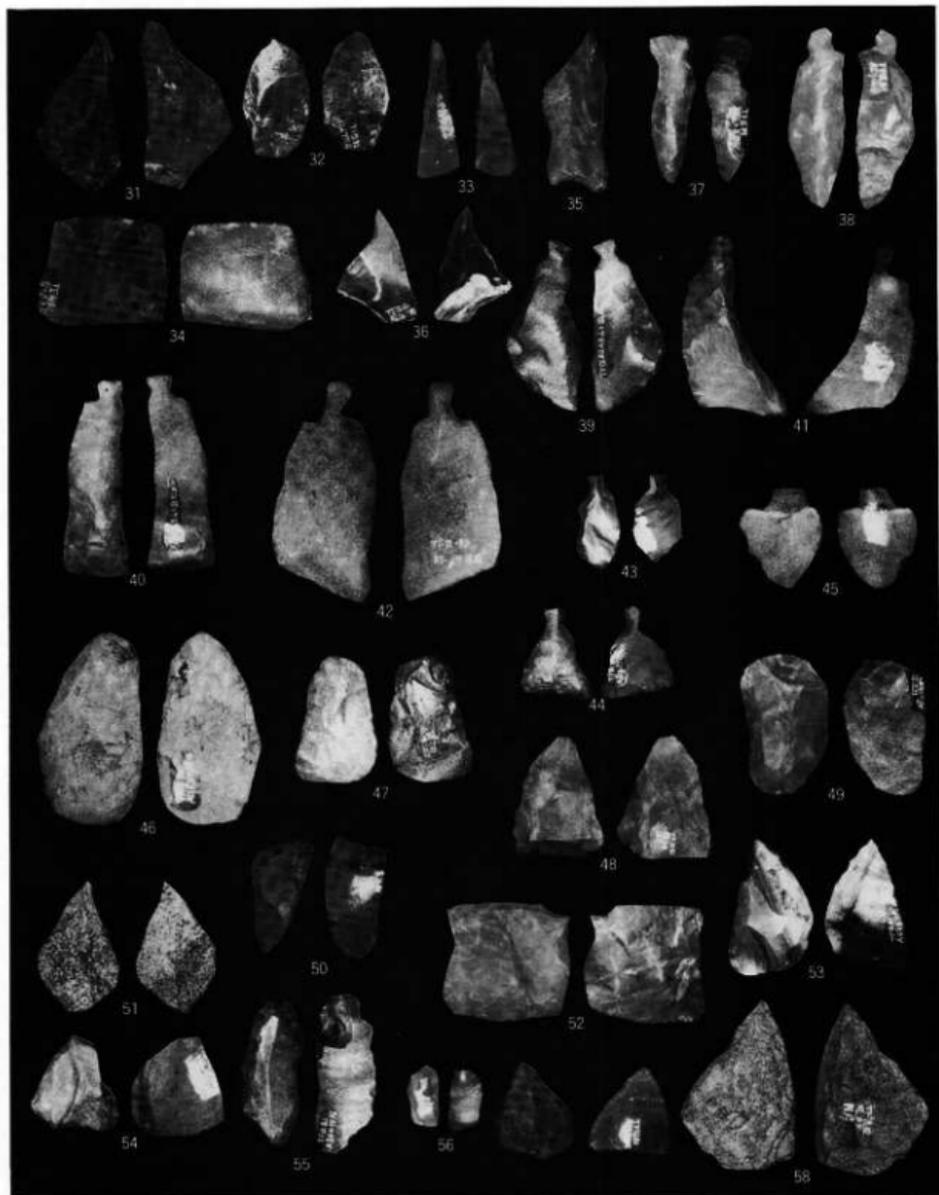


写真図版34 遺構外出土土器片

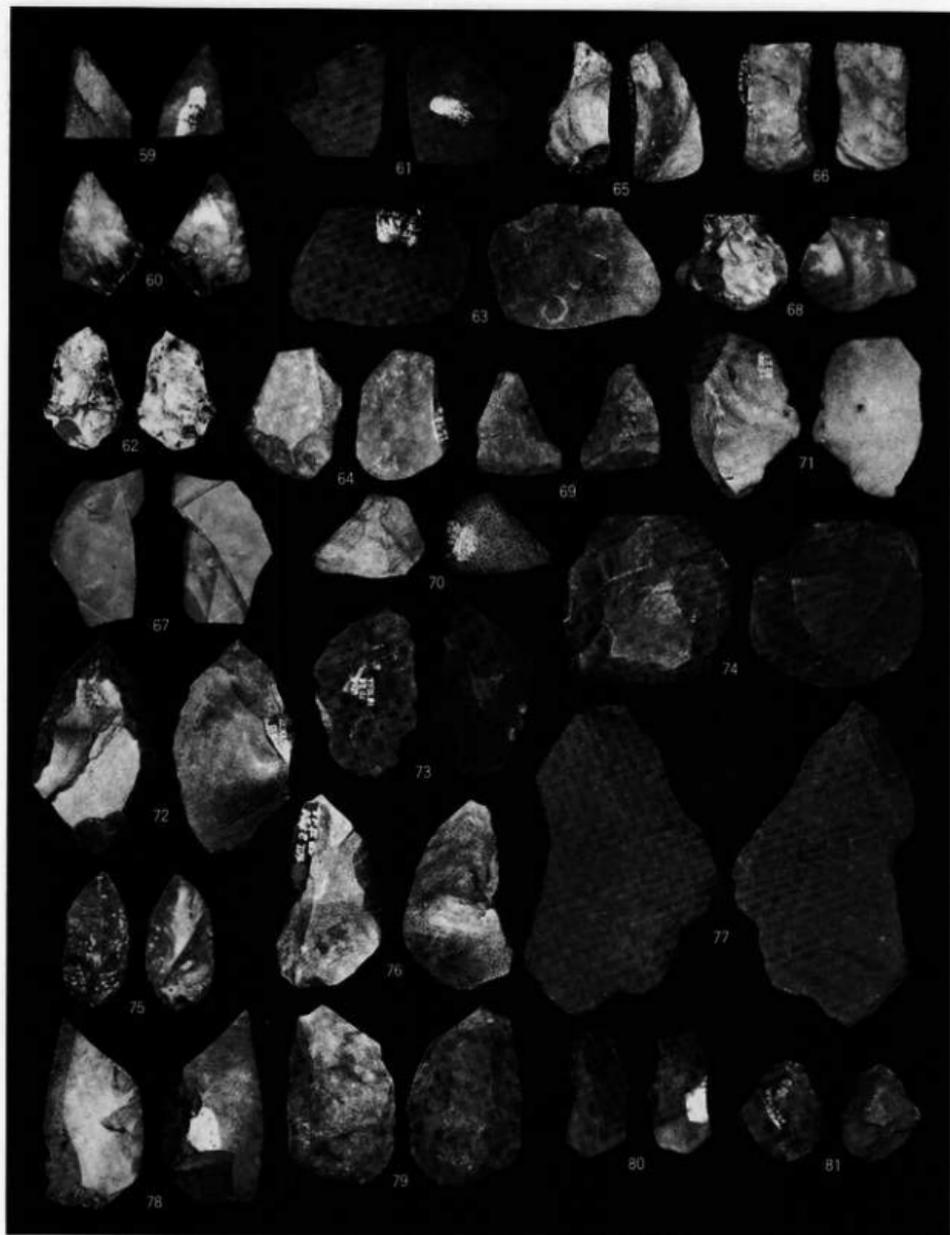
縮尺346~359・378約 $\frac{1}{2}$
他約 $\frac{1}{3}$



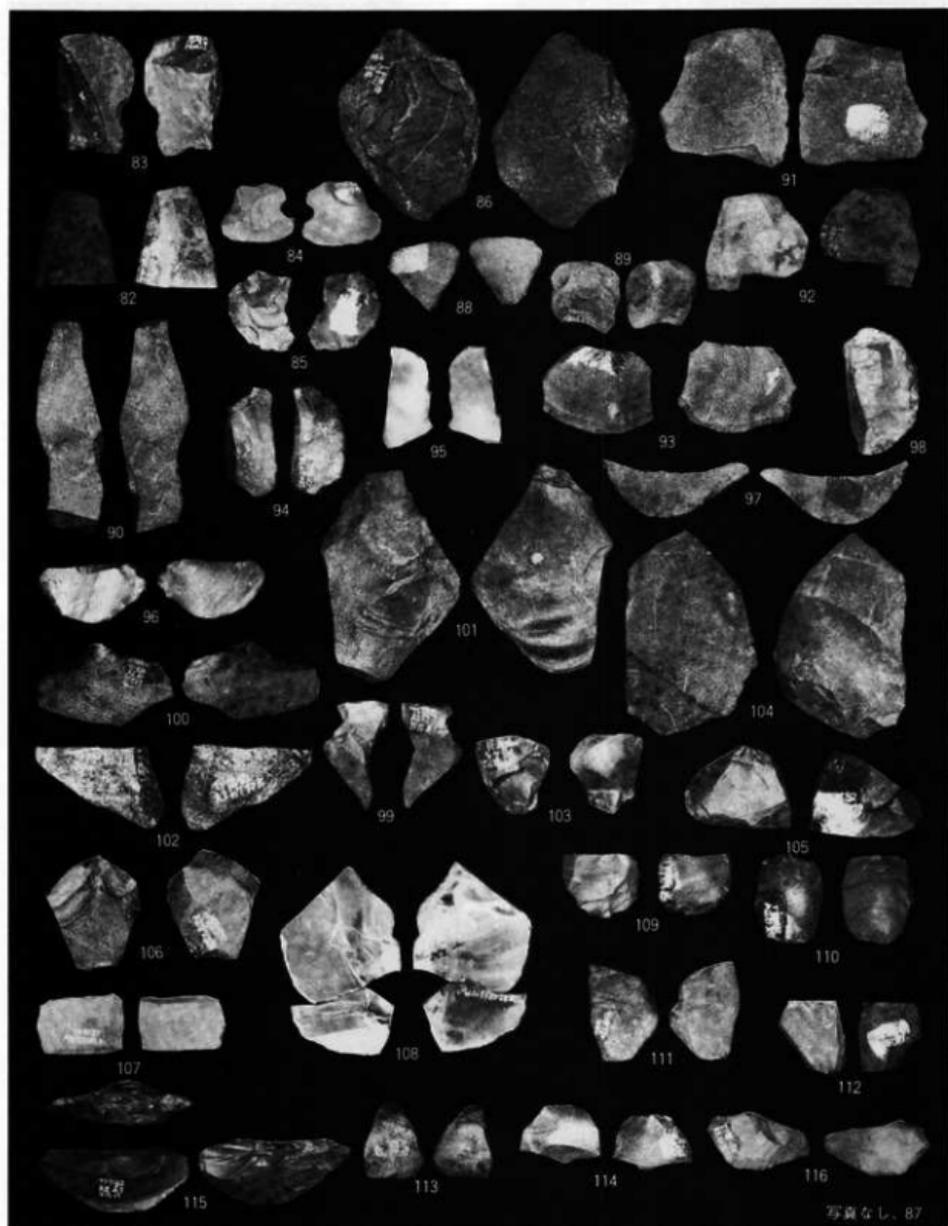
写真図版35 邊構外出土石器



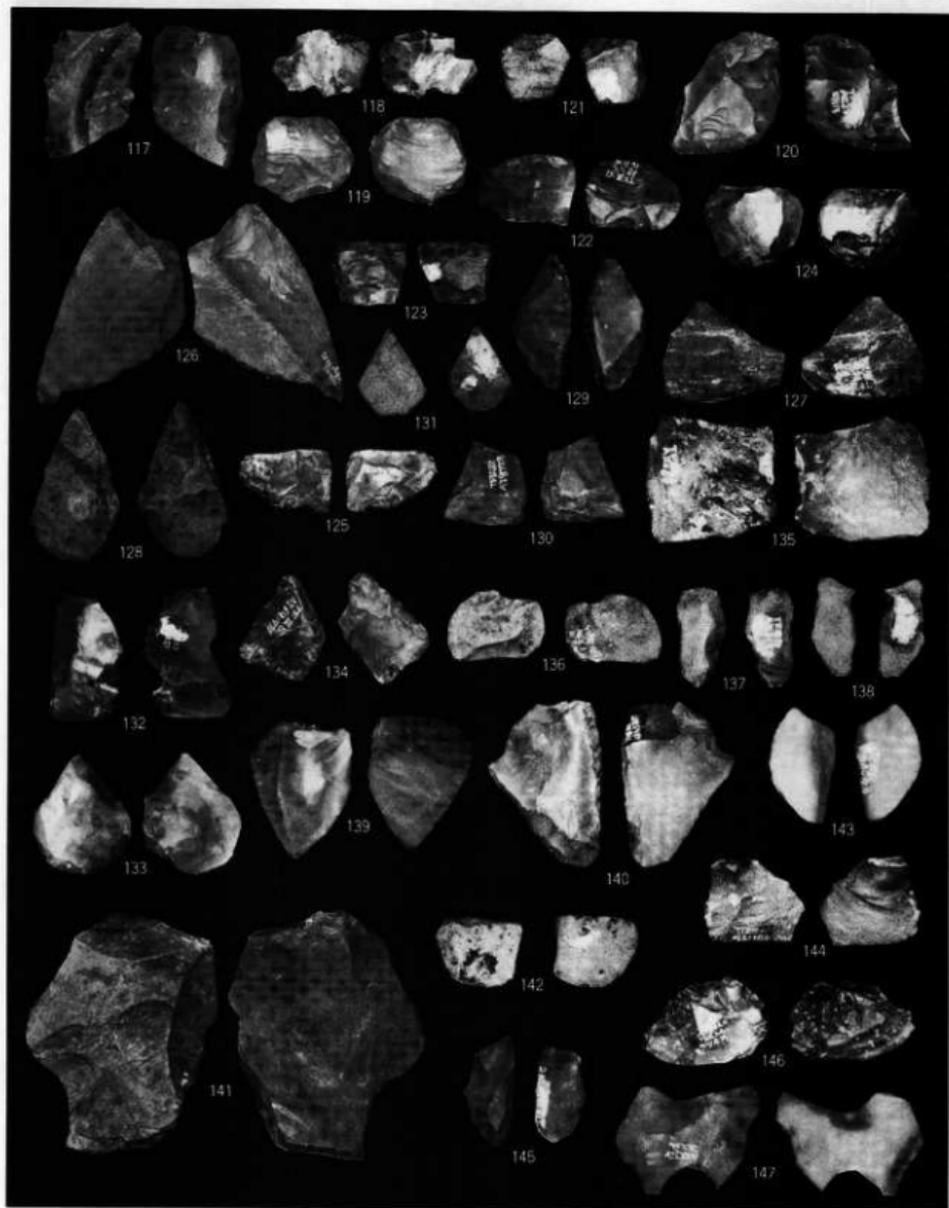
写真図版36 遺構外出土石器



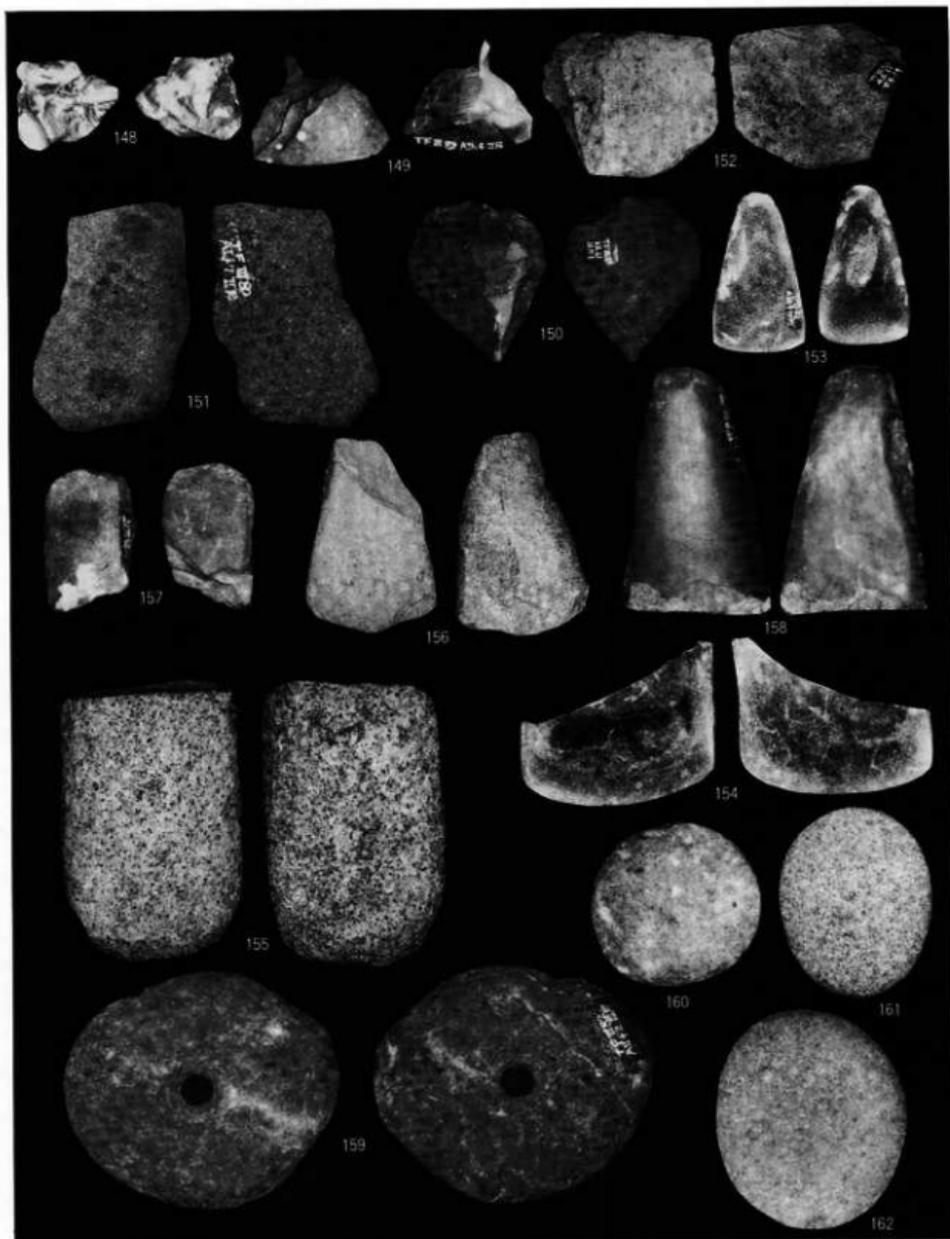
写真図版37 遺構外出土石器



写真図版38 遺構外出土石器



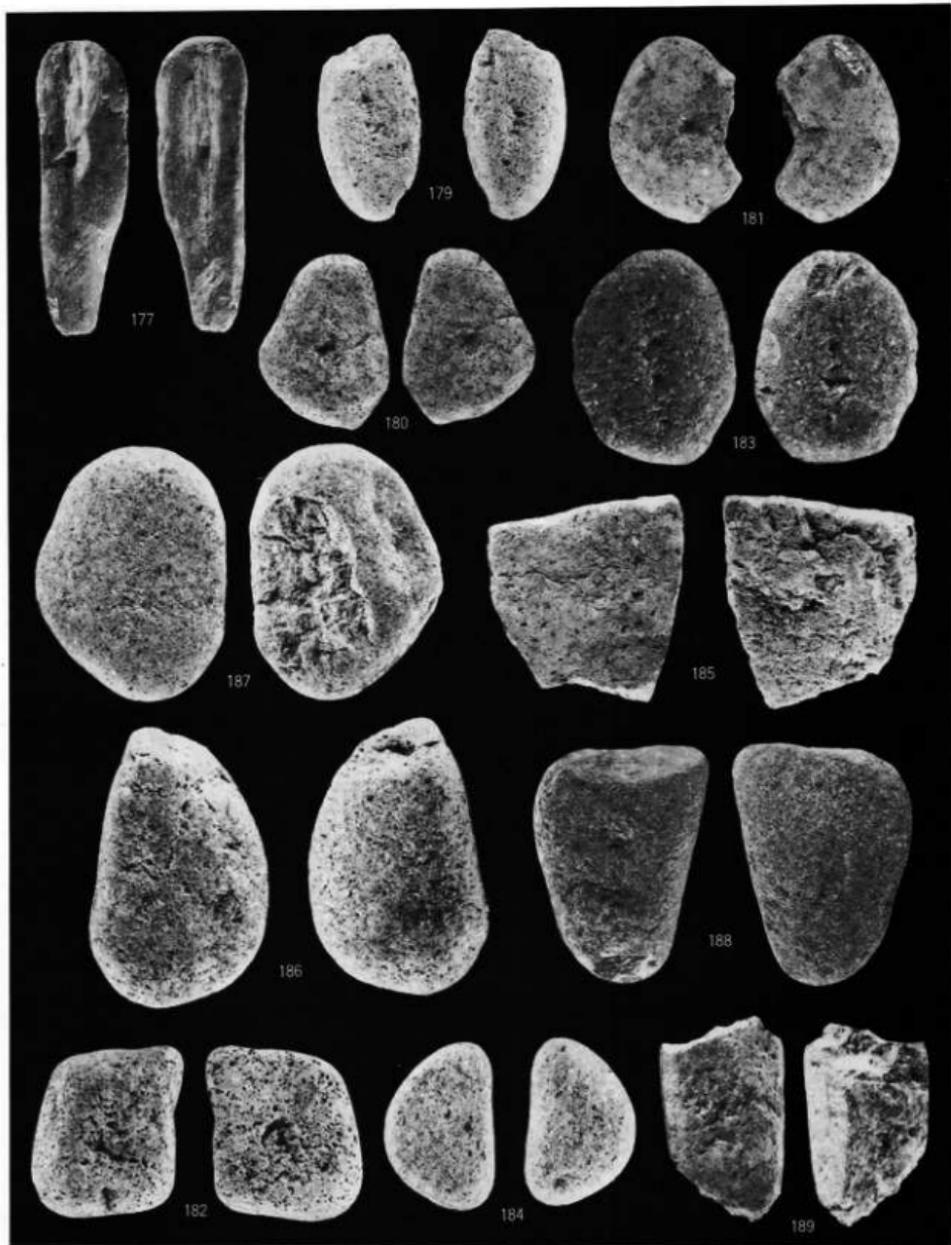
写真図版39 遺構外出土石器



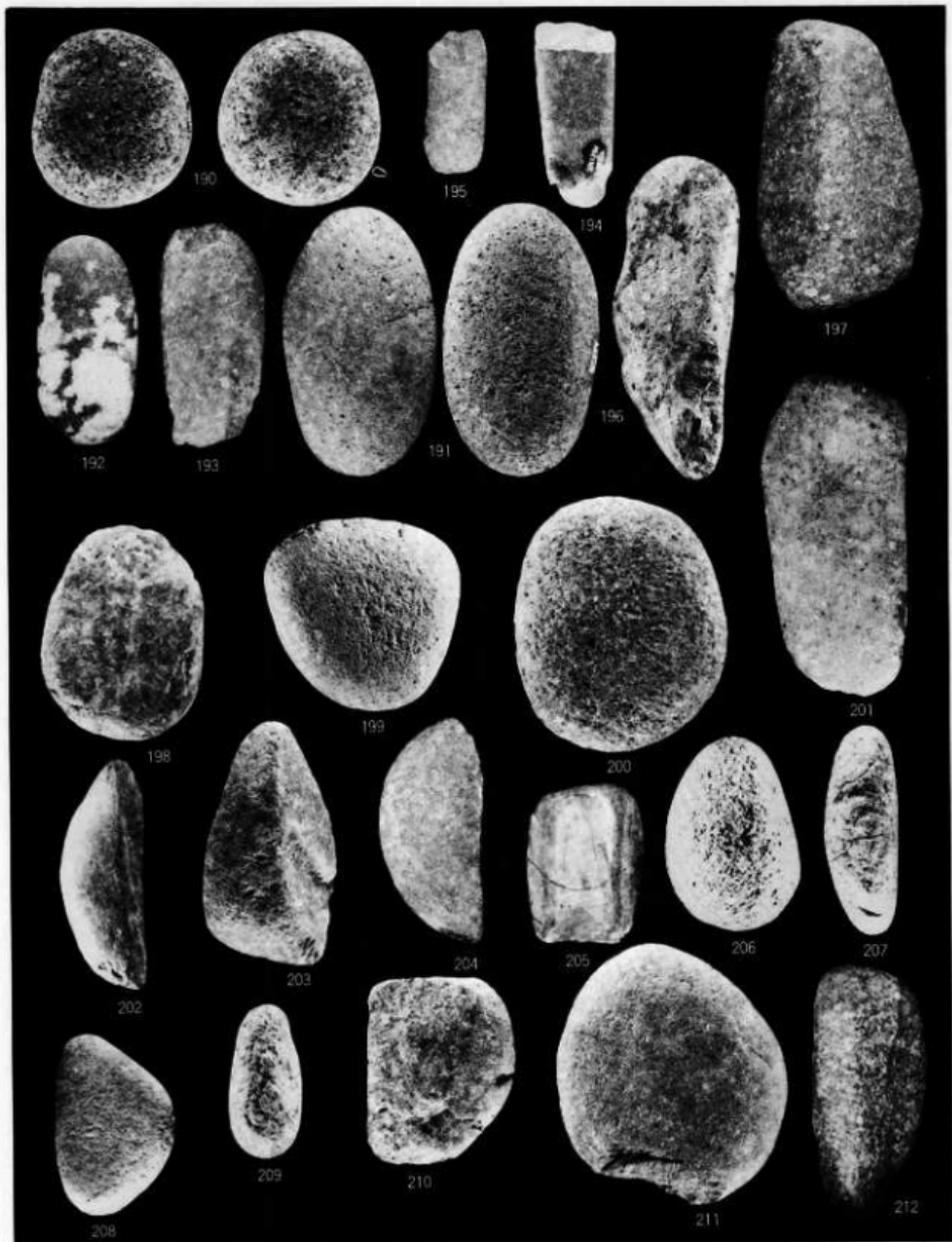
写真图版40 遺構外出土石器



写真图版41 遺構外出土石器



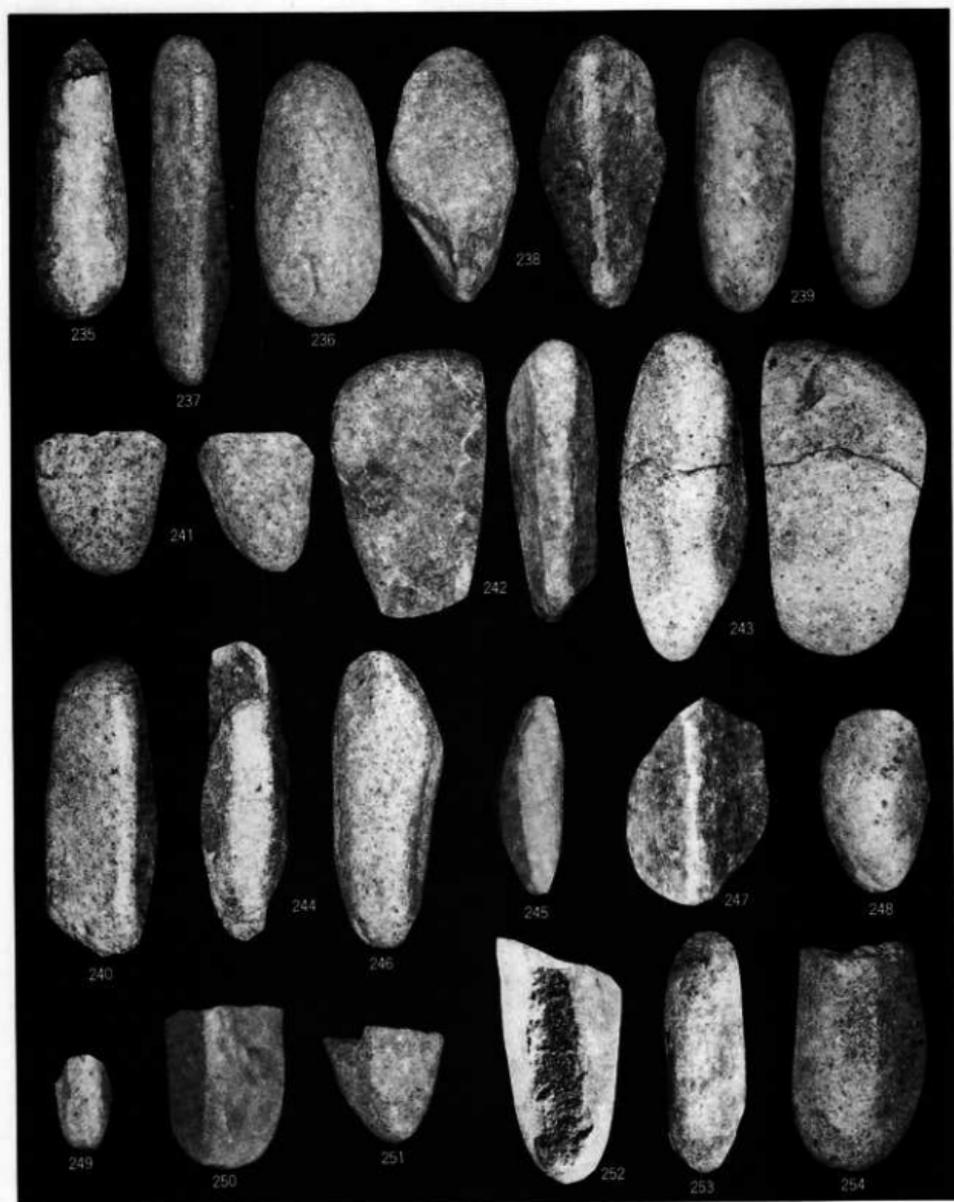
写真図版42 遼構外出土石器



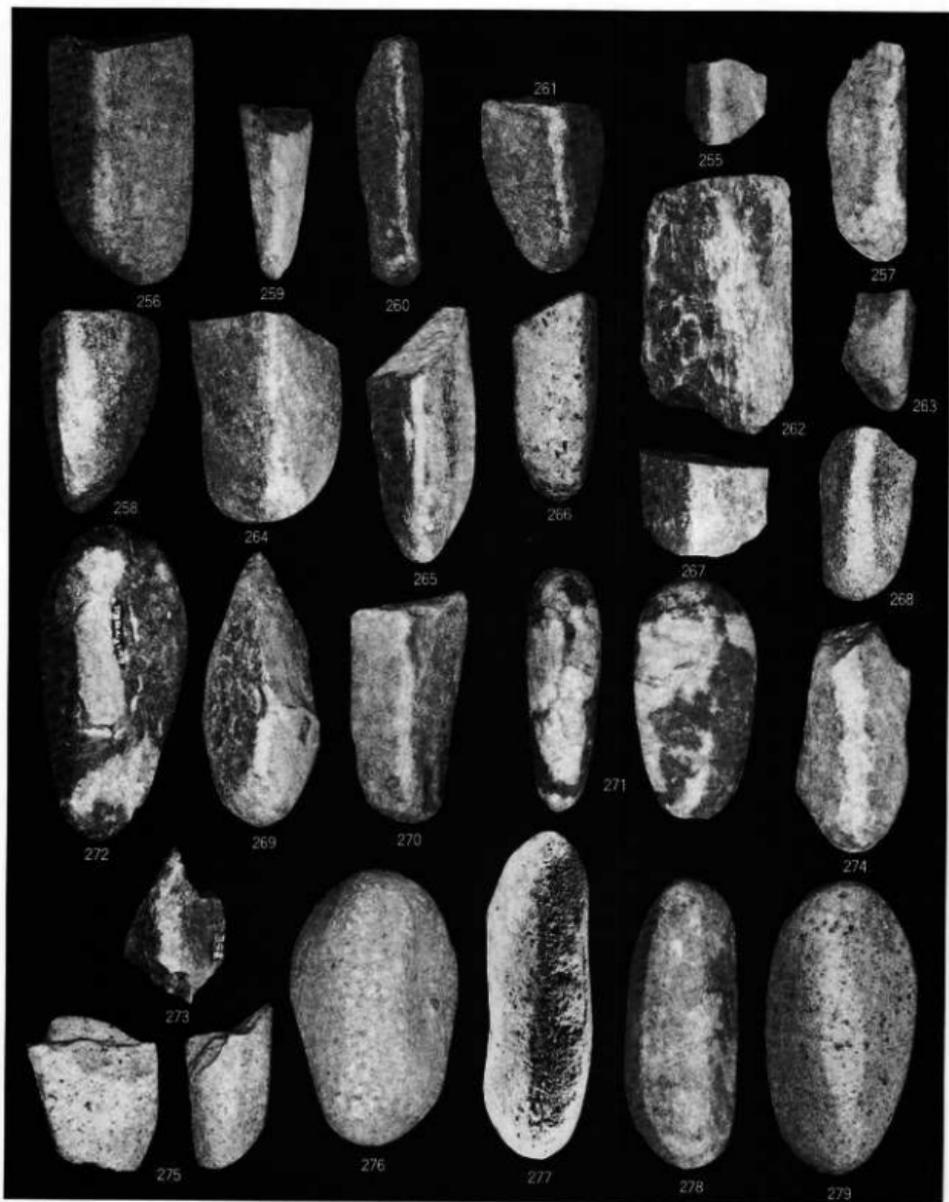
写真図版43 遺構外出土石器



写真図版44 遺構外出土石器



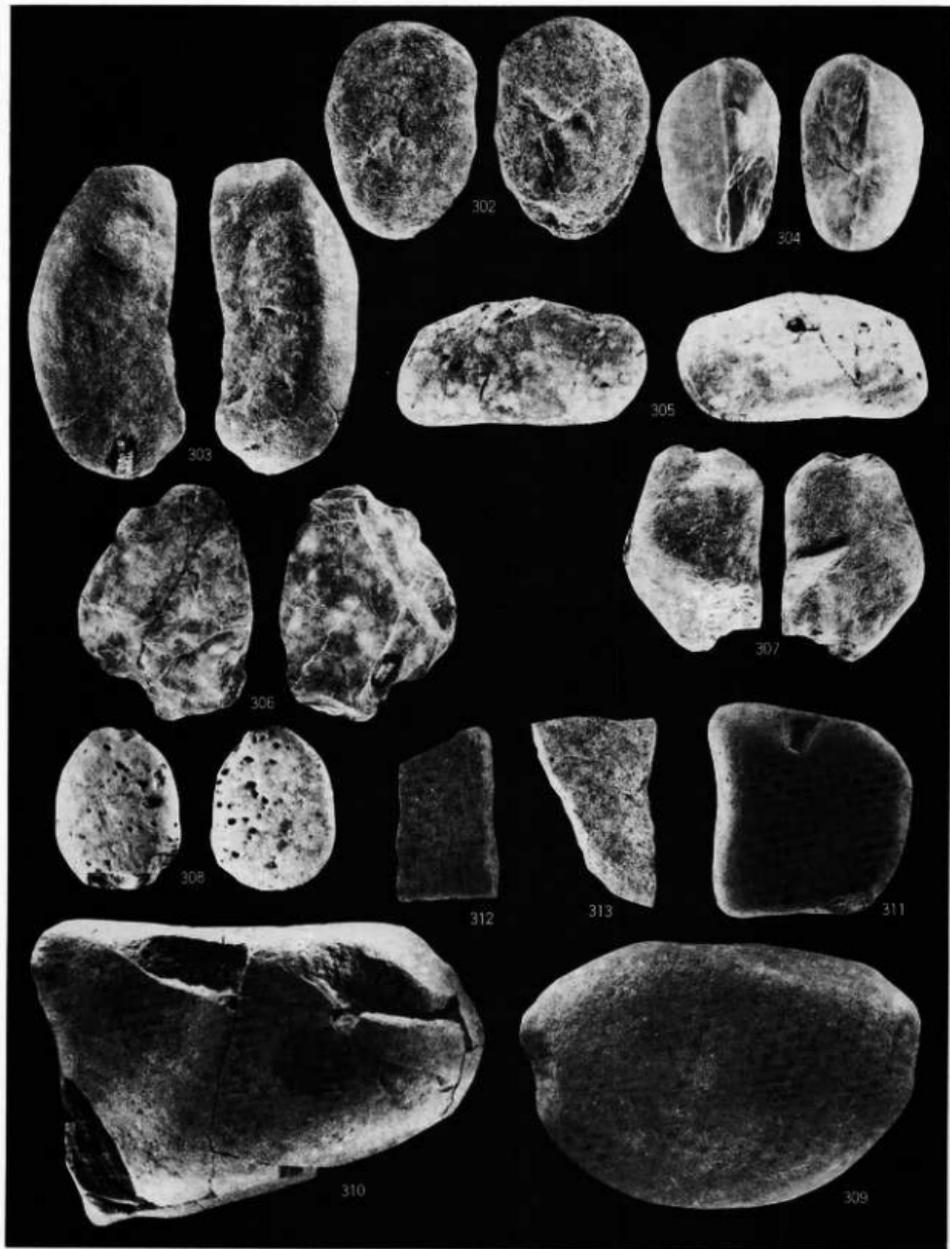
写真図版45 遼構外出土石器



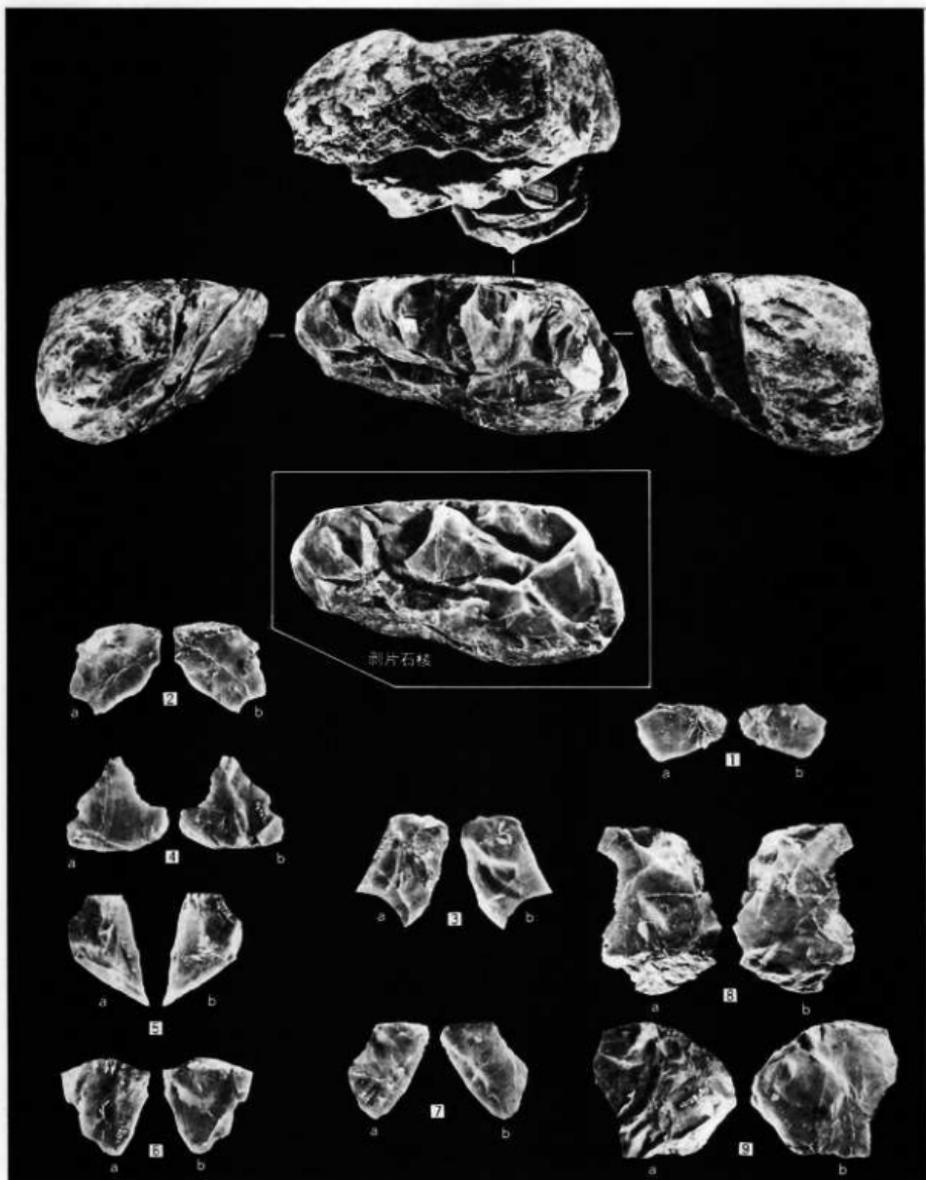
写真図版46 遺構外出土石器



写真図版47 遺構外出土石器



写真図版48 遺構外出土石器



写真図版49 遺構外出土石器(接合資料)

縮尺1/3

岩手県埋文センター文化財調査報告書第76集

平船Ⅲ遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

昭和59年3月25日印刷

昭和59年3月31日発行

発行 (財) 岩手県埋蔵文化財センター

〒020 岩手県紫波郡南村大字下飯岡字高屋敷

TEL (0196) 38-9001~2

印刷 山口北州印刷株式会社

岩手県盛岡市青山4丁目10番5号

TEL (0196) 41-0585
